ハ死亡當時ノ俸給年額ト看做シ之ニ恩給法第百一條ノ規定ヲ適用ス

附　則

第三十八條　本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十九條　左ノ命令ハ之ヲ廢止ス

一明治二十四年勅令第二百四十八號

一明治二十七年勅令第五十二號

一明治二十七年勅令第八十一號

一明治二十七年勅令第百四十五號

一明治三十一年勅令第二百四十四號

一明治三十二年勅令第二百一號

一明治三十三年勅令第百七十三號

一明治三十三年勅令第四百四號

一巡査看守退隱料及遺族扶助料法施行令

一明治三十四年勅令第百五十號

一明治三十五年勅令第百五十七號

一明治四十一年勅令第百三十七號

一明治四十三年勅令第百二十七號

一明治四十四年勅令第七十號

一大正六年勅令第二百四十一號

一大正六年勅令第二百四十二號

一大正九年勅令第三百二十三號

一明治十八年第十五號達官吏恩給令附則

一明治十八年第十六號達文官傷痍疾病等差例

一明治十八年第四十號達陸軍恩給令附則

第四十條　第十條各號ニ掲グル官制ニ依リ廢止セラレタル官制又ハ其レニ依リ廢止セラレタル官制ニ依リテ判任官以上ノ待遇ヲ受ケタル職員ハ在職年通算ノ關係ニ於テハ之ヲ當該各號ニ掲グル官制ニ依ル職員ト看做ス

附　則　（大正十二年勅令第五百二十號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四十條ノ規定ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ適用ス

附　則　（大正十三年勅令第五十一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從來ノ水雷艇乘員トシテノ勤務ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

附　則　（大正十三年勅令第四百七號）

沿革　昭和八年九月勅令第二三六號改正

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

港務部設置制ニ依ル待遇職員ハ仍之ヲ第十條第十號ニ掲グル待遇職員ト看做ス

附　則　（大正十五年勅令第二百四十四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

郡判任官ハ仍之ヲ第六條第一號ニ掲グル文官ト看做ス

附　則　（昭和八年勅令第二百三十六號）

沿革　昭和九年一二月勅令第三九五號改正

第一條　本令ハ昭和八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四條ノ改正規定中一時恩給及一時扶助料ニ關スル部分、第二十四條ノ二乃至第二十四條ノ八竝ニ附則第三條及第四條ノ規定ハ昭和九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條　昭和八年九月三十日以前ニ給與事由ノ生ジタル普通恩給及扶助料ノ分擔ニ付テハ第四條第一項ノ規定ノ改正ニ拘ラズ其ノ分擔請求額ハ仍改正前ノ規定ニ依リ之ヲ定ム

第三條　昭和八年法律第五十號附則（以下單ニ改正法律附則ト稱ス）第七條

但書ノ規定ニ依リ給スベキ傷病年金ハ前ニ傷病賜金ヲ受ケルノ權利ヲ生ジタル者ニ付テハ之ヲ生ジタル月ヨリ起算シ新ニ受クベキ恩給法別表第三號表ノ傷病年金額ヲ以テ其ノ者ノ受ケタル傷病賜金額ヲ除シテ得タル數ニ相當スル年數ヲ經過シタル後ニ非ザレバ之ヲ給セズ

前項ノ年數ノ一年ニ滿タザル部分ハ之ヲ月ニ換算シ月ニ滿タザルモノハ之ヲ切捨ツ

第四條　改正法律附則第九條ニ規定スル場合ニ於テハ左ノ例ニ依ル

一　轉官職ニ依リ新官職ニ付前俸給ヨリ多額ノ俸給ヲ給セラルルニ至ルトキハ之ヲ昇給ト看做ス

二　本俸ト之ニ準ズベキモノトヲ併セ受クル場合ニ於テ其ノ一ニ付昇給又ハ增額アリタルトキハ改正法律附則第九條ノ規定ニ依リ本俸及之ニ準ズベキモノノ總テニ付同法第五十九條ノ改正規定ヲ適用ス

三　俸給ノ法令ニ依ル增額アル場合ニ於テ其ノ增額分ガ恩給法第五十九條ノ規定ノ改正ニ依リ增加シ又ハ新ニ納付スベキニ至リタル額以上ナルトキニ限リ俸給ハ增額セラレタルモノトシ之ニ及バザルトキハ其ノ增額ナカリシモノトシテ取扱フ

第五條　改正法律附則第十五條第一項但書ノ規定ニ依リ改定普通恩給ヨリ控除スル金額ノ年額ハ改定ニヨリ增額スル金額ノ一年分ト同額トス

控除ハ控除金額ノ總額ガ一時恩給金額ニ達シタルトキヲ以テ之ヲ止ム

第六條　改正法律附則第十七條以下ノ規定ニ依リ同法施行後仍削除セラレタル恩給法第九十九條ノ規定ニ依ルベキ場合ニ於テ同條ニ規定スル教育事務ニ從事スル文官トハ左ニ掲グル者ヲ謂フ

一　官立ノ學校又ハ圖書館ノ職員

二　文部省官吏

三　教育事務從事ノ北海道廳、府、縣、郡、島廳、朝鮮總督府、朝鮮總督府道府郡島、臺灣總督府、臺灣總督府州廳郡市、樺太廳、關東局又ハ南洋廳ノ官吏

四　臺灣公立學校ノ職員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受クルモノ

五　教育事務從事ノ從前ノ區、統監府、關東都督府又ハ關東廳ノ官吏

第七條　大正十三年勅令第四百七號附則第二項中「第六號」ヲ「第十號」ニ改ム

附　則　（昭和八年勅令第三百五號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依ル北海道廳吏業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附　則　（昭和十一年勅令第六十八號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前龍井村、局子街又ハ海龍ニ在勤シタル期間ニ對スル加算ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附　則　（昭和十一年勅令第百七十五號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前農安又ハマサトラジニ在勤シタル期間ニ對スル加算ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附　則　（昭和十二年勅令第四十一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前赤峰ニ在勤シタル期間ニ對スル加算ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附　則　（昭和十三年勅令第三百八十二號）

第一條　本令ハ昭和十三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條　南滿洲鐵道附屬地ニ在勤シタル關東州ニ於ケル警察監獄職員及其ノ遺族ノ恩給ノ裁定ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第三條　第三十一條ノ三ノ規定ハ昭和十三年法律第五十六號（以下改正法

律ト稱ス）附則第二條ノ規定ニ依リテ增給セラルベキ扶助料中恩給法第七十五條第二項但書ニ規定スル加給ノ場合ニ該當スルガ爲增給セラルベキ扶助料ニ付之ヲ準用ス

第四條　改正法律附則第二條ノ規定ニ依リテ爲ス增加恩給又ハ扶助料ノ增給ハ權利者ノ請求ヲ待タズシテ之ヲ爲ス但シ恩給法第七十五條第二項ニ規定スル加給ノ場合ニ該當スル扶助料ノ增給ハ權利者ノ請求ヲ待チテ之ヲ爲ス

第五條　改正法律附則第三條ノ規定ニ依リ第七項ノ增加恩給ヲ給セラルベキ者カ本令施行ノ際從前ノ第一款ノ傷病年金ト普通恩給トヲ併給セラルル者ナル場合ニ於テハ從前ノ傷病年金第一款ノ年額ヲ以テ增加恩給第七項ノ年額トス

第六條　改正法律附則第五條ノ規定ニ依リ給スベキ傷病年金ハ前ニ傷病賜金ヲ受クルノ權利ヲ生ジタル者ニ付テハ之ヲ生ジタル月ヨリ起算シ新ニ受クベキ恩給法別表第三號表ノ改正規定ノ傷病年金額ヲ以テ其ノ者ノ受ケタル傷病賜金額ヲ除シテ得タル數ニ相當スル年數ヲ經過シタル後ニ非ザレバ之ヲ給セズ

前項ノ年數ノ一年ニ滿タザル部分ハ之ヲ月ニ換算シ月ニ滿タザルモノハ之ヲ切捨ツ

（別表）略ス

●恩給給與規則

大正十二年八月二十二日
勅令第三百六十九號

沿革　昭和八年九月勅令第二三七號、一二月第三一一號、一二年七月第三六〇號、一三年五月第三八三號改正

旣恩給給與規則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

恩給給與規則

第一章　恩給ノ請求

第一條　普通恩給、增加恩給又ハ傷病年金ヲ受ケムトスル者ハ普通恩給請求書、增加恩給請求書又ハ傷病年金請求書ヲ退職當時ノ本屬廳ヲ經テ裁定官廳ニ差出スヘシ

第二條　前條ノ恩給請求書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　在職中ノ履歷書

二　戶籍抄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（退職後請求迄ノ間ニ於テ作成セラレタルモノ）

增加恩給請求書又ハ傷病年金請求書ニハ前項各號ニ揭クル書類ノ外左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　傷痍疾病カ公務ニ起因シタルコトヲ認ムルニ足ルヘキ書類（例ヘハ現認者ノ現認證明書、所屬長ノ事實證明書等）

二　症狀ノ經過ヲ記載シタル書類

三　請求當時ニ於ケル診斷書

恩給ヲ改定スル場合ニ於テ前ニ恩給證書ヲ受ケタルコトアルトキハ前二項各號ニ揭クル書類ノ外其ノ恩給證書ヲ添附スヘシ

第三條　恩給法第五十條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依リ再審査ヲ請求スル者ハ再審査請求書ニ前條第二項第二號及第三號ニ揭クル書類ヲ添ヘ裁定官廳ニ之ヲ差出スヘシ

再審査ノ請求アリタル場合ニ於テ裁定官廳ハ必要ト認ムルトキハ其ノ指定スル醫師ノ現在症狀證明書ノ提出ヲ請求者ニ命スルコトヲ得

第四條　一時恩給ヲ受ケムトスル者ハ一時恩給請求書ニ在職中ノ履歷書ヲ添附シ退職當時ノ本屬廳ヲ經テ裁定官廳ニ之ヲ差出スヘシ

第五條　傷病賜金ヲ受ケムトスル者ハ傷病賜金請求書ニ第二條第二項各號ニ揭クル書類ヲ添附シ陸軍軍人ニ在リテハ陸軍大臣、海軍軍人ニ在リテハ海軍大臣ヲ經テ內閣恩給局長ニ之ヲ差出スヘシ

第六條　扶助料ヲ受ケムトスル者ハ扶助料請求書ヲ裁定官廳ニ差出スヘシ但シ第七條、第八條第一項第二號又ハ第十條第二項ノ規定ニ依リ扶助料請求書ニ公務員（公務員ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）ノ在職中ノ履歷書ヲ添附スヘキ場合ニ於テハ公務員ノ本屬廳ヲ經テ之ヲ差出スヘシ

第七條　恩給法第七十三條第一項第一號ノ規定ニ依リ第一次ニ扶助料ヲ請求スルコトヲ得ル者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歷書

二　請求者ノ戶籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）

前項ノ場合ニ於テ公務員前ニ恩給證書ヲ受ケタルコトアルトキハ前項各號ニ揭クル書類ノ外其ノ恩給證書ヲ添附スヘシ

第八條　恩給法第七十三條第一項第二號ノ規定ニ依リ第一次ニ扶助料ヲ請求スルコトヲ得ル者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員カ既ニ普通恩給ノ裁定ヲ經タルトキハ其ノ恩給證書及請求者ノ戶籍謄本（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）

二　公務員カ未タ普通恩給ノ裁定ヲ經サルトキハ前條第一項各號ニ揭クル書類

前條第二項ノ規定ハ前項第二號ニ揭クル書類ヲ添附スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第九條　前二條ノ場合ニ於テ公務員ノ死亡カ公務ニ因ル傷痍疾病ニ起因スルトキハ前二條ノ規定ニ依ルノ外扶助料請求書ニ第二條第二項第一號及第二號ニ揭クル書類竝死亡者ノ死亡診斷書又ハ屍體檢案書ヲ添附スヘシ

前項ノ死亡診斷書又ハ屍體檢案書ヲ添附スルコトヲ得サル場合ニ於テハ死亡ノ事實ヲ證スル公ノ證明書ヲ添附スヘシ

第十條　恩給法第七十三條第一項各號ノ規定ニ依リ第二次以下ニ於テ扶助料ヲ請求スルコトヲ得ル者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　前扶助料權者カ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ失ヒタルコトヲ證スル書類

二　前扶助料權者ノ扶助料證書

三　請求者ノ戶籍謄本（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）

前項ノ場合ニ於テ前扶助料權者カ未タ扶助料ノ裁定ヲ經サルトキハ前項第一號ニ揭クル書類及前扶助料權者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ添附スルコトヲ要スル書類ヲ添附スヘシ

第十一條　恩給法第七十四條第二項ニ規定スル扶助料ヲ請求スル場合ニ於

テハ第七條乃至前條ノ規定ニ依ルノ外扶助料請求書ニ不具癈疾ヲ證スル診斷書及生活資料ヲ得ルノ途ナク且扶養スル者ナキコトヲ證スル市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書ヲ添附スヘシ

第十一條ノ二　恩給法第七十五條第二項及恩給法施行令第三十一條ノ三ノ規定ニ依リ遺族ノ員數ニ依ル加給ヲ受クル扶助料權者ハ遺族ノ員數ノ增減ニ因リ加給スヘキ額ニ增減ヲ生シタル場合ニ於テハ扶助料改定請求書ニ改定ヲ受クヘキ扶助料證書及戸籍謄本（遺族ノ員數ノ增減ヲ明瞭ニシ得ルモノ）ヲ添附シ裁定官廳ニ之ヲ差出スヘシ

恩給法第七十五條第二項及恩給法施行令第三十一條ノ三第一號但書又ハ同條第二項ノ規定ニ依リ遺族ノ員數ニ依ル加給ノ改定ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ扶助料改定請求書ニ前ニ加給セラレタル扶助料ノ證書及加給ヲ請求セムトスル扶助料ノ證書及戸籍謄本（遺族ノ員數ノ增減ヲ明瞭ニシ得ルモノ）ヲ添附シ裁定官廳ニ之ヲ差出スヘシ

第十二條　恩給法第七十八條ノ規定ニ依リ扶助料ノ停止ヲ申請スル者ハ扶助料停止申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ裁定官廳ニ之ヲ差出スヘシ

一　扶助料權者ノ所在不明ナルコトヲ證スル公ノ證明書

二　請求者ノ戸籍謄本（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）

前項ノ場合ニ於テハ同時ニ恩給法第七十九條ノ規定ニ依ル扶助料轉給ノ請求ヲ爲スヘシ

第十三條　恩給法第七十九條ノ規定ニ依リ扶助料ノ轉給ヲ請求スル者ハ其ノ事由ヲ記載シタル扶助料轉給請求書ニ請求者ノ戸籍謄本（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）ヲ添附シ裁定官廳ニ之ヲ差出スヘシ但シ前條ノ規定ニ依リ請求者ノ戸籍謄本ヲ添附シタル場合ニ於テハ其ノ戸籍謄本（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）ヲ添附スルコトヲ要スヘキ書類

二　請求者ノ戸籍謄本（死亡シタル恩給權者ノ死亡當時ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）

第十九條　恩給法第八十一條ニ規定スル一時扶助料ヲ給セラルヘキ者數人アルトキ又ハ恩給法施行令第二條第一項若ハ第二項ノ相續人數人アルトキハ其ノ中一人ヲ總代者トシテ恩給ノ請求又ハ恩給支給ノ請求ヲ爲スヘシ

〔青敎〕

第二十條　恩給ノ請求ニ付恩給證書ヲ添附スヘキ場合ニ於テ亡失其ノ他ノ事由ニ因リ之ヲ添附スルコトヲ得サルトキハ證據書類ヲ添ヘ其ノ事由ヲ屆出ツヘシ

第二十一條　經由廳カ廢止セラレタル場合ニ於テハ書類ハ其ノ廳ノ事務ヲ引繼キタル廳ヲ經由スヘシ

第二章　恩給ノ裁定

第二十二條　經由廳ニ於テ恩給請求書類ヲ受付ケタルトキハ之ヲ調査シ不備ノ點ナキコトヲ認メタルトキハ恩給金額計算書ヲ作リ履歷書、證明書其ノ他ノ添附書類ニ付其ノ廳ニ於テ證明シ得ヘキモノハ證明シ速ニ裁定官廳ニ之ヲ送付スヘシ

經由廳ニ於テ恩給請求書類ニ不備ノ點アルコトヲ認メタルトキハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ不備ヲ追完セシムルコトヲ得

請求者前項ノ期間內ニ不備ノ追完ヲ爲ササルトキ又ハ經由廳恩給請求理由ナシト認メタルトキハ經由廳ハ恩給金額計算書ノ作成ヲ省略シ意見ヲ具シ恩給請求書類ヲ裁定官廳ニ送付スヘシ

第二十三條　裁定官廳ニ於テ恩給請求書類ヲ受付ケタルトキハ之ヲ審査シ恩給請求書類ニ不備ノ點ナク且恩給ヲ受クルノ權利アリト認メタルトキハ年金タル恩給ニ付テハ恩給證書ヲ、一時金タル恩給ニ付テハ裁定通知書ヲ請求者ニ交付スヘシ但シ第十七條ニ規定スル恩給ノ請求ニ對シテハ裁定通知書ヲ交付ス

裁定官廳ニ於テ恩給請求書類ニ不備ノ點アルコトヲ認メタルトキハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ不備ヲ追完セシムルコトヲ得

請求者前項ノ期間內ニ不備ノ追完ヲ爲ササルトキ又ハ裁定官廳恩給ヲ受クルノ權利ノ消滅シタル場合ニ於テノ其ノ期ノ恩給ノ支給時期ニ付テハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條　權利者又ハ關係廳ニ於テ恩給證書又ハ裁定通知書ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ證據書類ヲ添附シ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第二十五條　裁定官廳ニ於テ恩給證書又ハ裁定通知書ニ誤謬アルコトヲ認メタルトキハ訂正ノ爲必要ナル手續ヲ爲シ其ノ旨ヲ關係廳ヲ經テ權利者ニ通知スヘシ

第二十六條　裁定官廳ハ審査上必要アリト認ムルトキハ請求者又ハ申請者ニ出頭ヲ命シ又ハ必要ナル書類ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第三章　恩給ノ支給

第二十七條　恩給ノ支給ヲ受ケムトスル者ハ其ノ恩給證書又ハ裁定通知書ヲ支給廳ニ呈示スヘシ

第二十八條　年金タル恩給ハ每年一月、四月、七月、十月ノ四期ニ於テ各其ノ前月分迄ヲ支給ス但シ前支給期月ニ支給スヘカリシ恩給ハ支給期月ニ非サル時期ニ於テモ之ヲ支給ス

年金タル恩給ヲ受クルノ權利消滅シタル場合ニ於テノ其ノ期ノ恩給ノ支給時期ニ付テハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十九條　支給廳ハ年金タル恩給ヲ受クルノ權利ノ消滅シ又ハ停止セラルヘキ原因タル事實アルコトヲ知リタルトキハ其ノ支給ヲ止メ速ニ其ノ

〔青敎〕

キハ其ノ中一人ヲ總代者トシテ恩給ノ請求又ハ恩給支給ノ請求ヲ爲スヘシ

第二十條　恩給ノ請求ニ付恩給證書ヲ添附スヘキ場合ニ於テ亡失其ノ他ノ事由ニ因リ之ヲ添附スルコトヲ得サルトキハ證據書類ヲ添ヘ其ノ事由ヲ屆出ツヘシ

第二十一條　經由廳カ廢止セラレタル場合ニ於テハ書類ハ其ノ廳ノ事務ヲ引繼キタル廳ヲ經由スヘシ

第二章　恩給ノ裁定

第二十二條　經由廳ニ於テ恩給請求書類ヲ受付ケタルトキハ之ヲ調査シ不備ノ點ナキコトヲ認メタルトキハ恩給金額計算書ヲ作リ履歷書、證明書其ノ他ノ添附書類ニ付其ノ廳ニ於テ證明シ得ヘキモノハ證明シ速ニ裁定官廳ニ之ヲ送付スヘシ

經由廳ニ於テ恩給請求書類ニ不備ノ點アルコトヲ認メタルトキハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ不備ヲ追完セシムルコトヲ得

請求者前項ノ期間內ニ不備ノ追完ヲ爲ササルトキ又ハ經由廳恩給請求理由ナシト認メタルトキハ經由廳ハ恩給金額計算書ノ作成ヲ省略シ意見ヲ具シ恩給請求書類ヲ裁定官廳ニ送付スヘシ

第二十三條　裁定官廳ニ於テ恩給請求書類ヲ受付ケタルトキハ之ヲ審査シ恩給請求書類ニ不備ノ點ナク且恩給ヲ受クルノ權利アリト認メタルトキハ年金タル恩給ニ付テハ恩給證書ヲ、一時金タル恩給ニ付テハ裁定通知書ヲ請求者ニ交付スヘシ但シ第十七條ニ規定スル恩給ノ請求ニ對シテハ裁定通知書ヲ交付ス

裁定官廳ニ於テ恩給請求書類ニ不備ノ點アルコトヲ認メタルトキハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ不備ヲ追完セシムルコトヲ得

請求者前項ノ期間內ニ不備ノ追完ヲ爲ササルトキ又ハ裁定官廳恩給ヲ受クルノ權利ノ消滅シタル場合ニ於テノ其ノ期ノ恩給ノ支給時期ニ付テハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條　權利者又ハ關係廳ニ於テ恩給證書又ハ裁定通知書ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ證據書類ヲ添附シ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第二十五條　裁定官廳ニ於テ恩給證書又ハ裁定通知書ニ誤謬アルコトヲ認メタルトキハ訂正ノ爲必要ナル手續ヲ爲シ其ノ旨ヲ關係廳ヲ經テ權利者ニ通知スヘシ

第二十六條　裁定官廳ハ審査上必要アリト認ムルトキハ請求者又ハ申請者ニ出頭ヲ命シ又ハ必要ナル書類ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第三章　恩給ノ支給

第二十七條　恩給ノ支給ヲ受ケムトスル者ハ其ノ恩給證書又ハ裁定通知書ヲ支給廳ニ呈示スヘシ

第二十八條　年金タル恩給ハ每年一月、四月、七月、十月ノ四期ニ於テ各其ノ前月分迄ヲ支給ス但シ前支給期月ニ支給スヘカリシ恩給ハ支給期月ニ非サル時期ニ於テモ之ヲ支給ス

年金タル恩給ヲ受クルノ權利消滅シタル場合ニ於テノ其ノ期ノ恩給ノ支給時期ニ付テハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十九條　支給廳ハ年金タル恩給ヲ受クルノ權利ノ消滅シ又ハ停止セラルヘキ原因タル事實アルコトヲ知リタルトキハ其ノ支給ヲ止メ速ニ其ノ

旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第四章　異動通知

第三十條　普通恩給ヲ受クル者官職ニ就キ恩給法第五十八條第一項第一號ノ規定ニ依リ其ノ恩給ヲ停止セラルヘキ場合ニ於テハ其ノ就職當時ノ本屬廳ハ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第三十一條　年金タル恩給ヲ受クル者禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ（恩給法第九條第二項ニ規定スル犯罪以外ノ犯罪ニ付刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキヲ除ク）又ハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ其ノ宣告又ハ取消ヲ爲シタル裁判所ハ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第三十二條　年金タル恩給ヲ受クル者國籍ヲ失ヒ、死亡シ又ハ恩給法第八十條ノ規定ニ依リ其ノ恩給ヲ受クルノ權利ヲ失フ場合ニ於テハ本人、遺族又ハ緣故者ヨリ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第三十三條　年金タル恩給ヲ受クル者其ノ本籍又ハ現住所ヲ變更シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ届出ツヘシ

第三十四條　第三十條乃至前條ノ場合ニ於テ裁定官廳ト支給廳トカ異ルトキハ裁定官廳ニ對スル通知又ハ届出ハ支給廳ヲ經由スヘシ

第三十四條ノ二　恩給法施行令第一條ノ二第一項ノ規定ニ依リ提出スル戸籍謄本又ハ戸籍抄本及證明書ハ之ヲ提出スヘキ月又ハ其ノ前月現在ニ於ケル受恩給者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノタルコトヲ要ス

第五章　恩給證書ノ返還及再交付

第三十五條　年金タル恩給ヲ受クル者死亡シ又ハ恩給ヲ受クルノ權利ヲ失ヒタル場合ニ於テ恩給ヲ受クヘキ順位者ナキトキハ恩給證書ヲ占有スル者ハ速ニ裁定官廳ニ之ヲ返還スヘシ

前項ノ場合ニ於テ亡失其ノ他ノ事由ヲ具シ證據書類ヲ添ヘ裁定官廳ニ其ノ再交付ヲ申請スルコトヲ得

恩給ヲ受クル者カ恩給證書ヲ呈示ノ用ニ供スルコト困難ナル狀況ニ在ル場合ニ於テハ裁定官廳ハ本人ノ申請ニ依リ之ニ其ノ證書ノ再交付ヲ爲スコトヲ得

第三十七條　恩給證書又ハ裁定通知書ノ再交付アリタルトキハ從前ノ恩給證書又ハ裁定通知書ハ其ノ效力ヲ失フ

亡失ヲ理由トシテ恩給證書又ハ裁定通知書ノ再交付アリタル後從前ノ恩給證書又ハ裁定通知書ヲ發見シタルトキハ速ニ裁定官廳ニ之ヲ返還スヘシ

前項ノ規定ハ前條第二項ノ規定ニ依リ恩給證書ノ再交付アリタル場合ニ付之ヲ準用ス

第三十八條　年金タル恩給ヲ受クル者其ノ氏名ヲ變更シタルトキハ恩給證書及戸籍抄本ヲ添ヘ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ届出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ裁定官廳ハ恩給證書ニ改氏名ノ事實ヲ記載シタル上之ヲ權利者ニ返付スヘシ此ノ場合ニ於テ裁定官廳ト支給廳トカ異ルトキハ支給廳ヲ經由スヘシ

第六章　具申及裁決

第三十九條　恩給法第十三條第一項ノ具申ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第四十條　具申書ニハ左ノ事項ヲ記載シ具申者記名捺印シ證據書類其ノ他必要ナル書類ヲ添附スヘシ

一　具申者ノ氏名、年齡及住所

二　對手者タル行政廳

三　具申ノ趣旨及理由

第四十一條　具申カ內閣恩給局長以外ノ者カ爲シタル行政處分ニ對スルモノナルトキハ具申書ハ其ノ處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シテ之ヲ差出ス

〔書敎〕

前項ノ場合ニ於テ行政廳ハ具申書ヲ受取リタル日ヨリ十四日內ニ辯明書及必要ナル書類ヲ添ヘ內閣恩給局長ニ之ヲ送付スヘシ

第四十二條　內閣恩給局長ハ必要アリト認ムルトキハ期限ヲ定メ辯明書ニ對スル辯駁書、再度辯明書其ノ他必要ナル書類ヲ差出サシメ又ハ具申者若ハ對手者タル行政廳ノ主任者ニ出頭ヲ求ムルコトヲ得

第四十三條　裁決ハ理由ヲ附シタル裁決書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

裁決書ハ具申者及對手者タル行政廳ニ之ヲ送付スヘシ

附則

本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則（昭和八年勅令第二百三十七號）

本令ハ昭和八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第一條乃至第三條ノ改正規定ハ昭和九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則（昭和八年勅令第三百十一號）

本令ハ昭和八年十月一日以後刑ニ處セラレタル場合ニ付之ヲ適用ス

●昭和十三年法律第五十六號附則ニ依ル恩給更正及請求手續

昭和十三年六月一日
閣令第三號

昭和十三年法律第五十六號附則第二條又ハ第三條ノ規定ニ依リ更正スベキ恩給中內閣恩給局長ノ管掌ニ係ルモノノ更正手續及同法附則第六條又ハ第七條ノ規定ニ依リ新ニ給シ又ハ改定スベキ恩給ノ請求手續左ノ通定ム

昭和十三年法律第五十六號附則ニ依ル恩給更正及請求手續

第一條　昭和十三年法律第五十六號（以下改正法律ト稱ス）附則第二條又ハ第三條ノ規定ニ依リ增額スベキ增加恩給、傷病年金又ハ扶助料ニシテ昭和十三年三月三十一日以前ノ日附アル證書ニ依リ支給スルモノニ付テハ恩給法第七十五條第二項及昭和十三年勅令第三百八十二號（以下改正勅令ト稱ス）附則第五條ニ規定スルモノヲ除クノ外受給權者ノ請求ヲ待タズ之ヲ更正シ其ノ更正年額ヲ表示シタル新證書ヲ發行ス

前項ノ新證書ヲ交付スル迄ハ更正年額ヲ表示シタル支給辨票（別記第一號樣式）ヲ貼附シタル從前ノ證書ニ依リ更正額ヲ支給ス

第二條　改正法律附則第二條又ハ第三條ノ規定ニ依リ增額スベキ增加恩給、傷病年金又ハ扶助料ニシテ昭和十三年四月一日以後裁定スベキモノニ付テハ更正年額及從前ノ年額ヲ表示シタル證書ヲ發行ス

第三條　支給額票ハ受給權者ノ請求ヲ待タズ內閣恩給局ニ於テ之ヲ調製シ貯金局ヲ經テ之ヲ受給權者ニ交付ス

第四條　第一條ノ新證書ハ貯金局ヲ經テ之ヲ受給權者ニ交付ス

第五條　第一條ノ新證書ノ交付ヲ受ケントスル者ハ交付請求書（別記第二號樣式）ニ現住地ノ警察官署又ハ領事館ノ現住證明ヲ受ケ內閣恩給局ニ差出スベシ但シ現住地ノ警察官署又ハ領事館ナキトキハ町村役場又ハ之ニ準ズベキモノノ現住證明ヲ受クベシ

受給權者ハ內閣恩給局又ハ支給郵便局ヨリ前項ノ交付請求書ノ用紙ヲ受クルコトヲ得

〔書敎〕

第六條　前條ノ交付請求書提出後住所ヲ變更シタルトキハ其ノ新住所地ノ警察官署若ハ領事館又ハ町村役場若ハ之ニ準ズベキモノノ現住證明書ヲ添ヘ速ニ其ノ旨ヲ届出ヅベシ

第七條　第一條ノ新證書ヲ發行シタルトキハ交付請求書ヲ差出シタル者ニ對シ貯金局ヲ經テ其ノ旨ヲ通知ス

受給權者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ從前ノ證書ニ新證書ノ受領證印ヲ爲シ之ト引換ニ新證書ノ交付ヲ受クベシ

前項ノ場合ニ於テ止ムコトヲ得ザル事由ニ因リ從前ノ證書ヲ提出スルコトヲ得ザルトキハ內閣恩給局ノ承認書ヲ以テ從前ノ證書ニ代フルコトヲ得

前項ノ承認書ヲ受ケントスル者ハ恩給證書ヲ提出スルコトヲ得ザル事由ヲ詳記シタル書面ヲ內閣恩給局ニ差出スベシ

第八條　支給額票ヲ亡失シ又ハ毀損シタルトキハ貯金局ヲ經テ內閣恩給局ニ其ノ再交付ヲ請求スベシ

第九條　昭和十三年三月三十一日以前ノ日附アル證書及之ニ貼附シタル支給額票ハ昭和十五年三月三十一日限リ其ノ效力ヲ失フ

第十條　改正勅令附則第三條ニ依リテ準用セラルル同令第三十一條ノ三第一項第一號但書又ハ同條第二項ノ規定ニ依リ遺族ノ員數ニ依ル加給ノ改定請求ヲ爲サントスル者ハ扶助料改定請求書(別記第三號樣式)ニ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ル戶籍謄本、前ニ加給セラレタル扶助料ノ證書及加給ヲ請求セントスル扶助料ノ證書ヲ添附シテ內閣恩給局長ニ差出スベシ

改正勅令附則第四條但書ノ規定ニ依リ遺族ノ員數ニ依ル加給部分ニ對スル更正ノ請求ヲ爲サントスル者ハ更正請求書(別記第四號樣式)ニ公務員ノ死亡又ハ前扶助料權者ノ失權ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ル戶籍謄本ヲ添附シテ內閣恩給局長ニ差出スベシ

第十一條　改正法律附則第三條及改正勅令附則第五條ノ規定ニ該當スル者ニハ受給權者ノ請求ヲ待タズ假ニ增加恩給第七項ノ年額ヲ表示シタル支給額票ヲ貼附シタル從前ノ證書ニ依リ增加恩給第七項ノ恩給額ヲ支給ス

前項ノ規定ニ依リ支給ヲ受クル者改正勅令附則第五條ノ規定ニ依リ從前ノ傷病年金第一款ノ年額ヲ增加恩給第七項ノ年額トシテ受ケントスルトキハ更正請求書(別記第五號樣式)ヲ內閣恩給局長ニ差出スベシ

第十二條　改正法律附則第六條又ハ第七條ノ規定ニ依リ新ニ恩給ヲ給シ又ハ改定スベキ場合ニ於テハ受給權者ノ請求ヲ待チテ之ヲ更正ス

改正法律附則第六條ノ規定ニ依リ扶助料ノ請求ヲ爲ス者ハ恩給給與規則第六條乃至第八條ノ規定ニ依ルノ外陸軍大臣又ハ海軍大臣ヲ經テ其ノ請求書ヲ內閣恩給局長ニ差出スベシ

改正法律附則第七條ノ規定ニ依リ恩給ノ請求ヲ爲ス者ハ恩給給與規則第一條及第二條又ハ第六條乃至第八條ノ規定ニ依ルノ外北海道廳長官ヲ經テ恩給ノ請求書又ハ改定請求書(別記第六號樣式)ヲ內閣恩給局長ニ差出スベシ

第十三條　恩給ノ更正及請求ニ關シ本令ニ別段ノ規定ナキ事項ニ付テハ恩給給與規則ヲ準用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔青教〕

(別記)

第一號樣式

昭和十三年七月渡以降更正支給額票

現證書記號番號	
更正證書記號番號	
更正年額	圓
同上一期額	圓　錢
氏名	
生年月	年　月生

(內閣恩給局)

注意(一)本票ハ證書表面金額ノ上部ニ貼附スベシ

(二)更正額ニ對スル新證書ハ追テ交付スベキニ付其ノ際現證書ハ之ヲ還納スベシ

〔青教〕

第二號樣式

(裏面)

交付請求書

現證書記號番號	
更正證書記號番號	
氏名	
支給郵便局名	
備考	

昭和十三年法律第五十六號附則ニ依ル更正證書及請求候也

現住所

受給者氏名印

右現住者タルコトヲ證明ス

昭和　年　月　日

警察署長
分署長

警察官吏派出所員
町村長

〔表面〕

扶助料改定證明願

一、扶助料證書番號　第　　號

一、扶助料受給者　住所

　　氏名

一、扶助料ノ種類

一、扶助料ノ額

一、證書ノ交付ヲ受ケタル年月日

一、證書ヲ紛失シ又ハ毀損シタル事由

一、扶助料ノ額ヲ改定セラレタキ事由

右願ヒ候也

年　月　日

住所

願人　氏名　㊞

〔裏面〕

扶助料改定證明書

一、扶助料　第　　回

一、扶助料證書番號　第　　號

一、扶助料ノ額　金　　圓

一、證書ノ交付ヲ受ケタル年月日　年　月　日

一、扶助料ノ種類

一、扶助料ノ額ヲ改定シタル事由

年　月　日

扶助料證書再發願

一、證書ヲ紛失シタル事由

一、證書ノ交付ヲ受ケタル年月日

一、證書ノ番號

一、扶助料ノ種類

一、扶助料ノ額

一、證書ノ交付ヲ受ケタル年月日

一、證書ヲ紛失シタル事由

一、證書ヲ紛失シタル後扶助料ノ額ヲ改定セラレタル事由

一、證書ヲ紛失シタル後扶助料ノ種類ヲ變更セラレタル事由

右願ヒ候也

年　月　日

住所

願人　氏名　㊞

内閣恩給局長　氏名殿

〔裏面〕

扶助料證書再發願書

一、扶助料　第　　回

一、扶助料證書番號　第　　號

一、扶助料ノ額　金　　圓

一、證書ノ交付ヲ受ケタル年月日　年　月　日

一、扶助料ノ種類

一、扶助料ノ額ヲ改定シタル事由

年　月　日

扶助料改定證明書

第一ノ扶助料　扶助料證書記號番號

證書ノ日附

扶助料年額

（イ）（ロ）（イ）（ハ）（ロ）（イ）

第二ノ扶助料

證書ノ日附

扶助料證書記號番號

（イ）（ロ）（イ）（ハ）（ロ）（イ）

（第三ノ扶助料以下右ニ準ス）

前記扶助料中第　ノ扶助料＝付證書ノ日數＝依ル加給ヲ以ノ年額ヲ改定相成候證書類相添ヘ證明ヲ乞フ

年　月　日

本籍地

現住所

證明ヲ請フ者　氏名　㊞

内閣恩給局長　氏名殿

（第三以下ノ扶助料受給者ハ證明ヲ請フ者ノ右ニ準ス）

内閣恩給局長　氏名殿

改定扶助料ノ支給開始日　○○郵便局

〔表面〕

重正證書

一、扶助料證書番號

一、扶助料ノ種類

一、證書ノ日附

一、扶助料年額

昭和十三年法律第五十六號附則第二條ノ規定ニ依リ前記扶助料年額更正相成候證書類相添ヘ證明ヲ請フ

本籍地

現住所

證明ヲ請フ者　氏名　㊞

内閣恩給局長　氏名殿

〔裏面〕

重正證書

一、扶助料證書番號

一、扶助料ノ種類

一、證書ノ日附

一、扶助料年額

昭和十三年法律第五十六號附則第二條ノ規定ニ依リ前記扶助料年額更正相成候證書類相添ヘ證明ヲ請フ

本籍地

現住所

證明ヲ請フ者　氏名　㊞

内閣恩給局長　氏名殿

〔表面〕

（圖略）

郵便はがき

東京市丸ノ内内閣恩給局

手紙貼附ノコト

〔裏面〕

第六號樣式

改定請求書

一、公務員退職年月日
一、證書記號番號
一、證書ノ日附
一、普通恩給又ハ扶助料年額

昭和十三年法律第五十六號附則第七條ノ規定ニ依リ前記普通恩給年額改定相成度證據書類相添ヘ請求候也

年　月　日

本籍地
現住所
請求者　氏　　名㊞

内閣恩給局長　氏　名殿
支給郵便局　○○郵便局

●昭和十三年法律第五十六號附則ニ依ル恩給更正規則

昭和十三年六月一日
遞信省令第四十八號

昭和十三年法律第五十六號附則ニ依ル恩給更正規則左ノ通定ム

昭和十三年法律第五十六號附則ニ依ル恩給更正規則

第一條　貯金局ニ於テ昭和十三年閣令第三號其ノ他昭和十三年法律第五十六號附則ノ施行ニ關スル規定ニ依リ從前ノ增加恩給、傷病年金及扶助料ノ受給者ニ對シ支給額票ヲ交付セントスルトキハ其ノ旨ヲ受給者ニ通知ス

第二條　受給者前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ速ニ恩給證書ヲ支給郵便局ニ差出シ之ニ支給額票ノ貼附ヲ請求スベシ

支給郵便局ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ當該證書ノ表面上部欄外ニ支給額票ヲ貼附シ日附印ヲ以テ契印シタル上之ヲ受給者ニ返付ス

第三條　支給額票ノ交付ヲ受クベキ受給者現ニ年金恩給支給規則第十條ニ依リ恩給證書ヲ貯金局ニ寄託スルモノナルトキハ貯金局ニ於テ前條ニ準ジ當該證書ニ對スル支給額票貼附ノ手續ヲ爲ス

前項ノ場合ニ於テハ新ニ保管證書ヲ作成シ支給郵便局ヲ經テ舊保管證書ト引換ニ之ヲ受給者ニ交付ス

第四條　受給者新證書交付ノ通知ヲ受ケタルトキハ從前ノ證書又ハ裁定官廳ノ承認書表面餘白ニ新證書受領ノ旨ヲ記載シ記名調印ノ上指定ノ郵便局ニ差出シ之ト引換ニ新證書ノ交付ヲ受クベシ

前項ノ場合ニ於テ同時ニ支給郵便局ヲ改訂スルモノナルトキハ郵便局ノ交付スル用紙ニ依リ印鑑屆ヲ作製シ之ヲ新支給郵便局ニ差出スベシ

第五條　年金恩給支給規則第十條ニ依リ貯金局ニ寄託中ノ證書ニ對スル新證書ハ貯金局ニ於テ之ヲ引換ヘ保管ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔青敎〕

●恩給ノ減額補給及停止ニ關スル件

昭和七年六月十八日
法律第十三號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル恩給ノ減額補給及停止ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　昭和六年六月一日以降減俸ノ爲改正シタル俸給ニ關スル規程ニ依リ俸給ヲ給セラレ勅令ヲ以テ指定スル時期迄ニ退職シ若ハ死亡シタル軍人以外ノ公務員若ハ之ニ準ズベキ者又ハ其ノ遺族ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ恩給額ト改正前ノ俸給ニ關スル規程ニ依レバ受クベカリシ俸給ヲ基礎トスル恩給額トノ差額ヲ年金タル恩給ニ在リテハ退職又ハ死亡ノ翌月ヨリ增給シ一時金タル恩給ニ在リテハ追給ス

前項ノ規定ハ昭和六年六月一日以降勅令ヲ以テ指定スル時期迄ニ新ニ制定セラルル俸給ニ關スル規程ニ依リ俸給ヲ給セラレテ退職シ若ハ死亡シタル軍人以外ノ公務員若ハ之ニ準ズベキ者又ハ其ノ遺族ニ付之ヲ準用ス

第二條　恩給法第九十九條第一項ノ規定ニ依リ從前ノ例ニ依リ普通恩給トシ其ノ基礎ト爲リタル在職年ニ通算スルコトヲ得ル官職ニ就キ受クル俸給トノ合算額ノ退職當時ノ俸給ヲ超過スル差額ダケ普通恩給ヲ停止スル場合ニ於ケル其ノ退職當時ノ俸給ハ本法施行後ニ在リテハ勅令ヲ以テ指定スル時期迄昭和六年六月一日以降減俸ノ爲改正シタル俸給ニ關スル規程ニ依ル其ノ俸給ニ相當スル俸給トス

前項俸給額ノ算定ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和七年七月勅令第二百三號ヲ以テ同年八月一日ヨリ施行）

〔青敎〕

●昭和七年法律第十三號施行令

昭和七年七月三十日
勅令第二百四號

追加　昭和八年九月勅令第二四七號改正

朕昭和七年法律第十三號施行令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

昭和七年法律第十三號施行令

第一條　昭和七年法律第十三號第一條第一項ノ規定ニ依リ增額シ又ハ追給スベキ恩給金額ヲ算出スル爲ニ要スル改正前ノ俸給規程ニ依リ受クベカリシ俸給ハ左ノ各號ニ依ル

一　昭和六年六月又ハ七月減俸ノ爲改正シタル俸給規程施行ノ際在職シ俸給ヲ減額セラレタル者爾後其ノ俸給ヲ變動セラルルコトナクシテ退職シ又ハ死亡シタルトキハ減俸直前ノ俸給トス

二　昭和六年六月又ハ七月減俸ノ爲改正シタル俸給規程施行ノ際在職シタル者爾後其ノ俸給ヲ變動セラレテ退職シ又ハ死亡シタルトキ及該俸給規程施行後就職シタル者退職シ又ハ死亡シタルトキハ

（イ）本俸ニシテ級俸ノ定アル俸給規程ニ依ルモノニ付テハ其ノ退職又ハ死亡當時ノ俸給カ減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ定ムル級俸定額ニ該當スルモノナル場合ニハ其ノ級俸定額トシ之ニ該當スルモノナラザル場合ニハ其ノ俸給ニ直近スル下位ノ級俸定額カ之ニ對應スル改正前ノ俸給規程ニ定ムル級俸定額ニ對シテ有スル割合ヲ以テ其ノ俸給ヲ除シタル金額トス但シ其ノ俸給ニ直近スル上位ノ級俸定額ノ改正前ノ級俸定額ニ還元セラレタル額ヲ超ユルコトナシ

（ロ）本俸ニシテ級俸ノ定ナキ俸給規程ニ依ルモノニ付テハ其ノ退職又ハ死亡當時ノ俸給ヲ高等官及同待遇者ニ在リテハ高等官官等俸給合

判任官及同待遇者ニ在リテハ判任官俸給令ニ依リ受ケタルモノト假定シ(イ)ノ規定ニ依リ算出シタル金額トス

(ハ)　本俸ニ準ズベキ俸給ニ付テハ俸給規程ニ於テ其ノ最高限ノミヲ規定スルモノニ在リテハ減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ定ムル最高金額ガ改正前ノ俸給規程ニ定ムル最高金額ニ對シテ有スル割合ヲ以テ退職又ハ死亡當時ノ本俸ニ準ズベキ俸給ヲ除シタル金額トシ最高限及最低限ヲ規定スルモノニ在リテハ減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ定ムル最高金額及最低金額ガ夫々改正前ノ俸給規程ニ定ムル最高金額及最低金額ニ對シテ有スル割合ヲ退職又ハ死亡當時ノ本俸ニ準ズベキ俸給ヲ以テ退職又ハ死亡當時ノ本俸ニ準ズベキ俸給ヲ除シタル金額トス但シ本俸及本俸ニ準ズベキ俸給ノ改正前ノ俸給額ニ還元セラレタルモノノ合算額ハ改正前ノ俸給規程所定ノ最高限ヲ超ユルコトナシ

前項ノ場合ニ於テ前項各號ノ規定ニ依リ算出シタル俸給金額ノ圓位未滿ハ之ヲ切捨ツ

退職又ハ死亡當時ノ本俸ト本俸ニ準ズベキ俸給トノ合算額ガ第一項第二號(イ)又ハロ)ノ規定ニ依リ改正前ノ俸給規程ニ依ル俸給ニ還元セラルベキ最低額ニ達セザルモノナルトキハ第一項第二號(ハ)ノ規定ニ依ル算出ヲ行ハズ

第二條　昭和六年六月二十二日以降官吏又ハ待遇官吏タル二以上ノ地位ニ基キ二以上ノ俸給(本俸ニ準ズベキモノヲ含マズ)ヲ受ケ二以上ノ官職ヲ同時ニ退職シ又ハ二以上ノ官職ニ在職中死亡シタル者前條第一項第二號(イ)又ハロ)ニ該當スル場合ニ在リテハ其ノ本俸ニ付テハ退職又ハ死亡當時ノ各官職ノ俸給ニ互ニ他ノ俸給ノ額ヲ合算シ各合算額ニ付假ニ前條第一項第二號(イ)又ハロ)ニ規定スル算出方法ニ依リ減俸前ノ俸給額ニ還元シ各還元額ヲ退職又ハ死亡當時ノ俸給額ノ比率ニ依リテ按分シ其ノ各俸給ニ關スベキモノヲ以テ改正前ノ俸給規程ニ依リ受クベカリシ各官職ノ俸給額トス

第三條　昭和七年法律第十三號第二條ノ規定ニ依リ退職當時ノ俸給ヲ減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ依ル相當俸給ニ換算スルニハ左ノ各號ニ依ル

一　大正十二年十月一日以降昭和六年六月又ハ七月ノ減俸ノ爲改正シタル俸給規程ノ適用前ニ退職シタル者ノ退職當時ノ俸給ニ相當スル俸給ハ

(イ)　本俸ニシテ級俸ノ定アル俸給規程ニ依ルモノニ付テハ其ノ退職當時ノ俸給ガ改正前ノ俸給規程ニ定ムル級俸定額ニ該當スルモノナル場合ニハ其ノ級俸定額ニ對應スル減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ定ムル級俸定額トシ之ニ該當スルモノナラザル場合ニハ其ノ俸給ニ直近スル下位ノ級俸定額ガ之ニ對應スル減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ定ムル級俸定額ニ對シテ有スル割合ヲ以テ其ノ俸給ヲ睒シタル金額トス

(ロ)　本俸ニシテ級俸ノ定ナキ俸給規程ニ依ルモノニ付テハ其ノ退職當時ノ俸給ヲ高等官及同待遇者ニ在リテハ高等官官等俸給令、判任官及同待遇者ニ在リテハ判任官俸給令ニ依リ受ケタルモノト假定シ(イ)ノ規定ニ依リ算出シタル金額トス

(ハ)　本俸ニ準ズベキ俸給ニ付テハ俸給規程ニ於テ其ノ最高限ノミヲ規定スルモノニ在リテハ減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ定ムル最高金額ガ改正前ノ俸給規程ニ定ムル最高金額ニ對シテ有スル割合ヲ退職當時ノ本俸ニ準ズベキ俸給ニ乘ジタル金額トシ最高限及最低限ヲ規

定スルモノニ在リテハ減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ定ムル最高金額及最低金額ガ夫々改正前ノ俸給規程ニ定ムル最高金額及最低金額ニ對シテ有スル割合ヲ退職當時ノ本俸ニ準ズベキ俸給ニ乘ジタル金額トス

二　大正十二年九月三十日以前ニ退職シタル者ノ退職當時ノ俸給ニ相當スル俸給ハ大正十二年十月一日恩給法ニ依リ更正增額セラレタル恩給ノ基礎ト爲リタル俸給額ヲ以テ退職當時ノ本俸ニ準ズベキ俸給ニ乘ジタル金額トス

前項ノ場合ニ於テ前項各號ノ規定ニ依リ算出シタル俸給金額ノ圓位未滿ハ之ヲ切捨ツ

退職又ハ死亡當時ノ本俸ト本俸ニ準ズベキ俸給トノ合算額ガ第一項第二號(イ)又ハロ)ノ規定ニ依リ改正前ノ俸給規程ニ依ル俸給ニ還元セラルベキ最低額ニ達セザルモノナルトキハ第一項第二號(ハ)ノ規定ニ依ル算出ヲ行ハズ

第四條　昭和六年六月二十二日前官吏又ハ待遇官吏タル二以上ノ地位ニ基キ二以上ノ俸給(本俸ニ準ズベキモノヲ含マズ)ヲ受ケ二以上ノ官職ヲ同時ニ退職シ其ノ合算額ヲ基礎トシテ普通恩給ヲ受ケタル者ノ退職當時ノ本俸ノ額ノ換算ニ付テハ昭和六年勅令第百四十三號ヲ準用ス此ノ場合ニ於テ昭和六年六月一日以降同月二十二日前退職シタル者ニ付テハ其ノ俸給ハ之ニ對應スル改正前ノ俸給規程ニ依ル俸給トス

第五條　減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ於テ改正當時ノ在職者ニ付經過的ニ級俸定額ノ減率ヨリ低キ減率ニ依ル俸給ヲ給スル規定アリタル官職ガ退職當時ノ官職タリシ者ニシテ同規程施行ノ當時在職シタルモノニ關シテハ引續キ在職スル間ニ限リ前二條ノ規定ニ依ル金額ニ依ラズシテ其ノ退職當時ノ俸給額ニ付定メラレタル低キ減率ニ依ル俸給ヲ以テ退職當時ノ俸給ニ相當スル俸給トス

第六條　第三條ノ規定ニ拘ラズ退職當時ノ俸給(二以上ノ地位ニ基キ二以上ノ俸給ヲ受ケタル者ニ在リテハ其ノ合算額)ノ年額千百四十圓以下ナルトキハ其ノ減額ヲ行ハズ千百四十圓ヲ超エ千二百圓以下ナルトキハ之ヲ千百四十圓トス但シ前條ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ

第七條　本令中退職又ハ死亡當時ノ俸給ノ換算ニ關スル規定ハ退職又ハ死亡前一年内ノ各俸給ノ換算ニ付之ヲ準用ス

附　則

本令ハ昭和七年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

●昭和七年法律第十三號恩給更正手續

昭和七年七月三十日
閣令第一號

昭和七年法律第十三號第一條ノ規定ニ依リ增給又ハ追給スベキ恩給中内閣恩給局長ノ管掌ニ係ルモノノ更正手續左ノ通定ム

昭和七年法律第十三號恩給更正手續

第一條　昭和七年法律第十三號第一條ノ規定ニ依リ增給ヲ爲サルベキ年金タル恩給ニシテ昭和七年七月三十一日以前ノ日附アル證書ニ依リ支給セラルルモノニ付テハ受給權者ノ請求ヲ俟タズ其ノ金額ヲ更正シ從前ノ證書ニ代ヘ更正年額ヲ表示シタル新證書ヲ發行ス

昭和七年法律第十三號第一條ノ規定ニ依リ差額ヲ追給セラルベキ一時金タル恩給ニシテ昭和七年七月三十一日以前ノ日附アル裁定通知書ニ依リ支給セラルルモノニ付テハ受給權者ノ請求ヲ俟タズ其ノ追給スベキ金額ヲ記載シタル追給裁定通知書ヲ發行ス

第二條　昭和七年法律第十三號第一條ノ規定ニ依リ增給ヲ爲サルベキ年金タル恩給又ハ差額ヲ追給セラルベキ一時金タル恩給ニシテ昭和七年八月一日以降裁定セラルルモノニ付テハ裁定ニ當リ直ニ更正年額ヲ表示シタル證書又ハ更正額ヲ表示シタル裁定通知書ヲ發行ス

第三條　第一條ノ規定ニ依ヲ發行スル新證書又ハ追給裁定通知書ノ交付ヲ受ケントスル者ハ交付請求書(別記樣式)ニ現住地ノ警察官署又ハ領事館

ノ現住證明ヲ受ケ内閣恩給局ニ差出スベシ但シ現住地ニ警察官署又ハ領事館ナキトキハ町村役場又ハ之ニ準ズベキモノノ現住證明ヲ受クベシ

受給權者ハ内閣恩給局ヨリ前項ノ交付請求書ノ用紙ヲ受クルコトヲ得

第四條　前條ノ交付請求書提出後住所地ヲ變更シタルトキハ現住地ノ警察官署、領事館又ハ町村役場若ハ之ニ準ズベキモノノ現住證明書ヲ添ヘ速ニ其ノ旨ヲ届出ヅベシ

第五條　内閣恩給局ニ於テ第一條ノ新證書ヲ發行シタルトキハ之ヲ貯金局ニ送付シ交付請求書ヲ差出シタル者ニ對シテハ貯金局ヲ經テ其ノ旨ヲ通知ス

受給權者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ從前ノ證書ニ新證書ノ受領證印ヲ爲シ之ト引換ニ新證書ノ交付ヲ受クベシ

前項ノ場合ニ於テ止ムコトヲ得ザル事由ニ因リ從前ノ證書ヲ提出スルコトヲ得ザルトキハ内閣恩給局ノ承認書ヲ以テ從前ノ證書ニ代フルコトヲ得

前項ノ承認書ヲ受ケントスル者ハ恩給證書ヲ提出スルコトヲ得ザル事由ヲ詳記シタル書面ヲ内閣恩給局ニ差出スベシ

第六條　内閣恩給局ニ於テ第一條ノ追給裁定通知書ヲ發行シタルトキハ貯金局ヲ經テ之ヲ交付請求書ヲ差出シタル者ニ送付ス

第七條　恩給ノ更正ニ關シ本令ニ別段ノ規定ナキ事項ニ付テハ恩給給與規則ヲ準用ス

附　則

本令ハ昭和七年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別記）

交付請求書樣式

（裏面）

交付請求書

番定號 號裁番 記ハ書 書又知 證號通	名 氏	月 年 生	郵名 給局 支便	考 備

昭和七年法律第十三號ニ依ル更正證追給裁定通知書及請求候也

現住地

受給者

氏名印

右現住者タルコトヲ證明ス

年　月　日

警察（署長）（分署長）

警察官吏派出所員

町村長

（表面）

きがは便郵

東京市麹町區

内閣恩給局

郵便切手貼付ノ手

●昭和七年法律第十三號ニ依ル恩給更正規則

昭和七年七月三十日
遞信省令第二十六號

昭和七年法律第十三號ニ依ル恩給更正規則左ノ通定ム

昭和七年法律第十三號ニ依ル恩給更正規則

第一條　年金タル恩給受給者新證書交付ノ通知ヲ受ケタルトキハ從前ノ證書又ハ裁定官廳ノ承認書表面餘白ニ新證書受領ノ旨記載シ記名調印ノ上指定ノ郵便局ニ差出シ之ト引換ニ新證書ノ交付ヲ受クベシ

第二條　受給者現ニ年金恩給支給規則第十條ニ依リ從前ノ恩給證書ヲ貯金局ニ寄託セルモノナルトキハ之ニ對スル新證書ハ貯金局ニ於テ引換ヘ之ヲ保管ス

第三條　貯金局ニ於テ前條ニ依リ新證書ヲ保管シタルトキハ其ノ保管證書ハ支給郵便局ニ於テ舊保管證書ト引換ニ之ヲ受給者ニ交付ス

第四條　受給者新證書ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テ既ニ支給期月ヲ經過シタル給與金ニ對スル更正增加額ハ支給期月ニ拘ハラズ一般ノ例ニ依リ之ガ拂渡ヲ支給郵便局ニ請求スベシ

第五條　一時金タル恩給ノ追給ヲ受クル者ニハ貯金局ヨリ支給郵便局ヲ經由シテ支給通知書ヲ送付ス

第六條　受給者前條ノ支給通知書ニ依リ追給ヲ受ケントスルトキハ追給裁定通知書ヲ支給郵便局ニ呈示シテ權利者タルコトヲ證明シタル上支給通知書ノ受領證ノ部ニ記名調印シ現金ト引換ニ之ヲ差出スベシ

第七條　恩給ノ更正ニ關シ本規則ニ別段ノ規定ナキ事項ニ付テハ年金恩給支給規則ヲ準用ス

附　則

本令ハ昭和七年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五章　生徒

●生徒德育上ノ注意

明治四十二年九月十三日
文部省訓令第十三號

直轄諸學校

教育ハ人物ノ養成ヲ以テ主眼トス普通教育ト專門教育トヲ問ハス常ニ重キヲ品性ノ陶冶ニ置クヘキコト論ヲ俟タス故ニ直轄諸學校ニ於テモ從來此ノ點ニ注意ヲ怠ラサリシハ本大臣ノ認ムル所ナリ是等諸學校ノ生徒ハ既ニ中學校以下ニ於テ修身教育ヲ受ケタルモノナリト雖道德上ノ觀念尙堅實ヲ缺キ各種ノ誘惑ニ陷リ易ク德育上最モ注意ヲ要スル時期ニ屬ス故ニ自今直轄諸學校ニ於テハ一層力ヲ修身ノ教育ニ致シ定時ニ修身ノ教授ヲ爲スノ外必要ニ應シ隨時訓誨ヲ施シテ生徒ノ道義的觀念ヲ鍊成シ以テ實踐窮行ノ意志ヲ强固ナラシメンコトヲ要ス又學校長及教官ハ常ニ協心戮力シ躬ラ學校德育ノ中心ト爲リテ生徒ヲ薰陶シ以テ教育勅語及戊申詔書ノ聖旨ヲ貫徹センコトヲ努ムヘシ

●行幸啓ノ節學校職員學生生徒兒童ノ敬禮方

昭和十二年六月三日
文部省訓令第二十七號

直轄學校　公立私立ノ大學、高等學校及專門學校
北海道廳　府縣

行幸啓ノ節學校職員學生生徒兒童敬禮方左ノ通定ム學校長及地方長官ハ本訓令ニ則リ學校職員學生生徒兒童ニ對シ平素周到ナル訓練ヲ施シ以テ敬禮方ニ關シ遺憾ナキ樣適當ナル措置ヲ講ズベシ

昭和十二年六月三日

文部大臣　林　銑十郎

行幸啓ノ節學校職員學生生徒兒童敬禮方

第一　學校職員及指揮者ノ位置竝ニ部隊編成

學校長及職員ハ部隊ヲ編成シ最右翼ニ位置ス

指揮者ハ各部隊ノ右翼ニ位置ス

御車又ハ御召列車カ左翼ヨリ御通過ノ節ハ前二項中右翼トアルヲ左翼トス

各部隊ノ長サハ地域其ノ他ノ情況ニ依リ一指揮者ノ指揮シ得ル範圍内ニ於テ適宜之ヲ定ム

第二　敬禮

甲　學生生徒兒童ノ敬禮

一　武裝セル場合

(一)　指揮者ハ擧メ銃ノ姿勢ヲ爲シメ先乘カ其ノ部隊ノ先頭ニ差懸リタルトキ「氣ヲ著ケ」ノ號令ヲ下シ御車カ凡ソ二十五米ノ距離ニ近ヅキタルトキ「捧ゲ銃」ノ號令ヲ下シ御車カ其ノ部隊ヲ離ルルコト凡ソ十五米ノトキ「立テ銃」ノ號令ヲ下ス

（二）御召列車御通過ノ節ハ指揮者ハ豫メ著劍セシメ御召列車カ其ノ部隊ヨリ凡ソ千米ノ距離ニ差懸リタルトキ「氣ヲ著ケ」ノ號令ヲ下シ凡ソ百米ノ距離ニ於テ「捧ゲ銃」ノ號令ヲ下シ御召列車カ其ノ部隊ヲ離ルルコト凡ソ六十米ノトキ「立テ銃」ノ號令ヲ下ス

二　武裝セザル場合（女子ヲ含ム）

（一）立禮

イ　指揮者ハ先乘カ其ノ部隊ノ先頭ニ差懸リタルトキ「氣ヲ著ケ」「脫帽」ノ號令ヲ下シ御車カ凡ソ六十米ノ距離ニ近ヅキタルトキ「禮」ノ號令ニ依リ上體ヲ約三十度前方ニ屈セシメ直ニ「直レ」「頭右（又ハ左）」ノ號令ヲ下シテ目迎目送セシメ御車カ其ノ部隊ヲ離ルルコト凡ソ十五米ノトキ「直レ」ノ號令ヲ下シテ不動ノ姿勢ニ復セシメ適當ノ時ニ「著帽」「休メ」ノ號令ヲ下ス

ロ　御召列車御通過ノ節ハ指揮者ハ御召列車カ其ノ部隊ヨリ凡ソ千米ノ距離ニ差懸リタルトキ「氣ヲ著ケ」「脫帽」ノ號令ヲ下シ御召列車カ凡ソ二百米ノ距離ニ近ヅキタルトキ「禮」ノ號令ニ依リ上體ヲ約三十度前方ニ屈セシメ直ニ「直レ」「頭右（又ハ左）」ノ號令ヲ下シテ目迎目送セシメ御召列車カ其ノ部隊ヲ離ルルコト凡ソ六十米ノトキ「直レ」ノ號令ヲ下シテ不動ノ姿勢ニ復セシメ適當ノ時ニ「著帽」「休メ」ノ號令ヲ下ス

（二）坐禮

立禮ニ準ズ但シ「氣ヲ著ケ」ノ號令ニテ蹲坐セシム

坐禮ノ場合ニ於ケル敬禮ハ兩手ノ指ヲ揃ヘ膝前約二十糎ノ所ニ八字形ニ置キ指尖ノ間約十糎トシ上體ヲ前方ニ屈シ額ハ坐面ヨリ約七、八糎ノ所迄下ゲルヲ度トス

蹲坐ノ姿勢ハ兩足ノ拇趾ヲ少シク重ネテ坐シ上體ヲ眞直ニシ兩手ハ膝ノ上ニ置キ眼ハ前方ヲ正視ス

三　武裝セル者ト武裝セザル者トハ各別ニ部隊ヲ編成スルヲ原則トスルモ兩者ヲ以テ一部隊ヲ編成セザルベカラザルトキハ武裝セザル者ハ一ノ場合ニ於ケル「捧ゲ銃」ノ號令ニ依リ頭右（又ハ左）ヲ爲シテ目迎目送シ「立テ銃」ノ號令ニ依リ元ノ姿勢ニ復スルモノトス

四　御徒歩又ハ御乘馬ノ節ハ一及二ニ準ジ適宜之ヲ行フモノトス

乙　學校職員及指揮者ノ敬禮

甲ニ準ズルモノトス但シ指揮者帶刀ノ場合ニ在リテハ刀ニ依ル敬禮ヲ爲スモノトス

丙　校旗ノ敬禮

特別ノ場合ヲ除クノ外校旗ノ敬禮ヲ行フモノトス

校旗ノ敬禮ハ指揮者ノ下ス「捧ゲ銃（又ハ「禮」）」ノ號令ニテ校旗ヲ持スル腕ヲ前方ニ伸シテ目迎目送シ「立テ銃（又ハ目迎目送後ノ「直レ」）」ノ號令ニテ其ノ腕ヲ元ノ位置ニ復スルモノトス

第三　服裝

甲　制服ヲ著用スルモノトス但シ服制ナキ場合ニ在リテハ概ネ左ノ標準ニ依ル

一　男子職員

（一）洋服ノ場合

成可ク「ヲロツクコート」又ハ「モーニングコート」、「シルクハット」又ハ黒山高帽、黒靴トス但シ脊廣服（又ハ詰襟）、中折帽ヲ著用スルモ妨ナシ

（二）和服ノ場合

成可ク紋附羽織、袴及足袋トス

二　女子職員

成可ク白襟紋服、袴及白足袋トス但シ洋服ヲ著用スルモ妨ナシ

三　學生生徒兒童

清楚ヲ旨トシ和服ノ場合ハ成可ク袴及足袋ヲ著用セシム

乙　「氣ヲ著ケ」ノ號令直前外套、コート、肩掛等ヲ脫ギ拿ヲ疊ミ容儀ヲ整ヘシムベキモノトス但シ外套ノ上ニ武裝セル場合ニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

丙　雨雪ノ際ハ概ネ雨具著用ノ儘敬禮ヲ行フモノトス

附　則

明治四十三年文部省訓令第十八號行幸啓ノ節學生生徒敬禮方ハ之ヲ廢止ス

●學生生徒風紀振肅ニ關スル件

明治三十九年六月九日
文部省訓令第一號

學生生徒ノ本分ハ常ニ健全ナル思想ヲ有シ確實ナル目的ヲ持シ剋苦精勵他日ノ大成ヲ期スルニ在ルハ固ヨリ言ヲ俟タス殊ニ戰後ノ國家ハ將來ノ國民ニ期待スル所益々多ク今日ノ學生生徒タル者ハ其ノ責任一層ノ重キヲ加ヘタルヲ以テ各々學業ヲ勵ミ一意專心其ノ目的ヲ完ウスルノ覺悟ナカルヘカラス

然ルニ近來青年子女ノ間ニ往々意氣銷沈シ風紀頽廢セル傾向アルヲ見ルハ本大臣ノ憂慮ニ堪ヘサル所ナリ現ニ修學中ノ者ニシテ或ハ小成ニ安シ奢侈ニ流レ或ハ空想ニ煩悶シテ處世ノ本務ヲ閑却スルモノアリ甚シキハ放縱浮靡ニシテ操行ヲ紊リ恬トシテ恥サル者ナキニアラス斯ノ如キハ家庭ノ監督其ノ方ヲ誤リ學校ノ規律漸ク弛緩セルノ致ス所ニシテ今ニ於テ嚴ニ戒慎ヲ加フルニアラスンハ禍害ノ及フ所實ニ測リ知ルヘカラス

社會一部ノ風潮漸ク輕薄ニ流レムトスルノ兆アルニ際シ青年子女ニ對スル誘惑ハ日ニ益々多キヲ加ヘムトス就中近時發刊ノ文書圖畫ヲ見ルニ或ハ危激ノ言論ヲ掲ケ或ハ厭世ノ思想ヲ說キ或ハ陋劣ノ情態ヲ描キ敎育上有害ニシテ斷シテ取ルヘカラサルモノ尠シトセス故ニ學生生徒ノ閱讀スル圖書ハ其ノ內容ヲ精査シ有益ト認ムルモノハ之ヲ勸奬スルト共ニ苟モ不良ノ結果ヲ生スヘキ虞アルモノハ學校ノ內外ヲ問ハス嚴ニ之ヲ禁遏スルノ方法ヲ取ラサルヘカラス

又頃者極端ナル社會主義ヲ鼓吹スルモノ往々各所ニ出沒シ種々ノ手段ニ依リ敎員生徒等ヲ誑惑セムトスル者アリト聞ク若シ夫レ斯ノ如クシテ建國ノ大本ヲ蔑視シ社會ノ秩序ヲ紊亂スルカ如キ危險ノ思想敎育界ニ傳播シ我敎育ノ根柢ヲ動カスニ至ルコトアラハ國家將來ノ爲メ最モ寒心スヘキナリ事ニ敎育ニ當ル者宜シク留意戒心シテ矯激ノ僻見ヲ斥ケ流弊ヲ未然ニ防タノ用意ナカルヘカラス

本大臣ハ國運ニ照シ時弊ニ鑑ミ特ニ玆ニ訓示ス敎育ノ當局者及ヒ學校長敎員等ハ克ク本大臣ノ旨ヲ體シ父兄保護者ト協心戮力シテ風紀ヲ振肅シ元氣ヲ作興スルニ努メ學生生徒ハ自ラ修メ己ニ克チ學業ヲ成就スルニ專ニシテ上下肯ヒ率キ以テ敎育ノ效果ヲ完ウセムコトヲ期スヘシ

●未成年者喫煙禁止法

明治三十三年三月七日
法律第三十三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル未成年者喫煙禁止法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

未成年者喫煙禁止法

第一條　未成年者ハ煙草ヲ喫スルコトヲ得ス

第二條　前條ニ違反シタル者アルトキハ行政ノ處分ヲ以テ喫煙ノ爲ニ所持スル煙草及器具ヲ沒收ス

第三條　未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者情ヲ知リテ其ノ喫煙ヲ禁止セサルトキハ一圓以下ノ科料ニ處ス

親權ヲ行フ者ニ代リテ未成年者ヲ監督スル者亦前項ニ依リテ處斷ス

第四條　未成年者ニ其ノ自用ニ供スルモノナルコトヲ知リテ煙草又ハ器具ヲ販賣シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●學校生徒ノ喫煙ニ關スル件

明治三十三年三月二十六日
文部省訓令第五號

北海道廳　府縣　文部省直轄學校

【青敎】

學校生徒ノ喫煙ニ關シテハ小學校ニ在リテハ明治二十七年文部省訓令第六號ヲ以テ生徒ノ喫煙スルコト及煙器ヲ夾帶スルコトヲ禁スヘキ旨訓令シ中學校等ニ在リテモ實際喫煙ヲ禁止セルモノ多シ蓋シ學校生徒ノ喫煙ハ衞生上有害ナルノミナラス風紀ニ關スルコト少ナカラス殊ニ此際未成年者喫煙禁止法ノ發布アリタルニ就キテハ小學校中學校師範學校及等位ノ之ニ準スヘキ學校ニ在リテハ取締上其ノ生徒ノ成年以下ナルト以上ナルトヲ問ハス喫煙シ及煙草煙器ヲ夾帶スルコトヲ禁止スヘシ其ノ他ノ學校ニ在リテモ特ニ注意ヲ加ヘ法律違反ノ者ナカラシメムコトヲ期スヘシ

【青敎】

●未成年者飲酒禁止法

大正十一年三月三十日
法律第二十號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル未成年者飲酒禁止法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

未成年者飲酒禁止法

第一條　未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者若ハ親權者ニ代リテ之ヲ監督スル者未成年者ノ飲酒ヲ知リタルトキハ之ヲ制止スヘシ

營業者ニシテ其ノ業態上酒類ヲ販賣又ハ供與スル者ハ未成年者ノ飲用ニ供スルコトヲ知リテ酒類ヲ販賣又ハ供與スルコトヲ得ス

第二條　未成年者カ其ノ飲用ニ供スル目的ヲ以テ所有又ハ所持スル酒類及其ノ器具ハ行政ノ處分ヲ以テ之ヲ沒收シ又ハ廢棄其ノ他ノ必要ナル處置ヲ爲サシムルコトヲ得

第三條　第一條第二項、第三項ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第四條　營業者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法ニ依リ之ニ適用ス

ヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

明治三十三年法律第五十二號ハ本法ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附　則

本法ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●學校生徒飲酒取締ノ件

明治四十二年九月九日
文部省訓令第十二號

北海道廳　府縣

學校生徒ノ飲酒ハ教育上取締ヲ要スヘキハ言ヲ俟タス從來各學校ニ於テモ常ニ適當ノ方法ヲ講シテ訓戒監督ヲ怠ラサルハ本大臣ノ認ムル所ナリ然レトモ訓育ノ目的ヲ貫徹セント欲セハ學校ト家庭ト常ニ聯絡ヲ保タンコトヲ要ス因テ各學校ニ於テハ自今飲酒ノ取締ニ就キ一層家庭ト聯絡ヲ保ツコトニ注意シ以テ教育ノ效果ヲ完ウセンコトヲ努ムヘシ

●兒童生徒ノ個性尊重及職業指導ニ關スル件

昭和二年十一月二十五日
文部省訓令第二十號

北海道廳　府縣

學校ニ於テ兒童生徒ノ心身ノ傾向等ニ稽ヘテ適切ナル教育ヲ行ヒ更ニ學校卒業後ノ進路ニ關シ青少年ヲシテ其ノ性能ノ適スル所ニ向ハシムルハ時勢ノ進歩ト社會ノ推移トニ照シ洵ニ喫緊ノ要務ニ屬ス隨テ學校ニ在リテハ平素ヨリ兒童生徒ノ個性ノ調査ヲ行ヒ其ノ環境ヲモ顧慮シテ實際ニ適切ナル教育ヲ施シ各人ノ長所ヲ發揮セシメ職業ノ選擇等ニ關シ懇切周到ニ指導スルコトヲ要ス是ノ如クシテ國民精神ヲ啓培スルト共ニ職業ニ關スル理解ヲ得シメ勤勞ヲ重ンスル習性ヲ養ヒ始メテ教育ノ本旨ヲ達成スルニ至ルモノナルヲ以テ自今各學校ニ於テハ左ニ揭クル事項ニ就キ特ニ深ク意ヲ用フヘシ

一　兒童生徒ノ性行、知能、趣味、特長、學習情況、身體ノ情況、家庭其ノ他ノ環境等ヲ精密ニ調査シ教養指導上ノ重要ナル資料トナスコト

一　個性ニ基キテ其ノ長所ヲ遂メ卒業後ニ於ケル職業ノ選擇又ハ上級學校ノ選擇等ニ關シテ適當ナル指導ヲナスコト

一　學校ハ前揭ノ教養指導等ニ關シ父兄及保護者トノ連絡提携ヲ密接ニスルコト

地方長官ハ克ク以上ノ旨趣ヲ體シ其ノ目的ノ達成ニ力メムコトヲ望ム

〔青教〕

第六章　學校衞生

●學校清潔方法

大正十五年十二月七日
文部省訓令第二十六號

北海道廳　府縣

學校ハ多數ノ兒童生徒長時間ニ亙リテ勉學運動スル場所ナルヲ以テ常ニ清潔ヲ保持シテ衞生上遺憾ナカラシムルヲ要ス而シテ學校ノ清潔ヲ保ツニハ先ツ校地ノ選定校舍ノ構造等ニ意ヲ用ヒ又日常塵埃汚物ノ發生ヲ防キ又其ノ除去ニ努メサルヘカラス現今校地ノ選定校舍ノ建築等ニ關シテハ漸次改善ヲ見ツヽアリト雖モ校地校舍ノ清潔方法ニ至リテハ動モスレハ從來ノ慣行ヲル消掃ニノミ重キヲ置キ塵埃ノ發生校舍ノ汚染ヲ防止スル施設等未タ十分ナラサルモノアリ又掃除ノ方法宜シキヲ得スシテ甚シク塵埃ヲ飛散セシメ爲ニ生徒兒童ノ健康ヲ害フカ如キコトナシトセス凡ソ斯ノ如キ弊ハ速ニ改善ヲ圖ラサルヘカラス

地方長官ハ地方ノ實情ニ鑑ミ學校當局者ヲシテ左記方法ニ準據シテ夫々實施セシメ以テ學校清潔ノ實績ヲ擧クルニ力メラルヘシ

學校清潔方法

學校ニ於ケル清潔方法ヲ分チテ日常清潔方法、定期清潔方法及臨時清潔方法ノ三種トス

甲　日常清潔方法

一　學校ノ建築ニ際シテハ其ノ構造ニ注意シ就中教室、廊下、昇降口等ノ廣サヲ適當ニシ且光線ノ射入、空氣ノ流通ニ便ナラシムヘシ

二　校舍、寄宿舍等ハ每日人ナキ時ニ於テ窓戸ヲ開放シ適宜左ノ方法ニ依リ掃除ヲ行フヘシ

塵埃ノ飛散ヲ防ク爲先ツ如露ヲ用ヒテ少シク床ヲ潤シ靜ニ掃出シタル後濕布ヲ以テ清拭シ又ハ濕リタル鋸屑、茶殼、籾殼等ヲ床上ニ撒布シテ之ヲ掃出シ或ハ狀況ニ依リテハ單ニ濕布ヲ以テ清拭スヘシ

除塵油ヲ塗布シタル床ニ在リテハ單ニ箒ニテ掃出スカ又ハ除塵油ニテ濕シタル布片ヲ以テ拭フヘシ

アスファルト、タークレー、コンクリート、石、煉瓦等ノ廊下、昇降口、運動場等ハ時時水ヲ以テ洗滌スヘシ

疊敷又ハ塵埃ノ飛散スル虞ナキ場所ニ於テハ乾燥ノ儘掃出スモ支障ナシ

建具、校具等ハ濕布ヲ以テ清拭スヘシ

三　木床、リノリウム敷等ハナルヘク除塵油ヲ塗布スヘシ木床ニ塗油スルニハ先ツ曹達水ヲ以テ床面ヲ洗拭シ其ノ乾燥シタル後之ヲ爲スヘシ塗油ハ春季、夏季、冬季ノ休業等ノ時期ニ於テ行フヲ可トス其ノ回數ハ兒童、生徒ノ員數及校舍ノ構造等ニ依リ適宜斟酌スヘシ

四　教室、廊下、寄宿舍等ニ於テハ適當ナル箇數ノ痰箱及液體ヲ容レタル唾壺ヲ配置シ紙片其ノ他ノ廢棄物ノ散亂ヲ防キ且唾痰ヲ唾壺以外ニ咯出スルヲ禁スヘシ唾壺内ノ唾痰ヲ消毒シタル後之ヲ便池ニ投棄スヘシ

五　黑板、黑板拭ハ常ニ清潔ヲ保タシメ黑板ヲ拭ヒ又ハ其ノ掃除ヲ爲ス際ニハチヨーク粉ノ飛散セサルヤウ注意シ又黑板拭ハナルヘク室外ニ於テ清掃スヘシ

六　靴ノ儘昇校スル校舍、寄宿舍等ノ昇降口ニハ塵掃、靴拭、靴洗器等ヲ備ヘ室内ニ砂塵ノ侵入スルヲ防クヘシ尙狀況ニ依リテハ上靴、カバー等ヲ使用セシムヘシ

七　便所ノ尿溝、注壁、便池及其ノ周圍ハ不滲透性ノ物質ヲ以テ圍メ尿溝、注壁等ハ時々水ヲ以テ洗滌シ便池内ノ汚物ハ期ニ後レス汲取リ常ニ清潔ヲ保チ惡臭ノ醱酵ヲ防クヘシ

便所ノ手洗水ハ流出裝置ト爲スヘシ又共同手拭ヲ使用セシムヘカラス

八　宿直室、寢室等ハ特ニ採光、換氣ニ留意シ寢具ハ適宜日光ニ曝シ被布、寢衣等ハ時々洗濯シ清潔ヲ保タシムヘシ

九　食堂、炊事場、浴室、洗面所、洗濯所等ハ採光、換氣ニ注意シ且常ニ清潔ヲ保タシメ殊ニ食堂、炊事場等ニ於テハ惡臭ノ攪拌ナキヤウ注意スヘシ

十　塵芥ノ類ハ芥箱又ハ一定ノ場所ニ集メ置キ期ヲ誤ラス燒却又ハ搬送セシムヘシ

十一　常ニ校地ノ排水ニ注意シ下水溝ハ適當ノ勾配ヲ保タシメ其ノ溝壁ニハ不滲透性物質ヲ用ヒ又時々浚渫ヲ行ヒ汚泥ハ適當ノ方法ヲ以テ他ニ搬送シ或ハ狀況ニ依リ一定ノ場所ニ集積シ散亂ヲ防クヘシ

下水溝ハ成ルヘク暗渠ト爲スヘシ

十二　運動場ハ其ノ廣サヲ適當ナラシメ其ノ手入竝清潔保持ニ注意シ塵埃ノ飛散ヲ防ク爲時々撒水ヲ爲シ狀況ニ依リ樹木ヲ植エ又ハ芝生ヲ造ルヘシ

十三　廊下、運動場其ノ他適當ナル場所ニ手洗場ヲ設ケ狀況ニ依リ運動場、昇降口等ニ足洗場ヲ設クヘシ

十四　器械室、標本室、戸棚、押入、下駄箱、物置、庭園等ニ關シテハ前記各項ニ準據シ適宜其ノ清潔保持ニ力ムヘシ

乙　定期清潔方法

一　定期清潔方法ハ毎年少クトモ一回之ヲ行フヘシ

二　教室、寄宿舍内等ニ在ル机、腰掛、寢臺、戸棚等ハ之ヲ室外ニ出シ戸、障子、寢掛等ハ之ヲ外シテ掃除シ尚天井、壁面、床等ヲ掃ヒ其ノ他日常清潔方法ニ準據シテ十分清潔ナラシムヘシ

三　室外ニ持出シタル器具、寢具等ハ之ヲ清潔ニシ十分空氣ヲ通シ日光ニ曝シ室内ノ乾燥シタル後持込ムヘシ

〔青教〕

四　校地、建物、校具、井戸、下水其ノ他ノ設備ヲ查閱シ其ノ改善修理ヲ要スルモノハ適當ニ處理スヘシ

丙　臨時清潔方法

一　浸水ノ害ヲ被リタル學校ニ在リテハ速ニ左ノ清潔方法ヲ行フヘシ

(イ)　水ニ浸サレタル校舍、寄宿舍ハ成ルヘク其ノ建具、床板等ヲ取リ外シ日光ノ射入、空氣ノ流通ヲ圖リ床下ノ汚物、泥土ヲ除去シ十分乾燥セシムヘシ

(ロ)　建具、床板、校具、腰羽目等ノ浸水シタルモノハ清水又ハ熱湯ヲ以テ清拭シタル後成ルヘク之ヲ日光ニ曝シ十分乾燥セシムヘシ

(ハ)　浸水ノ害ヲ被リタル井戸ハ之ヲ浚渫シテ汚物ヲ除キ井戸側ハ清水ヲ以テ洗ヒ學校傳染病豫防規程第十八條ニ準シ消毒方法ヲ行フヘシ

炊事場、食堂、洗面所、其ノ他必要ト認メラルヽモノニツキテモ適宜消毒方法ヲ行フヘシ

(ニ)　右ノ外日常又ハ定期清潔方法ニ揭クタル各項ヲ適宜準用スヘシ

二　前項以外ノ災害其ノ他公衆ノ集合等ニ依リ不潔トナリタル校舍等ニツキテハ夫夫適當ナル清潔方法ヲ行フヘシ

附　則

明治三十年文部省訓令第一號ハ之ヲ廢止ス

●學校傳染病豫防規程

大正十三年九月九日
文部省令第十八號

學校傳染病豫防規程左ノ通改正ス

學校傳染病豫防規程

第一條　學校ニ於テ特ニ豫防スヘキ傳染病ノ種類左ノ如シ

第一類　「コレラ」、赤痢（疫痢ヲ含ム）、腸「チフス」、「パラチフス」、痘瘡、發疹「チフス」、猩紅熱、「ヂフテリア」、流行性腦脊髓膜炎、「ペスト」

第二類　百日咳、麻疹、流行性感冒、流行性耳下腺炎、風疹、水痘

第三類　肺喉頭其ノ他ノ機關ノ開放結核、癩

第四類　「トラホーム」其ノ他ノ傳染性眼炎、疥癬其ノ他ノ傳染性皮膚病

「コレラ」及「ペスト」ノ疑似症ハ本令ノ適用ニ關シテハ之ヲ「コレラ」及「ペスト」ト看做ス

地方長官ニ於テ傳染病豫防法第二條第二項ノ規定ニ依リ同法ヲ適用スルトキ其ノ他學校傳染病豫防上必要アリト認メタルトキハ「コレラ」及「ペスト」以外ノ傳染病ノ疑似症ニ對シ本令中其ノ傳染病ニ關スル規定ノ全部又ハ一部ヲ適用スヘシ官立學校長ニ於テ學校傳染病豫防上必要アリト認メタルトキ又同シ

第一類ノ傳染病ノ病原體保有者ハ本令ノ適用ニ關シテハ之ヲ其ノ傳染病ノ患者ト看做ス

第二條　學校長ハ兒童又ハ未成年ノ生徒カ入學シタル場合ニ於テハ其ノ法定ノ種痘ヲ完了セシヤ否ヲ調查シ未了者ニハ之ヲ受ケシメ又保護者ヲシテ其ノ義務ヲ履行セシムヘシ第二期種痘定期ニ在ル在學中ノ生徒兒童ニ關シ亦同シ

尋常小學校又ハ小學校ニ類スル各種學校ノ卒業證書、盲學校及聾啞學校ノ初等部、中學校豫科及高等學校豫科ノ修了證書ニハ當該生徒兒童カ法定ノ種痘ヲ完了セシヤ否ヲ記入スヘシ

第三條　第一類ノ傳染病ニ罹リタル職員學生生徒兒童等ハ治癒シタル後ニアラサレハ昇校スルコトヲ得ス

第一類ノ傳染病病原體保有者ハ其ノ病原體消失シタル後ニアラサレハ昇校スルコトヲ得ス但シ左記各號ノ一ニ該當シ學校醫ニ於テ適當ト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　罹患後ノ病原體保有者ニシテ其ノ主要症狀消退ノ時ヨリ起算シ左ノ期間ヲ經過シタルモノ

イ　赤痢　十四日

ロ　腸「チフス」、「パラチフス」　二十一日

ハ　「ヂフテリヤ」、流行性腦脊髓膜炎　七日

二　健康病原體保有者

「コレラ」ノ病原體保有者及地方長官又ハ官立學校ニ於テ特別ノ必要アリト認メタル者ニ付テハ前項但書ノ規定ヲ適用セス

第四條　「コレラ」、「ヂフテリヤ」及流行性腦脊髓膜炎ニ在リテハ二十四時間以上、赤痢、腸「チフス」及「パラチフス」ニ在リテハ四十八時間以上ノ間隔ヲ置キ採取シタル檢查材料ニ付細菌學的檢查ヲ行ヒ引續キ二回以上病原體ノ存在ヲ證明セサル場合ニ於テ病原體消失シタルモノト看做ス

前項ノ檢查材料ハ「コレラ」及赤痢ニ付テハ屎、腸「チフス」及「パラチフス」ニ付テハ屎尿、「ヂフテリア」及流行性腦脊髓膜炎ニ付テハ鼻咽喉部ノ粘液トス

第五條　第二類ノ傳染病ニ罹リタル職員學生生徒兒童等ハ左記ニ該當スルニアラサレハ昇校スルコトヲ得ス但シ病況ニ依リ學校醫ニ於テ其ノ傳染病ノ豫防上支障ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　百日咳ニ在リテハ特有ノ咳嗽消失シタルモノ

二　麻疹ニ在リテハ主要症狀消退後七日ヲ經過シタルモノ

〔青教〕

三　流行性感冒ニ在リテハ主要症狀消退後三日ヲ經過シタルモノ
四　流行性耳下腺炎ニ在リテハ耳下腺ノ腫脹消失シタルモノ
五　風疹ニ在リテハ主要症狀消退後五日ヲ經過シタルモノ
六　水痘ニ在リテハ痂皮全部脫落シタルモノ

第六條　第三類又ハ第四類ノ傳染病ニ罹リタル職員學生生徒兒童等ハ治癒シタル後ニアラサレハ昇校スルコトヲ得ス但シ肺喉頭ノ開放結核以外ノ傳染病ニ在リテハ學校醫ニ於テ適當ト認ムル豫防處置ヲ爲シタルトキ又ハ病況ニ依リ傳染ノ虞ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七條　職員學生生徒兒童等ニシテ第一類又ハ第二類ノ傳染病患者アル家ニ居住スルモノ又ハ該病毒ニ感染ノ疑アルモノハ豫防處置施行ノ狀況其ノ他ノ事情ニ依リ學校醫ニ於テ傳染ノ虞ナシト認メタル後ニアラサレハ昇校スルコトヲ得ス

第八條　職員等ハ學校內ニ於テ第一條ニ揭クル傳染病ノ患者又ハ其ノ疑アル者若ハ其ノ死者ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ當該學校長ニ申告スヘシ

學校長ハ必要ト認ムルトキハ當該學校醫ヲシテ診斷セシメ左ニ揭クル處置ヲ爲スヘシ

一　第一類ノ傳染病ニ在リテハ速ニ其ノ地ノ警察官吏又ハ市區町村長ニ通報シ消毒、隔離其ノ他適當ノ處置ヲ爲スヘシ

二　第二類ノ傳染病ニ在リテハ第五條各號ノ一ニ該當スル者及學校醫ニ於テ豫防上支障ナシト認メタル者ノ外昇校ヲ停止シ消毒其ノ他適當ノ處置ヲ爲スヘシ

三　第三類ノ傳染病ニ在リテハ肺喉頭ノ開放結核以外ノ傳染病ノ患者ニシテ學校醫ニ於テ適當ト認ムル豫防處置ヲ爲シタル者又ハ病況ニ依リ傳染ノ虞ナシト認メタル者ノ外昇校ヲ停止シ消毒其ノ他適當ノ處置ヲ爲スヘシ

四　第四類ノ傳染病ニ在リテハ學校醫ニ於テ適當ト認ムル豫防處置ヲ爲シタル者又ハ病況ニ依リ傳染ノ虞ナシト認メタル者ノ外昇校ヲ停止シ消毒其ノ他適當ノ處置ヲ爲スヘシ

第九條　第三條第二項但書又ハ第六條但書ニ依リ昇校スル職員學生生徒兒童等ノ場合ニ於テ學校長ハ學校醫ノ意見ヲ徵シ必要ト認ムルトキハ左ニ準據シ豫防處置ヲ爲スヘシ

一　病原體保有者又ハ患者ノ座席ヲ健康者ノ座席ト隔ツルコト
二　病原體保有者又ハ患者ノ使用スル器具、書籍等ヲ專用トスルコト
三　病原體保有者又ハ患者ノ座席、器具、書籍等ヲ時々消毒スルコト
四　病原體保有者又ハ患者ノ使用シタル衣類、器具、寢具、書籍其ノ他ノ物ヲ他人ニ交付シ又ハ使用セシムル場合ハ之ヲ消毒スルコト
五　「ヂフテリヤ」、腦脊髓膜炎ノ病原體保有者ニ在リテハ前各號ニ揭クル豫防處置ヲ爲スノ外左ノ事項ヲ遵守セシムルコト

イ　咳嗽、噴嚏ノ際ハ布片、紙片等ヲ以テ口鼻ヲ覆フコト
ロ　鼻汁、唾液ノ附著シタル布片、紙片其ノ他鼻汁、唾液ニ汚サレタル物ヲ消毒シ又ハ便池ニ投棄スルコト

六　赤痢、腸「チフス」、「パラチフス」ノ病原體保有者ニ在リテハ本條第一號乃至第四號ニ揭クル豫防處置ヲ爲スノ外左ノ事項ヲ遵守セシムルコト

イ　便所ハ專用トシテ上圃ノ都度便池ニ消毒藥ヲ投入スルコト
ロ　便所ノ手洗水ヲハ消毒藥ヲ用ヰ上圃ノ都度消毒スルコト
ハ　屎尿ニ汚サレタル物ハ之ヲ消毒スルコト

七　「トラホーム」其ノ他ノ傳染性眼炎ノ患者ニ在リテハ本條第一號乃至第四號ニ揭クル豫防處置ヲ爲スノ外眼脂ヲ拭フニ清潔ナル專用ノ布片類ヲ使用セシムルコト

〔青教〕

第十條　學校內、學校所在地及其ノ附近ニ於テ第一類又ハ第二類ノ傳染病發生シ其ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外學校長ニ於テ學校醫ノ意見ヲ徵シ學校ノ全部若ハ其ノ一部ノ閉鎖又ハ休業ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ學校長ハ直ニ監督官廳ニ屆出ツヘシ

第十一條　學校所在地若ハ其ノ附近ニ於テ第一類又ハ第二類ノ傳染病發生シタルトキハ其ノ狀況ニ依リ適當ナル清潔方法ヲ施行スヘシ

第十二條　傳染病ノ爲閉鎖シタル學校若ハ其ノ舍室ハ再ヒ之ヲ使用スルニ先チ十分ナル清潔方法ヲ施行スヘシ

第十三條　學生生徒兒童ノ通學區域內若ハ職員等ノ居住地ニ於テ第一類又ハ第二類ノ傳染病發生シ其ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ學校長ハ學校醫ノ意見ヲ徵シ其ノ地域ヨリ通學スル學生生徒兒童及職員等ノ昇校ヲ停止スルコトヲ得

前項ノ規定ハ第一類又ハ第二類ノ傳染病流行地ニ滯在シタル學生生徒兒童及職員等ニ對シ之ヲ準用ス

前二項ノ場合ニ於テハ學校長ハ直ニ之ヲ監督官廳ニ屆出ツヘシ

第十四條　學校ノ寄宿舍ニ於テ第一類ノ傳染病發生シタルトキハ官立學校長又ハ地方長官ハ左ノ各號ニ依リ文部大臣ニ報告スヘシ

一　初發ノ場合ニハ病名、發病ノ日（發病ノ日不明ノトキハ診斷決定ノ日）、患者數、疾病ノ經過、感染經路、發病以來ノ處置、將來執ラントスル處置其ノ他參考トナルヘキ事項ニ付遲滯ナク報告スヘシ

二　續發セル場合ニハ病名、發病ノ日（發病ノ日不明ノトキハ診斷決定ノ日）、患者數、初發報告以外特ニ執リタル處置其ノ他參考トナルヘキ事項ニ付報告スヘシ但シ多數ノ患者連續發生スルトキハ卽時報告スヘシ

三　前二號ノ患者ノ轉歸ハ治癒、死亡其ノ他（休學退學等）ニ分チ報告スヘシ

第十五條　學校長ハ學校ノ設備ニ關シ第三類及第四類ノ傳染病豫防ノ爲左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一　手洗水ハ流出裝置ト爲スコト
二　共同手拭ヲ備ヘサルコト
三　學生生徒兒童ノ數ニ應シ液體ヲ入レタル適當箇數ノ唾壺ヲ配置シ唾壺內ノ唾痰ハ消毒シタル後之ヲ便池ニ投棄スルコト
四　宿直其ノ他ノ爲ニ使用スル共同ノ寢具ハ之ヲ各自專用ノ白布又ハ使用者ヲ改ムル每ニ洗濯シタル白布ヲ以テ被包スルコト

第十六條　本規程中學校醫ノ職務ハ學校醫ナキトキ若ハ止ムヲ得サル場合ニ於テハ適宜他ノ醫師ヲシテ行ハシムヘシ

第十七條　本規程ニ依リ行フ清潔方法ノ要項左ノ如シ

一　「コレラ」、赤痢、腸「チフス」及「パラチフス」ニ付テハ井戶側、井戶流、臺所流、下水溝、汚水溜、便所、芥溜等ニ付不潔ナル場所ヲ掃除シ必要アル場合ニ於テハ其ノ修理及井戶浚ヲ爲シ且蠅ノ驅除及蠅ノ發生シ易キ場所ノ掃除ヲ行フコト
二　痘瘡、猩紅熱、「ヂフテリア」及流行性腦脊髓膜炎ニ付テハ衣類、寢具、器具、玩具、疊、敷物等ヲ清潔ニスルコト
三　發疹「チフス」ニ付テハ虱ノ驅除ヲ行ヒ且衣類、寢具等虱ノ棲息シ易キ物件ヲ清潔ニスルコト
四　「ペスト」ニ付テハ鼠族、蚤及南京蟲ノ驅除ヲ行ヒ且衣類、寢具、疊、敷物、床下等蚤及南京蟲ノ棲息シ易キ物件及場所ヲ清潔ニシ及掃除スルコト
五　第二類、第三類及第四類ノ傳染病ニ付テハ衣類、寢具、書籍、器具、玩具、疊、敷物等ヲ清潔ニスルコト
六　前各號ノ外必要ニ應シ左ノ清潔方法ヲ行フコト

イ　土地及建物ノ內外ヲ掃除スルコト

〔青教〕

ロ　室内ノ採光及換氣ヲ十分ニスルコト
ハ　疊、敷物等ヲ日光ニ曝スコト
ニ　床下ハ換氣ヲ十分ニシ濕潤著シキ場所ハ之ヲ埋メ又ハ排水ヲ十分ニスルコト

第一類及第二類ノ傳染病ニ對スル清潔方法ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ除クノ外消毒方法ノ施行ヲ了リタル後之ヲ施行スヘシ

清潔方法ヲ施行スル場合ニ於テハ豫ニ消毒藥ヲ撒布スヘカラス

傳染病ノ流行ニ際シ溝渠ヲ掃除スル場合ニ於テ必要アルトキハ煅製石灰末、普通石灰又ハ「クロール」石灰水ヲ以テ消毒シタル後浚渫スヘシ

清潔方法ノ施行ニ依リ生シタル汚泥、塵芥ノ類ハ適當ノ運搬器具ニ入レ一定ノ場所ニ投棄シ又ハ燒却スヘシ

第十八條　消毒方法ハ左ノ五種トス

一　燒却
イ　燒却
ロ　蒸汽消毒
ハ　煮沸消毒
ニ　藥物消毒
ホ　日光消毒

二　蒸汽消毒ニハ流通蒸汽ヲ用ヰ成ルヘク消毒器内ノ空氣ヲ排除シ一時間以上攝氏百度以上ノ濕熱ニ觸レシムヘシ

蒸汽消毒ヲ施行セントスルトキハ左ノ事項ニ注意スヘシ

イ　消毒ニ依リ褪色ノ虞アル物ハ蒸汽消毒ヲ避ケ他物ニ染色ノ虞アル物ハ他物ト混シ蒸汽消毒ヲ行ハサルコト

ロ　衣類ハ豫メ袖又ハ衣嚢ヲ檢索シ爆發又ハ發火シ易キ物件アルトキハ之ヲ取出スコト

三　煮沸消毒ハ消毒スヘキ物件ヲ全部水ニ浸漬シ沸騰後三十分間以上煮沸スヘシ

四　藥物消毒ニ用ウヘキ藥品竝其ノ製法及用法左ノ如シ

イ　石炭酸水　防疫用石炭酸三分水九十七分

石炭酸水ヲ製スルニハ定量ノ防疫用石炭酸ニ少量ノ湯又ハ水ヲ加ヘ攪拌又ハ振盪シツヽ徐々ニ水ヲ注キ定量ニ至ラシムヘシ

石炭酸水ハ使用ノ都度之ヲ振盪スヘシ

ロ　「クレゾール」水　「クレゾール」水九十七分

「クレゾール」水ヲ製スルニハ定量ノ「クレゾール」ニ石鹸液ニ定量ノ水ヲ加フヘシ

「クレゾール」水ハ使用ノ都度之ヲ振盪スヘシ

ハ　昇汞水　昇汞一分、普通食鹽一分、水千分

昇汞水ヲ製スルニハ定量ノ昇汞及普通食鹽ヲ定量ノ水ニ溶解シ又ハ昇汞錠（一錠中昇汞〇・五「グラム」ヲ含ム）ヲ一錠ニ付水約五百「グラム」ノ割合ニ溶解スヘシ

昇汞水ハ金屬製ニアラサル容器ニ之ヲ貯藏シ其ノ昇汞錠ヲ用ヰサルモノハ「スカレット」、「フクシンS」其ノ他適當ノ色素ヲ加ヘ著色シ識別シ易カラシムルコトヲ要ス

ニ　煅製石灰　少量ノ水ヲ注ケハ熱ヲ發シ崩壞スルモノ

煅製石灰少量ノ水ヲ注ケハ熱ヲ發シ崩壞スルモノ

煅製石灰末ヘ煅製石灰ニ少量ノ水ヲ加

煅製石灰末ヲ製スルニハ用ニ臨ミ煅製石灰ニ少量ノ水ヲ加ヘ粉末ト爲スヘシ

石灰乳　煅製石灰二分、水八分

石灰乳ヲ製スルニハ定量ノ煅製石灰ニ徐々ニ定量ノ水ヲ加ヘ十分攪拌スヘシ

石灰乳ハ用ニ臨ミ之ヲ製シ且使用ノ都度之ヲ攪拌スヘシ

〔青教〕

煅製石灰ヲ得ルコト能ハサル場合ニ限リ倍量ノ普通石灰ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

ホ　「クロール」石灰水　「クロール」石灰五分、水九十五分

「クロール」石灰水ノ製法及用法ハ石灰乳ノ例ニ依ル

ヘ　「フォルマリン」水　「フォルマリン」二分、水三十四分

「フォルマリン」水ヲ製スルニハ用ニ臨ミ定量ノ「フォルマリン」ニ定量ノ水ヲ加フヘシ

ト　「フォルムアルデヒード」

「フォルムアルデヒード」ハ「フォルマリン」ヲ噴霧發生セシメ又ハ適當ノ裝置ニ依リ之ヲ發生セシムヘシ

「フォルムアルデヒード」ノ使用ニ關シテハ左ノ事項ニ注意スヘシ

（一）　消毒函内又ハ室内ノ容積百立方尺ニ付「フォルマリン」一四十「グラム」以上ヲ噴霧セシメ又ハ「フォルムアルデヒード」瓦斯十五「グラム」以上ヲ發生セシメ同時ニ約百「グラム」以上ノ水ヲ蒸發セシムルノ比例ヲ以テ處置シタル後七時間以上密閉シ置クヘシ

（二）　物件ノ内部ニ至ルマテ消毒スル必要アルモノニハ眞空裝置ニ依ルニアラサレハ之ヲ使用スヘカラス

眞空裝置ニ依ル消毒時間ハ其ノ裝置ニ依リ之ヲ定ムヘシ

（三）　氣密ニ閉鎖シ得ヘキ消毒函内又ハ土藏造、洋風建物等ニシテ戸扉、竈孔等ヲ密閉シ得ヘキ室内ニアラサレハ之ヲ使用スヘカラス

五　日光消毒ハ日光ニ曝露スルト共ニ十分ニ空氣ノ流通ヲ計ルヘシ

日光ノ强度、消毒物件ノ性質ニ依リ數時間乃至數日間繼續スヘシ

六　「コレラ」、赤痢、腸「チフス」及「パラチフス」ニ付消毒方法ノ施行ヲ必要トスルモノ概ネ左ノ如シ

イ　屎尿、吐瀉物及其ノ處置ニ用ヰタル器具、布片、紙片等

第六章　學校衛生

ロ　死體
ハ　患者及死體ノ用ニ供シタル衣類、寢具、運搬器具等
ニ　看護人其ノ他病毒ニ接觸シタル者及其ノ使用シタル衣類、寢具等
ホ　患者ノ用ニ供シタル飲食器具、患者ノ飲食物殘渣等
ヘ　病室ノ疊、敷物等
ト　便所、便池、手洗鉢等
チ　臺所、臺所器具、井戸、水槽等
リ　芥溜、下水溝等

七　痘瘡、猩紅熱、麻疹、風疹及水痘ニ付消毒方法ノ施行ヲ必要トスルモノ概ネ左ノ如シ

イ　鼻汁、唾液及其ノ處置ニ用ヰタル器具、布片、紙片等

ロ　死體
ハ　患者及死體ノ用ニ供シタル衣類、寢具、運搬器具等
ニ　看護人其ノ他病毒ニ接觸シタル者及其ノ使用シタル衣類、寢具等
ホ　患者ノ用ニ供シタル飲食器具其ノ他ノ器具、書籍等
ヘ　病室ノ疊、敷物、建具、側壁等

八　發疹「チフス」ニ付消毒方法ノ施行ヲ必要トスルモノ概ネ左ノ如シ

イ　鼻汁、唾液及其ノ處置ニ用ヰタル器具、布片、紙片等

ロ　死體
ハ　患者及死體ノ用ニ供シタル衣類、寢具、運搬器具等
ニ　看護人其ノ他病毒ニ接觸シタル者及其ノ使用ニ供シタル衣類、寢具等、

ホ　病室ノ疊、敷物等

九　「ヂフテリヤ」、流行性腦脊髓膜炎、百日咳、流行性感冒及流行性耳下腺炎ニ付消毒方法ノ施行ヲ必要トスルモノ概ネ左ノ如シ

イ　鼻汁、唾液及其ノ處置ニ用ヰタル器具、布片、紙片等
ロ　患者ノ用ニ供シタル衣類、寢具等
ハ　看護人及其ノ使用シタル衣類、寢具等
ニ　患者ノ用ニ供シタル飲食器具其ノ他ノ器具、書籍、玩具等
ホ　病室ノ疊、敷物、建具、側壁等
十「ペスト」ニ付消毒方法ノ施行ヲ必要トスルモノ概ネ左ノ如シ
イ　血液、鼻汁、唾液、膿汁及其ノ處置ニ用ヰタル器具、布片、紙片等
ロ　死體
ハ　患者及死體ノ用ニ供シタル衣類、寢具、運搬器具等
ニ　看護人其ノ他病毒ニ接觸シタル者及其ノ使用シタル衣類、寢具等
ホ　患者ノ用ニ供シタル飲食器具其ノ他ノ器具、書籍等
ヘ　病室ノ疊、敷物、建具、側壁等
ト　鼠ノ棲息、交通スル場所
十一　消毒方法ノ應用概ネ左ノ如シ
イ　患者
患者ハ治癒シタル時入浴セシメ衣類ヲ更メシムヘシ但シ溫濕布ヲ以テ拭淨シ入浴ニ代フルコトヲ妨ケス
入浴ニ使用シタル水ノ消毒ハ本號中汚水ノ消毒ニ依ル
ロ　死體
死體ヲ棺ニ斂ムルニハ其ノ衣類ニ石炭酸水、「クレゾール」水若ハ昇汞水ヲ十分撒布シ又ハ石炭酸水「クレゾール」水若ハ昇汞水ニ浸漬シタル布片ヲ以テ死體ヲ包ミ又ハ棺内ニ普通石灰ヲ塡ツヘシ
ハ　屎尿、吐瀉物其ノ他ノ排泄物
屎尿、吐瀉物其ノ他ノ排泄物ニハ同容量ノ石炭酸水若ハ「クレゾール」水、其ノ容量ノ三十分ノ一以上ノ煆製石灰末又ハ其ノ容量ノ

五分ノ一以上ノ石灰乳若ハ「クロール」石灰水ヲ加ヘ十分攪拌シタル後二時間以上放置シ又ハ之ヲ煮沸シ若ハ燒却スヘシ
昇汞水及「フォルマリン」水ハ屎尿、吐瀉物其ノ他ノ排泄物ノ消毒ニ適セス
ニ　病毒ニ接觸シタル者
看護人、消毒方法ノ施行又ハ患者、死體、排泄物等ノ運搬ニ從事シタル者其ノ他病毒ニ接觸シタル者ハ時々又ハ其ノ都度手足ヲ消毒シ入浴スヘシ
手足ノ消毒ニハ石炭酸水、「クレゾール」水、又ハ昇汞水ヲ使用スヘシ
ホ　衣類、寢具、敷物、布片等
蒸汽消毒若ハ煮沸消毒ヲ行ヒ又ハ石炭酸水、「クレゾール」水若ハ「フォルマリン」水ニ二時間以上浸漬シ又ハ「フォルムアルデヒード」ヲ使用スヘシ
絹布、毛織物、綿、綿入蒲團、羽蒲團等ハ成ルヘク蒸汽消毒ヲ行ヒ又ハ「フォルムアルデヒード」ヲ使用スヘシ
ヘ　患者、死體、病毒汚染物件ノ運搬器具
患者、死體又ハ病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物件ヲ運搬シタル駕籠、釣臺、車等ハ使用ノ都度石炭酸水、「クレゾール」水、昇汞水若ハ「フォルマリン」水ヲ以テ拭淨シ又ハ之ヲ撒布スヘシ
ト　圖書、書類等
「フォルムアルデヒード」ヲ使用スヘシ
チ　硝子器、陶器、磁器、鑛製品、竹木製品等
石炭酸水、「クレゾール」水、昇汞水、石灰乳若ハ「フォルマリン」水ニ浸漬シ又ハ石炭酸水「クレゾール」水、昇汞水若ハ「フォルマリン」水ヲ以テ拭淨シ又ハ之ヲ撒布シ汽熱ニ堪フルモノニ付テハ蒸汽消毒若ハ煮沸消毒ヲ行フヘシ

飲食器具、玩具、金屬製品等ノ消毒ニハ昇汞水ヲ使用スヘカラス
ヲ　革類、革製品、漆器其ノ他ノ塗物類、護謨製品「セルロイド」製品、護謨附品、糊附品、膠附品、紙製品、毛皮、象牙、鼈甲、角等
石炭酸水、「クレゾール」水若ハ「フォルマリン」水ヲ以テ拭淨シ若ハ之ヲ撒布シ又ハ「フォルムアルデヒード」ヲ使用スヘシ
蒸汽消毒及煮沸消毒ハ以上ノ物件ノ消毒ニ適セス
ワ　校舍、寄宿舍其ノ他ノ室内各部
石炭酸水、「クレゾール」水、昇汞水若ハ「フォルマリン」水ヲ以テ拭淨シ又ハ之ヲ撒布スヘシ但シ密閉シ得ヘキ場合ニ於テハ「フォルムアルデヒード」ヲ使用スルコトヲ得
消毒後ハ日光ノ射入、空氣ノ流通ヲ良クシ乾燥セシムルヲ要ス
カ　便所、芥溜、溝渠等
便所ハ石炭酸水、「クレゾール」水若ハ「フォルマリン」水ヲ以テ拭淨シ又ハ之ヲ撒布シ便池、肥料溜等ニハ煆製石灰末、石灰乳又ハ「クロール」石灰水ヲ注キ十分攪拌スヘシ但シ屎尿ハ消毒後一週間ヲ經過スルニアラサレハ肥料ニ供スルコトヲ得ス
芥溜及土地ニハ石灰乳又ハ「クロール」石灰水ヲ、溝渠ニハ煆製石灰末、石灰乳又ハ「クロール」石灰水ヲ注キ塵芥ハ之ヲ燒却スヘシ
煆製石灰末ハ乾燥セル場所ノ消毒ニ適セス
ヲ　井戸、水槽、汚水等
井戸、水槽、汚水等ニハ水量ノ五十分ノ一ノ煆製石灰ヲ乳狀ト爲シタルモノ若ハ水量ノ五百分ノ一ノ「クロール」石灰水ヲ投入シ十分攪拌シタル後十二時間以上放置シ又ハ適當ノ裝置ニ依リ熱蒸汽ヲ通シ三十分間以上沸騰セシムヘシ
昇汞水ハ飲料水ニ滲透スルノ虞アル場所ノ消毒ニ之ヲ使用スヘカラス

ワ　船舶
船室ノ消毒ハ本號ヲニ準スヘシ
船底水ニハ其ノ容量ノ二百分ノ一ノ煆製石灰末又ハ其ノ容量ノ二千分ノ一ノ「クロール」石灰水ヲ加ヘ二十四時間ヲ經過シタル後之ヲ汲出スヘシ
カ　動物ノ死體、消毒後再ヒ用ニ供スル目的ナキ物件又ハ消毒費用ニ比シ廉價ナル物件ハ之ヲ燒却スヘシ
ヨ　衣類、寢具、器具、敷物、圖書、書類其ノ他ノ物件ニシテ燒却、蒸汽消毒、煮沸消毒、藥物消毒ヲ施行シ難キモノニ付テハ日光消毒ヲ行フヘシ

第十九條　本令ハ之ヲ幼稚園ニ適用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●兒童生徒及學生ノ近視眼豫防ニ關スル件

大正八年九月十九日
文部省訓令第九號

兒童生徒及學生ノ近視者ガ年ト共ニ增加シテ來タノハ誠ニ憂フベキ現象デアッテ、是ハ晝ニ學習ノ障害トナルバカリデナク、他日社會ニ出テ活動スルニ當ッテ其ノ能率ニ影響スル所ガ尠クナイ。又之ヲ壯丁檢査ノ結果ニ徵シテ見ルニ、近視ノ爲不合格ニナル者ガ每年多クナッテ來ル傾向ガアルノハ、國家ノ爲輕視スルコトノ出來ナイ問題デアル。近視ハ其原因種々アルガ、學校教育ニ因ッテ誘發シ若ハ增惡スルコトガ頗ル多イ。併シ平生周到ナ注意ヲ拂ッテ適當ナ措置ヲスレバ、之ヲ未然ニ防グコトガ必シモ難事デナイカラ、學校時代ニ豫防ノ方法ヲ講ズルコトハ極メテ緊要ナ事柄デアル。地方長官ハ、教育ノ任ニ當ル者ヲシテ善ク家庭トノ聯絡ヲ保チ、左ニ指示スル要項ニ則リ、豫防上其ノ宜シキヲ得サセテ、此ノ訓令ノ趣意ヲ貫徹サセル樣ニ努メラレタイ。

一、採光ニ關スル件

採光ハ主トシテ座席ノ左側カラスル。但シ紙面ニ陰影ヲ生ジナイ限上方カラシテモ善イ。

光度ハ十分デ平等ナコトガ必要デアル。併シ授業時間中教室內ニ日光ガ直射スルノハ、光度ガ强過ギ、且頭部ヲ熱シテ充血ヲ來スカラ、適當ニ窓掛等ヲ利用シテ其ノ害ヲ避ケル樣ニシナケレバナラヌ。

人工採光ヲ用ヒルトキハ、殊ニ光力ニ注意スルト共ニ、陰影ヲ生ジナイ樣ニ力メナケレバナラヌ。

二、机腰掛ニ關スル件

机腰掛ハ之ヲ調製スル際ニ善ク衞生上ノ要求ニ適フ樣ニシ、常ニ身體ニ適シタルモノヲ用ユベキデアル。且机ト腰掛ノ分離スルモノデハ、著席後常ニ其ノ離尺ニ注意シテ、輕度ノ陰性離尺ヲ保タセル樣ニスベキデアル。

三、讀書・書字・圖畫・手工・裁縫等ニ關スル件

學校ニ居ル時デモ家庭ニ居ル時デモ、學習者ハ作業ノ際ニハ、姿勢ヲ正シクシナケレバナラヌ。姿勢ハ不正ニ流レ易イカラ、教師ト父兄ハ絕エズ監督シテ其矯正ニ努メルコトガ必要デアル。讀書・書字等ノ場合ニハ、紙面ト眼ノ距離ヲ大凡一尺以上保タセ、且讀書ノ際ハ書物ヲ机ノ水平面ト約四十五度ノ角度ニアル樣ニ注意シナケレバナラヌ。總テ讀物ハ文字ノ大イサガ適當デ、色・形等モ明瞭ナモノヲ擇ブベキデアル。

步行中又ハ電車・汽車・人力車等ノ動搖スル處デ讀書スルコトハ避ケナケレバナラヌ。

筆記帳等ニ書ク文字ガアマリ小サ過ギルカ、又ハ明瞭デナイノハ甚シク有害ナモノデアルカラ、努メテ之ヲ避ケナケレバナラヌ。殊ニ鉛筆ヲ細ク削ッテ、非常ニ細カナ文字ヲ書ク樣ナコトハ最モ注意スベキデアル。圖畫・手工・裁縫等ハ年少者ニ對シテ過度ニ緻密ナモノヲ課シテハナラヌ。

四、黑板・圖表等ニ關スル件

黑板及圖表等ノ文字ハ、其ノ色ガ鮮明デ且大キイガ宜シイ。黑板又ハ圖表ハ光線反射ノ關係上光ッテ見難イコトガアルカラ、適當ナ方法デ不良ナ反射ヲ避ケル樣ニシナケレバナラヌ。殊ニ夜間ハ一層此ノ關係ニ注意シ、且眼ト黑板又ハ圖表ノ間ニアル光源ノ輝閃ニ依ッテ視覺ヲ妨ゲナイ樣ニスベキデアル。

黑板ノ色ハ常ニ黑クナケレバナラヌ。故ニ時々塗替ヘルコトガ必要デアル。

五、服裝ニ關スル件

服裝特ニ頸部ニ於ケルモノニ、窮屈ナモノヲ用ヒルトキハ、頸部ヲ壓迫シテ頭部ニ鬱血ヲ來シ、延イテ近視ノ原因トナルコトガアルカラ、常ニ寬カナモノヲ用ヒル樣注意ヲ要スル。

六、眼ノ疲勞ニ關スル件

眼ノ過勞ハ近視ノ原因トナルモノデ、長時間ニ亙ッテ微小ナ文字ヲ讀ミ、或ハ精細ナ作業ヲスレバ、眼ノ疲勞ヲ來スモノデアル。故ニ學校ニアルト家庭ニアルトヲ問ハズ、斯樣ナ場合ニハ時々作業ヲ變更シ、又ハ眼ヲ遠距離ニ轉ジテ休養ヲ圖ルベキデアル。

七、身體檢査ニ關スル件

身體檢査ノ際近視者ヲ發見シタ場合ニハ、當人ハ勿論、教師又ハ家庭ニモ適當ナ注意ヲ與ヘ、其ノ後モ絕エズ其增惡ヲ防グコトニ力メナケレバナラヌ。

八、眼鏡ニ關スル件

眼鏡ヲ要スル場合ニハ必ズ醫師ノ指圖ニ從ッテ適當ナモノヲ使用スベキデアル。濫リニ自分デ選擇シテ使用スルコトハ斷ジテ善クナイ。

九、座席ニ關スル件

近視者デ特ニ必要ノアル者ニハ座席ヲ黑板ノ近クニ設ケテ、視力ノ不十分ナトコロヲ成ルベク補足シテヤル樣ニ注意スベキデアル。

十、近視ニ關スル知識ヲ授ケル件

兒童生徒及其ノ父兄ニ對シテ、種々機會ニ近視ノ弊害原因竝其豫防ノ方法等ニ關スル知識ヲ授ケテ、各自自衞的ニ之ヲ豫防スル樣ニ努メサセナケレバナラヌ。

十一、遺傳的素質ニ關スル件

近視者ノ子孫ハ近視ニ罹リ易イ遺傳的素質ヲ享ケテ居ルコトガアルカラ、血族中ニ近視者ノアル者ハ特ニ前記ノ諸項ニ注意スルコトガ必要デアル。

●紫色鉛筆ノ使用禁止及注意ノ件

明治三十七年八月九日
文部省訓令第八號

北海道廳　府縣　直轄學校

學生生徒等ノ使用スル「コピールビオレツト」「リラピチレツト」「ヨハン、コピール」ハ、ツエ、クルツ、コピール」等ノ記號アル紫色鉛筆ハ其ノ製造ノ原料ニ有害ノ色素ヲ包含スルカ故ニ其ノ破片又ハ溶液ノ眼中ニ入ルトキハ激烈ナル毒作用ヲ呈シ竟ニ不治ノ眼疾ニ陷ルコトアリ仍テ幼稚園及小學校等ノ兒童ニハ之カ使用ヲ禁止シ其ノ他ノ學校ノ學生生徒ニ在リテハ必要缺クヘカラサル場合ニ限リ之ヲ使用セシムルコトヲ得ルト雖其使用上ニ周密ノ注意ヲ爲サシムヘシ

●學校身體檢査規程

昭和十二年一月二十七日
文部省令第二號

學校身體檢査規程左ノ通定ム

學校身體檢査規程

第一條　學校ニ於テハ學生生徒兒童ノ身體ノ養護鍛錬ヲ適切ニシ體位ノ向上ト健康ノ增進トヲ圖ル爲本令ニ依リ身體檢査ヲ施行スベシ

第二條　身體檢査ハ學校醫ヲシテ之ヲ行ハシムベシ

學校醫ナキトキ又ハ學校醫身體檢査ヲ行ヒ難キ事情アルトキハ他ノ醫師ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

學校齒科醫ヲ置キタル學校ニ在リテハ齒牙ノ檢査ハ學校齒科醫ヲシテ之ヲ行ハシムベシ

學校職員、學校看護婦其ノ他適當ナル者ヲシテ身體檢査ノ一部ヲ補助セシムルコトヲ得

第三條　身體檢査ハ每年四月ニ之ヲ施行スベシ但シ止ムヲ得ザル場合ニ於テハ身長、體重、胸圍、坐高ノ測定ヲ除キ六月末日迄ニ之ヲ施行スルコトヲ得

第四條　身體檢査ハ左ノ項目ニ就キ之ヲ施行スベシ

身長、體重、胸圍、坐高、榮養、脊柱、胸廓、眼、耳、鼻及咽頭、皮膚、齒牙、其ノ他ノ疾病及異常

前項目ノ外必要ト認メタル事項ハ特ニ檢査ヲ行フコトヲ得

第五條　身體檢査ハ左ノ各號ニ準據シテ之ヲ施行スベシ

一　身長、胸圍及坐高ハ「センチメートル」、體重ハ「キログラム」ヲ以テ單位トシ四捨五入法ヲ用ヒ單位ノ下一位ニ止ムベシ

二　身長ハ足袋、靴等ヲ脫シ兩踵ヲ密接シ背、臀部及踵ヲ尺柱ニ接シテ直立シ兩上肢ヲ體側ニ垂レ頭部ヲ正位ニ保チ之ヲ測定スベシ

三　體重ハ著衣ノ儘測定シタルトキハ其ノ衣服ノ重量ヲ控除スベシ

四　胸圍ハ起立ノ姿勢ニ於テ兩上肢ヲ自然ニ垂レシメ背面ハ肩胛骨ノ直下部、前面ハ乳頭ノ直上部ニ尺帶ヲ當テ安靜呼息ノ終レルトキ之ヲ行フベシ乳房ノ著シク膨隆セル女子ニ在リテハ尺帶ヲ少シク其ノ上方ニ當テ測定スルモノトス

五　坐高ハ腰掛ニ正坐セシメ上體ヲ垂直ニ保チ身長ノ測定方法ニ準ジ坐

面ヨリ頭頂マデノ距離ヲ測定スベシ

六　榮養ハ皮膚ノ色澤、皮下脂肪ノ充實、筋骨ノ發達等ニ就キ檢査スベシ榮養ノ狀態普通以下ニシテ衞生上特ニ注意ヲ要スト認ムルモノヲ「要注意」トシ其ノ他ノモノヲ「可」トシ之ヲ記入スベシ

七　脊柱ハ形態及疾病ニ就キ檢査スベシ

形態ハ生理的彎曲ヲ有スル者ヲ「正」トシ異常アル者ニ就テハ平背、圓背、亀背、側彎等ヲ區別スベシ

疾病ハ特ニ「カリエス」ニ注意スベシ

八　胸廓ハ形態、發育等ニ就キ檢査スベシ

異常アル者ニ就テハ扁平胸、漏斗胸、鳩胸等ヲ區別スベシ

九　眼ハ視力、屈折異常、色神及眼疾ニ就キ檢査スベシ

視力ハ萬國式試視力表ニ就キ左右ヲ各別ニ檢査シ裸眼視力ヲ記入スベシ但シ眼鏡ヲ常用スル者ニ就テハ裸眼視力ノ外更ニ其ノ眼鏡ヲ裝用シタル儘左右ノ視力ヲ檢査シ括弧内ニ記入スベシ

弱視失明等モ各眼ニ就キ記入スベシ

屈折異常アル者ニ就テハ近視、遠視、亂視ノ種別ヲ各眼ニ就キ記入スベシ

色神ハ異常ノ有無ヲ記入スベシ

眼疾ハ特ニ「トラホーム」ニ注意スベシ

尋常小學校第二學年以下ノ兒童ニ在リテハ視力、屈折異常及色神ノ檢査ヲ省略スルコトヲ得

一〇　耳ハ聽力及耳疾ニ就キ檢査スベシ

聽力ハ適當ナル方法ニ依リ檢査シ障碍ノ有無ヲ記入スベシ

耳疾ハ特ニ中耳炎ニ注意シ耵聹栓塞アルトキハ耳疾欄ニ記入スベシ

尋常小學校第二學年以下ノ兒童ニ在リテハ聽力ノ檢査ヲ省略スルコトヲ得

一一　鼻及咽頭ハ鼻炎、鼻茸、蓄膿症、腺樣增殖症、扁桃腺肥大等ニ注意スベシ

一二　皮膚ハ白癬、疥癬其ノ他ノ傳染性皮膚疾患、濕疹、頭蝨等ニ注意スベシ

一三　齒牙ハ齲齒ニ就キ檢査シ處置齒、未處置齒ニ分チテ其ノ數ヲ記入スベシ

學校齒科醫ヲ置キタル學校ニ在リテハ齲齒ノ數ハ更ニ乳齒、永久齒ニ分チテ記入シ又齒列異常其ノ他ノ齒疾ニ就テモ注意スベシ

一四　其ノ他ノ疾病及異常ニ就テハ呼吸器、循環器、消化器、神經系等ヲ檢査シ結核性疾患、腺病、肋膜炎、心臟疾患、貧血、脚氣、脫腸、神經衰弱、言語障碍、精神障碍、骨・關節ノ異常、四肢運動障碍等ノ發見ニ力ムベシ

第六條　前條ノ檢査ヲ終了シタルトキハ全身ノ狀態ヲ綜合考察シ身體虛弱、精神薄弱又ハ疾病及異常ヲ有スル者ニシテ學校衞生上特別養護ノ必要アリト認ムルモノヲ「要養護」トシ然ラザルモノヲ「可」トシ概評欄ニ記入スベシ但シ大學、高等學校、專門學校竝ニ之ト同等程度以上ノ學校ニ在リテハ之ヲ省略スルコトヲ得

第七條　身體檢査ヲ施行シタルトキハ學校長ハ其ノ結果ヲ本人又ハ其ノ保護者ニ通知スベシ授業免除、就學猶豫、休學又ハ治療、保護、矯正等ヲ要スル者アルトキハ本人又ハ其ノ保護者ニ注意ヲ與ヘ適切ナル處置ヲ講ジムベシ

學校ニ於テ必要アルトキハ健康相談、豫防處置、其ノ他適當ナル保健養護ノ施設ヲ講ズベシ

第八條　身體檢査ヲ施行シタルトキハ其ノ結果ヲ第一號樣式ノ身體檢査票

ニ記入シ本人在學中之ヲ使用スベシ轉學シタル者アルトキハ學校長ハ前ノ學校ヨリ其ノ身體検査票ノ交付ヲ受ケ使用スベシ

身體検査票ハ學校長ニ於テ之ヲ保管スベシ

第九條　身體検査ヲ施行シタルトキハ學校長ハ第二號様式ノ身體検査統計表ヲ調製シ其ノ年八月末日迄ニ直轄學校、公私立大學、高等學校、專門學校ニ在リテハ文部大臣ニ、其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官ニ報告スベシ

地方長官ハ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ取纏メ小學校以外ノ學校ニ就テハ其ノ年九月末日迄ニ、小學校ニ就テハ第二號様式ニ準ジ道府縣身體検査集計表ヲ調製添附シ其ノ年十二月末日迄ニ文部大臣ニ送付スベシ

第十條　監督官廳若ハ學校長ニ於テ必要ト認ムルトキ又ハ學校醫若ハ學校齒科醫ニ於テ必要ト認メ學校長ノ同意ヲ得タルトキハ適當ナル項目ニ就キ臨時身體検査ヲ行フコトヲ得

第十一條　前各條ニ依ル身體検査ノ外就學、入學ニ關シ身體検査ヲ行フコトヲ得

第十二條　幼稚園幼兒ノ身體検査ニ就テハ本令ヲ準用ス

第十三條　大學ニ於テハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ本令ノ検査要目ニ據ラザル身體検査ヲ施行スルコトヲ得

第十四條　地方長官又ハ直轄學校、公私立大學、高等學校、專門學校ノ長ハ學校職員、傭人等ノ身體検査ニ關シ必要ナル事項ヲ定ムルコトヲ得

第十五條　地方長官ハ本令ノ施行上必要ナル細則ヲ設クルコトヲ得

第十六條　特別ノ事情アル場合ハ監督官廳ノ認可ヲ受ケ本令ノ身體検査ヲ行ハザルコトヲ得

附　則

本令ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

道府縣ニ於テ第九條第二項ノ集計表ヲ調製シ難キ事情アルトキハ當分ノ内之ヲ省略スルコトヲ得

特別ノ事情アルトキハ地方長官ノ認可ヲ受ケ第三條ノ規定ニ拘ラズ當分ノ内毎年九月末日迄ニ之ヲ施行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第九條第一項ノ期限ハ十一月末日迄、同條第二項ノ期限ハ十二月末日迄トス

學生生徒兒童身體検査規程ハ之ヲ廢止ス

第一號様式

身體検査票

學校名						
氏名		男	女	年月日生	家ノ職業	
年齢	年	年	年	年	年	年
検査年月日						

〔青数〕

身長		Cm・	Cm・	Cm・	Cm・	Cm・	Cm・
體重		Kg・	Kg・	Kg・	Kg・	Kg・	Kg・
胸圍		Cm・	Cm・	Cm・	Cm・	Cm・	Cm・
坐高		Cm・	Cm・	Cm・	Cm・	Cm・	Cm・
比體重							
比胸圍							
比坐高							
榮養							
脊柱	形態						
	疾病						
胸廓							
眼	視力 左	( )	( )	( )	( )	( )	( )
	視力 右	( )	( )	( )	( )	( )	( )
	屈折異常 左						
	屈折異常 右						
	色神						
	眼疾						

〔青数〕

耳	聽力								
	耳疾								
鼻及咽頭									
皮膚									
齒牙	齲齒	處置	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
		未處置	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	其ノ他ノ齒疾								
其ノ他ノ疾病及異常									
概評									
本人ニ對スル注意事項									
備考									
檢查日									

注意事項

一、用紙ノ大サハ日本標準規格ニ依ル紙ノ仕上ゲ寸法ヲ列番四號ニシテ縦二九・七「センチメートル」横二一・〇「センチメートル」トス

二、縦ノ區劃ハ各學年ノ數ヨリ一欄多クシ尚不足ヲ生ジタルトキハ符箋ヲ以テ之ヲ補フコト

三、年齢ハ四月一日ノ計算ニ依リ滿六年一日以上滿七年迄ノ者ヲ七年トシ其ノ他之ニ準ズルコト

四、轉校先ノ學校名ハ適宜學校名ノ欄ノ餘白ニ記入スルコト

五、疾病其ノ他ノ爲檢查ヲ受ケザル場合ハ當該區劃ニ其ノ旨ヲ記入スルコト

六、本人ニ對スル注意事項欄ニハ日常衛生上注意スベキ具體的事項ヲ記入スルコト

七、檢查項目中異常ナキ場合ニモ其ノ旨ヲ記入シ空欄ヲ殘サザルコト

八、比較重ノ欄ニハ身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商ニ、比較高ノ欄ニハ身長ヲ以テ胸圍ヲ除シタル商ニ、比較坐高ノ欄ニハ身長ヲ以テ坐高ヲ除シタル商ニ夫々百ヲ乘ジタル數ヲ記入シ孰レモ四捨五入法ニ依リ小數點以下一位ニ止ムルコト

九、齲齒ヲ乳齒ト永久齒ニ分ツ場合ニハ乳齒ニ就テハ括弧内ニ記入スルコト

第二號樣式

〔背紋〕

一〇、其ノ他ノ齒疾ニ就キ檢查ヲ行ハザル場合ハ該當欄ニ斜線ヲ引クコト

一一、明記失明アル場合ニハ視力ノ括弧ノ右ニ記入スルコト

〔背紋〕

年度（校名）　身體檢查統計表　（男女）												
年齡		年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	計
身長	總長											
	平均											
體重	總重											
	平均											
胸圍	總長											
	平均											
坐高	總長											
	平均											
榮養	要注意者											
脊柱	正											
	異常アル者											
	カリヨス											

胸廓	異常アル者											
弱視（兩眼）												
屈折異常	近視											
	遠視											
	亂視											
眼疾	トラホーム											
	其ノ他											
聽力	障碍アル者											
耳疾	中耳炎											
	其ノ他											
鼻及咽頭	鼻疾											
	蓄膿症											
	扁桃腺肥大											
	腺樣增殖症											
皮膚	傳染性皮膚病											
	其ノ他ノ皮膚病											
齒	齲齒アル者	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）

〔青教〕

〔青教〕

牙	其ノ他ノ齒疾											
其ノ他ノ疾病及異常	結核性疾患											
	腺病											
	肋膜炎											
	心臟疾患											
	貧血											
	脚氣											
	脫腸											
	神經衰弱											
	言語障碍											
	精神障碍											
	骨關節ノ異常											
	四肢運動障碍											
概評	要養護者											
檢査人員												
備考												

注意事項

一、用紙ノ大サハ日本標準規格ニ依ル紙ノ仕上ゲ寸法B列第四號ニシテ縦三六・四「センチメートル」、横二五・七「センチメートル」トス

二、本表ハ男女別ニ調製スルコト

三、身長、胸圍、坐高ニ係ル總長、體重ニ係ル總重ノ各欄ニハ執レモ同一年齡ニ於ケル各檢査人員ノ身長、胸圍、坐高又ハ體重ノ各合計ヲ掲ゲ平均ノ各欄ニハ其ノ檢査人員ヲ以テ總長又ハ總重ヲ除シタル商ヲ掲グルコト

四、弱視(兩眼)ハ兩眼ノ視力〇・三ニ達セザル者ニツキ記入スルコト

五、尋常小學校第二學年以下ノ兒童及幼稚園ノ幼兒ニ在リテハ弱視(兩眼)、屈折異常、色神並聽力ハ之ヲ本表ニ計入スルヲ要セズ

六、齲齒アル者ニシテ特ニ處置ノ完了セルモノハ括弧内ニ其ノ數ヲ記入スルコト

七、其ノ他ノ疾病及異常欄ニ於ケル疾病及異常ノ分類ハ成ルベク規程第五條第十四號ノ病名ニ據リ尚不足ヲ生ジタルトキハ符號ヲ以テ之ヲ補フコト

八、前項ノ外本表ニ記入スベキ項目ノ一部ヲ缺キタル者ハ之ヲ表中ニ計入セザルコト

九、外國人ニ係ルモノハ之ヲ計入セザルコト

一〇、備考ノ欄ニハ表中記入ノ事實ニ關シ説明ヲ要スル事項其ノ他特ニ必要ト認メタル事項ヲ記載スルコト

一一、本表ノ成績ニ關シ學校醫、學校齒科醫ニ於テ學校衞生上意見アルトキハ之ヲ表末ニ附記スルコト

●學校醫及幼稚園醫令

昭和四年三月十八日
勅令第九號

沿革　昭和一〇年四月勅令第四八號改正

朕明治三十一年勅令第二號公立學校ニ學校醫ヲ置クノ件改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

學校醫及幼稚園醫令

第一條　各學校ニ學校醫ヲ置ク

第二條　學校醫ハ學校衞生ニ關スル職務ニ服ス

第三條　學校醫ハ官立ノ學校ニ在リテハ學校長、公立ノ學校ニ在リテハ地方長官、私立ノ學校ニ在リテハ設立者之ヲ囑託ス

學校醫ハ醫師タルコトヲ要ス

第四條　學校醫ハ學校衞生ニ關シ監督官廳、市町村長(町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ町村長ニ準ズベキ者トス、以下同ジ)又ハ學校長ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スベシ

學校醫ハ學校衞生ニ關シ監督官廳、市町村長又ハ學校長ニ建議スルコトヲ得

第五條　學校醫ニハ當該學校ノ經費ヨリ相當ノ手當ヲ給スベシ但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第六條　本令ニ定ムルモノノ外學校醫ノ執務其ノ他ニ關シ必要ナル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第七條　各幼稚園ニ幼稚園醫ヲ置ク

第二條乃至前條ノ規定ハ幼稚園醫ニ付之ヲ準用ス

附　則

本令ハ昭和四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

特別ノ事情アル場合ニ於テハ當分ノ内學校醫及幼稚園醫ヲ置カザルコトヲ得

●學校醫、幼稚園醫〔及青年訓練所醫〕令ニ關スル件

昭和四年四月十九日
發體二九號文部次官通牒

各地方長官宛

今般勅令第九號ヲ以テ學校醫、幼稚園醫〔及青年訓練所醫〕令公布セラレタルニ就テハ左記事項特ニ御考慮相成一層學校衞生ノ實績ヲ擧ケラルヽ樣努メラレ度

一、勅令第三條第二項ノ「醫師」ハ醫師法ニ依ル醫師ノ意ナルコト

二、勅令附則中「特別ノ事情アル場合ニ於テハ當分ノ內」トアルハ當該地方ニ醫師ナキトキ其ノ他萬止ムヲ得サル場合ニ於テハ期限ヲ豫定シテ置カサルコトヲ意味スルモノニシテ其ノ際ハ理由ヲ附シ文部大臣ニ報告スルコト

私立ノ學校、幼稚園等ニ在リテモ右ト同樣取扱ハレタキコト

三、從來往々〔實業補習學校、〕各種學校等ニ學校醫ヲ置カサルモノアルヤニ聞及フモ右ハ當然本令ニ依リ學校醫ヲ置クベキモノナルニ付將來其ノ屬行ニ努メラレタキコト

四、學校醫ニシテ他ノ業務ニ就カス所謂專任學校醫トシテ數校ノ學校ヲ擔任スルヲ優レリトスル場合有之ヘキニ付地方ノ實情ニ應シ適當ニ處理セラレタキコト但シ此ノ際囑託ハ各學校別ニ發令相成ヘキコト

五、大都市等ニ於テ多數ノ學校醫アル地ニ在リテハ其ノ指導監督及相互ノ連絡協調ニ關シテ市長等ヲシテ之ニ當ラシムルヲ便トスル場合アルヲ以テ適當ニ考慮セラレタキコト

昭和四年四月十九日
發體二九號文部次官通牒

直轄學校長　公私立大學　高等學校
專門學校長宛

學校醫令ニ關スル件

今般勅令第九號ヲ以テ學校醫令公布セラレタルニ就テハ其ノ囑託竝監督ニ關シ十分ノ御配慮相煩度附設ノ學校ニモ各々學校醫ヲ設置セラルヽ樣致度尙若シ學校醫ヲ置カサル事情アルトキハ其ノ理由ヲ附シ文部大臣ニ報告相成度

●學校醫職務規程

昭和七年二月一日
文部省令第三號

沿革　昭和一〇年四月文部省令第一〇號、一二年三月第四號改正

學校醫ノ資格及職務ニ關スル規程左ノ通改正ス

學校醫職務規程

第一條　學校醫ハ少クトモ毎月二回教授時間內ニ於テ其ノ擔當學校ニ到リ左ノ事項ヲ調査スヘシ但シ必要ニ應シ調査事項ノ取捨ヲ行フコトヲ得

一、校地、建物竝設備ノ衞生ニ關スル事項
二、校具ノ衞生ニ關スル事項
三、教授衞生ニ關スル事項
四、運動ニ關スル事項
五、職員學生生徒兒童ノ健康狀態
六、病者、虛弱者、精神薄弱者等ノ監督養護ニ關スル事項
七、淸潔ニ關スル事項
八、飮料水竝飮食物ニ關スル事項
九、其ノ他衞生上必要ナル事項
臨時必要アル場合ニ於テ學校醫ハ管理者又ハ學校長ノ請求ニ依リ特ニ前項各號ノ全部又ハ一部ニ就キ調査スヘシ

第二條　學校醫ハ學生生徒兒童中病者、虛弱者、精神薄弱者ヲ發見シ若ハ學校長其ノ他ノ職員ヨリ之ニ關スル通知アリタルトキハ其ノ狀況ニ依リ一科目若ハ數科目ノ授業免除、就學猶豫、就學免除、休學、退學又ハ治療、保護矯正等ヲ要スヘキコトヲ學校長ニ申告スヘシ
前項ノ異狀アル學生生徒兒童中就學猶豫、就學免除、休學、退學等ヲ要セサル者ニ對シ學校醫ハ繼續的ニ之ヲ監察スヘシ

第三條　學校醫ハ學校職員中學校衞生上注意ヲ要スル者ヲ發見シタルトキハ之ニ關シ必要ナル事項ヲ學校長ニ申告スヘシ

第四條　學校醫ハ學校身體檢査規程ニ依リ身體檢査ヲ爲スヘシ

第五條　學校醫ハ學校傳染病豫防規程ニ依リ學校傳染病豫防ニ關スル事務ニ從事シ同規程第三條及第五條乃至第十條ノ場合ニ於テハ必要ナル事項ヲ學校長ニ申告スヘシ

第六條　學校醫ハ第二條第三條及第五條ニ揭ケタル場合ノ外學校衞生上必要ト認メタル事項ニ就キ管理者又ハ學校長ニ申告スヘシ

第七條　學校醫ハ學校衛生ニ關シ學校長ノ諮問ニ應シテ意見ヲ述フヘシ

第八條　學校醫ハ學校長ノ請求ニ應シ學生生徒兒童又ハ其ノ保護者等ニ對シテ衛生ニ關スル講話ヲ爲スヘシ

第九條　學校醫ハ其ノ調査シタル事項、執務ノ狀況、申告若ハ建議セル事項ニ就キ其ノ大要ヲ學校醫執務日誌ニ記入シ其ノ都度學校長ニ提出スヘシ

第十條　學校醫ハ本令ニ揭クルモノノ外官立學校、公私立ノ大學、高等學校及專門學校ニ在リテハ夫々當該學校長、其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官ノ命ヲ承ケ學校衛生ニ關スル職務ニ從事スヘシ

第十一條　本令ノ實施ニ關シ必要ナル規程ハ官立學校、公私立ノ大學、高等學校及專門學校ニ在リテハ夫々當該學校長、其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官之ヲ定ムルコトヲ得

第十二條　幼稚園醫ノ職務ニ付テハ前各條ノ規程ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●學校醫囑託任期ニ關スル件

昭和三年十一月七日
發體五四號文部大臣官房體育課長通牒
各地方長官宛

今般某縣ヨリ學校醫囑託ニ關シ其ノ任期ヲ設ケ度件照會アリタルニ對シ右ハ地方長官限適當ニ取計可然旨回答致シタルニ付參考ノ爲通牒ス

●學校齒科醫及幼稚園齒科醫令

昭和六年六月二十三日
勅令第百四十四號

第一條　各學校ニ學校齒科醫ヲ置クコトヲ得

第二條　學校齒科醫ハ學校ニ於ケル齒科衛生ニ關スル職務ニ服ス

第三條　學校齒科醫ハ官立ノ學校ニ在リテハ學校長、公立ノ學校ニ在リテハ地方長官、私立ノ學校ニ在リテハ設立者之ヲ囑託ス

學校齒科醫ハ齒科醫師（齒科醫師法第十一條ノ二ノ規定ニ該當スル醫師ヲ含ム）タルコトヲ要ス

第四條　學校齒科醫ハ學校ニ於ケル齒科衛生ニ關シ監督官廳、市町村長（町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ町村長ニ準ズベキ者トス、以下同ジ）又ハ學校長ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スベシ

學校齒科醫ハ學校ニ於ケル齒科衛生ニ關シ監督官廳、市町村長又ハ學校長ニ建議スルコトヲ得

第五條　學校齒科醫ニハ當該學校ノ經費ヨリ相當ノ手當ヲ給スベシ但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第六條　本令ニ定ムルモノノ外學校齒科醫ノ執務其ノ他ニ關シ必要ナル事項ハ文部大臣之ヲ定ム

第七條　各幼稚園ニ幼稚園齒科醫ヲ置クコトヲ得

第二條乃至前條ノ規定ハ幼稚園齒科醫ニ付之ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●學校齒科醫職務規程

昭和七年二月一日
文部省令第二號

沿革　昭和一二年三月文部省令第五號改正

學校齒科醫職務規程左ノ通定ム

第一條　學校齒科醫ハ學校身體檢查規程ニ依リ齒牙檢查ヲ行フヘシ

第二條　學校齒科醫ハ其ノ擔當學校ニ於テ學生生徒兒童ノ齲齒其ノ他ノ齒牙疾患ノ豫防上必要ナル診療竝處置ヲ行フヘシ

第三條　學校齒科醫ハ學校長ノ請求ニ應シ學生生徒兒童又ハ其ノ保護者等ニ對シ齒科衛生ニ關スル講話ヲ爲スヘシ

第四條　學校齒科醫ハ學校ニ於ケル齒科衛生上必要ト認メタル事項ニ就キ管理者又ハ學校長ニ申告スヘシ

第五條　學校齒科醫ハ其ノ執務ノ大要ヲ學校齒科醫執務日誌ニ記入シ其ノ都度學校長ニ提出スヘシ

第六條　學校齒科醫ハ本令ニ揭クルモノノ外官立學校、公私立ノ大學、高等學校及專門學校ニ在リテハ夫々當該學校長、其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官ノ命ヲ承ケ學校ニ於ケル齒科衛生ニ關スル職務ニ從事スヘシ

第七條　本令ノ實施ニ關シ必要ナル規程ハ官立學校、公私立ノ大學、高等學校及專門學校ニ在リテハ夫々當該學校長、其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官之ヲ定ムルコトヲ得

第八條　幼稚園齒科醫ノ職務ニ付テハ前各條ノ規程ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●學校看護婦ニ關スル件

昭和四年十月二十九日
文部省訓令第二十一號

北海道廳　府縣

近時學校衛生ノ發達ニ伴ヒ之ニ關スル各種ノ施設漸ク其ノ普及ヲ見ルニ至レルハ兒童生徒ノ健康看過上洵ニ慶アベキコトナリトス惟フニ學校衛生ニ關シテハ學校教職員、學校醫主トシテ之ニ從事スト雖モ就中幼弱ナル兒童ヲ收容スル幼稚園、小學校等ニ於テハ學校看護婦ヲシテ其ノ職務ヲ補助セシメ以テ周到ナル注意ノ下ニ一層養護ノ徹底ヲ圖ルハ極メテ適切ナルコトト云フベシ

而シテ學校看護婦ノ業務ハ衛生上ノ知識技能竝ニ教育ニ關スル十分ナル理解ヲ必要トスルヲ以テ之ニ對シテハ特殊ノ指導ヲナサザルベカラズ然ルニ未ダ規準ノ據ルベキモノナク僅ニ往々業務ノ實行上不便アルノミナラズ延イテ該事業ノ發達上支障無キヲ保シ難キハ甚ダ遺憾ナルコトト云ハザルベカラズ

地方長官ハ玆上ノ趣旨ニ鑑ミ左記要項ニ準據シ夫々適當ノ方法ヲ講ジ以テ學校衛生ノ實績ヲ擧ゲルニ力メラルベシ

一　學校看護婦ハ看護婦ノ資格ヲ有スルモノニシテ學校衛生ノ智識ヲ修得セル者ノ中ヨリ適任者ヲ採用スルコト但シ教育ノ實務ニ經驗アルモノニシテ學校衛生ノ智識ヲ修得セル者ヲ採用スルモ妨ゲナキコト

二　學校看護婦ハ學校長、學校醫其ノ他ノ關係職員ノ指揮ヲ受ケ概ネ左ノ職務ニ從事スルコト

イ　疾病ノ豫防、診療ノ介補、消毒、救急處置及診療設備ノ整理竝ニ監察ヲ要スル兒童ノ保護ニ關スルコト

ロ　身體檢査、學校食事ノ補助ニ關スルコト

ハ　身體、衣服ノ清潔其ノ他ノ衛生訓練ニ關スルコト

ニ　家庭訪問ヲ行ヒテ疾病異常ノ治療矯正ヲ勸告シ又ハ必要ニ應ジテ適當ナル診療機關ニ同伴シ或ハ眼鏡ノ調達等ノ世話ヲ爲シ尙病氣缺席兒童ノ調査、慰問等ヲ爲スコト

ホ　運動會、遠足、校外教授、休暇聚落等ノ衛生事務ニ關スルコト

ヘ　學校衛生ニ關スル調査竝ニ衛生講話ノ補助ニ關スルコト

ト　校地、校舍其ノ他ノ設備ノ清潔、採光、換氣、煖房ノ良否等設備ノ衛生ニ關スルコト

チ　其ノ他ノ學校衛生ニ關スルコト

三　學校看護婦執務日誌其ノ他必要ナル諸簿册ヲ學校ニ備フルコト

四　幼稚園其ノ他ノ教育機關ニ於テモ本訓令ニ準據スルコト

五　本訓令ノ實施ニ關シ必要ナル事項ハ地方長官ニ於テ適當ニ之ヲ定ムルコト

第七章　兵事

●兵役法

昭和二年三月三十一日
法律第四十七號

沿革　昭和九年三月法律第四號、一〇年三月第二二號、一二年八月第七〇號改正

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル徵兵令改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

兵役法

第一章　總則

第一條　帝國臣民タル男子ハ本法ノ定ムル所ニ依リ兵役ニ服ス

第二條　兵役ハ之ヲ常備兵役、後備兵役、補充兵役及國民兵役ニ分ツ

常備兵役ハ之ヲ現役及豫備役ニ、補充兵役ハ之ヲ第一補充兵役及第二補充兵役ニ、國民兵役ハ之ヲ第一國民兵役及第二國民兵役ニ分ツ

第三條　志願ニ依リ兵籍ニ編入セラルル者ノ兵役ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第四條　六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ得ズ

第二章　服役

第五條　現役ハ陸軍ニ在リテハ二年、海軍ニ在リテハ三年トシ現役兵トシテ徵集セラレタル者之ニ服ス

現役兵ハ現役中之ヲ在營セシム

第六條　豫備役ハ陸軍ニ在リテハ五年四月、海軍ニ在リテハ四年トシ現役ヲ終リタル者之ニ服ス

第七條　後備兵役ハ陸軍ニ在リテハ十年、海軍ニ在リテハ五年トシ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス

第八條　第一補充兵役ハ陸軍ニ在リテハ十二年四月、海軍ニ在リテハ一年トシ現役ニ適スル者ニシテ其ノ年所要ノ現役兵員ニ超過スル者ノ中所要ノ人員之ニ服ス

第二補充兵役ハ十二年四月トシ現役ニ適スル者ノ中現役又ハ第一補充兵役ニ徵集セラレザル者及海軍ノ第一補充兵役ヲ終リタル者之ニ服ス但シ海軍ノ第一補充兵役ヲ終リタル者ニ在リテハ十一年四月トス

第九條　第一國民兵役ハ後備兵役ヲ終リタル者及軍隊ニ於テ教育ヲ受ケタル補充兵ニシテ補充兵役ヲ終リタル者之ニ服ス

第二國民兵役ハ戸籍法ノ適用ヲ受クル者ニシテ常備兵役、後備兵役、補充兵役及第一國民兵役ニ在ラザル年齡十七年ヨリ四十年迄ノ者之ニ服ス

第十條　年齡二十五年迄ニ師範學校ヲ卒業シタル者（小學校ノ教職ニ就クノ資格ヲ失ヒタル者ヲ除ク）ノ現役ハ第五條ノ規定ニ拘ラズ五月トス但シ師範學校ノ教練ヲ修了セザル者ニ在リテハ七月トス

前項ノ規定ニ依リ現役ニ服スル者ハ現役中之ヲ短期現役兵ト稱ス

短期現役兵其ノ現役ヲ終リタルトキハ直ニ第一國民兵役ニ服ス

第十一條　現役兵ニシテ青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ヲ修メタル者ノ在營期間ハ六月以內之ヲ短縮スルコトヲ得

前項ニ規定スル課程ノ修得ノ程度、認定及在營期間短縮ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條　現役兵ニシテ前條ノ規定ノ適用ヲ受ケザル者ノ在營期間ハ軍事上妨ゲナキトキニ限リ勅令ノ定ムル所ニ依リ六十日以內之ヲ短縮スルコトヲ得

第十三條　現役兵ニシテ一年六月以內ニ於テ教育ヲ修了シ得ル兵種ニ屬スル者ノ在營期間ハ前二條ノ規定ニ拘ラズ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ短縮スルコトヲ得

第十四條　現役兵ニシテ在營中左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ在營期間ハ之ヲ短縮スルコトヲ得

一　品行方正學術勤務ノ成績優秀ナル者

二　定員ニ對シ過剩ト爲リタル者

第十五條　前四條ノ規定ハ短期現役兵ニ之ヲ適用セズ

第十六條　第十一條乃至第十四條ノ規定ニ依リ在營期間ヲ短縮スル場合ニ於テハ現役期間內ニ未入營期間又ハ歸休期間ヲ置ク

第十七條　現役又ハ補充兵役ハ現役兵又ハ補充兵トシテ徵集シタル年ノ十二月一日ヨリ之ヲ起算ス

短期現役兵ノ現役ハ入營ノ月ノ一日ヨリ之ヲ起算ス

戰時又ハ事變ノ際其ノ他必要アル場合ニ於テハ前二項ニ規定スル起算ノ日ヲ變更スルコトヲ得

第十八條　第五條乃至第八條、第九條第一項及第十條ニ規定スル服役ハ其ノ期間ニ拘ラズ年齡四十年ヲ以テ限トス

第十九條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ服役ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

一　戰時又ハ事變ニ際スルトキ

二　出師ノ準備又ハ守備若ハ警備ノ爲必要アルトキ

三　航海中又ハ外國ニ於テ勤務中ナルトキ

四　重要ナル演習又ハ特別ニ觀兵ノ擧アルトキ

五　天災其ノ他避クベカラザル事故ニ因リ已ムヲ得ザルトキ

前項ノ規定ニ依リ延長シタル期間ハ次ニ服スベキ兵役ノ期間ニ之ヲ通算ス

第十九條ノ二　特ニ必要アルトキハ第十六條ニ規定スル未入營期間ノ外概ネ三月以內ノ未入營期間ヲ置クコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該期間ニ相當スル期間以內現役期間ヲ延長スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ延長シタル期間ハ豫備役期間ニ之ヲ通算ス

第二十條　在營中本人ニ依ルニ非ザレバ家族（戶主ヲ含ミ本人ト世帶ヲ同ジクスル者ニ限ル）カ生活ヲ爲スコト能ハザルニ至リタルトキハ現役ヲ免除ス但シ故意ニ其ノ事故ヲ作爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十一條　現役兵、豫備兵、後備兵若ハ補充兵ニシテ疾病其ノ他身體若ハ精神ノ異常ニ因リ當該兵役ニ服シ難キ者又ハ現役兵ニシテ前條ノ規定ニ依リ現役ヲ免除セラレタル者ハ之ヲ他ノ兵役ニ轉セシム但シ疾病其ノ他身體又ハ精神ノ異常ニ因リ兵役ニ堪ヘザル者ニ對シテハ兵役ヲ免除ス

第二十二條　現役兵ニシテ入營前又ハ入營後六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ノ在營中刑ノ執行ヲ受ケタル日數及在營中逃亡シタル者ノ逃亡中ノ日數ハ之ヲ現役期間ニ算入セズ

第三章　徵集

第二十三條　戶籍法ノ適用ヲ受クル者ニシテ前年十二月一日ヨリ其ノ年十一月三十日迄ノ間ニ於テ年齡二十年ニ達スル者ハ本法中別段ノ規定アルモノヲ除クノ外徵兵檢查ヲ受クルコトヲ要ス

前項ニ規定スル年齡ハ之ヲ徵兵適齡ト稱ス

第二十四條　戶主ハ其ノ家族中每年十二月一日ヨリ同月三十一日迄ノ間ニ年齡二十年ト爲ル者アルトキハ其ノ年十一月中ニ、一月一日ヨリ十一月三十日迄ノ間ニ年齡二十年ト爲ル者アルトキハ其ノ前年十一月中ニ本籍ノ市町村長ニ届出ヅベシ戶主年齡二十年ト爲ルトキ亦同ジ但シ命令ヲ以テ定ムル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十五條　兵員ヲ徵集スル爲徵兵區ヲ設ク

徵兵區ハ之ヲ徵募區ニ分ツ

徵兵區ノ種類及區域竝ニ徵募區ノ區域ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第二十六條　現役兵及第一補充兵ノ員數ハ之ヲ徵兵區ニ配賦シ更ニ之ヲ徵募區ニ配賦ス

前項ニ規定スル配賦ハ徵兵區又ハ徵募區ニ本籍ヲ有シ徵兵檢查ヲ受クベキ者ノ見込數ヲ基準トシテ之ヲ行フ

第二十七條　前條ノ規定ニ依リ配賦シタル兵員ハ當該徵募區ニ本籍ヲ有スル者ヨリ之ヲ徵集ス

第二十八條　徵兵區又ハ徵募區ニ配賦シタル兵員ヲ當該徵兵區又ハ徵募區ニ於テ充足シ難キトキハ其ノ不足員數ヲ他ノ徵兵區又ハ徵募區ニ配賦シ徵集スルコトヲ得

第二十九條　國民兵役ニ適スルモ現役ニ適セザル者ハ之ヲ徵集セズ

第三十條　兵役ニ適セザル者ハ兵役ヲ免除ス

第三十一條　徵兵檢查ヲ受クベキ者徵兵檢查ヲ受クベキ年ニ於テ之ヲ受ケザルトキハ次年ニ於テ徵兵檢查ヲ行フ

第三十二條　身體檢查ヲ受ケタル者ニシテ現役兵又ハ第一補充兵トシテ徵集セラルベキ者ハ他ノ徵募區ニ轉屬スルモ之ヲ轉屬前ノ徵募區ノ配賦人員ニ充テ徵集ス

第三十三條　身體檢查ヲ受ケタル者ハ左ノ如ク之ヲ區分ス

一　現役ニ適スル者

二　國民兵役ニ適スルモ現役ニ適セザル者

三　兵役ニ適セザル者

四　兵役ノ適否ヲ判定シ難キ者

前項ニ規定スル區分ノ標準ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第三十四條　國民兵役ニ適スルモ現役ニ適セザル者ハ之ヲ徵集セズ

第三十五條　兵役ニ適セザル者ハ兵役ヲ免除ス

第三十六條　兵役ノ適否ヲ判定シ難キ者ニ付テハ徵集ヲ延期シ爾後適否ヲ決定シ得ルニ至ル迄每年徵兵檢查ヲ行フ

第三十七條　徵兵檢查ヲ受クベキ者勅令ノ定ムル所ニ依リ兵役ニ適セズト認ムル疾病其ノ他身體又ハ精神ノ異常ノ者ナルトキハ其ノ事實ヲ證明スベキ書類ニ基キ身體檢查ヲ行フコトヲ得

兵役ヲ免除スルコトヲ得

第三十八條　短期現役兵タルノ資格ヲ有スル者ニシテ現役ニ適スル者ハ第三十三條ノ規定ニ拘ラズ之ヲ短期現役兵ニ徵集ス

第二十六條乃至第二十八條ノ規定ハ短期現役兵ノ徵集ニ關シ之ヲ適用セズ

第三十九條　徵兵檢查ヲ受クベキ者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ徵集ヲ延期スルコトヲ得

一　禁錮以上ノ刑ニ該ルベキ犯罪ノ爲豫審又ハ公判中ナルトキ

二　犯罪ノ爲拘禁中ナルトキ

三　刑ノ執行停止中ナルトキ

四　假出獄中ナルトキ

五　少年法ノ定ムル所ニ依リ少年救護院、矯正院又ハ病院ニ收容中ナルトキ

六　矯正院法ノ定ムル所ニ依リ假退院中ナルトキ

前項ノ規定ハ現役ニ適スル者ニシテ未ダ徵集順序定マラザル者ニ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ニ依リ徵集ヲ延期セラレタル者ハ其ノ事由止ム年又ハ其ノ翌年ニ於テ徵兵檢查ヲ行フ

第四十條　徵兵檢查ヲ受ケタル者現役兵トシテ徵集セラルルニ因リ家族（戶主ヲ含ミ本人ト世帶ヲ同ジクスル者ニ限ル）ガ生活ヲ爲スコト能ハザルニ至ルベキ確證アル場合ニ於テハ二年間徵集ヲ延期ス但シ故意ニ其ノ事故ヲ作爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依リ徵集ヲ延期セラレタル者其ノ延期期間內ニ於テ其ノ事由止ムトキハ事由止ム年又ハ其ノ翌年ニ於テ徵兵檢查ヲ行フ

第一項ノ規定ニ依リ徵集ヲ延期セラレタル者其ノ延期期間ヲ過ギ尙其ノ事由止マザルトキハ之ヲ過ギタル年ノ翌年ニ於テ徵兵檢查ヲ行フ但シ現役兵又ハ第一補充兵トシテ徵集スルコトナシ

第一項ノ延期期間ハ徵兵檢查ヲ受ケタル年ノ十二月一日ヨリ之ヲ起算ス

第四十一條　中學校又ハ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認ムル學校ニ在學スル者ニ對シテハ本人ノ願ニ依リ學校ノ修業年限ニ應ジ年齡二十七年ニ至ル迄徵集ヲ延期ス

前項ニ規定スル認定及年齡ノ區分ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一項ノ規定ニ依リ徵集ヲ延期セラレタル者ハ在學ノ事由止ム年又ハ其ノ翌年ニ於テ徵兵檢查ヲ行フ但シ一ノ學校卒業ノ日ヨリ六月以內ニ他ノ學校ニ入學スル者ニ付テハ徵集延期ノ事由尙繼續スルモノト看做ス

第二項ノ年齡ノ區分ニ基ク最高年齡ニ達スルモ在學ノ事由尙止マザル者ハ最高年齡ニ達シタル年又ハ其ノ翌年ニ於テ徵兵檢查ヲ行フ

第四十二條　徵兵適齡及其ノ前ヨリ帝國外ノ地ニ在ル者（勅令ヲ以テ定ムル者ヲ除ク）ニ對シテハ本人ノ願ニ依リ徵集ヲ延期ス

前項ノ規定ニ依リ徵集ヲ延期セラレタル者ハ其ノ事由止ム年又ハ其ノ翌年ニ於テ徵兵檢查ヲ行フ

第四十三條　前條第一項ノ規定ニ依リ徵集ヲ延期セラレタル者ニシテ直系尊屬若ハ妻子ノ死亡若ハ重態ノ爲又ハ官廳ノ命ニ依リ一時帝國內ニ歸還スル者ハ徵集延期ノ事由尙繼續スルモノト看做ス但シ歸還後ノ滯在期間九十日ヲ超エルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ニ規定スル場合ヲ除クノ外前條第一項ノ規定ニ依リ徵集ヲ延期セラレタル者ニシテ一時帝國內ニ歸還スル者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ在留地ノ遠近ニ應ジ一年間一回滯在期間九十日ヲ超エザル場合ニ限リ徵集延期ノ事由尙繼續スルモノト看做ス

前二項ノ規定ニ該當スル者ニシテ歸還後ノ滯在間ニ於テ疾病其ノ他避クベカラザル事故生ジ前二項ニ規定スル期間內ニ出發シ難キ者アルトキハ其ノ滯在期間ヲ延長スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ延長シタル期間徵集延期ノ事由尙繼續スルモノト看做ス

第四十四條　前二條ノ規定ハ帝國外ノ地ヲ往復スル帝國船舶ノ船員ニ之ヲ準用ス

第四十五條　家族（戶主ヲ含ミ本人ト世帶ヲ同ジクスル者ニ限ル）二人以上現役兵トシテ同時ニ在營スル爲家事上ノ支障ヲ生ズベキトキハ一人ノ在營間他ノ者ノ入營ヲ延期スルコトヲ得

第十七條第三項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ入營ヲ延期セラレタル者ニ之ヲ準用ス

第四十六條　現役兵トシテ入營スベキ者疾病其ノ他避クベカラザル事故ニ因リ入營スベキ期日ニ入營シ難キトキ又ハ第三十九條第一項各號ノ一ニ該當スルトキハ三十一日以內入營ヲ延期スルコトヲ得

現役兵トシテ入營スベキ者ニシテ前項ニ規定スル入營ヲ延期シ得ベキ期間內ニ入營シ難キ者ニ對シテハ更ニ徵兵檢查ヲ行フ但シ第十三條ニ規定スル兵種ニ屬スル者ニ在リテハ更ニ徵兵檢查ヲ行フコトナク次ノ入營スベキ期日ニ入營セシムルコトヲ得

第四十七條　現役兵トシテ入營スベキ者入營ノ際行フ身體檢查ニ於テ疾病スル者ハ徵集延期ノ事由尙繼續スルモノト看做ス但シ歸還後ノ滯在期間九十日ヲ超エルトキハ此ノ限ニ在ラズ

其ノ他身體又ハ精神ノ異常ニ因リ三十一日以內ニ治癒ノ見込ナク且勤務ニ堪ヘズト認ムル者ナルトキハ之ヲ歸鄉セシメ第二十一條ノ規定ノ適用ヲ受クル者ヲ除クノ外更ニ徵兵檢查ヲ行フ

前條第二項但書ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ歸鄉セシメラレタル者ニ之ヲ準用ス

第四十八條　現役兵ニ關員ヲ生ジタル場合ニ於テハ服役第一年次ノ第一補充兵ヲ以テ其ノ徵集順序ニ從ヒ之ヲ補闕スルコトヲ得

第二十七條及第二十八條ノ規定ハ前項ニ規定スル補闕ニ之ヲ準用ス

第四十九條　左ニ揭グル者（第一號、第二號、第五號及第六號ノ者ニ在リテハ徵兵適齡ヲ過ギタル者ニ限ル）徵集セラルル場合ニ於テハ第三十三條第一項ニ規定スル抽籤ニ加ヘザルモノトス但シ二人以上アルトキハ其ノ者ノミニ付抽籤ヲ行ヒ徵集順序ヲ定ム

一　第四十一條第三項又ハ第四項ノ規定ニ該當スル者

二　第四十二條第二項又ハ第四十四條ノ規定ニ該當スル者

三　第四十六條第二項ノ規定ニ該當スル者

四　第四十七條ノ規定ニ該當スル者

五　第六十六條第一項ノ規定ニ該當スル者

六　第六十七條ノ規定ニ該當スル者

七　第七十四條ニ規定スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者

八　第七十六條ニ規定スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者

前項ニ揭グル者ノ徵集順序ハ第三十三條第一項ノ規定ニ依リ抽籤ヲ爲シタル者ノ上位トシ同條第四項ノ規定ニ依リ徵集セラルベキ者ノ徵集順序ハ前項ニ揭グル者ノ上位トス

第五十條　第七十四條又ハ第七十六條ニ規定スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者ニ對シテハ第四十條乃至第四十二條、第四十四條及第四十五條ノ規定ニ依ル延期ヲ爲サズ

第五十一條　戶籍ノ記載ノ抹消又ハ遺漏其ノ他ノ事由ニ因リ戶籍ニ記載セラレザル爲本籍ヲ有セザル者ニシテ徵兵檢查ヲ受クベキ者ヲ發見シタルトキハ發見ノ年又ハ其ノ翌年ニ於テ徵兵檢查ヲ行フ戶籍ノ記載ノ錯誤ノ爲徵兵檢查ヲ受クベキ者ニシテ之ヲ受ケザリシモノヲ發見シタルトキ亦同ジ

徵兵檢查ヲ受ケタル者戶籍ニ記載セラレアル出生年月日ノ訂正ニ因リ徵兵適齡又ハ徵兵適齡未滿ト爲リタルトキハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ除クノ外更ニ徵兵檢查ヲ行フ

一　現役中ノ者又ハ現役ヲ終リタル者

二　補充兵ニシテ教育ノ爲召集中ノ者又ハ其ノ召集ヲ終リタル者

三　第三十七條ノ規定ニ依リ兵役ヲ免除セラレタル者

第五十二條　戶籍法ノ適用ヲ受ケザル者ニシテ徵兵適齡ヲ過ギ戶籍法ノ適用ヲ受クル者ノ家ニ入リタル者ニ對シテハ徵集ヲ免除ス

前項ノ規定ハ徵兵適齡ヲ過ギ帝國ノ國籍ヲ取得シ又ハ回復シタル者ニ之ヲ準用ス

第五十三條　第三十條、第三十六條、第三十九條第三項、第四十條若ハ第三項、第四十一條第三項若ハ第四項、第四十二條第二項、第四十四條、第四十六條第二項、第四十七條、第五十一條第一項、第六十六條第一項又ハ第六十七條ノ規定ニ依リ徵兵檢查ヲ受クベキ者年齡三十七年ヲ過ギタルトキハ徵集ヲ免除ス

前項ノ年齡ハ第十七條第一項又ハ第二項ニ規定スル現役又ハ補充兵役ノ起算ノ日ニ於ケル年齡トス

第四章　召集

第五十四條　歸休兵、豫備兵、後備兵、補充兵又ハ國民兵ハ戰時又ハ事變ニ際シ必要ニ應ジ之ヲ召集ス

第五十五條　歸休兵ハ在營兵ノ補闕其ノ他必要アル場合ニ之ヲ召集スルコ

トヲ得

服役第一年次ノ豫備兵ハ警備其ノ他ノ必要ニ因リ歸休兵ヲ召集スルモ尚兵員ヲ要スル場合ニ之ヲ召集スルコトヲ得

第五十六條　豫備兵及後備兵ハ勤務演習ノ爲豫備役及後備兵役ヲ通ジ五回以内之ヲ召集スルコトヲ得

前項ニ規定スル召集ハ一年一回トシ一回ノ日數ハ陸軍ニ在リテハ三十五日以内、海軍ニ在リテハ七十日以内トス

海軍ニ在リテハ特別ノ必要アル場合ニ限リ前項ニ規定スル召集日數ヲ五十日以内延長スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第一項ニ規定スル召集回數ヲ一回宛減ズルモノトス

第五十七條　第一補充兵ハ教育ノ爲百二十日以内之ヲ召集スルコトヲ得

第五十八條　補充兵ニシテ軍隊ニ於テ教育ヲ受ケタル者ハ勤務演習ノ爲之ヲ召集スルコトヲ得

第五十六條ノ規定ハ前項ニ規定スル召集ニ之ヲ準用ス

第五十九條　勤務演習ニ召集セラレタル者召集中犯罪ノ爲又ハ正當ノ事由ナク勤務演習ヲ闕キタルトキハ其ノ闕キタル日數又ハ回數ヲ勤務演習ノ日數又ハ回數ニ算入セズ正當ノ事由ナク召集ノ期日ニ後レタルトキ亦同ジ

前項ノ規定ハ教育ノ爲召集セラレタル者ニ之ヲ準用ス

第六十條　歸休兵、豫備兵、後備兵及補充兵ニ對シテハ毎年一回簡閲點呼ヲ行フコトヲ得

第六十一條　歸休兵、豫備兵、後備兵又ハ補充兵ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ勤務演習召集又ハ簡閲點呼ヲ免除スルコトヲ得

一　餘人ヲ以テ代フベカラザル職ニ在ル官吏又ハ官吏待遇者

二　市町村長、助役、收入役其ノ他之ニ準ズベキ職ニ在ル者

三　帝國議會、府縣會、市町村會其ノ他之ニ準ズベキモノノ議員但シ其ノ會期中ニ限ル

四　帝國外ノ地ニ旅行又ハ在留スル者

五　帝國外ノ地ヲ往復スル帝國船舶ノ船員

第六十二條　召集セラレタル者疾病其ノ他避クベカラザル事故ニ因リ召集ニ應ジ難キトキハ十日以内召集ヲ延期スルコトヲ得

召集セラレタル者第三十九條第一項各號ノ一ニ該當ジ召集期日ニ召集ニ應ジ難キトキ又ハ前項ノ規定ニ依リ召集ヲ延期セラレタル者其ノ延期期間内ニ召集ニ應ジ難キトキハ召集期日又ハ召集年次ヲ變更ス

前二項ノ規定ハ簡閲點呼ニ參會ヲ命セラレタル者ニ之ヲ準用ス

召集セラレタル者入營ノ際行フ身體檢査ニ於テ疾病其ノ他身體又ハ精神ノ異常ニ因リ勤務ニ堪ヘズト認ムル者ナルトキハ召集ヲ免除ス

第六十三條　召集セラレタル者召集ニ因リ家族（戸主ヲ含ミ本人ト世帶ヲ同ジクスル者ニ限ル）ガ生活ヲ爲スコト能ハザルノ確證アル場合ニ於テハ召集ヲ免除ス但シ故意ニ其ノ事故ヲ作爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第五節　雜則

第六十四條　第一補充兵ニシテ第四十八條ノ規定ニ依リ現役兵ノ補闕ニ充テラレ現役ニ服スルニ至リタル者ノ既ニ服シタル第一補充兵役ノ期間ハ之ヲ現役ノ期間ニ通算ス

第六十五條　第四十六條ノ規定ニ依リ後レテ入營シタル者又ハ第四十八條第一項ノ規定ニ依リ補闕トシテ後レテ入營シタル者ト雖モ其ノ在營期間ノ計算ニ關シテハ後レズシテ入營シタルモノト看做ス但シ犯罪ノ爲又ハ正當ノ事由ナク後レテ入營シタル者ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ第六十二條第一項ノ規定ニ依リ召集ヲ延期セラレタル者ニシテ其ノ延期期間内ニ召集ニ應ジタル者ニ之ヲ準用ス

第六十六條　志願ニ依リ兵籍ニ編入セラレタル者ニシテ兵籍ヨリ除カルルニ至リタル者勅令ノ定ムル期間服役セザルトキハ更ニ徵兵檢査ヲ行フ

前項ノ規定ニ依リ徵兵檢査ヲ受ケタル者現役兵トシテ徵集セラレタル場合ニ於ケル現役期間ノ計算ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第六十七條　短期現役兵トシテ現役ヲ終リタル者年齡二十八年迄ノ間ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ更ニ徵兵檢査ヲ行フ此ノ場合ニ於テ現役兵トシテ徵集セラレタルトキハ前ノ現役期間ヲ後ノ現役期間ニ、前ニ在營シタル期間ヲ後ニ在營スベキ期間ニ通算ス但シ第十三條ノ規定ニ該當スル現役兵トシテ徵集セラレタルトキハ前ニ在營シタル期間ヲ後ニ在營スベキ期間ニ通算セズ

一　小學校ノ教職ニ就クノ資格ヲ失ヒタルトキ

二　現役ヲ終リタル日ヨリ六月ヲ經過シタル日及其ノ後ニ於テ小學校ノ教職ニ在ラザルトキ

前項ノ規定ハ短期現役兵トシテ現役中小學校ノ教職ニ就クノ資格ヲ失ヒタル者ニ之ヲ準用ス

第六十八條　本法ニ規定スルモノノ外兵役ニ關シ必要ナル屆出ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第六十九條　市町村長ハ兵役（第二國民兵役ヲ除ク）ニ在ル者ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ戸籍ノ欄外ニ兵役ノ略符號ヲ附スベシ

戸籍法第三條ノ規定ハ前項ニ規定スル事務ニ之ヲ準用ス

第七十條　本法中本人ヨリ願出ヲ爲スベキ場合ニ於テ本人事故アルトキハ戸主之ヲ爲スコトヲ得

第七十一條　本法中戸主ニ關スル規定ハ戸主未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ戸主ノ法定代理人ニ、戸主若ハ戸主ノ法定代理人未ダ決定セザルトキ又ハ避クベカラザル事故アルトキハ家族中家事ヲ擔當スル者ニ之ヲ適用ス

第七十二條　本法中市長ニ關スル規定（第六十一條ノ規定ヲ除ク）ハ區長ヲ以テ戸籍ニ關スル事務ヲ管掌スル者ト爲シタル市ニ在リテハ區長ニ之ヲ適用ス

本法中町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準ズベキ者ニ之ヲ適用ス

第七十三條　本法ニ規定スル學校中ニハ帝國外ノ地ニ在リテ帝國臣民ノ爲ニ設置シタル學校ニシテ勅令ノ定ムル所ニ依リ指定シタルモノヲ包含ス

第六章　罰則

第七十四條　兵役ヲ免ルル爲逃亡シ若ハ潛匿シ又ハ身體ヲ毀傷シ若ハ疾病ヲ作爲シ其ノ他詐僞ノ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第七十五條　現役兵トシテ入營スベキ者正當ノ事由ナク入營ノ期日ニ後レ十日ヲ過ギタルトキハ一年以下六月以下ノ禁錮ニ處シ戰時ニ在リテ五日ヲ過ギタルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

前項ノ規定ハ志願ニ依リ兵籍ニ編入セラレ服役スル者ニ之ヲ準用ス

第七十六條　正當ノ事由ナク徵兵檢査ヲ受ケザル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十七條　第二十四條ノ規定ニ依ル屆出ヲ爲サザル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第七十八條　前四條ノ規定ハ何人ヲ問ハズ帝國外ニ於テ其ノ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

附則

本法ハ昭和二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ノ際現ニ豫備役ニ在ル者ノ服役期間ハ尚從前ノ規定ニ依ル此ノ場合ニ於テハ第五十五條第二項ノ規定ヲ適用セズ

本法施行ノ際現ニ補充兵役ニ在ル者ハ第一補充兵役ニ服スルモノトス

本法施行ノ際現ニ徵兵令第二十三條ノ規定ニ依リ入營ヲ延期セラレ居ル者ニ付テハ尚從前ノ例ニ依ル其ノ徵集セラルル場合ニ於ケル徵集順序ニ關シ

テハ第四十九條ノ例ニ依ル

刑法施行法第二十六條第二號ヲ左ノ如ク改ム

二　削除

附　則（昭和十年法律第二十二號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十年勅令第三十九號ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行）

本法施行前青年訓練所ノ訓練又ハ之ト同等以上ト認メラレタル訓練ヲ修了シタル者ノ在營期間短縮ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

附　則（昭和十三年法律第一號）

本法ハ昭和十三年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五十七條ノ改正規定ハ昭和十二年以前ニ於テ第一補充兵役ニ編入セラレタル者ニ之ヲ適用セズ

●兵役法施行令（抄錄）

昭和二年十一月三十日
勅令第三百三十號

（省略ス）

兵役法施行令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

兵役法施行令

第二章　服役

第二款　短期現役兵

第二十五條　短期現役兵ハ軍事上ノ必要ニ依リ陸軍又ハ海軍ニ於テ服役セシム但シ本人ノ希望ヲ參酌スルコトヲ得

兵役法第十條第一項但書ノ規定ニ該當スル者ハ之ヲ海軍ニ於テ服役セシムルコトナシ

第二十六條　短期現役兵ノ服役スベキ部隊ニ關シテハ主務大臣之ヲ定ム

第二十七條　短期現役兵ハ之ヲ陸軍ニ在リテハ歩兵科、海軍ニ在リテハ兵科ニ屬セシム

第二十八條　短期現役兵ハ陸軍ニ在リテハ入營後概ネ二月ノ後之ヲ一等兵ヲ、概ネ四月ノ後之ヲ上等兵ヲ命ジ現役滿期ノ際之ヲ任長ニ任ジ海軍ニ在リテハ入營後概ネ一月半ノ後之ヲ三等水兵ヲ、概ネ三月ノ後之ヲ二等水兵ヲ、概ネ四月半ノ後之ヲ一等水兵ヲ命ジ現役滿期ノ際之ヲ三等兵曹ニ任ズ

兵役法第十條第一項但書ノ規定ニ該當スル者ハ前項ノ規定ニ拘ラズ入營後概ネ四月ノ後之ヲ一等兵ヲ、概ネ六月ノ後之ヲ上等兵ヲ命ジ現役滿期ノ際之ヲ伍長ニ任ズ

前二項ノ規定ニ依ル進級及任官ハ陸軍ニ在リテハ聯隊長、海軍ニ在リテハ進級ハ所轄長、任官ハ鎭守府司令長官之ヲ行フ

短期現役兵ニシテ在營間其ノ成績不良ナル者ハ第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル進級ノ一部若ハ全部又ハ任官ヲ爲サシムルコトナシ

第二十九條　短期現役兵ニシテ兵役法第六十七條第二項ノ規定ニ該當スル者アルトキハ其ノ等級ヲ免ジ短期現役兵ノ兵籍ヨリ之ヲ除クベシ

前條第三項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ行フ處分ニ之ヲ準用ス

第三款　在營期間ノ短縮

第三十二條　兵役法第十二條ノ規定ニ依ル在營期間ノ短縮ハ主務大臣ニ於テ軍事上妨ゲナシト認ムルトキニ限リ之ヲ行フ其ノ短縮スベキ期間ハ概ネ四十日トス

第三十三條　兵役法第十三條ノ規定ニ依リ在營期間ヲ短縮スベキ兵種ハ輜重兵特務兵及補助衞生兵トス其ノ在營期間左ノ如シ

一　輜重兵特務兵　概ネ二月但シ自動車ノ運轉ニ從事スベキ者ニ在リテハ概ネ四月

二　補助衞生兵　三月

第三十四條　兵役法第十四條ノ規定ニ依リ在營期間ヲ短縮スル者ニ關シテハ主務大臣上裁ヲ經テ之ヲ定ム

兵役法第十四條第二項ニ規定スル課程ノ修得ノ程度ニ關シテハ陸軍大臣、同項ニ規定スル認定ニ關シテハ陸軍大臣及文部大臣之ヲ定ム

第三十五條　戰時又ハ事變ノ際其ノ他必要アル場合ニ於テハ兵役法第十四條竝ニ本令第三十二條及第三十三條ノ規定ニ依ル在營期間ノ短縮ヲ行ハズ又ハ其ノ短縮スベキ期間ヲ減ズルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三十六條ノ規定ヲ準用ス

第三章　徵集

第八款　徵集延期

第百條　左ニ揭ゲルモノハ兵役法第四十一條第一項ノ規定ニ依ル中學校ノ學科程度ト同等以上ト認ムル學校トス

一　師範學校、實業學校（尋常小學校卒業ヲ入學程度トスル修業年限五年又ハ之ト同等以上ノモノニ限ル）、高等學校、大學令ニ依ル大學豫科、專門學校、高等師範學校、大學令ニ依ル大學學部、臨時教員養成所、實業學校教員養成所及青年學校教員養成所但シ研究科、選科等ノ別科ヲ除ク

二　宮內大臣、文部大臣以外ノ各省大臣、朝鮮總督、臺灣總督、滿洲國駐劄特命全權大使又ハ樺太廳長官ノ所轄學校ニシテ前號ニ揭ゲル學校ニ準ズルモノ但シ研究科、選科等ノ別科ヲ除ク

三　前二號ニ揭ゲル以外ノ學校又ハ前二號ニ揭ゲル學校ノ別科ニシテ陸軍大臣及文部大臣ニ於テ認定ヲ爲シタルモノ

第百一條　兵役法第四十一條第一項ノ規定ニ依リ學校ニ在學スル者ニ付徵集ヲ延期シ得ベキ最高年齡左ノ如シ

學校ノ區分	最高年齡
中學校 高等學校專常科 前條第一號ニ揭ゲル實業學校	年齡二十二年
師範學校 高等學校高等科及專攻科 大學令ニ依ル大學豫科 修業年限三年又ハ四年ノ專門學校 高等師範學校（專攻科ヲ除ク） 前條第一號ニ揭ゲル教員養成所	年齡二十五年

修業年限五年以上ノ專門學校 高等師範學校專攻科 大學令ニ依ル大學學部	年齡二十七年

前條第二號又ハ第三號ニ該當スル學校ニ在學スル者ニ付徵集ヲ延期シ得ベキ最高年齡ハ其ノ入學資格及修業年限ニ應ジ前項ノ規定ニ準ジ陸軍大臣之ヲ定ム

第百三條　兵役法第四十三條第二項ノ規定ニ依ル滯在期間左ノ如シ

一　河北省、山東省、江蘇省、浙江省、安徽省、福建省、廣東省、廣西省、香港、澳門又ハ沿海州ニ在留スル者ニシテ徵集延期中ノ者　四十日

二　「サカレン」州、「ザバイカル」州以東「シベリア」（沿海州ヲ除ク）、內蒙古、山西省、河南省、湖北省、湖南省又ハ江西省ニ在留スル者ニシテ徵集延期中ノ者　六十日

三　其ノ他ノ地方ニ在留スル者ニシテ徵集延期中ノ者　九十日

第九款　短期現役兵ニ關スル特例

第百四條　短期現役兵徵集ノ爲ノ聯隊區徵兵官ハ聯隊區內道府縣每ニ聯隊區司令官及兵事官（北海道廳及樺太廳ニ在リテハ之ニ相當スル者）ヲ以テ之ニ充テ聯隊區司令官ヲ首座トシ當該事務ヲ執行ス

第百五條　短期現役兵ノ身體檢査ニ付テハ聯隊區徵兵副醫官ヲ置カザルコトヲ得

第百六條　短期現役兵徵集ノ事務ヲ行フベキ聯隊區徵兵署ハ第六十一條ノ規定ニ拘ラズ便宜ノ地ニ之ヲ設ク

前項ノ聯隊區徵兵署ハ地方長官之ヲ設置ス

第百七條　短期現役兵トシテ服役スベキ者ニ對スル徵兵檢査ハ徵兵適齡又ハ其ノ役ニ於テ師範學校ヲ卒業スル者ニ對シテハ卒業ノ年又ハ其ノ翌年ニ於テ、徵兵適齡前ニ於テ師範學校ヲ卒業シタル者ニ對シテハ徵兵適齡ノ年ニ於テ之ヲ行フ但シ師範學校卒業後引續キ兵役法第四十一條第一項ノ規定ニ依リ徵集ヲ延期セラルル者ニ對シテハ其ノ事由止ム年又ハ其ノ翌年ニ於テ之ヲ行フ

前項ニ規定スル徵兵檢査ノ時期、短期現役兵トシテ服役スベキ者ノ調査及徵兵檢査通達書ノ交付ニ關シテハ陸軍大臣之ヲ定ム

第百八條　短期現役兵トシテ服役スベキ者ニシテ朝鮮、臺灣、關東州、樺太、滿洲國又ハ第百三條第一號ニ揭グル地域ニ在ル者ノ調査ハ朝鮮總督府道知事、臺灣總督府總務長官、關東局總長、樺太廳長官、大使又ハ領事官（明治三十二年法律第七十號第十九條ニ規定スル領事官ヲ謂フ以下之ニ同ジ）ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第四章　召集

第百二十條ノ二　青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ヲ修メタル陸軍ノ第一補充兵（前條第二項但書ニ規定スル者ヲ除ク）ニ對シテハ兵役法第五十七條ノ規定ニ依ル召集ハ之ヲ爲サズ但シ青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ヲ修メザル第一補充兵ヲ以テ當該聯隊區ニ於ケル兵種別ノ召集人員ヲ充足シ得ザル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第五章　雜則

第百三十九條　兵役法第七十三條ノ規定ニ依ル指定ハ關東州及滿洲國ニ在リテハ陸軍大臣ハ文部大臣及大使ト協議シ其ノ他ノ地ニ在リテハ海軍大臣ハ外務大臣及文部大臣ト協議シテ之ヲ告示ス

附　則　（昭和十年勅令第四十號）

本令ハ昭和十年法律第二十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス　（昭和十年四月一日勅令第百三十八號）

〔青教〕

本令施行前青年訓練所ノ訓練又ハ之ト同等以上ト認メラレタル訓練ヲ修了シタル者ノ在營期間短縮ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

附　則　（昭和十三年勅令第百三十八號）

本令ハ昭和十三年四月十日ヨリ之ヲ施行ス

但シ第三十一條、第三十二條、第三十四條及第三十五條ノ改正規定、第三十三條ノ改正規定中衝生部ノ兵ニ關スル部分、第七十五條ノ改正規定中工作兵ニ關スル部分竝ニ第百二十條ノ二ノ規定ハ昭和十三年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ幹部候補生タル者ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第百二十條ノ二ノ規定ハ昭和十二年以前ニ於テ第一補充兵役ニ編入セラレタル者ニ之ヲ適用セズ

當分ノ內陸軍大臣ハ步兵又ハ戰車兵ヲ工機兵ト爲スコトヲ得

●兵役法施行令第三十一條第三項ノ規定ニ依ル認定ニ關スル件

昭和十年六月五日
陸軍省
文部省令第一號

兵役法施行令第三十一條第三項ノ規定ニ依ル認定ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　左ノ各號ニ揭グルモノハ青年學校ノ課程ト同等以上ト認ムル課程トス

一　地方長官ニ於テ青年學校ノ課程ト同等以上ノ課程ト認メタル課程

二　昭和四年朝鮮總督府令第八十九號青年訓練所規程ニ依ル青年訓練所ノ課程（同規程第十三條第二項ノ規定ニ依ルモノヲ除ク）及同規程第十五條ノ規定ニ依リ朝鮮總督ニ於テ之ト同等以上ト認メタル課程

三　昭和六年臺灣總督府令第七十三號ニ依ル公立ノ青年訓練施設ノ課程及臺灣總督ニ於テ之ト同等以上ト認メタル課程

四　滿洲國駐劄特命全權大使又ハ關東州廳長官ニ於テ昭和十年勅令第九十一號施行前ニ於テ關東州及南滿洲鐵道附屬地青年訓練所規則第八條ノ規定ニ依リ青年訓練所ノ課程ト同等以上ト認メラレタル課程ハ之ヲ本令第一條第四號ニ揭グル課程ト看做ス

五　樺太青年訓練所規程ニ依ル青年訓練所ノ課程及同規程第九條ノ規定ニ依リ樺太廳長官ニ於テ之ト同等以上ト認メタル課程

六　昭和十年外務省令第七號ニ依ル在外青年學校ノ課程

七　現役將校ヲ配屬シタル學校ノ課程

八　現役將校ヲ配屬セザル官立又ハ公立ノ商船專門學校及商船學校ノ課程

九　陸軍大臣及文部大臣ニ於テ指定シタル學校ノ課程

第二條　前條各號ニ揭グル課程中地方長官、朝鮮總督、臺灣總督、滿洲國駐劄特命全權大使、關東州廳長官又ハ樺太廳長官ニ於テ認定シタルモノハ其ノ認定ニ關シ課程ノ認定ヲ受ケタル學校所在地所管ノ師團長、臺灣軍司令官又ハ關東軍司令官ニ協議シタルモノタルベシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

青年學校令施行前ニ於テ青年訓練所規程第八條ノ規定ニ依リ青年訓練所ノ課程ト同等以上ト認メラレタル課程ハ之ヲ本令第一條第一號ニ揭グル課程ト看做ス

昭和十年勅令第九十一號施行前ニ於テ關東州及南滿洲鐵道附屬地青年訓練所規則第八條ノ規定ニ依リ青年訓練所ノ課程ト同等以上ト認メラレタル課程ハ之ヲ本令第一條第四號ニ揭グル課程ト看做ス

●青年學校ノ課程ト同等以上ト認ムル學校指定

昭和十年十一月十三日
陸軍省
文部省告示第七號

昭和十年陸軍文部省令第一號第一條第九號ノ規定ニ依リ指定スルコト左ノ如シ

左ニ揭グル學校ノ課程ハ青年學校ノ課程ト同等以上ト認ムル課程トス

青島學院實業學校

◉兵役法施行規則（抄錄）

昭和二年十一月三十日
陸軍省令第二十四號

追加　昭和四年三月陸軍省令第二號、九月第一三號、六年二月第二號、八年一月第一號、四月第一三號、一一月第三一號、一〇年三月第三號、六月第六號、九月第一四號、一一月第二〇號、一一年七月第一七號、一二年二月第一號、八月第三三號、一〇月第五二號、一二月第六五號、一三年二月第六號、三月第一三號改正

兵役法施行規則左ノ通定ム

兵役法施行規則

第三編　服役

第一章　短期現役兵

第四十六條　陸軍ニ於ケル短期現役兵ノ服役スベキ部隊ハ左ノ各號ノ區分ニ依ル

一　內地ニ在ル者　卒業シタル師範學校所在地又ハ教職ニ在ル地ノ師管內ニ於テ當該師團長ノ指定スル歩兵聯隊但シ第一師管內歩兵聯隊ニ於テ服役スベキ人員ノ概ネ半數ハ近衞師團長ノ指定スル近衞師團歩兵聯隊

二　朝鮮又ハ間島（間島省ヲ謂フ以下同ジ）ニ在ル者　卒業シタル師範學校所在地又ハ教職ニ在ル地ニ從ヒ江原道、咸鏡南道、咸鏡北道及間島ニ在リテハ第十九師團長ノ指定スル同師團歩兵聯隊其ノ他ニ在リテハ第二十師團長ノ指定スル同師團歩兵聯隊但シ教育等ノ關係上必要アルトキハ此ノ區分ヲ變更スルコトアルベシ

三　臺灣ニ在ル者　臺灣軍司令官ノ指定スル臺灣歩兵聯隊

四　關東州、滿洲國（間島ヲ除ク）又ハ其ノ地附近ニ在ル者　第二十師團長ノ指定スル同師團歩兵聯隊

五　支那ニ在ル者　第十二師團長ノ指定スル同師團歩兵聯隊

六　其ノ他ノ地ニ在ル者　內地ニ在ル者ニ準ズ

前項第一號但書ノ規定ニ依リ近衞師團ニ於テ服役セシムベキ者ニ關シテハ第一師團長ハ近衞師團長ト協議ノ上之ヲ定ムベシ

第四十七條　短期現役兵トシテ現役中小學校ノ教職ニ就ク〃ノ資格ヲ失ヒタル者アルトキハ左ノ如ク取扱フベシ

一　地方長官ハ其ノ人名及事由ヲ本人ノ服役スル軍隊所管ノ師團長又ハ鎭守府司令長官ニ通知ス

二　師團長前號ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ本人ノ服役スル聯隊長ニ通知ス

三　聯隊長又ハ鎭守府司令長官ハ令第二十九條ノ規定ニ依リ處分シタルトキハ本籍地ノ聯隊區司令官ニ通知シ聯隊長ニ在リテハ別ニ師團長ニ報告ス

第二章　在營期間ノ短縮

第五十一條　法第十四條ノ規定ニ依ル在營期間短縮ノ爲必要ナル青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ノ修得程度左ノ如シ

一　青年學校又ハ昭和十年外務省令第七號在外青年學校令ニ依ル在外青年學校ノ本科又ハ本科及研究科ニ四年以上在學シ其ノ課程ニ付修身及公民科百時、普通學科及職業科ヲ通ジ二百五十時、教練科三百五十時以上ヲ修メタルコト

二　地方長官ニ於テ青年學校ノ課程ト同等以上ト認メタル課程、昭和四年朝鮮總督府令第八十九號青年訓練所規程第十五條ノ規定ニ依リ朝鮮總督ニ於テ同規程ニ依ル青年訓練所ノ課程ト同等以上ト認メタル課程、滿洲國駐劄特命全權大使若ハ關東州廳長官ニ於テ昭和十年勅令第九十一號ニ依ル青年學校ノ課程ト同等以上ト認メタル課程又ハ樺太青年訓練所規程第九條ノ規定ニ依リ樺太廳長官ニ於テ同規程ニ依ル青年訓練所ノ課程ト同等以上ト認メタル課程ヲ年齡十四年（每年三月三十一日ヲ基準トス）以上ニ於テ四學年以上修了シ教練三百五十時以上ヲ修メタルコト

三　昭和四年朝鮮總督府令第八十九號青年訓練所規程ニ依ル青年訓練所ノ課程（同規程第十三條第二項ノ規定ニ依ルモノヲ除ク）、昭和六年臺灣總督府令第七十三號ニ依ル公立ノ青年訓練施設ノ課程若ハ臺灣總督

ニ於テ之ト同等以上ト認メタル課程又ハ樺太青年訓練所規程ニ依ル青年訓練所ノ課程ニ付概ネ四年以上訓練ヲ受ケ修身及公民科百時、普通學科及職業科ヲ通ジ二百五十時、教練科三百五十時以上ヲ修メタルコト

四　現役將校ヲ配屬シタル尋常小學校卒業程度ヲ入學資格トスル學校ノ第四學年（高等小學校第二學年修了程度ヲ入學資格トスル學校ニ在リテハ第二學年其ノ他之ニ準ズ）修了程度以上ノ教練ヲ修メタルコト

五　現役將校ヲ配屬セザル尋常小學校卒業程度ヲ入學資格トスル公立商船學校ノ第四學年（高等小學校卒業程度ヲ入學資格トスル學校ニ在リテハ第二學年其ノ他之ニ準ズ）修了程度以上ノ課程ヲ修メタルコト

六　陸軍大臣及文部大臣ニ於テ青年學校ノ課程ト同等以上トシテ指定シタル學校ニ付陸軍大臣ニ於テ告示シタル程度ノ課程ヲ修メタルコト

七　前各號ニ揭グル課程ニ付其ノ二以上ノ課程ヲ修メタル期間ヲ通算シ概ネ四年以上ニ達シ其ノ間ニ於テ第一號ノ科目ニ該當スル科目ニ付各同號ニ規定スル時數以上ヲ修メタルコト

第五十二條　前條ニ規定スル程度ノ課程ヲ修得シタル者ニシテ在營期間ヲ短縮セラルベキモノハ當該課程ノ修得ニ關シ學校長又ハ之ニ準ズベキ者ノ署名捺印シタル證明書ヲ有スル者タルコトヲ要ス但シ前條第四號ノ教練ヲ修メタル者ニ在リテハ當該學校ノ配屬將校（陸軍現役將校學校配屬令又ハ大正十四年勅令第二百四十六號ニ依リ學校ニ配屬シタル現役將校ヲ謂フ以下同ジ）ノ署名捺印シタルモノトス

第五章　在鄉軍人ノ異動

第六十二條ノ二　服役第一年次ノ第一補充兵ニシテ青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ヲ修得シタル者ハ第五十二條ノ規定ニ依ル證明書ヲ添ヘ其ノ旨本籍地ノ市町村長ヲ經テ四月三十日迄ニ到著スル如ク本籍地ノ聯隊區司令官ニ屆出ヅベシ但シ醫師法第一條第一項各號ノ一ニ該當スル者又ハ教育召集ニ應セシコトヲ志願シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

書面ヲ以テスル場合ニ於ケル屆出ノ樣式左ノ如シ　（用紙適宜）

青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程修得ノ件屆

一　本籍地　府縣郡市區町村字番地
二　現住地　何々
三　兵種　何兵

右及屆出候也

年　月　日

本人氏　　名印

何聯隊區司令官殿

第六十五條ノ三　歸休兵、豫備兵、後備兵又ハ第一補充兵ニシテ醫師法第一條第一項各號ノ一ニ該當スル者ハ該當スルニ至リタル日ヨリ十四日以內ニ學校卒業證明書、合格證書寫又ハ醫師法第一條第一項第三號ニ該當スル事實ヲ證明スルニ足ル書類ヲ添ヘ其ノ旨本籍地ノ市町村長ヲ經テ本籍地ノ聯隊區司令官ニ屆出ヅベシ

歸休兵、豫備兵、後備兵又ハ第一補充兵ニシテ藥劑師免許證、獸醫師免許證又ハ自動車運轉免許證ヲ下附セラレタル者ハ免許證ノ下附ヲ受ケタル日ヨリ十四日以內ニ免許證ノ寫ヲ添ヘ其ノ旨本籍地ノ市町村長ヲ經テ本籍地ノ聯隊區司令官ニ屆出ヅベシ第二補充兵ニシテ自動車運轉免許證ヲ下附セラレタル者ニ付亦同ジ

朝鮮、臺灣、關東州又ハ滿洲國ニ在留スル者ニ在リテハ前二項ノ屆出ハ陸軍召集規則ノ定ムル當該地域ノ市町村長ニ該當スル者ヲ經由シ在留地ヲ管轄スル師團長又ハ軍司令官ニ之ヲ爲スベシ

書面ヲ以テスル場合ニ於ケル屆出ノ樣式左ノ如シ　（用紙適宜）

藥劑師（獸醫師又ハ自動車運轉免許證下附者）屆

（醫師法第一條第一項第何號該當者）

一　本籍地　府縣郡市區町村字番地
二　現住地　何々
三　徵集年、役種、兵種、等級
右及屆出候也

年　月　日

何聯隊區司令官殿

本人　氏　　名印

第四編　徵集

第八章　聯隊區徵兵署ヘノ出頭

第百十六條　徵兵檢查ヲ受クベキ者通達書又ハ徵兵檢查ノ通達ヲ受ケタルトキハ通達書ヲ携ヘ指定ノ日時ニ徵兵署ニ出頭スベシ但シ通知ヲ受ケタル者ニシテ通達書ノ交付ヲ受クル爲到著遲延ノ虞アル場合ニ在リテハ通達書ヲ携フルコトヲ要セズ

第百十七條　聯隊區徵兵署ニ出頭ヲ命セラレタル者ニシテ青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程修得ニ關スル證明書又ハ學業其ノ他醫師、齒科醫師、藥劑師、獸醫師、自動車運轉手、航空機乘員等ノ職業ニ關スル卒業證書、修業證書、免許證、技倆證明書等ヲ有スル者ハ聯隊區徵兵署ニ出頭ノ際之ヲ携行スベシ

第十六章　現役兵入營

第二款　現役兵ノ交付及受領

第二百三十五條　左記上欄ニ揭グル兵員ハ先ヅ其ノ下欄ノ地ニ集合セシメ受領員引率シテ入營部隊ニ到ラシムル但シ第二百五十二條ニ規定スル單獨入營ノ手續ヲ爲ス者ハ此ノ限ニ在ラズ

第十九師團、朝鮮軍司令官直轄部隊又ハ飛行第九聯隊ニ入營スル兵員	大阪
第二十師團、旅順重砲兵聯隊又ハ滿洲國ニ在ル騎兵部隊（師團ニ屬スル部隊及熱河省ニ在ル部隊ヲ除ク）ニ入營スル兵員	神戸
臺灣若ハ支那ニ在ル部隊又ハ飛行第六聯隊ニ入營スル兵員	下關
第六、第十二師管ヨリ徵集スル兵員ニシテ熱河省及滿洲省ニ在ル部隊ニ入營スル兵員	門司
關東州又ハ滿洲國ニ在ル部隊（師團及本表中別ニ定ムル部隊ヲ除ク）ニ入營スル兵員	廣島

現役兵ノ受領員ニ付テハ附表第三ニ依ル

第四款　青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ヲ修メタル者及在外部隊入營者ノ特別心得

第二百五十條　現役兵（補闕入營者ヲ含ム）トシテ入營スベキ者ハ入營ノ際左ノ書類ヲ携行スベシ

一　青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ニ付陸軍大臣ノ定ムル程度ノ課程ヲ修得シタル者ハ其ノ證明書

二　學校敎練ノ檢定ニ合格シタル者ハ當該學校ノ配屬將校ノ交付スル合格證明書（陸軍補充令施行規則第七十九條第一項ノ規定ニ依リ聯隊區司令官ニ合格證明書ヲ差出シタル者ヲ除ク）

第二百五十一條　朝鮮、臺灣、關東州、滿洲國又ハ支那ニ在ル部隊ニ於テ服役スルコトヲ希望スル者ハ本籍地ノ聯隊區司令官ニ宛テタル左ノ樣式ノ願書ヲ身體檢查ヲ受クベキ徵兵署ニ在ル聯隊區司令官又ハ令第八十一條ノ規定ニ依ル檢查員ニ差出スベシ但シ已ムヲ得ザル事由アルトキハ八月十五日迄ニ本籍地ノ市町村長ヲ經テ本籍地ノ聯隊區司令官ニ差出スベシ

〔青敎〕

在外部隊服役願

左記部隊ニ於テ服役致度候ニ付及願出候也

左　記

何　隊（朝鮮ニ在ル部隊等）

本籍地　府縣郡市區町村番地
現在地　何々

年　月　日　　本人　氏　　名印

同　（本人志願ノトキ年齡二十年未滿ノ者ニ限ル）　戶主　氏　　年月日生　名印

同　（同右）　親權者又ハ後見人　氏　　名印

何聯隊區司令官殿

（用紙適宜）

第二百五十二條　第二百三十五條ノ規定ニ依リ集合地ニ集合スベキ兵員ニシテ入營地附近ニ居住スル爲集合地ニ到ルヲ不便トスル者ハ集合スルコトナク直ニ入營スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ集合地到著期日概ネ十四日前迄ニ單獨入營屆ヲ本籍地ノ市町村長ヲ經テ現役兵證書ヲ交付セラレタル聯隊區司令官ニ差出スベシ其ノ屆書ノ樣式左ノ如シ

第七章　兵事

〔青敎〕

單獨入營屆

本籍地　府縣郡市區町村字番地
現在地　何々

何兵第何聯（大）隊入營者　氏　　名

右單獨入營可致候ニ付及屆出候也

年　月　日　　右本人　氏　　名印

何聯隊區司令官殿

（用紙適宜）

前項ノ屆書ヲ受理シタル聯隊區司令官ハ單獨入營者ノ本籍地、現在地及氏名ヲ入營期日迄ニ入營スベキ部隊長ニ通知スベシ

第二十章　徵集延期

第五款　在學ノ爲ノ徵集延期

第三百十四條　令第百條第二號ニ規定スル學校ニシテ中學校令、師範敎育令、實業學校令、高等學校令、專門學校令又ハ大學令ニ依ルモノト爲シタル學校ニ於ケル修業年限ト徵集ヲ延期シ得ベキ最高年齡ノ關係ニ付テハ令第百一條第一項ニ規定スルモノニ同ジ

前項ニ規定スル學校以外ノ學校ニ於ケル徵集ヲ延期シ得ベキ最高年齡ハ別ニ之ヲ公示ス

第三百十五條　法第四十一條第一項ノ規定ニ依リ在學ノ故ヲ以テ初メテ徵集ノ延期ヲ願ハントスル者ハ本籍地ノ聯隊區徵兵官ニ宛テタル左ノ樣式ノ願書ニ學校長（之ニ準ズル者ヲ含ム）ノ在學證明書ヲ添ヘ其ノ年四月十五日迄ニ到著スル如ク本籍地ノ市町村長ニ差出スベシ但シ四月十五日迄ニ在學證明書ヲ差出シ難キ者ハ願書ニ其ノ旨ヲ附記シテ差出シ置キ在學證明書ハ之ヲ五月十五日迄ニ差出スコトヲ得

在學徵集延期願

一　本　人　氏名及出生年月日
二　本　籍　地　府縣郡市區町村字番地
三　現　住　地　何　々
四　在學スル學校　何學校第　學年
五　入學ノ年月日　何年何月何日

右ノ通在學中ニ付兵役法第四十一條第一項ニ依リ徵集延期相成度候也

年　月　日

本人　氏　　名印

何聯隊區徵兵官殿

（用紙適宜）

市町村長ハ前項ノ願書ヲ受ケタルトキハ之ニ奥書證印ヲ爲シ聯隊區徵兵官ニ差出スベシ

第三百十六條　前條ノ在學證明書ハ左ノ事項ヲ記載シ學校長（之ニ準ズル者ヲ含ム）ニ於テ其ノ發行ノ年月日ヲ記入シ署名捺印シタルモノナルコトヲ要ス

一　本人ノ本籍地、現住地、氏名及出生年月日
二　願出ノ時本人ノ屬スル學科（學部等ヲ含ム）及學年
三　入學ノ年月日
四　本人ノ修學ノ概況（修學ノ實アリヤ否ヲ明ニシ休學ノ者又ハ原級ニ止マリタル者ニ在リテハ其ノ事由、期間等ヲ記ス）
五　本人ノ卒業又ハ修了豫想ノ年月日

第三百十七條　法第四十一條ノ規定ニ依リ既ニ徵集ヲ延期セラレタル者引續キ法第四十一條及令第百條ニ掲グル學校ニ在學スルトキハ每年新ニ在學スル學校長ノ在學證明書（前條ニ規定スルモノニ準ジ爾後ノ在學ヲ證明シタルモノトス）ノ交付ヲ受ケ四月十五日迄ニ到著スル如ク本籍地ノ市町村長ヲ經テ本籍地ノ聯隊區徵兵官ニ差出スベシ

第三百十八條　法第四十一條及令第百一條並ニ第三百十五條ノ規定ニ依リ徵集ヲ延期セラレ居ル者其ノ事由止ミタルトキハ（一時事故止屆ヲ差出シタル後全ク事故止ミタル者ヲ含ム）十四日以內ニ書面ヲ以テ本籍地ノ市町村長ヲ經テ本籍地ノ聯隊區徵兵官ニ屆出ヅベシ其ノ屆書ノ樣式ハ第三百三十四條ニ規定スルモノニ準ズ

市町村長前項ノ屆書ヲ受ケタルトキハ速ニ之ヲ聯隊區徵兵官ニ差出スト共ニ法第四十一條第三項、同第四項及第四百一條ノ規定ニ依リ徵兵檢查ヲ受ケシムベキ手續ヲ爲スベシ

第三百二十條　法第四十一條第三項但書ノ規定ニ該當スル者ハ一時事故止屆ヲ四月十五日迄（四月以後卒業スル者ニ在リテハ卒業ノ日ヨリ十四日以內）ニ本籍地ノ市町村長ヲ經テ本籍地ノ聯隊區徵兵官ニ差出スベシ但シ四月十五日迄ニ第三百十五條及第三百十六條ニ規定スル書類ヲ差出ス者ハ該書類ニ前學校長ノ卒業證明書（卒業年月日ヲ明ニスルヲ要ス）ヲ添ヘ差出シ一時事故止屆ハ之ヲ差出スコトヲ要セズ

前項ノ一時事故止屆ノ樣式左ノ如シ

（用紙適宜）

一時事故止屆

一　本　人　氏名及出生年月日
二　本籍地　府縣郡市區町村字番地
三　現住地　何　々
四　卒業學校名及卒業年月日
五　入學希望學校、入學試驗期日、豫定入學期日

右一時事故止ミタルニ付及屆出候也

年　月　日

本人　氏　　名印

何聯隊區徵兵官殿

〔青欵〕

前項ノ屆書ニハ卒業シタル學校長ノ證明書及入學セントスル學校長ヨリ願書受理ニ關スル證明書ノ交付ヲ受ケ之ヲ添附スベシ

第三百二十一條　前條ノ規定ニ依リ一時事故止屆ヲ差出シタル者法第四十一條第三項但書ニ規定スル期間內ニ他ノ學校ニ入學シタルトキハ入學ノ日ヨリ十四日以內ニ第三百十五條及第三百十六條ニ規定スル書類ヲ差出スベシ

第三百二十二條　在學ニ因ル徵集延期ノ事由ハ法第四十一條第三項但書ノ規定ニ該當スル場合ヲ除クノ外轉校ニ因リ消滅ス但シ轉校カ十四日以內ニ行ハレタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ規定ニ該當スル者ハ轉校ヲ終リタル日ヨリ十四日以內ニ左ノ樣式ノ轉校屆ニ新舊學校長ノ入學及退學ニ關スル證明書ヲ添ヘ本籍地ノ市町村長ヲ經テ本籍地ノ聯隊區徵兵官ニ差出スベシ

（用紙適宜）

轉校屆

一　本　人　氏名及出生年月日
二　本籍地　府縣郡市區町村字番地
三　現住地　何　々
四　初メテ徵集ヲ延期セラレタル年　何年
五　退　學　何年何月何日何學校退學
六　入　學　何年何月何日何學校入學

右ノ通轉校シタルニ付及屆出候也

年　月　日

本人　氏　　名印

何聯隊區徵兵官殿

第三百二十三條　法第四十一條ニ規定スル學校ニ學籍ヲ有スルモ修學ノ實ナキ者ニ對シテハ法第四十一條第一項ノ規定ニ依ル徵集延期ヲ爲スノ限ニ在ラザルモノトス

第三百二十四條　法第四十一條第一項ノ規定ニ依リ徵集延期ヲ許可シタル者ニ對シテハ其ノ年徵兵檢查ヲ行ハズ

第三百二十五條　市町村長ハ法第四十一條ノ規定ニ依ル徵集延期者ニ付徵集延期者名簿（一人一葉トス）ヲ調製シ市役所又ハ町村役場ニ備置クベシ

前項ノ名簿ハ市町村長聯隊區徵兵署ニ携行シ聯隊區徵兵官ノ閱覽ニ供スベシ

第一項ノ徵集延期者名簿ノ樣式左ノ如シ

法第四十一條徵集延期者名簿

（用紙適宜）

本籍地	現住地	氏名	出生年月日	要	延期ノ狀況
					延期年月日　在學スル學校　摘
					年　月　日　何　學校
					年　月　日　何　學校　前學校卒業後六月以內ニ入學
					年　月　日　何　學校　年月日何學校退學同日入學

第六欵　帝國外ノ地ニ在ル爲ノ徵集延期

第三百三十四條　法第四十二條ノ規定ニ依リ徵集ヲ延期セラレタル者徵集

延期ノ事由止ミタルトキハ十四日以内ニ徴集延期事故止届ヲ本籍地ノ市町村長ニ差出スベシ其ノ届書ノ様式左ノ如シ

（用紙適宜）

在帝國外徴集延期事故止届

何年何月何日ヲ以テ兵役法第四十二條ニ依ル徴集延期ノ事由止ミタルニ付及届出候也

年　月　日　　本籍地　府縣郡市區町村字番地
　　本人　氏　　名印
　　年月日生

何聯隊區徴兵官殿

第二十四章　短期現役兵徴集ニ關スル特例

第一款　徴兵檢査

第三百六十八條　短期現役兵トシテ服役スベキ者ノ徴兵檢査ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ行フ

一　徴兵適齢又ハ其ノ後ニ於テ師範學校ヲ卒業スル者ハ卒業スル年（四月以後卒業スル者ハ翌年）ノ二月上旬

二　徴兵適齢前ニ於テ師範學校ヲ卒業シタル者ハ徴兵適齢年ノ二月上旬

三　師範學校卒業後引續キ法第四十一條第一項ノ規定ニ依リ徴集ヲ延期セラルル者ハ其ノ事由止ム年（四月以後事由止ム者ハ翌年）ノ二月上旬

四　前各號ニ該當セザル者ニシテ徴兵檢査ヲ受クベキ年ノ二月上旬

第三百六十九條　短期現役兵徴集ノ事務ヲ行フベキ聯隊區徴兵署ハ聯隊區内道府縣毎ニ師範學校所在地ニ之ヲ設ク但シ必要アル場合ニ於テハ聯隊區内ノ他ノ便宜ノ地ニ之ヲ設クルコトヲ得

朝鮮、臺灣、關東州、滿洲國又ハ令第百三條第一號ニ掲グル地域ニ在ル者ニシテ短期現役兵トシテ服役スベキ者ノ身體檢査ノ爲ニハ聯隊區徴兵署ヲ設クルコトナク第百八十一條ノ規定ニ依リ身體檢査ヲ統轄スル區域毎ニ師團司令部又ハ軍司令部所在地ニ檢査場ヲ設ク但シ必要アル場合ニ於テハ師團司令部又ハ軍司令部所在地以外ノ地ニ之ヲ設クルコトヲ得

前項ノ檢査場ハ第百八十一條ノ規定ニ依リ身體檢査ヲ統轄スル師團長又ハ軍司令官之ヲ設備ス

第三百七十條　短期現役兵徴集ノ事務ヲ行フベキ聯隊區徴兵署開設ノ日割ハ聯隊區徴兵官ニ於テ之ヲ公示シ且關係アル官廳及學校長ニ通知スベシ

前條第二項ニ規定スル檢査場ノ開設日割ハ第百八十一條ノ規定ニ依リ身體檢査ヲ統轄スル師團長又ハ軍司令官之ヲ定メ其ノ隷下ノ檢査員ニ之ヲ指示シ且關係アル官廳及學校長ニ通知スベシ

第三百七十一條　朝鮮、臺灣、關東州、滿洲國又ハ令第百三條第一號ニ掲グル地域ニ於テ行フ短期現役兵徴集ノ爲身體檢査ヲ爲スベキ檢査員及之ニ屬スル職員ノ任命其ノ他之ニ關スル事項ニ付テハ第百九十四條、第百九十七條第一項及第二百四條ノ規定ヲ準用ス

第三百七十二條　短期現役兵トシテ徴集スベキ者ノ身體檢査ハ本籍ノ如何ヲ問ハズ第三百六十九條ニ規定スル聯隊區徴兵署又ハ檢査場開設ノ區域毎ニ當該區域内ニ居住スル者ニ對シ同條ニ規定スル聯隊區徴兵署又ハ檢査場ニ於テ之ヲ行フ

第三百七十三條　短期現役兵トシテ服役スベキ者ノ聯隊區徴兵署ヘノ出頭ハ第三百六十九條第一項ニ規定スル聯隊區徴兵署開設ノ區域毎ニ地方長

官之ヲ命ズ但シ必要アル場合ニ於テハ市町村長又ハ師範學校長ヲシテ之ヲ傳達セシムルコトヲ得

内地以外ノ地ニ於ケル短期現役兵トシテ服役セシムベキ者ノ檢査場ヘノ出頭ハ第三百八十三條ノ規定ニ依リ調査シタル者之ヲ命ズ

第三百七十四條　前條ノ規定ニ依リ出頭ヲ命セラレタル者疾病其ノ他避クベカラザル事故ニ因リ身體檢査ニ出頭シ難キ場合ニ於ケル願届ハ直接聯隊區徴兵官又ハ檢査員宛之ヲ爲スベシ

第三百七十五條　短期現役兵トシテ服役スベキ者ニシテ海軍ニ於テ服役センコトヲ希望スル者又ハ服役部隊ニ付希望アル者ハ身體檢査ノ際聯隊區司令官又ハ檢査員ノ携行スル短期現役兵服役部隊希望者名簿（其ノ様式ハ適宜トス）ニ自ラ署名捺印スベシ

前項ノ規定ニ依リ海軍ニ於テ服役スルコトヲ希望スル者所要人員ヲ超過シタルトキハ抽籤ニ依リ其ノ人員ヲ定ム其ノ抽籤ノ方法ハ適宜トス

第二款　調査及名簿

第三百七十六條　市町村長ハ毎年十二月一日調ヲ以テ左ノ人員ヲ調査スベシ

一　當該市町村内ノ小學校ノ教職ニ在ル者ニシテ其ノ翌年短期現役兵トシテノ徴兵檢査ヲ受クベキ者（當該市町村ニ本籍ヲ有スルト否トヲ問ハズ）

二　當該市町村ニ本籍ヲ有シ徴兵適齢前師範學校ヲ卒業シ小學校ノ教職ニ在ラザル者ニシテ其ノ翌年第三百六十八條第二號ノ規定ニ依リ短期現役兵トシテノ徴兵檢査ヲ受クベキ者

三　當該市町村ニ本籍ヲ有シ前各號ニ該當セザル者ニシテ其ノ翌年短期現役兵トシテノ徴兵檢査ヲ受クベキモノ但シ小學校ノ教職ニ在ル者及師範學校ニ在學スル者ヲ除ク

前項第二號又ハ第三號ニ該當スル者ハ徴兵檢査ヲ受クベキ年ノ前年十一月中ニ第二號ニ該當スル者ニ在リテハ徴兵適齢届ニ準ズル届ヲ、第三號ニ該當スル者ニ在リテハ其ノ現住地ノ届ヲ本籍地ノ市町村長ニ差出スベシ在留者ニ在リテハ同時ニ第三百八十三條第一號ノ規定ニ依リ調査スル諸官ニモ亦差出スモノトス

第三百七十八條　地方長官ハ毎年十二月一日調ヲ以テ當該管内ノ師範學校ニ在學スル者ニシテ其ノ翌年徴兵檢査ヲ受クベキモノヲ調査スベシ

第四款　入營

第三百七十九條　短期現役兵トシテ服役スベキ者ノ入營期日ハ徴兵檢査ヲ受ケタル年（四月一日以後師範學校ヲ卒業スル者ハ卒業ノ年ノ翌年）ノ四月一日トス

第三百七十一條　海軍ニ於テ服役セシムベキ短期現役兵ノ人員ハ海軍大臣ノ移牒ニ基キ毎年陸軍大臣之ヲ各師管ニ配當シ師團長ハ師管ニ配當セラレタル人員ヲ聯隊區ニ配當ス

第三百九十二條　師團長ハ短期現役兵ヲ入營セシムベキ隷下ノ歩兵隊ヲ定メ毎年一月十五日迄ニ他ノ各師團長ニ通知スベシ

前項ノ通知ニ當リテハ本人ノ居住スル聯隊區又ハ在留地ト服役部隊トノ關係及入營時刻ヲ明示スベシ

臺灣軍司令官ハ前二項ノ規定ニ準ジ各師團長ニ通知スベシ

第三百九十三條　師團長ハ各師團短期現役兵服役部隊表ヲ作リ毎年一月三十一日迄ニ之ヲ聯隊區司令官ニ交付スベシ

第三百九十四條　本籍地ノ聯隊區司令官ハ短期現役兵徴集ノ處分ヲ爲シタルトキハ第四十六條ノ規定及前條ノ表ニ基キ本人ノ希望ヲ參酌シ短期現役兵證書ニ所要ノ記入ヲ爲シ地方長官又ハ令第百八條ニ掲グル諸官ニ送付スベシ

地方長官及令第百八條ニ揭グル諸官ハ短期現役兵證書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ本人ニ交付スベシ

第三百九十五條　聯隊區司令官ハ短期現役兵トシテ徵集シタル者ノ人名ヲ本籍地ノ市町村長ニ通知スベシ

市町村長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ速ニ身上明細書及戶籍抄本ヲ調製シ三月二十日迄ニ通知ヲ受ケタル聯隊區司令官ニ送付スベシ

短期現役兵壯丁名簿ハ短期現役兵證書調製後成ルベク速ニ、身上明細書及戶籍抄本ハ其ノ入營期日迄ニ聯隊區司令官ヨリ本人ノ服役スル部隊ノ長ニ送付スベシ

第五款　短期現役兵トシテノ服役ト一般服役トノ關係

第三百九十六條　師範學校ヲ卒業シ引續キ他ノ上級ノ學校ニ在學スル者ニ對シテハ法第四十一條ノ規定ニ依リ徵集ヲ延期スルコトヲ妨ゲズ徵兵適齡前師範學校ヲ卒業シ徵兵適齡ノ年現ニ他ノ上級ノ學校ニ在學シ居ル者ニ付亦同ジ

第三百九十七條　前條ノ規定ニ依リ徵集ヲ延期セラレタル者ト雖モ法第十條ニ規定スル資格ヲ具フル者ハ短期現役兵トシテ服役セシムルモノトス

第三百九十八條　法第六十七條第一項第一號ノ規定ニ該當スル者アルトキハ地方長官又ハ令第百八條ニ揭グル諸官ハ速ニ之ヲ本人本籍地ノ聯隊區司令官ニ通知スベシ

法第六十七條第一項第二號ノ規定ニ該當スル者ハ其ノ事由發生ノ日ヨリ十四日以內ニ其ノ旨本籍地ノ市町村長ニ屆出ヅベシ

法第六十七條第一項第二號ノ規定ニ該當スル者ハ更ニ教職ニ就クト雖モ徵兵檢查ヲ行ヒ一般徵兵トシテノ徵否ヲ定ムルモノトス但シ現役免除又ハ兵役免除ノ處分ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第三百九十九條　小學校ノ教職ニ在リテ休職ト爲リ居ル者ハ其ノ休職間兵役上ニ關シテハ教職ニ在ル者トシテ取扱フ

短期現役兵トシテ現役ヲ終リタル日ヨリ六月ヲ經過シタル後ニ於テ一ノ小學校ヨリ他ノ小學校ニ轉職スルトキハ其ノ轉職カ同一日ニ於テ行ハルルカ又ハ暦日ヲ連續シテ行ハルルニ非ザレバ法第六十七條第一項ノ規定ノ適用ヲ受クルモノトス

第四百條　短期現役兵トシテ服役スル者ト雖モ法令ノ定ムル資格ヲ有スル者ハ本人ノ志願ニ依リ陸海軍ノ他ノ兵籍ニ編入スルコトヲ得

第五編　補則及罰則

第四百一條　徵集ヲ延期セラレタル者、更ニ徵兵檢查ヲ受クベキ者又ハ徵兵處分未濟ノ者ニ徵集セラルベキ身分ト爲リタル場合ニ於テハ其ノ年徵兵檢查開始前又ハ徵兵檢查期間內ナルトキハ其ノ年徵兵檢查ヲ爲シ其ノ年徵兵檢查期間ヲ過ギタル後ナルトキハ其ノ翌年徵兵檢查ヲ爲スベシ

附　則　（昭和十年陸軍省令第六號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前青年訓練所ノ訓練又ハ之ト同等以上ト認メラレタル訓練ヲ修了シタル者ノ取扱ハ仍從前ノ例ニ依ル

青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ヲ修ムル以前ニ於テ青年訓練所若ハ昭和二年勅令第百三十八號ニ依ル關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ於ケル青年訓練所ノ訓練又ハ之ト同等以上ト認ムル訓練ヲ受ケタル者ノ當該訓練期間及訓練時數竝ニ昭和十年陸軍省令第一號ニ依リ青年學校ノ課程ト同等以上ト認メラレタル課程ヲ同令公布以前ニ修得シタル者ノ當該修得期間及時數ハ之ヲ第五十二條ノ二ニ規定スル期間及時數ニ通算ス

昭和十年三月三十一日ニ於テ年齡十五年以上ノ者ニシテ青年學校ノ本科又ハ研究科ノ課程ヲ修ムルモノ竝ニ昭和十年三月三十一日ニ於テ年齡十七年以上ノ者ニシテ實業補習學校後期卒業者及尋常小學校卒業程度ヲ入學資格トスル中等學校ノ第三學年修了程度（高等小學校卒業程度ヲ入學資格トスル學校ニ在リテハ第一學年修了程度其ノ他之ニ準ズ）以上ノ學力アルモノ中第五十二條ノ二第三號ニ規定スル課程ヲ修ムルモノニ付テノ第五十二條ノ二ニ規定スル課程修得ノ程度ニ關シテハ別ニ之ヲ告示ス

附　則（抄錄）　（昭和十年陸軍省令第十四號）

本令ハ昭和十年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五十二條ノ二第一號ニ規定スル在外青年學校ノ課程修得程度ハ當分ノ內其ノ一部ヲ減ズルモノトシ別ニ之ヲ告示ス

附　則　（昭和十三年陸軍省令第十三號）

本令ハ昭和十三年四月十日ヨリ之ヲ施行ス

但シ第五十一條乃至第五十二條ノ三及第六十二條ノ二ノ改正規定竝ニ附表第一ノ改正規定（自動車ノ運轉ニ從事スベキ輜重兵特務兵ニ關スル部分ヲ除ク）ハ昭和十三年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十一年及昭和十二年徵集兵ノ退營ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル但シ昭和十二年徵集兵ニシテ在營一年六月ノ者ノ退營期日ハ在營一年十月二十日ノ者ノ退營期日ニ同ジ

本令施行ノ際現ニ幹部候補生タル者ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

昭和十三年勅令第百三十七號附則第三條ニ該當スル者ハ徵集上ノ取扱ニ付テハ之ヲ第七條ノ二ニ該當スル者ト看做ス

幾備兵、後備兵又ハ補充兵ニシテ本令施行前ニ於テ自動車運轉免許證ヲ下附セラレタル者ハ第六十五條ノ三ノ規定ニ準ジ本令施行ノ日ヨリ九十日以內ニ之ヲ屆出ヅベシ

正當ノ事由ナクシテ前項ニ規定スル屆出ヲ爲サザル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

●昭和十年陸軍省令第六號附則第四項ニ規定スル者ノ青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ノ修得程度ニ關スル件

昭和十年六月十日
陸軍省告示第二十七號

昭和十年六月陸軍省令第六號附則第四項ニ規定スル者ノ青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ノ修得程度ニ關シテハ兵役法施行規則第五十二條ノ二ニ揭グル時數ニ拘ラズ左ノ各號ニ依ルモノトス

一　年齡十五年（年齡ノ計算ハ昭和十年三月三十一日トス以下同ジ）以上十六年未滿ノ者ノ兵役法施行規則（以下規則ト稱ス）第五十二條ノ二第一號又ハ第七號（規則第五十二條ノ二第一號ニ規定スル課程ヲ通算スル場合ニ限ル）ニ規定スル課程ノ修身及公民科

普通學科及職業科ヲ通ジ	九十時以上
教練科	二百三十時以上

二　年齡十六年以上ノ者（課程ヲ修得シタル期間ハ概ネ四年トス）ノ規則第五十二條ノ二第一號又ハ第七號（規則第五十二條ノ二第一號ニ規定スル課程ヲ修メタル期間ヲ通算スル場合ニ限ル）ニ規定スル課程ノ修得程度左ノ如シ

修身及公民科	八十時以上
普通學科及職業科ヲ通ジ	二百時以上
教練科	三百時以上

前項ニ規定スル普通學科及職業科ヲ通ジ二百時中實業補習學校後期卒業者及尋常小學校卒業程度ヲ入學資格トスル中等學校ノ第三學年修了程度（高等小學校卒業程度ヲ入學資格トスル學校ニ在リテハ第一學年修了程度其ノ他之ニ準ズ）以上ノ學力アル者ニシテ年齢十七年以上ノモノニ在リテハ百時以内、十八年以上ノモノニ在リテハ二百時以内、十九年以上ノモノニ在リテハ二百五十時以内ヲ免除ス

三　規則第五十二條ノ二第三號ニ規定スル課程ヲ修メタル年齢十七年以上ノ者ノ中實業補習學校後期卒業者及尋常小學校卒業程度ヲ入學資格トスル中等學校ノ第三學年修了程度（高等小學校卒業程度ヲ入學資格トスル學校ニ在リテハ第一學年修了程度其ノ他之ニ準ズ）以上ノ學力アル者ニ對シテハ規則第五十二條ノ二第三號又ハ第七號ニ掲ゲル普通學科及職業科ヲ通ジ二百五十時中年齢十七年以上ノモノニ在リテハ百時以内、十八年以上ノモノニ在リテハ百五十時以内、十九年以上ノモノニ在リテハ二百五十時以内ヲ免除ス

參照

昭和十年陸軍省令第六號ハ兵役法施行規則中改正ノ件ナリ

〔青教〕

●學校建築物ノ營繕竝ニ保全ニ關スル件

昭和九年十二月十八日
文部省訓令第十六號

北海道廳　府縣　公私立大學高等學校專門學校

過般ノ暴風被害ノ實情ニ鑑ミ學校建築物ノ營繕竝ニ保全ニ關スル注意要綱左ノ通指示ス

事ニ局ニ在ル者宜シク本令ノ趣旨ヲ體シ其ノ實效ヲ擧グルニ遺憾無キヲ期セラルベシ

第一　一般ニ關スル注意

一、學校建築ハ教育、衞生、風紀上ノ諸點ニ關シ周密ナル注意ヲ拂フベキハ勿論實用ヲ旨トシ虚飾ヲ避ケ特ニ堅牢强固ナルモノヲラシムルコト

二、建築費ハ愼重ナル見積ニ依リテ之ヲ定ムルコト

三、工事請負者ヲ選定スルニハ其ノ技倆竝ニ資産信用ヲ本位トシテ特ニ嚴正ナルベキコト

四、工事ノ施行ニ當リテハ技術ニ堪能ナル者ヲシテ其ノ監督ヲ勵行セシムルコト

五、學校建築物ノ營繕竝ニ保全ニ關シテハ學校長モ常ニ注意ヲ怠ラザルコト

六、既設ノ建築物ニ對シテハ時々檢査ヲ行ヒ必要アル場合ニハ速ニ補强スルコト

七、講堂、雨天體操場又ハ學生、生徒、兒童、幼兒ノ控所等ハ特ニ堅牢ナルモノトシ之ヲ萬一ノ場合ニ於ケル避難所ニ充ツルコト

第二　新築ノ場合ノ注意

一、敷地

第八章　補則

〔青教〕

1. 敷地ハ成ルベク周圍ノ平坦ナル所ヲ選ビ崖地或ハ川岸ノ如キハ之ヲ避クルコト
2. 土地ハ岩、砂利交リ粘土層、硬キ粘土層、砂利層等ヲ最善トシ水分無キ砂地及粘土層ヲ次善トス
3. 止ムヲ得ズシテ水分多キ砂地及泥地又ハ埋立地等ヲ敷地トシテ選ビタルトキハ校舍ノ構造ヲ一層强固ナラシムルコト

二、校舍

1. 校舍ノ階數ハ幼稚園ハ一階トシ小學校ハ木造ニ在リテハ二階ヲ、鐵筋コンクリート造ニ在リテハ三階ヲ超ユルヲ得ザルコト但シ地階ハ之ヲ階數ニ算入セズ
2. 教室其ノ他學生、生徒、兒童、幼兒ヲ收容スル室ニハ廊下、廣間ノ類又ハ戶外ニ面スル出入口ヲ成ルベク二以上設クルコト
3. 校舍ノ第一階ニハ階段ニ近接シテ運動場其ノ他適當ナル空地ニ通ズル出入口ヲ成ルベク設クルコト
4. 階段ハ成ルベク左ノ制限ニ依ルコト但シ學生、生徒、兒童、幼兒ノ常用セザルモノハ此ノ限ニ在ラズ

イ、階段ノ數ハ各階ニ付教室一ノトキハ一以上、教室八以下ノトキハ二以上トシ教室四又ハ其ノ端數ヲ增ス每ニ一ヲ加フルコト但シ教室三以下ニシテ階段二以上アルトキハ其ノ一ハ非常階段ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

室ノ面積大ナルトキハ前項ニ準ジ考慮スルコト

ロ、階段ハ直線又ハ全折階段ト爲スコト

ハ、階段ハ高サ三米ヲ超ユルモノニ在リテハ高サ三米以內每ニ踊場ヲ設クルコト

ニ、階段及踊場ノ幅ハ一、四米以上ト爲スコト

ホ、階段ノ蹴込ハ二十六糎以上、蹴上ハ十八糎（小學校ニ在リテハ十六糎）以下ト爲スコト

5. 廊下ノ幅ハ成ルベク片廊下ニ在リテハ一、八米以上、中廊下ニ在リテハ二、三米以上ト爲スコト

三、構造

構造ニ關シテハ市街地建築物法及同關係法令ニ定ムルトコロニ依ルベキモノノ外木造ニ在リテハ左ノ注意ヲ爲スコト

1. 基礎ハ可及的ニ其ノ沈下ヲ小ナラシムルコト地盤優良ナラザル場合ハ成ルベク深ク掘下ゲ割栗石、砂利等ヲ打込ミ搗固メタル上成ルベク鐵筋挿入ノコンクリートニテ築造スルコト但シ地盤ニ水氣アルトキハ杭打ヲ爲シ其ノ杭ハ常ニ水面下ニアラシムルコト
2. 建物ハ之ヲ硬軟不同ナル土地ニ跨リテ築造スルコトヲ避ケ止ムヲ得ザル場合ニハ不同沈下ノ起ラザル樣軟地ヲ充分ニ堅固ト爲スカ然ラザレバ別棟ト爲スコト
3. 土臺ハボールトニテ基礎ニ緊結シ家屋全體ニ亙リ柱脚部ノ連結固定ヲ圖ルコト
4. 土臺、胴差、桁、梁等ノ構架材ノ隅々ニハ樋材ヲ設ケテ三角形ヲ構成スルコト（第一圖、第二圖、第三圖參照）
5. 柱ト土臺又ハ桁トノ接合ニハ方枘、帶鐵物、筋違ボールト、鎹又ハ其ノ他ノ鐵物ヲ用フルコト（第一圖、第二圖、第三圖、第四圖參照）
6. 柱ハ從來ノ慣例ニ依レバ小ニ失スルヲ以テ可及的大ナルモノヲ用ヒ且縱橫架構材ノ接合ニハ仕口ニ依リテ柱ノ强サヲ減セザル樣添木、添鐵物、ボールト等ヲ用ヒテ之ヲ補强スルコト
7. 柱ハ二階建ノ場合ハ平家建ノ場合ニ比シテ大ナルモノタラシメ且可

及的多ク通柱トスルコト（第三圖參照）管柱ヲ用フル個所ニハ添鐵物又ハ添木ヲ當テ上下ヲ充分ニ連結スルカ又ハ控柱ヲ設クルコト（第五圖參照）

8. 柱、梁、小屋梁ハ互ニ連結シテ成ルベク架構體ヲ構成スルコト
9. 小屋組相互ノ間ニハ筋違、梁挾ノ類ヲ用ヒテ之ヲ連結シ家屋ノ頂ヲ結束シテ一體ト爲スコト（第六圖參照）
10. 屋根ノ重量ハ震力ニ對シテハ木造家屋破壞力ノ主要ナル素因ナルガ故ニ其ノ材料ニハ石綿盤、石盤ノ如ク輕良且耐火的ナルモノヲ用ヒ堅固ニ葺上グルヲ可トスルコト
11. 瓦ヲ用フル場合ニハ引掛桟瓦ト爲スカ又ハ針金等ヲ以テ下地ト緊結スルコト
12. 壁體ハ家屋ノ外部ノミナラズ內部ニモ縱橫ニ成ルベク多ク之ヲ構成スルコト
13. 壁體ニハ必ズ筋違ヲ用ヒテ三角形ヲ構成スルコト（第七圖、第八圖、第九圖、第十圖參照）
14. 筋違ニハ角材又ハ厚材ヲ用ヒ柱トノ接合ハボールトヲ以テ堅固ニ締付クルコト（第七圖、第八圖參照）止ムヲ得ズシテ貫ノ如キ薄材ヲ用フルトキハ兩面ヨリ釘ニ配置シ柱ノ表面ニ缺キ込ミ大釘打ト爲スコト（第九圖參照）
15. 柱ト一階梁、二階梁及小屋梁トノ接合ハ耐震耐風構造上最モ重要ナルヲ以テ枘差等ノ仕口ノミニ依賴セズ其ノ接合部ハ次ノ手法ニ依リテ兩者ヲ緊結シ地震及風力ニ因ル歪ヲ防グコト（第三圖、第五圖、第十一圖、第十二圖參照）

イ、柱ト梁トノ間ニ方杖ヲ用ヒテ三角形ヲ構成スルコト

ロ、接合部ハ必ズ帶鐵物、羽子板鐵物、ボールト等ニ依リテ之ヲ補

强スルコト（教室ノ如キ大ナル張間ヲ有スルモノニ在リテハ方枘筋違ノ如キ斜材ヲ用フルハ緊要ナリ）（第十三圖參照）

16. 講堂ト教室トヲ階上階下ニ分チ建築スルノ必要アル場合ハ成ルベク階下ヲ教室、階上ヲ講堂トスルコト

第三　木造校舍既設ノモノニ對スル注意

校舍ヲ檢査スルニ方リテハ新築ノ場合ノ注意ニ依リテ之ヲ行ヒ又其ノ補强ニ方リテハ特ニ次ノ事項ニ注意スルコト

一、土臺ト柱トノ接合

鐵物ヲ以テ緊結スルコト

二、小屋梁及二階梁ト柱トノ接合

方杖、鐵物等ヲ用ヒテ之ヲ補强スルコト

三、柱

通柱、管柱共ニ階ノ上下ニ跨リテ適當ノ長サノ添木、添鐵物ヲ當アボールト締ト爲スカ又ハ控柱ヲ設ケテ補强スルコト

四、斜材

壁體ハ勿論縱橫材間ニ於テモ成ルベク筋違、方枘ノ如キ斜材ヲ新ニ加ヘ可及的多クノ三角形ヲ構成スルコト

五、講堂、雨天體操場、控所

講堂、雨天體操場、控所又ハ連續セル數室ヲ講堂ニ兼用スルモノ等大ナル室ニ在リテハ外壁ノ適當ナル個所ニ添柱或ハ控柱ヲ新ニ設ケ室ノ歪ニ備フルコト　梁ト柱トノ接合又ハ柱ノ大サ充分ナラザル場合ニハ特ニ必要ナリ

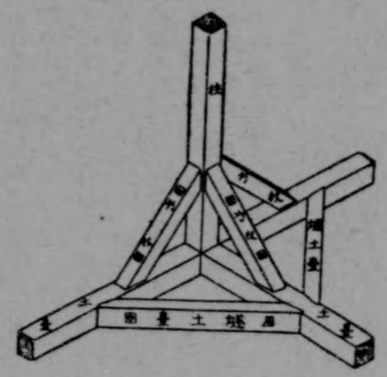
六、用材ノ防腐其ノ他

建物ノ下部ハ腐朽、蟲害等ヲ被リ易キ所ナルガ故ニ成ルベク濕氣ヲ防ゲト共ニ空氣ノ流通ヲ計リ土臺等腐蝕シ易キ個所ニハ防腐劑ヲ塗布ス

第四　圖面

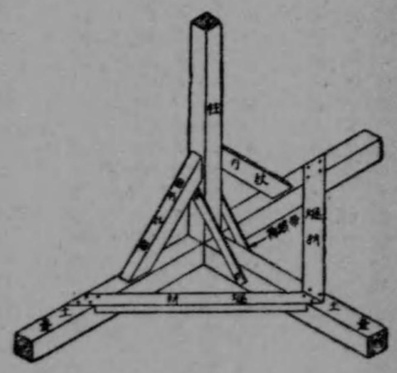
ル等防腐方法ヲ講ジ其ノ腐朽セルモノハ之ヲ新材ト取換フルコト

圖一第



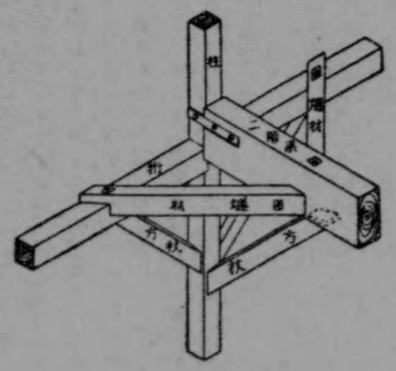
〔青教〕

圖二第

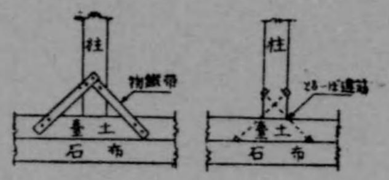


圖三第

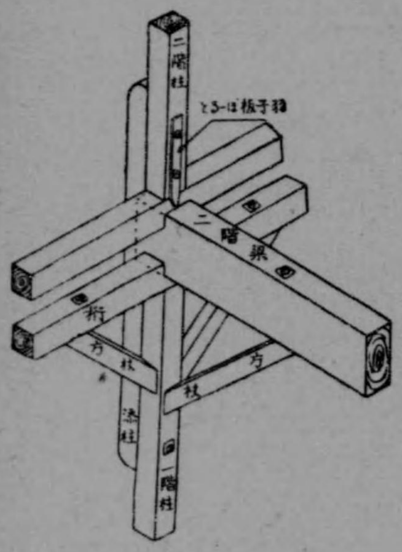
通柱ノ場合



圖四第

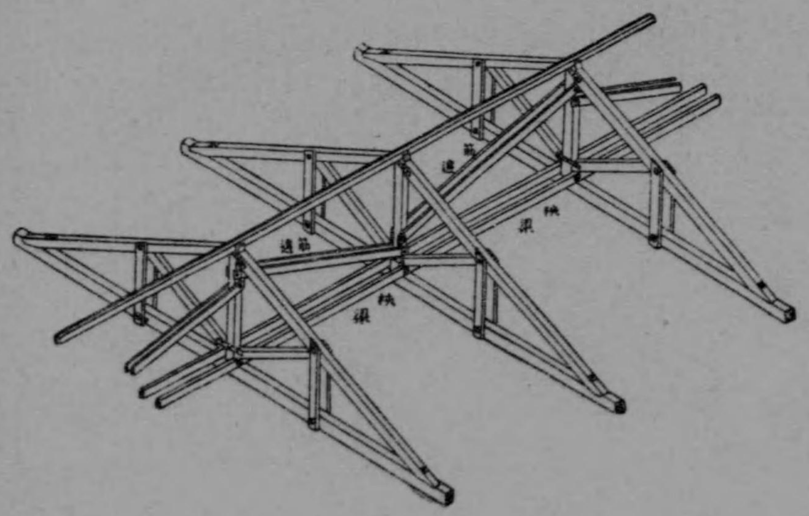


圖五第

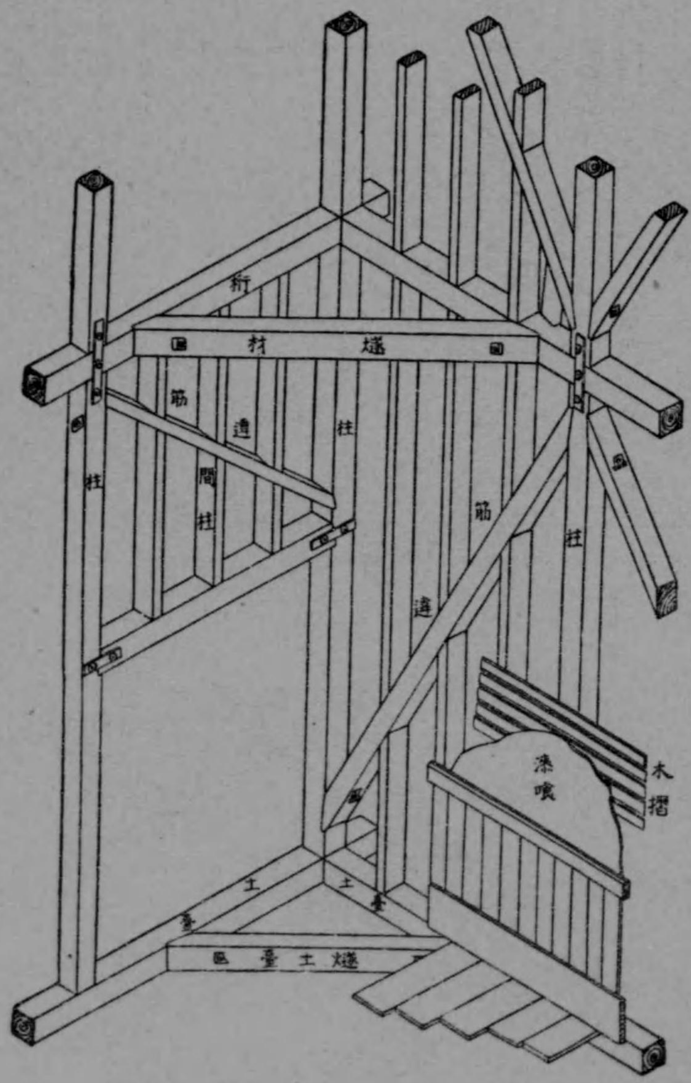


〔青教〕

圖六第

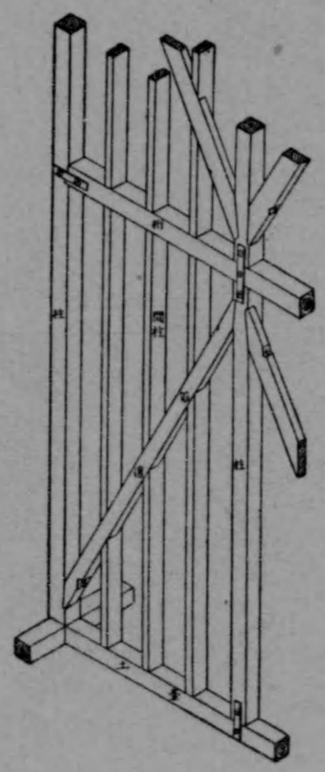


第七圖

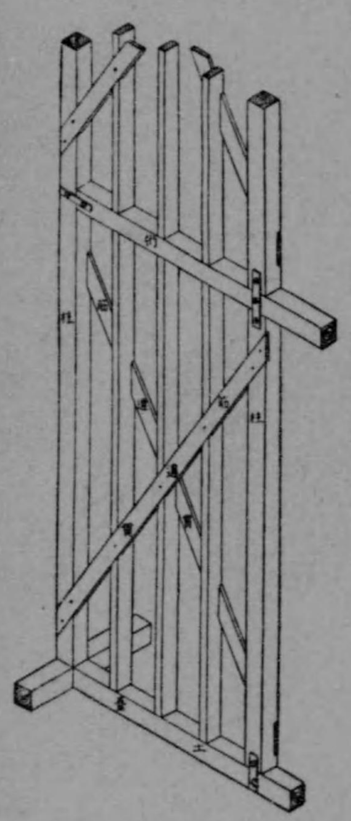


〔青教〕

第八圖

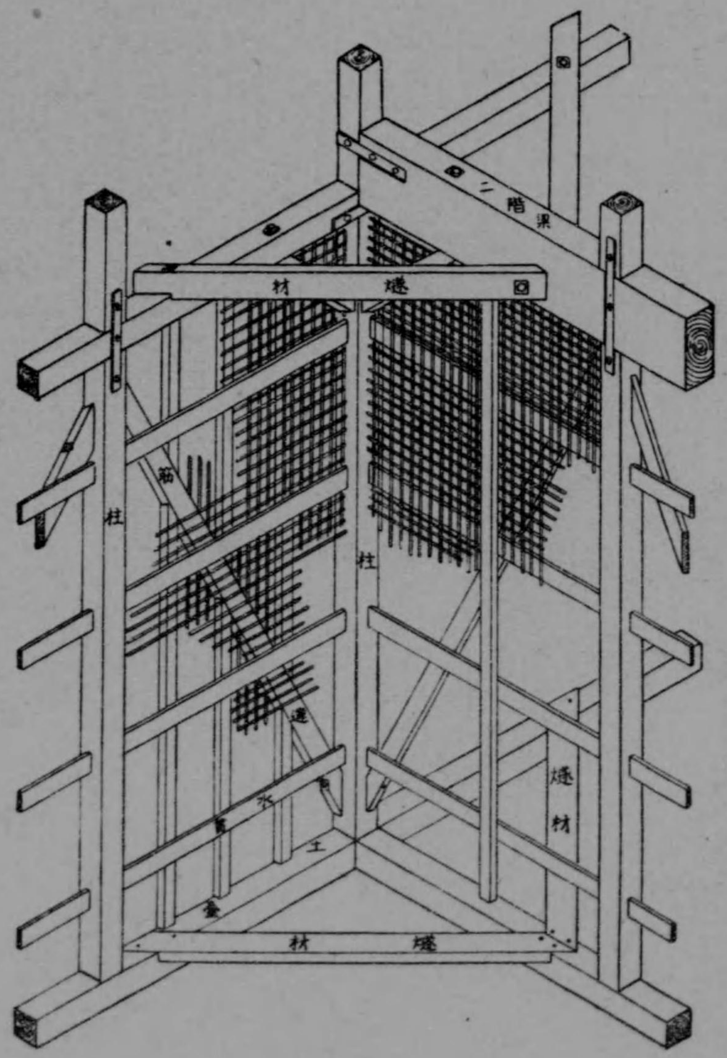


第九圖

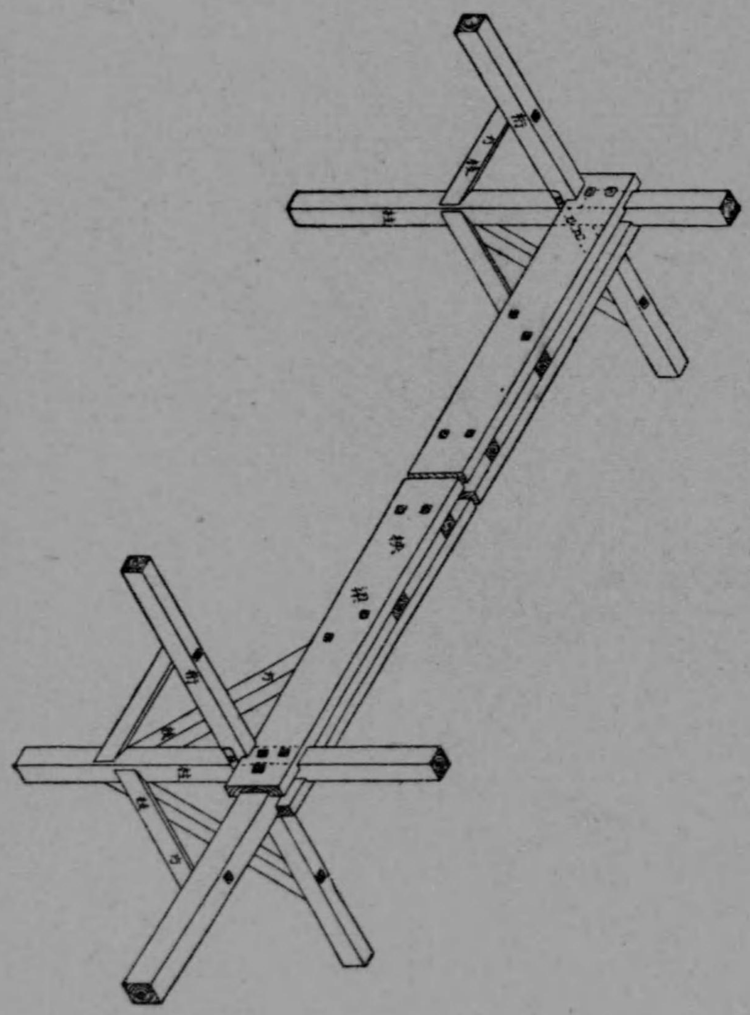


〔青教〕

第十圖



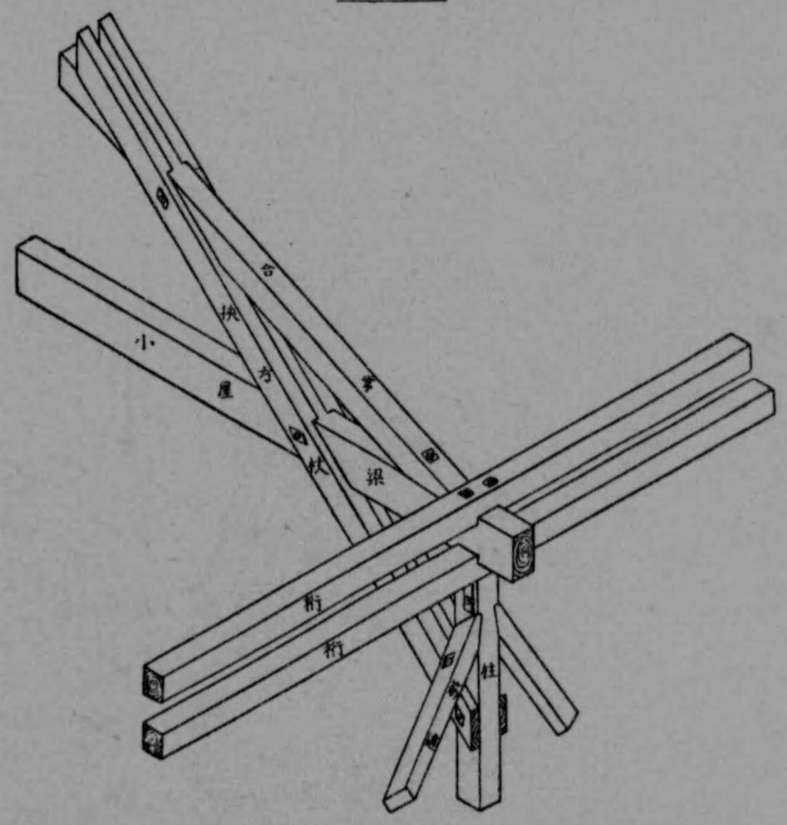
〔青敎〕



〔青敎〕

第十一圖

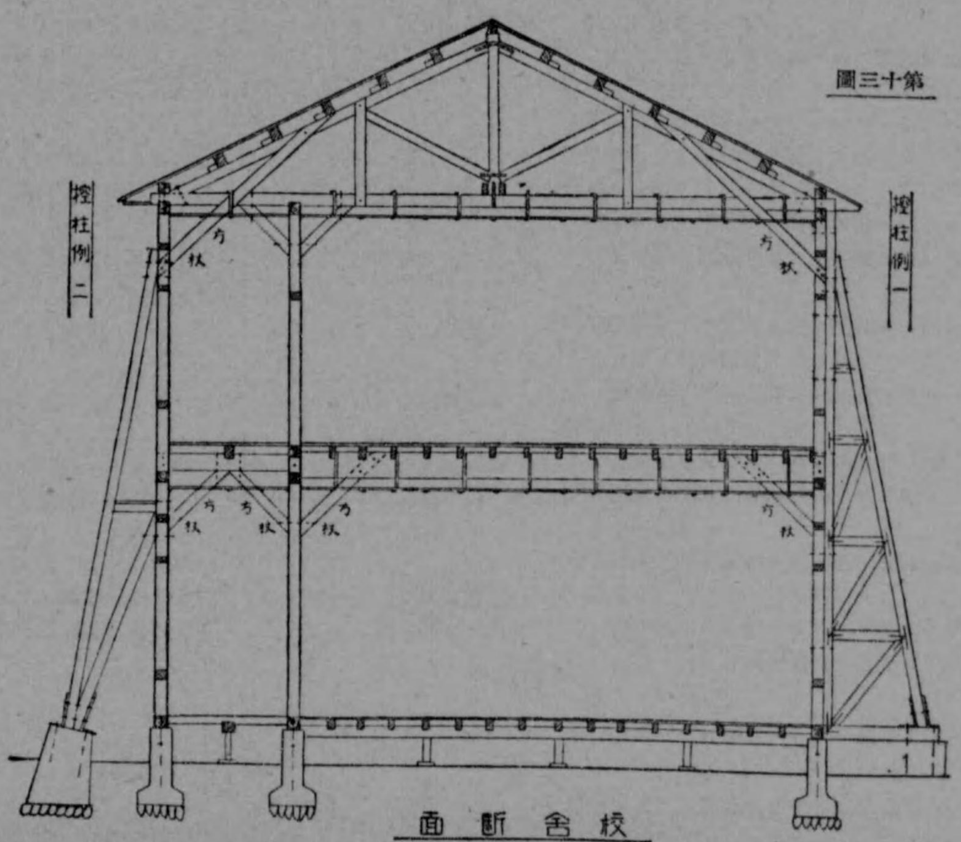
第十二圖



〔背景〕

〔背景〕

第十三圖



校舍斷面

●特殊建築物規則（抄錄）

昭和十一年九月十一日
内務省令第三十一號

特殊建築物規則左ノ通定ム

特殊建築物規則

第一章　總則

第一條　本令ハ市街地建築物法第十四條ノ規定ニ依リ左ノ各號ノ建物ニ之ヲ適用ス建物ノ一部ヲ左ノ各號ノ用途ニ供スルモノニ在リテハ其ノ部分ニ付亦同シ

一　學校

二　住戸又ハ住室ノ床面積ノ合計百五十平方メートル以上ノ共同住宅

三　床面積千平方メートル以上ニシテ建物ノ第三階以上ノ階ニ賣場ヲ有スル百貨店

四　自動車車庫但シ床面積二十平方メートル以下ニシテ專ラ小型自動車ヲ格納スルモノヲ除ク

建物ニシテ其ノ一部ヲ前項各號ノ用途ニ供スルモノニ付テハ地方長官ハ其ノ他ノ部分ニ對シ保安上相當ナル構造設備ヲ命ズルコトヲ得

第二條　避難階段ハ屋内避難階段、準屋内避難階段及屋外避難階段ノ三種トス

屋内避難階段ノ構造設備ハ左ノ規定ニ依ルベシ但シ地上階ニ設クルモノニ付最上部ニ在リテハ第一號、第二號、第四號又ハ第五號ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

一　屋内トノ連絡ニハ露臺又ハ外氣ニ開放スル附室ヲ設クルコト

二　階段室及附室ハ耐火構造ノ壁體ヲ以テ之ヲ圍繞スルコト

三　階段室ニハ外氣又ハ附室ニ面シ適當ナル窓又ハ之ニ代ルベキ採光面ヲ設クルコト

四　階段室、露臺及附室ニハ屋内ニ面シ出入口以外ノ開口ヲ設ケザルコト

五　屋内ヨリ露臺又ハ附室ニ通ズル出入口ニハ自動閉鎖ノ甲種防火戸ヲ設クルコト

六　前號ノ出入口及露臺又ハ附室ヨリ階段室ニ通ズル出入口ニ設クル扉ハ地方長官ノ承認スル場合ヲ除クノ外第一階ニ向フ避難ノ方向ニ開ク設備ト爲スコト

七　階段ハ耐火構造ト爲シ第一階迄直通セシメ第一階ニ於テハ直接非常口ニ通ズルコト

準屋内避難階段ノ構造設備ハ左ノ規定ニ依ルベシ但シ地上階ニ設クルモノニ付最上部又ハ第一階ニ在リテハ第一號、第三號又ハ第四號ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

一　階段室ハ外氣ニ面スル部分ヲ除クノ外耐火構造ノ壁體又ハ甲種防火戸ヲ以テ之ヲ圍繞スルコト

二　階段室ニハ外氣ニ面シ適當ナル窓又ハ之ニ代ルベキ採光面ヲ設クルコト

三　階段室ノ屋内ニ面スル壁面ニ窓ヲ設クル場合ニハ其ノ面積ハ各一平方メートル以内トシ且鐵骨網入硝子造ノ嵌殺戸又ハ之ニ代ルベキ設備ノ戸ヲ設クルコト

四　屋内ヨリ階段室ニ通ズル出入口ニハ防火戸又ハ鐵骨網入硝子戸ヲ設ケ且地方長官ノ承認スル場合ヲ除クノ外自動閉鎖ノ設備ヲ爲スコト

五　前號ノ出入口ニ設クル扉ハ前項第六號ノ規定ニ準ズルコト

六　階段ハ耐火構造ト爲シ第一階迄直通セシメ第一階ニ於テハ適當ニ非常口ニ連絡スルコト

〔青敎〕

屋外避難階段ノ構造設備ハ左ノ規定ニ依ルベシ但シ地上階ニ設クルモノニ付最上部ニ在リテハ第三號又ハ第四號ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

一　建物ノ外側ニ設クルコト

二　階段及踊場ノ有效幅員ハ六十センチメートル以上ト爲スコト

三　階段、踊場又ハ露臺ニ近接スル部分ノ壁面ニ窓ヲ設クル場合ニハ其ノ面積ハ各一平方メートル以内トシ且鐵骨網入硝子造ノ嵌殺戸又ハ之ニ代ルベキ設備ノ戸ヲ設クルコト

四　屋内ヨリ階段ニ通ズル出入口ニハ自動閉鎖ノ防火戸又ハ鐵骨網入硝子戸ヲ設クルコト

五　前號ノ出入口ニ設クル扉ハ第二項第六號ノ規定ニ準ズルコト

六　階段ハ耐火構造ト爲シ地盤面迄直通セシメ道路、廣場ノ類ニ適當ニ連絡スルコト

第三條　非常口トハ左ノ構造設備ヲ有スル出入口ヲ謂フ

一　有效幅員ハ七十五センチメートル以上ナルコト

二　扉ハ内開ナラザルコト

三　道路、廣場ノ類ニ適當ニ連絡スルコト

第四條　壁體ヲ以テ遮斷セラルル建物又ハ防火壁、防火戸ノ類ヲ以テ區劃セラルル建物ニ付テハ階段、出入口又ハ此等ニ代ルベキ設備ニ關スル規定ハ遮斷又ハ區劃セラルル部分ニ對シ各別ニ之ヲ適用ス

防火壁、甲種防火戸ノ類ヲ以テ區劃セラルル建物ノ部分ニシテ隣接スル區劃ニ適當ニ連絡スル設備アルモノニ在リテハ地方長官ハ保安上支障ナシト認ムル場合ニ限リ其ノ部分ニ設クル出入口ヲ以テ避難階段又ハ非常口ト看做スコトヲ得

第五條　地方長官保安上必要アリト認ムルトキハ第一條各號ノ建物ニ對シ非常警報機、屋上水槽、貯水槽、消火栓、「スプリンクラー」ノ類ノ設備其ノ他防火上又ハ避難上必要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得

〔青敎〕

第六條　假設的ノ建物ニ付テハ地方長官支障ナシト認ムルトキハ本令ノ規定ニ拘ラズ存續期限ヲ附シ其ノ建築ヲ許可スルコトヲ得

第七條　本令ハ市街地建築物法施行規則第百四十九條ノ二ノ規定ニ依リ内務大臣ノ指定スル區域ニ對シテハ之ヲ適用セズ但シ同條第二項ノ規定ニ依リ指定シタル建物又ハ地區ニ對シテハ地方長官ハ命令ヲ以テ本令ノ全部又ハ一部ヲ適用スルコトヲ妨ゲズ

第二章　學校

第八條　建物ノ第三階以上ノ階ニ敎室其ノ他生徒（學生、兒童ヲ含ム以下之ニ同ジ）ヲ收容スル室ヲ設クル學校ノ建物ハ其ノ主要ナル壁體、床、柱、屋根（屋根ナキトキハ直上階ノ床以下之ニ同ジ）及階段ヲ耐火構造ト爲スベシ

第九條　小學校（小學校ニ類スル各種學校ヲ含ム以下之ニ同ジ）ニ在リテハ建物ノ第四階以上ノ階ニ敎室其ノ他兒童ヲ收容スル室ヲ設クルコトヲ得ズ

第十條　校舍ノ本屋ト隣地境界線トノ距離ハ地方長官ノ承認スル場合ヲ除クノ外四メートル以上ト爲スベシ

第十一條　小學校ニ在リテハ兒童全員ノ避難用ニ供スル爲講堂、屋内體操場又ハ校舍ノ一部ノ主要ナル壁體、床、柱、屋根及階段ヲ耐火構造ト爲スベシ

前項ノ耐火構造ノ部分ト耐火構造ニ非ザル部分トノ境界ニ設クル出入口ニハ甲種防火戸ヲ設クベシ

第十二條　敎室其ノ他生徒ヲ收容スル室ニハ廊下、廣間ノ類又ハ屋外ニ面シ二以上ノ出入口ヲ設クベシ

第十三條　小學校ニ在リテハ兒童ノ常用ニ供スル階段ハ左ノ規定ニ依ルベ

シ

一　第一階又ハ地盤面迄直通スル階段ノ數ハ各階ニ付教室數八以内ノトキハ二以上トシ教室數四又ハ其ノ端數ヲ增ス毎ニ一ヲ加フルコト但シ教室數三以内ノ場合ニ於テ一ノ階段ヲ設ケ別ニ避難上有效ナル設備ヲ有スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

二　階段及踊場ノ有效幅員ハ一・四メートル以上ト爲スコト

三　直階段ニ於ケル踊場ノ踏幅ハ一・二メートル以上ト爲スコト

四　蹴上ハ十六センチメートル以下ト爲スコト

五　高三メートルヲ超ユルトキハ高三メートル以内毎ニ踊場ヲ設クルコト

六　有效幅員二メートルヲ超ユル階段ニハ中間ニ手摺ヲ設クルコト

第十四條　木造校舍ノ第一階ニハ生徒ノ常用ニ供スル階段ニ近接シテ運動場其ノ他ノ空地ニ適當ニ連絡スル出入口ヲ設クベシ

第十五條　生徒ノ常用ニ供スル廊下ハ左ノ規定ニ依ルベシ

一　片廊下ニ在リテハ其ノ有效幅員ヲ一・八メートル以上ト爲スコト

二　中廊下ニ在リテハ其ノ有效幅員ヲ二・三メートル以上ト爲スコト

三　勾配ハ八分ノ一ヲ超エザルコト

第十六條　屋上運動場ノ周圍ニハ高一・一メートル以上ノ扶壁ヲ設クベシ

第十七條　木造校舍ノ構造强度ハ左ノ規定ニ依ルベシ但シ特別ノ手法ニ依ルモノ又ハ教室其ノ他ノ室ノ規模小ナルモノハ此ノ限ニ在ラズ

一　外壁ニハ堅固ナル筋違ヲ用フルコト

二　桁行十二メートルヲ超ユルトキハ間隔十二メートル以内毎ニ堅固ナル筋違ヲ用ヒテ構成シタル通壁ノ間壁ヲ設クルコト之ニ依リ難キ場合ニ於テハ適當ナル間隔ニ控柱、控壁ノ類ヲ設クルコト

三　特別ノ場合ヲ除クノ外桁行間隔二メートル以内毎ニ柱、梁及小屋組

ヲ配シ堅固ナル方杖ヲ用ヒテ之ヲ繫結スルコト

四　床組及小屋梁組ハ堅固ナル燥材其ノ他ノ斜材ヲ用ヒテ構成シ第一號及第二號ノ壁體ニ緊著スルコト

五　二階建ニ於ケル柱ニシテ主要ナルモノハ通柱ト爲スコト

六　主要ナル柱ノ大サハ十五センチメートル角以上又ハ之ニ相當スル强度ヲ有スルモノト爲スコト

七　主要ナル柱ハ其ノ斷面積ノ四分ノ一以上ヲ缺取ラザルコト

八　主要ナル柱、梁、桁、土臺、筋違、方杖、燥材ノ類ノ繼手及仕口ハ「ボールト」、羽子板金物、短册金物ノ類ヲ用ヒ適當ナル方法ニ依リ緊著スルコト

第十八條　地方長官學校ノ種類、校舍若ハ教室ノ規模構造又ハ周圍ノ狀況ニ依リ支障ナシト認ムルトキ又ハ特別ノ事由ニ依リ已ムヲ得ズト認ムルトキハ第九條又ハ第十一條乃至第十五條ノ制限ヲ輕減スルコトヲ得

附　則

本令中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス

本令ハ市街地建築物法適用前ヨリ存在スル建物及同法又ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ建築シタル建物ニ關シテハ增築、改築、修繕、用途ノ變更其ノ他現狀ニ變更ヲ加ヘザル限リ之ヲ適用セズ

●私立學校令

明治三十二年八月三日
勅令第三百五十九號

沿革　明治四四年七月勅令第二一八號、大正八年二月第一九號、一二年八月第三八一號改正

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ私立學校令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

私立學校令

第一條　私立學校ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外地方長官ノ監督ニ屬ス

第二條　私立學校ノ設立廢止及設立者ノ變更ハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二條ノ二　私人ニシテ中學校又ハ專門學校ヲ設立セムトスルトキハ其ノ學校ヲ維持スルニ足ルヘキ收入ヲ生スル資產及設備又ハ之ニ要スル資金ヲ具ヘ民法ニ依リ財團法人ヲ設立スヘシ

第三條　私立學校ニ於テハ校長若ハ學校ヲ代表シ校務ヲ掌理スル者ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

本令中校長ニ關スル規定ハ之ヲ學校ヲ代表シ校務ヲ掌理スル者ニ適用スヲ得ス

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ私立學校又ハ教員ト爲ルコト

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二　（削除）

三　破產者ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

四　懲戒ニ依リ免職ニ處セラレ二箇年ヲ經過セス又ハ懲戒ヲ免除セラレサル者

五　教員免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケ又ハ第七條ノ規定ニ依リ解職ヲ命セラレ二箇年ヲ經過セサル者

六　性行不良ト認ムヘキ者

第五條　私立學校ノ教員ハ相當學校ノ教員免許狀ヲ有スル者ヲ除ク外其ノ學力及國語ニ通達スルコトヲ證明シ小學校及小學校ニ類スル各種學校ノ教員ニ在リテハ地方長官其ノ他ニ在リテハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ專ラ外國語、專門學科又ハ特種ノ技術ヲ教授スル教員及專ラ外國人ヲ入學セシムル爲ニ設立シタル學校ノ教員ハ國語ニ通達スルコトヲ證明スルコトヲ要セス

前項ノ認可ハ當該學校在職間有效ノモノトス

第六條　前條ノ證明ヲ不充分ト認メタルトキハ監督官廳ハ本人ノ志望ニ依リ試驗ヲ施スコトアルヘシ

第七條　私立學校ノ校長又ハ教員ニシテ不適當ナリト認メタルトキハ監督官廳ハ之カ解職ヲ命シ又ハ其ノ與ヘタル認可ヲ取消スコトヲ得

第八條　私立學校ニ於テハ學齡兒童ニシテ未タ就學ノ義務ヲ了ラサル者ヲ入學セシムルコトヲ得ス但シ小學校令第三十三條及第三十六條ノ規定ニ依リ市町村長ノ認可ヲ受ケタル兒童ヲ入學セシムルハ此ノ限ニ在ラス

第九條　私立學校ノ設備授業及其ノ他ノ事項ニシテ教育上有害ナリト認メタルトキハ監督官廳ハ之カ變更ヲ命スルコトヲ得

第十條　左ノ場合ニ於テハ監督官廳ハ私立學校ノ閉鎖ヲ命スルコトヲ得

一　法令ノ規定ニ違反シタルトキ

二　安寧秩序ヲ紊亂シ又ハ風俗ヲ壞亂スルノ虞アルトキ

三　六箇月以上規定ノ授業ヲ爲ササルトキ

四　法令ノ規定ニ依リ監督官廳ノ爲セル命令ニ違反シタルトキ

第十一條　監督官廳ニ於テ學校ノ事業ヲ爲スモノト認メタルトキハ其ノ旨ヲ關係者ニ通告シ本令ノ規定ニ依ラシムヘシ

第十一條ノ二　大學、專門學校、高等學校又ハ中學校ニ於テハ每學年又ハ每事業年度ノ開始前收支豫算ヲ定メ、每學年又ハ每事業年度ノ終了後收支決算ヲ爲シ監督官廳ニ屆出ツヘシ

監督官廳ハ必要ト認ムルトキハ敎支辨算ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十二條　第十條ニ依ル處分ニ對シテハ訴願法ニ依リ訴願スルコトヲ得

第十三條　第十一條ノ通告ヲ受ケ第二條ノ設立ノ手續ヲ爲ササル者及學校ノ廢止又ハ設立者ノ變更ニ關シ第二條ノ規定ニ違反シタル者竝第十條ニ依リ閉鎖ヲ命セラレタル後尙私立學校ヲ繼續スル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條　第三條又ハ第五條ノ認可ヲ得スシテ私立學校ノ校長又ハ敎員タル者及第七條ノ規定ニ依リ解職ヲ命セラレ又ハ認可ヲ取消サレタル後尙私立學校ノ校長又ハ敎員タル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス情ヲ知リテ之ヲ使用シタル者亦同シ

第十五條　第八條ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第十六條　本令ノ規定ハ私立幼稚園ニ準用ス

第十七條　文部大臣ハ本令施行ノ爲必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

附　則

第十八條　本令ハ明治三十二年八月四日ヨリ施行ス

第十九條　既設ノ私立學校ニシテ未タ設立ノ認可ヲ受ケサルモノハ本令施行ノ日ヨリ三箇月以內ニ本令ノ規定ニ依リ認可ヲ受クヘシ

第二十條　本令施行ノ際現ニ私立學校ノ校長又ハ敎員タル者ニシテ引續キ當該學校ノ校長又ハ敎員タラント欲スル者ハ相當學校ノ敎員免許狀ヲ有スル敎員ヲ除ク外本令施行ノ日ヨリ三箇月以內ニ其ノ旨ヲ監督官廳ニ開申スヘシ此ノ場合ニ於テハ第三條又ハ第五條ノ認可ヲ受クルヲ要セス

●私立學校令施行規則

明治三十二年八月三日
文部省令第三十八號

明治三十二年勅令第三百五十九號私立學校令第十七條ニ依リ私立學校令施行規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

私立學校令施行規則

第一條　私立學校令第二條ニ依リ私立學校設立ノ認可ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル書類ニ校地、校舍、寄宿舍ノ圖面ヲ添ヘ監督官廳ニ申請スヘシ

一　目的
二　名稱
三　位置
四　學則
五　經費及維持方法

前項第一號乃至第三號及校地、校舍、寄宿舍ノ變更ハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第四號ノ變更ハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二條　學則ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ

一　修業年限、學年、學期、休日ニ關スル事項
二　學科課程、授業時間ニ關スル事項
三　試驗ニ關スル事項
四　入學退學ニ關スル事項
五　授業料、入學料等ニ關スル事項
六　賞罰ニ關スル事項
七　寄宿舍ニ關スル事項
八　職員ノ職務ニ關スル事項

第三條　私立學校令第三條第一項又ハ第五條第一項ニ依リ私立學校ノ校長、學校代表者又ハ敎員タルノ認可ヲ受ケントスル者ハ履歷書ヲ添ヘ監

督官廳ニ申請スヘシ

第四條　私立學校令第六條ニ依リ施スヘキ試驗ハ小學校及小學校ニ類スル各種學校敎員ニ在リテハ小學校敎員檢定委員、其ノ他ニ在リテハ師範學校、中學校、高等女學校敎員檢定委員又ハ文部大臣ノ特ニ選定シタル委員ヲシテ之ヲ行ハシム

第五條　私立學校ノ種類ニ依リ別段ニ規定アルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

附　則

第六條　明治十四年文部省達第十五號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●私立學校用地免租ニ關スル件

大正八年四月五日
法律第三十八號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル私立學校用地免租ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　左ニ揭クルモノノ用ニ供スル土地ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ因リ其ノ地租ヲ免除ス但シ有料借地ハ此ノ限ニ在ラス

一　私立ノ幼稚園、小學校、中學校、高等女學校、實業學校、專門學校、高等學校及大學

二　前號ニ揭ケサル私立學校ニシテ大藏大臣ニ於テ指定シタルモノ

第二條　前條ノ規定ニ依リ地租ヲ免除スヘキ土地ハ校舍及寄宿舍、圖書館其ノ他保育又ハ敎育上必要ナル附屬建物ノ敷地竝運動場、實習用地其ノ他直接ニ保育又ハ敎育ノ用ニ供スルモノニ限ル但シ收益ヲ生スル土地ニ付テハ大藏大臣ハ免租スヘキ區域ヲ制限スルコトヲ得

第三條　北海道府縣市區町村其ノ他ノ公共團體ハ本法ニ依リ免租セラレタル土地ニ對シ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス

附　則

本法ハ大正九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●私立學校用地免租ニ關スル法律施行方

大正八年十二月二十二日
大藏省令第三十三號

私立學校用地免租ニ關スル法律施行方左ノ通之ヲ定ム

私立學校用地ニ對シ地租ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄稅務署長ニ申請スヘシ

一、所在郡、市區町村竝土地ノ字、番號、地目、段別又ハ坪數、地價及其ノ用途

二、學校管理者ト納稅義務者ト異ナルトキハ無料借地タルコトヲ證スル書面

三、學校ノ設立又ハ變更ノ年月日

前項ノ申請ヲ受ケタル場合ニ於テ收益ヲ生スル土地アルトキハ稅務署長ハ大藏大臣ニ稟議スヘシ

地租ノ免除ヲ受ケタル土地ニシテ之カ供用ヲ廢止シ又ハ無料借地ヲ有料借地ト爲シタルトキハ土地所有者又ハ納稅義務者ハ直ニ所轄稅務署長ニ屆出ツヘシ

附　則

本令ハ大正九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔青教〕

●陸軍軍用銃砲及火藥類拂下規則

（抄錄）

明治四十四年四月二十九日
陸軍省令第四號

沿革　大正元年八月陸軍省令第一號改正

第一條　砲兵工廠ハ左ニ揭ク ル者ニ對シ軍用銃砲ノ拂下ヲ爲スコトヲ得

一　官廳、公署、官公立中學校又ハ之ト同等以上ノ官公立學校

四　軍用銃砲ノ讓受ニ付警察官署ノ許可ヲ受ケタル者

前項第四號ニ據リ拂下ク ル銃砲ノ數量ハ一人ニ付一箇トス但シ在鄉軍人會及學校ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　砲兵工廠ハ左ニ揭ク ル者ニ對シ火藥類ノ拂下ヲ爲スコトヲ得

一　官廳、公署、官公立中學校又ハ之ト同等以上ノ官公立學校

四　火藥類ノ讓受ニ付廳府縣長官又ハ警察官署ノ許可ヲ受ケタル者

前項第四號及第五號ノ者ニ拂下ク ル火藥類ハ火藥ハ十二貫、爆藥ハ三貫、實包ハ三萬箇、空包ハ三萬箇、銃用雷管ハ十萬箇、工業用雷管ハ一萬箇、信管爆管門管ハ各三萬箇以上トス但シ現役將校同相當官准士官、在鄉軍人會又ハ學校カ射擊用ノ爲拂下ヲ受ク ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

〔青教〕

第三條　砲兵工廠ハ前條第一項各號ノ一ニ該當スル者ヨリ火藥類ノ變形修理ヲ願出タルトキハ之ニ應スルコトヲ得

第四條　砲兵工廠ニ軍用銃砲又ハ火藥類ノ拂下ヲ願出ル者ハ願書ニ拂下ヲ受クヘキ品種、數量ヲ記載シ軍用銃砲火藥類ノ讓受若ハ輸出許可證又ハ讓受ニ關シ其ノ資格ヲ證明スヘキ書類ヲ提示スヘシ

●銃砲火藥類取締法

明治四十三年四月十三日
法律第五十三號

沿革　大正六年七月法律第二號、一一年三月第二號改正

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル銃砲火藥類取締法改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

銃砲火藥類取締法

第一條　銃砲ノ製造又ハ火藥類ノ製造、變形若ハ修理ハ其ノ營業者又ハ行政官廳ノ許可若ハ委託ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ理化學上ノ實驗、鳥獸ノ捕獲及驅除、射的練習等ノ用ニ供スル火藥類ニ付命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　火藥、爆藥ノ製造ハ帝國臣民又ハ帝國臣民ノミヲ社員若ハ株主トスル會社ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ行政官廳ノ委託ヲ受ケタル場合、行政官廳ノ許可ヲ受ケ新規發明ニ係ル火藥、爆藥ヲ一定ノ期間試驗ノ爲製造スル場合又ハ前條但書ノ規定ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條　銃砲、火藥類ノ製造又ハ販賣ノ業ヲ營マムトスル者ハ行政官廳ノ許可ヲ受クヘシ但シ製造業者カ其ノ製造シ又ハ加工シタル銃砲、火藥類ノ卸賣ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

相續ニ依リ前項ノ營業ヲ繼續スル場合ハ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

銃砲ノ修繕又ハ改造ノ業ヲ營ム者ハ銃砲製造業者ト看做シ火藥類ノ變形又ハ修理ノ業ヲ營ム者ハ火藥類製造業者ト看做ス

第四條　行政官廳ハ銃砲販賣業者及火藥類販賣業者ノ道府縣ニ於ケル定員ヲ設クルコトヲ得

製造業者及行政官廳ノ許可ヲ受ケ其ノ委託額以上ノ同種類ノ火藥類ヲ製造スル者ニシテ其ノ製造シ又ハ加工シタル銃砲、火藥類ノ販賣業ヲ兼ヌルモノハ前項ノ定員ニ算入セス

第五條　銃砲、火藥類ノ製造、變形、修理又ハ販賣ニ關シ許可ヲ受ケタル者行政官廳ニ於テ指定シタル期間内ニ其ノ事業ヲ開始セス若ハ事業開始後一年以上其ノ事業ヲ休止シタルトキ又ハ法令ニ違反シタルトキ又ハ安寧秩序ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ行政官廳ハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ事業ヲ停止若ハ制限スルコトヲ得

第六條　軍用銃砲、火藥類ノ讓渡又ハ讓受ハ法令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ製造若ハ販賣ノ業ヲ營ム者又ハ特ニ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第七條　銃砲、火藥類ハ之ヲ行商シ又ハ市場若ハ露店其ノ他屋外ニ於テ之ヲ販賣スルコトヲ得ス

第八條　銃砲、火藥類ノ輸出ハ其ノ製造若ハ販賣ノ業ヲ營ム者又ハ特ニ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第九條　銃砲、火藥類ノ輸入ハ行政官廳ノ委託ヲ受ケタル者若ハ其ノ販賣ノ業ヲ營ム者又ハ特ニ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第十條　行政官廳ハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ銃砲、火藥類ノ製造所、貯藏所其ノ他銃砲、火藥類ヲ收藏スルノ疑アル場所ニ臨檢シ又ハ銃砲、火藥類及之ヲ收藏スルノ疑アル物件若ハ營業上ノ帳簿其ノ他ノ書類ヲ檢査

セシムルコトヲ得

行政官廳ハ危害豫防ノ爲銃砲、火藥類ノ製造所若ハ火藥類ノ貯藏所ノ改築若ハ修繕ヲ命シ又ハ火藥類ニ關シ若ハ其ノ貯藏、運搬其ノ他ノ取扱ニ關シ取締上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條　行政官廳ハ保安上、軍事上又ハ外交上必要アリト認ムル場合ニ於テ銃砲、火藥類ノ輸出若ハ輸入ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第十二條　行政官廳ハ安寧秩序ヲ保持スル爲必要アリト認ムルトキハ銃砲、火藥類ノ授受、運搬、携帶ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第十三條　前二條ノ場合ニ於テ行政官廳ハ銃砲、火藥類ノ假領置ヲ爲スコトヲ得

第十四條　左ノ事項ニ關シ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

一　本法ノ適用ヲ受クヘキ銃砲、火藥類ノ範圍及新規發明ニ係ル火藥類ヲ一定ノ期間試驗ノ爲製造スル場合ヲ除クノ外行政官廳ノ許可ヲ受ケ又ハ營業トシテ製造、變形又ハ修理シ得ル普通火藥類ノ範圍

二　銃砲、火藥類ノ取引、授受、使用、運搬、貯藏其ノ他ノ取扱

三　銃砲、火藥類ノ取扱人及火藥類ノ作業主任者ニ關スル事項

四　銃砲、火藥類製造所及火藥類貯藏所ニ關スル事項

五　火藥類ヲ要スル工事又ハ工業ニ關スル事項

第十五條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ全部又ハ一部ハ命令ノ定ムル所ニ依リ銃砲、火藥類ニ非サル他ノ戎器又ハ爆發質物品ニ關シ之ヲ準用スルコトヲ得

本法ノ一部ヲ適用スルノ必要ナシト認ムル銃砲、火藥類ニ關シテハ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第十六條　第一條、第八條若ハ第九條ノ規定ニ違反シ、許可ヲ受ケスシテ第三條ノ營業ヲ爲シ又ハ第五條若ハ第十一條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條若ハ第九條ノ規定ニ違反シ又ハ第十一條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル場合ニ於テハ未遂罪ヲ罰ス

第十七條　第十二條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條　第十條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ又ハ第十條第一項若ハ第十三條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ職務ノ執行ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケタル者又ハ其ノ執行ニ際シ當該官吏ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條　第六條又ハ第七條ノ規定ニ違反シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十條　營業者又ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ銃砲、火藥類ニ關スル事業ヲ行フ者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條　營業者又ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ銃砲、火藥類ニ關スル事業ヲ行フ者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ營業又ハ事業ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十二條　第二條ノ場合ニ於テハ罰金、科料又ハ沒收以外ノ刑ニ處スルコトヲ得ス

第二十三條　明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム　（明治四十四年三月勅令第十五號ヲ以テ同年五月一日ヨリ施行）

刑法施行法第二十五條第一項中第一號ヲ削リ以下各號順次繰上ク

爆發物取締罰則ハ本法ノ爲其ノ效力ヲ妨ケラルルコトナシ

[青教]

●旅客及荷物運送規則（抄錄）

昭和七年六月六日
鐵道省告示第百七十九號

消滅略ス

第二條　本規則ニ於ケル用語ハ左ノ如シ

二　小兒トハ六年以上十二年未滿ノ者及第四十八條ノ二第一號ニ定ムル者ヲ謂フ

八　學校トハ左ニ該當スルモノヲ謂フ

イ　大學令、高等學校令、專門學校令、師範教育令、中學校令、高等女學校令、實業學校令、青年學校令、小學校令、盲學校及聾唖學校令、幼稚園令、青年學校教員養成所令ニ依リ設立シタル官公立及私立學校竝ニ學習院、女子學習院及陸海軍各學校

ロ　前號ノ官公立學校ニ準ズベキモノ（修業期間一箇年以上ニシテ且一箇年ノ授業時數七百時間以上ノモノニ限ル）ニシテ鐵道省ノ指定シタルモノ

ハ　「イ」號ノ各學校令ニ依ラズ設立シタル私立學校（修業期間一箇年以上ニシテ且一箇年ノ授業時數七百時間以上ノモノニ限ル）ニシテ鐵道省ノ指定シタルモノ

第十條　乘車券ノ種類ハ左ノ如シ

第八章　補則

二　定期乘車券

普通定期乘車券（一般旅客ノ鐵道（百五十粁以内ニ限ル）、自動車及指定シタル航路ニ於ケル當時乘用ノモノ）

學生定期乘車券（學校（青年學校令ニ依リ設立シタル私立學校ヲ除ク）ノ學生及生徒（幼稚園ノ幼兒ヲ含ム以下同ジ）ノ鐵道（百五十粁以内ニ限ル）、自動車及指定シタル航路ニ於ケル通學用ノモノ）

第三十五條　定期乘車券ハ左ノ場合ニ於テハ無效トシテ之ヲ回收ス

一　身分、氏名、年齡又ハ通學、通勤ノ事實若ハ區間ヲ僞リ之ヲ購求シタルトキ

二　券面記載事項ヲ塗抹改變シタルトキ

三　他人名義ノ定期乘車券ヲ使用シタルトキ

四　區間ノ連續セザル定期乘車券ヲ以テ券面區間外ノ無札乘車船ヲ爲シタルトキ

五　區間ノ連續セザル定期乘車券ト回數乘車券トヲ以テ券面區間外ノ札乘車船ヲ爲シタルトキ

六　學生定期乘車券又ハ職工定期乘車券使用ノ旅客ガ該券ノ使用資格ヲ喪失シタル後之ヲ使用シタルトキ

七　學生定期乘車券又ハ職工定期乘車券購求後通學又ハ通勤區間ニ變更ヲ生ジタル場合殘餘ノ期間ニ對シ區間變更ノ取扱ヲ受ケズシテ之ヲ使用シタルトキ

八　通用期間開始前ノ定期乘車券ヲ使用シタルトキ

九　通用期間滿了後ノ定期乘車券ヲ使用シタルトキ

十　再交付ニ因リ效力ヲ失ヒタル定期乘車券ヲ使用シタルトキ

十一　不正乘車船ノ手段ニ供シタルトキ

十二　旅客ガ第二百十五條又ハ第二百十六條ノ二ノ取扱ヲ受ケタルトキ

[青教]

十三　鐵道營業法第四十二條ニ依リ處分セラレタルトキ

前項第一號乃至第四號及第七號ノ場合ニ於テハ通用期間開始ノ日ヨリ、第六號ノ場合ニ於テハ該券使用ノ資格ヲ喪失シタル日ヨリ、第八號ノ場合ニ於テハ該券發賣ノ日ヨリ、第九號ノ場合ニ於テハ通用期間滿了ノ翌日ヨリ、第十號ノ場合ニ於テハ該券失效ノ日ヨリ各發見當日迄該券ヲ以テ券面記載ノ等級ニ依リ當該區間ヲ、第四號ノ場合ニ於テハ券面區間ト券面區間外トヲ通ジタル區間ヲ毎日一回宛往復乗車船ヲ爲シタルモノトシ、第五號ノ場合ニ於テハ券面區間ト券面區間外トヲ通ジタル區間ヲ回數乗車券ヲ使用シタル券片ニ對シ一券片毎ニ一回宛往復乗車船ヲ爲シタルモノトシ其ノ一往復乗車船毎ニ又第十一號ノ場合ニ於テハ其ノ乗車船區間ニ付第百四十五條ノ規定ヲ準用ス

第一項第三號ノ場合ニ於テハ前項ニ依ル運賃及割增金ノ全部又ハ一部ヲ其ノ定期乗車券ノ使用ヲ爲サシメタル者ヨリ收受スルコトアルベシ

第三十七條　定期乗車券及回數乗車券ハ乗車船區間、通用期間、氏名、年齡等ガ不明トナリタルトキハ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

前項ノ場合ニ於テハ手數料二十錢ヲ支拂ヒ該券發行驛ニ之ガ書換ヲ請求スルコトヲ得

第五十六條　普通定期乗車券ハ鐵道及航路ニ在リテハ二、三等自動車ニ在リテハ三等ニ限リ又學生定期乗車券及職工定期乗車券ハ三等ニ限リ發賣シ其ノ大人旅客運賃ハ左ノ如シ

（別表第三號）（畧）

第五十六條ノ二　學生定期乗車券及職工定期乗車券ハ其ノ發賣驛ヲ制限スルコトアルベシ

第五十七條　小兒用定期乗車券使用ノ旅客ノ年齡ガ通用期間内ニ十二年ニ達スル場合ニ於テハ月割ヲ以テ計算シタル大人運賃ト小兒運賃トノ合算額ヲ以テ之ヲ發賣シ十二年ニ達スル日ノ屬スル一箇月ハ小兒運賃ニ依ル

第五十八條　定期乗車券ヲ購求スル者ハ驛ニ備付ノ左ノ樣式ノ申込書ヲ提出スベキモノトス

定期乗車券發行申込書　No.……

（定期乗車券原票）

※乗車船區間	……驛……驛間……經由
※通用期間	昭和……年……月……日より……箇月
	年　月　日迄
※等級	種類　番號　運賃　圓錢
※氏名年齡	殿　歳
※住所	
※通學又ハ通勤先及購求ノ目的	目的（　）
昭和……年……月……日發行	
回收月日	年　月　日
督促月日	
記事	

1. ※印ノ欄ハ申込者ニ於テ御記入下サイ
2. 通學用ノ場合ハ學校名ノ外部科名及在學年ヲ御記入下サイ

一〇・五糎　（裏無地）　洋紙

一四・八糎

學生、職工及小兒用定期乗車券ヲ購求スル者ハ前項ノ申込書ノ外係員ノ請求ニ依リ左ノ證明文書ヲ提出スベキモノトス學生、職工定期乗車券所持ノ旅客ガ第百六十二條ニ依リ區間變更ノ請求ヲ爲ス場合亦同ジ

〔青教〕

一　學生、生徒ニ在リテハ住所、氏名、生年月日、通學期間、通用期間及學校所在地ヲ記載シタル當該學校長發行ノ左ノ樣式ノ通學證明書

第　號

通學證明書

住所

氏名

生年月日

（設立準據學校令又ハ指定番號）

右ハ本校　部（科）　學年學生（生徒）ニ付左記ニ依リ學生定期乗車券ヲ發行相成度此段證明候也

記

一　通學區間　驛　驛間

二　通用期間　箇月

昭和　年　月　日

學校所在地

何學校長氏名　職印

（本證明書ノ有效期間ハ發行ノ日ヨリ五日トス）

二五糎

一七糎

三　小兒（前各號ノ定期乗車券ヲ購求スル場合ヲ除ク）ニ在リテハ戸籍抄本

第五十九條　回數乗車券ハ一册ノ券片ヲ十六枚トシ鐵道及航路ニ在リテハ二、三等（農夫、漁夫ニ對スル特殊記名回數乗車券ハ三等）自動車ニ在リテハ三等ニ限リ發賣ス其ノ大人旅客運賃ハ左ノ如シ

一　鐵道及航路

イ　普通記名回數乗車券

ロ　特殊記名回數乗車券

ハ　無記名回數乗車券　第五十五條、第五十五條ノ二及第五十五條ノ三ノ特定旅客運賃ヲ十六倍シタルモノヨリ其ノ一割ヲ低減シタルモノ

二　自動車

普通旅客運賃ヲ十六倍シタルモノヨリ普通記名回數乗車券ニ在リテハ其ノ二割ヲ、特殊記名回數乗車券ニ在リテハ其ノ二割五分ヲ低減シタルモノ

第六十條　第五十八條第二項第三號ノ規定ハ小兒用回數乗車券ヲ購求スル者ニ之ヲ準用ス

第六十一條　學校ノ教員、學生主事、同主事補、生徒主事、同主事補、生徒監、舍監、學生又ハ生徒ガ片道五十粁以上旅行ヲ爲ス場合ニ於テハ所定ノ割引證ヲ收受シ教員、學生主事、同主事補、生徒主事、同主事補、生徒監及舍監ニ對シテハ二、三等旅客運賃ノ二割ヲ、學生及生徒ニ對シテハ三等旅客運賃ノ二割ヲ低減ス但シ小兒ニ對シテハ之ガ低減ヲ爲サズ

第六十二條　前條ノ割引證ハ監督官廳ヲ經テ關係ノ學校ヨリ本人ニ之ヲ交

付ス其ノ様式ハ左ノ如シ

表

第　號

（設立準據學校令又ハ指定番號）

學校教員、學生、生徒ニ對スル旅客運賃割引證

乘車船區間	自　驛 至　驛
使用者身分 氏名年齡	當　年
乘車船等級 及割引率	等二割（臺灣總督府交通局線內三割） （朝鮮內各鐵道線內竝滿鐵線內四割）

昭和　年　月　日發行

所在地

何學校長氏名　職印

一二・八糎

備考　印刷事項ハ表裏共綠色刷トス

〔青教〕

九糎一

裏

注意

一　本證ニ依リ運賃ノ割引ヲ受クル旅客ハ所定ノ身分證明書ヲ携帶シ鐵道係員ノ請求アル時ハ何時ニテモ之ヲ呈示スベキモノトス

二　本證ハ官立、公立學校及監督官廳ノ認可ヲ得テ各種學校令（私立學校令ヲ除ク）ニ依リ設立シタル學校竝ニ官公立學校ニ準ズベキモノ及私立學校令ニ依リ設立シタル學校ニシテ鐵道省ニ於テ特ニ指定シタルモノノ教員、學生主事、同主事補、生徒監、舍監、學生又ハ生徒（十二年未滿ノ者ヲ除ク）ニ限リ使用シ得ルモノニシテ番號、使用者ノ身分、氏名、年齡、發行日附及設立準據學校令又ハ指定番號ハ發行者之ヲ記入シテ交附スベキモノトス

三　本證ハ教員、學生主事、同主事補、生徒主事、同主事補、生徒監及舍監ハ二、三等、學生及生徒ハ三等ニ片道五十粁以上乘車船スル場合ニ限リ之ヲ使用スルコトヲ得

四　本證ニ依リ往復乘車券又ハ廻遊乘車券ヲ購求スルトキハ乘車船區間ノ下ニ「往復」又ハ「廻遊」ト記入シ使用者ノ印ヲ捺スベキモノトス

五　本證ハ記名人以外ノ者之ヲ使用スルコトヲ得ズ

六　本證ニ依リ購求シタル割引乘車券ハ他人ニ讓渡シ又ハ他人之ヲ使用スルコトヲ得ズ

七　本證記載事項ヲ訂正シタル場合ニ於テハ左ノ證明アルモノニ限リ之ヲ有效トス

（一）發行者ノ記入スベキ事項ニ付テハ發行者ノ職印

（二）使用者ノ記入スベキ事項ニ付テハ使用者ノ認印

八　本證ノ有效期間ハ發行ノ日ヨリ三箇月トス

第六十三條　第六十一條ニ依リ旅行ヲ爲ス旅客ハ住所、氏名及生年月日ヲ記載シタル當該學校長發行ニ係ル左ノ様式ノ身分證明書ヲ携帶シ係員ノ請求アルトキハ何時ニテモ之ヲ呈示スベキモノトス

表

身分證明書

現住所

氏　名

生年月日

右本校（職名又ハ何部學生何學年生徒）タルコトヲ證明ス

昭和　年　月　日

何學校長　氏

名　職印

一二糎又ハ八・五糎

〔青教〕

六糎ハ又糎五・七

裏

一　本證明書ハ他人ニ貸與シ又ハ讓渡スベカラズ

二　本證明書ハ乘車船中必ズ携帶スベキモノトス

三　本證明書ハ鐵道係員ノ請求アリタルトキハ何時ニテモ之ヲ呈示スベキモノトス

四　本證明書ヲ紛失シタルトキハ直ニ學校長ニ届出ズベキモノトス

五　新ニ證明書ノ交付ヲ受ケタル場合又ハ職員ニシテ其ノ職ヲ退キ學生又ハ生徒ニシテ進級シ若ハ卒業、退學等ニ依リ學籍ヲ離レタルトキハ直ニ本證明書ヲ學校ニ返付スベキモノトス

六　本證明書ノ有效期間ハ發行ノ日ヨリ一箇年トス

第六十三條ノ三　第六十二條ノ旅客運賃割引證及第五十八條第二項第一號ノ通學證明書ヲ所定ノ者以外ニ對シ發行シ又ハ記名人以外ノモノヲシテ之ヲ使用セシメタルモノト認メタルトキハ其ノ學校ニ對シ第二條第八號ノ指定ヲ取消シ又ハ第六十一條ノ旅客運賃割引及第九十條ニ依ル特別團體旅客ノ取扱ノ停止竝ニ第五十六條ニ依ル學生定期乘車券ノ發賣及其ノ使用ノ停止ヲ爲スコトアルベシ

第六十九條　公法人又ハ公益法人竝ニ之ニ準ズベキモノニシテ鐵道省ニ於テ認メタルモノノ總會、大會等ニ參列スル法人等ノ役員、社員又ハ會員ガ左ノ人員以上片道五十粁以上（參列者ガ同一道府縣以内ノミヨリナルトキハ乘車船距離ヲ制限セズ）ノ往復旅行ヲ爲ス場合ニ於テハ大人ニ限リ所定ノ割引證ヲ收受シ二、三等旅客運賃ノ二割ヲ低減ス

一　公法人又ハ公益法人ノ總會、大會等ノトキ　百人

二　公法人又ハ公益法人ニ準ズベキモノノ總會、大會等ノトキ　四百人

第六十九條ノ二　左ノ場合ニ於テハ參列者ガ往復旅行ヲ爲ストキハ大人ニ限リ所定ノ割引證ヲ收受シ四百人以上ノトキハ二、三等旅客運賃ノ二割ヲ、千人以上ノトキハ同三割ヲ、一萬人以上ノトキハ同四割ヲ低減ス

一　官公衙ガ青年團員又ハ其ノ役員ノ大會ヲ開催スルトキ

二　官公衙ガ消防組員、消防署員又ハ其ノ役員ノ大會ヲ開催スルトキ

三　官公衙ガ帝國在鄉軍人會員又ハ其ノ役員ノ大會ヲ開催スルトキ

四　官公衙ガ學校ノ學生、生徒、教員ノ大會ヲ開催スルトキ

第七十條　左ノ場合ニ於テ參列者ガ片道五十粁以上（參列者ガ同一道府縣以内ノミヨリナルトキハ乘車船距離ヲ制限セズ）ノ往復旅行ヲ爲ストキハ大人ニ限リ所定ノ割引證ヲ收受シ百人以上ノトキハ二、三等旅客運賃ノ三割ヲ、四百人以上ノトキハ同五割ヲ低減ス

一　官公衙、學校、教育會又ハ公益法人ガ教員、視學、教育會役員又ハ學務委員ノ教育ニ關スル大會若ハ講習會ヲ開催スルトキ
二　官公衙ガ地方自治團體ノ吏員ノ大會若ハ講習會ヲ開催スルトキ
三　官公衙又ハ公益法人ガ感化又ハ救濟ノ事業ニ關スル指導者ノ大會若ハ講習會ヲ開催スルトキ

第七十一條　第六十七條乃至第七十條ニ依リ旅客運賃ノ割引ヲ受ケントスル主催者ハ規則書其ノ他參考トナルベキ書類ヲ添附シテ其ノ申込書ヲ鐵道省運輸局長又ハ最寄鐵道局長ニ提出スベキモノトス

第七十二條　第六十九條乃至第七十條ノ場合ニ於テ實際乘車船人員ガ各所定ノ人員ニ滿タザルトキハ其ノ不足人員ニ對スル百粁分（第六十九條ノ二及參列者ガ同一道府縣以內ノミヨリナルトキハ五十粁分）ノ各所定ノ割引ヲ爲シタル片道三等旅客運賃ヲ主催者ヨリ收受ス

第七十三條　第六十七條乃至第七十條ニ依リ旅客運賃ノ割引ヲ爲シタル場合主催者ニ於テ指定以外ノ者ヲシテ割引證ヲ使用セシメタルトキハ其ノ割引ヲ取消シ割引ヲ爲シタル旅客全部ニ對スル普通旅客運賃又ハ特定旅客運賃ト割引旅客運賃トノ差額ヲ主催者ヨリ收受ス

第七十四條　第六十九條乃至第七十條ニ依リ旅客運賃ノ割引ヲ受ケントスルトキハ主催者ハ左ノ文案ノ請書ヲ提出スベキモノトス

請書

……會參列者ニ對シ旅客運賃割引ノ儀承諾相成候ニ付テハ運賃割引ニ關スル規定ヲ遵守可致ハ勿論本割引終了後ニ於テ貴省調査ノ結果該割引乘車券購入者ガ百人、四百人、千人又ハ一萬人ニ充タザルトキハ其ノ不足人員ニ對スル……粁分ノ三等片道割引旅客運賃ヲ、又……以外ノ者ヲシテ割引證ヲ使用セシメタルトキハ本割引ヲ無效トシ割引ヲ受ケタルモノ全部ニ對スル普通旅客運賃又ハ特定旅客運賃ト割引旅客運賃トノ差額ヲ鐵道省運輸局長又ハ最寄鐵道局長ニ提出スベキモノトス

第七十五條　第六十七條乃至第七十條ニ依ル旅客運賃ノ割引ヲ受ケントスル主催者ハ規則書其ノ他參考トナルベキ書類ヲ添附シテ其ノ申込書ヲ鐵道省運輸局長又ハ最寄鐵道局長ニ提出スベキモノトス

第七十六條　第六十七條乃至第七十條ノ場合ニ於テ實際乘車船人員ガ各所定ノ人員ニ滿タザルトキハ其ノ不足人員ニ對スル百粁分（第六十九條ノ二及參列者ガ同一道府縣以內ノミヨリナルトキハ五十粁分）ノ各所定ノ割引ヲ爲シタル片道三等旅客運賃ヲ主催者ヨリ收受ス

第七十七條　第六十七條乃至第七十條ニ依リ旅客運賃ノ割引ヲ爲シタル場合主催者ニ於テ指定以外ノ者ヲシテ割引證ヲ使用セシメタルトキハ其ノ割引ヲ取消シ割引ヲ爲シタル旅客全部ニ對スル普通旅客運賃又ハ特定旅客運賃ト割引旅客運賃トノ差額ヲ主催者ヨリ收受ス

第七十八條　第六十七條乃至第七十條ニ依リ旅客運賃ノ割引ヲ受ケントスル主催者ハ規則書其ノ他參考トナルベキ書類ヲ添附シテ其ノ申込書ヲ鐵道省運輸局長又ハ最寄鐵道局長ニ提出スベキモノトス

第七十九條　第六十七條乃至第七十條ノ場合ニ於テ實際乘車船人員ガ各所定ノ人員ニ滿タザルトキハ其ノ不足人員ニ對スル百粁分（第六十九條ノ二及參列者ガ同一道府縣以內ノミヨリナルトキハ五十粁分）ノ各所定ノ割引ヲ爲シタル片道三等旅客運賃ヲ主催者ヨリ收受ス

第八十條　第六十七條乃至第七十條ニ依リ旅客運賃ノ割引ヲ受ケントスル主催者ハ規則書其ノ他參考トナルベキ書類ヲ添附シテ其ノ申込書ヲ鐵道省運輸局長又ハ最寄鐵道局長ニ提出スベキモノトス

第八十一條　第六十七條乃至第七十條ニ依リ旅客運賃ノ割引ヲ受ケントスル主催者ハ規則書其ノ他參考トナルベキ書類ヲ添附シテ其ノ申込書ヲ鐵道省運輸局長又ハ最寄鐵道局長ニ提出スベキモノトス

第八十二條　第六十七條乃至第七十條ニ依リ旅客運賃ノ割引ヲ受ケントスル主催者ハ規則書其ノ他參考トナルベキ書類ヲ添附シテ其ノ申込書ヲ鐵道省運輸局長又ハ最寄鐵道局長ニ提出スベキモノトス

第八十三條　第六十七條乃至第七十條ニ依リ旅客運賃ノ割引ヲ受ケントスル主催者ハ規則書其ノ他參考トナルベキ書類ヲ添附シテ其ノ申込書ヲ鐵道省運輸局長又ハ最寄鐵道局長ニ提出スベキモノトス

第八十四條　第六十七條乃至第七十條ニ依リ旅客運賃ノ割引ヲ受ケントスル主催者ハ規則書其ノ他參考トナルベキ書類ヲ添附シテ其ノ申込書ヲ鐵道省運輸局長又ハ最寄鐵道局長ニ提出スベキモノトス

第八十五條　第六十七條乃至第七十條ニ依リ旅客運賃ノ割引ヲ受ケントスル主催者ハ規則書其ノ他參考トナルベキ書類ヲ添附シテ其ノ申込書ヲ鐵道省運輸局長又ハ最寄鐵道局長ニ提出スベキモノトス

第八十六條　團體旅客トハ等級、發着驛及目的ヲ同ジクスル第九十條所定ノ人員以上ガ一團トナリテ旅行ヲ爲スモノニシテ鐵道省ノ承認ニ依リ第九十條所定ノ旅客運賃ノ割引ヲ受クルモノヲ謂フ

發着驛ヲ異ニスル場合ト雖モ全區間ノ旅客運賃ヲ支拂ヒ途中ヨリ一行ニ參加又ハ分離スル場合ハ一箇ノ團體トシテ取扱フ

第八章　補則

差額ヲ拂者ニ於テ辨納可致候

昭和　年　月　日

代表者　氏　　名㊞

鐵道省運輸局長（又ハ何々鐵道局長）殿

表

第　號		
旅客運賃割引證（何々大會、共進會、博覽會又ハ招魂祭）		
乘車船區間	自　驛 至　驛	往 復
住所 氏名 年齡		當　年
乘車船等級 割引率		等　割

官公衙又ハ主催者㊞

備考

第六十九條ニ依ル割引證ハ淡青色トス

第六十九條ノ二ニ依ル割引證ハ濃黃色トス

第七十條ニ依ル割引證ハ淡赤色トス

裏

注意

一　本證ハ　　ニ限リ使用シ得ルモノニシテ番號及使用者ノ氏名ヲ記入シテ交付スルモノトス

二　本證ニ依リ割引セラルベキ區間、期間及乘車券通用期間ハ左ノ如シ但シ二、三等往復乘車券ニ限ル

割引區間

割引期間　自昭和　年　月　日
　　至昭和　年　月　日

乘車券通用期間　發賣ノ日ヨリ昭和　年　月　日迄

三　本證ハ記名人以外ノ者之ヲ使用スルコトヲ得ズ

四　本證ニ依リ購求シタル割引乘車券ハ他人ニ讓渡シ又ハ他人之ヲ使用スルコトヲ得ズ

五　本證記載事項ヲ訂正シタル場合ニ於テハ左ノ證明アルモノニ限リ之ヲ有效トス

（一）發行者ノ記入スベキ事項ニ付テハ發行者ノ印

（二）使用者ノ記入スベキ事項ニ付テハ使用者ノ認印

旅客ガ事實ヲ僞リ團體旅客ノ取扱ヲ受ケタルコトヲ乘車券購求後發見シタルトキハ既收ノ團體旅客運賃ト當該團體乘車券面記載ノ人員、區間及等級ニ對スル普通旅客運賃又ハ特定旅客運賃トノ差額ヲ團體ノ申込者ヨリ收受ス

第八十七條　團體旅客ノ種類ハ左ノ如シ

一　普通團體　第二號及第三號以外ノ團體ニシテ責任アル代表者ノ引率スルモノ

二　特別團體

イ　同一學校ノ學生、生徒及生徒ノ附添人ヨリ成ル團體ニシテ教職員ノ引率スルモノ

ロ　鐵道省ニ於テ特ニ認メタル前各號ニ準ズベキ團體ニシテ責任アル代表者ノ引率スルモノ

第八十八條　特別團體トシテ取扱ヲ受クル生徒ノ附添人ハ左ノ場合ニ限リ之ヲ認ム但シ生徒一人ニ付一人トス

一　生徒ガ尋常小學校第二學年以下ノ者ナルトキ

二　前號以外ノ場合ニ於テ生徒ガ不具又ハ虛弱ナル爲教職員以外ニ附添人ヲ要スト認メタルトキ

第八十九條　左ノ場合ニ於テハ之ヲ一箇ノ特別團體トシテ其ノ取扱ヲ爲ス

一　二校以上ノ學生又ハ生徒ト其ノ教職員ヨリ成ル聯合團體ニシテ關係學校ニ於テ主催スルモノ

第九十條　團體旅客ニ對スル旅客運賃ノ割引ハ左ノ各號ニ依ル

一　割引ノ範圍

イ　普通團體　　二、三等

ロ　特別團體　　三　等

二　割引率

イ　普通團體

三等

輸送期間＼人員	二十五人以上	五十人以上	百人以上	二百人以上	四百人以上
第一期	一割	一割五分	二割	二割五分	三割
第二期	二割	二割五分	三割	三割五分	四割

二等

輸送期間＼人員	二十五人以上	五十人以上	百人以上	二百人以上	四百人以上
第一期	二割	二割五分	三割	三割五分	四割
第二期	三割	三割五分	四割	四割五分	五割

ロ　特別團體

(一)　(二)號以外ノモノ

輸送期間＼人員	三十人以上	百人以上	二百人以上	四百人以上
第一期	二割五分	三割	三割五分	四割
第二期	四割	五割	六割	七割

(二)　高等小學校生徒

輸送期間＼人員	三十人以上	百人以上	二百人以上	四百人以上
第一期	四割五分	五割	五割五分	六割
第二期	五割五分	六割	六割五分	七割

輸送期間第一期トハ一月一日ヨリ同月十日迄、三月十一日ヨリ六月十日迄及七月十一日ヨリ十二月末日迄ヲ謂フ

輸送期間第二期トハ一月十一日ヨリ三月十日迄及六月十一日ヨリ七月十日迄ヲ謂フ

第九十一條　團體旅客ノ人員ガ前條所定ノ人員ニ達セザル場合ト雖モ其ノ不足人員ニ對スル相當旅客運賃ヲ支拂フトキハ所定ノ旅客運賃ノ割引ヲ爲ス

前項ノ不足人員ハ大人(高等小學校生徒ヲ除ク)、高等小學校生徒、小兒混乘ノ場合ハ其ノ人員多數ナルモノニ依リ之ヲ計算ス人員同一ナルトキハ運賃低廉トナルモノニ依ル

第九十二條　尋常小學校生徒ニ對シ特別團體トシテ旅客運賃ノ割引ヲ爲ス場合ニ於テハ十二年以上ノ者ニ對シテモ小兒ノ旅客運賃ヲ適用ス

第九十三條　團體旅客ニ對シテハ左ノ各號ニ依リ世話人ノ無賃運送ノ取扱ヲ爲ス

一　百人迄(觀光團體ニ在リテハ二十五人以上百人迄)ノ團體　内一人

二　百一人以上ノ團體　二百人迄ハ内二人　二百一人以上ハ百人迄ヲ增ス毎ニ一人ヲ加フ

第九十四條　前條ニ依ル世話人ハ必要ニ應ジ適宜先發方ヲ團體申込驛ニ請求シ乘車用トシテ第百六十七條ニ定ムル追徴切符ノ交付ヲ受クルコトヲ

得

前項ニ依リ世話人ガ追徴切符ノ交付ヲ受ケタル後團體不成立トナリ若ハ主催者ノ都合ニ依リ團體乘車ノ申込ヲ取消シタルトキ又ハ團體人員減少ノ爲世話人ノ無賃扱皆無トナリ若ハ其ノ數ヲ減ズルニ至リタル場合ニ於テハ主催者ヨリ該切符面記載ノ區間ニ對スル相當旅客運賃ヲ收受ス

第九十五條　團體旅客運賃ノ割引ヲ爲ストキハ第九十三條ノ無賃世話人ヲ團體人員中ニ加算シ其ノ總人員ニ相當スル割引率ヲ適用シ又團體旅客ノ行程ガ二輸送期間ニ跨ルトキハ其ノ全行程中割引率ノ大ナルモノニ依ル

第九十六條　輸送力ノ關係其ノ他鐵道ノ責ニ歸スベキ事由ニ因リ一箇ノ團體旅客ヲ二回以上ニ分割シテ運送スル場合ハ其ノ運送回數ニ拘ラズ其ノ總人員ニ依リ團體割引旅客運賃ヲ計算ス

第九十七條　團體旅客運賃ハ第四十八條及第四十九條ニ依リ計算シタル旅客一人ニ對スル割引旅客運賃ニ團體總人員ヨリ第九十三條ノ無賃世話人ヲ控除シタル殘餘ノ人員ヲ乘ジテ之ヲ計算ス

第九十九條　客車、車室(本節中電車、氣動車又ハ其ノ車室ヲ除ク)又ハ自動車ノ貸切ヲ爲ス場合ニ於テハ別ニ定アル場合ヲ除キ其ノ定員ニ對スル大人普通旅客運賃又ハ特定旅客運賃ノ八割ヲ收受ス但シ定員ノ八割ヲ超エ乘車スル場合ハ實際乘車人員ニ對スル大人普通旅客運賃又ハ特定旅客運賃ヲ收受ス

第百五十二條　定期乘車券ヲ紛失シタル旅客ハ該券殘餘ノ通用期間ニ對シ日割計算ニ依ル定期乘車券運賃ヲ支拂ヒ其ノ發行驛ニ定期乘車券ノ再交付ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ請求ノ當日ハ之ヲ殘餘ノ通用期間ニ算入ス

第百六十二條　定期乘車券使用ノ旅客ガ乘車船區間ノ延長、短縮又ハ其ノ一部ヲ他ノ異ナル方向ニ變更ヲ爲ストキハ其ノ發行驛ニ之ガ書換ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ新舊區間ノ定期乘車券運賃ノ差額ヲ其ノ請求ノ當日ヨリ起算シタル殘餘ノ通用期間ニ對シ日割ニ依リ計算シ不足額ハ之ヲ追徴シ過剩額ハ之ガ拂戻ヲ爲サズ此ノ場合ニ於テ旅客ハ過剩額ニ對シ一回ニ限リ新區間定期乘車券運賃ノ日割計算ニ依ル相當日數(端數切捨)ノ通用期間延長ヲ請求スルコトヲ得但シ通用期間延長日數ハ原定期乘車券ノ殘餘ノ日數ト併セ變更ノ日ヨリ一箇年以内ニ限ル

第百七十三條　定期乘車券使用ノ旅客ハ該券不用トナリタルトキハ其ノ通用期間内ニ限リ之ヲ發行驛ニ還付シ左ノ金額ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得但シ第百六十二條第二項後段ニ依リ通用期間ノ延長ノ取扱ヲ爲シタル定期乘車券所持ノ旅客ハ其ノ延長期間ニ對シテハ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ズ

一　使用開始期日前ナルトキハ既收ノ定期乘車券運賃ヨリ手數料五十錢ヲ控除シタル殘額

二　使用開始期日以後ナルトキハ既收ノ定期乘車券運賃ヨリ使用經過月數ニ相當スル定期乘車券運賃及手數料五十錢ヲ控除シタル殘額

前項第二號ノ場合ニ於テハ拂戻請求ノ當日ハ之ヲ經過日數ニ算入シ一箇月未滿ノ經過日數ハ一箇月トシテ計算ス

第百七十四條　前條第一項第二號定期乘車券ノ使用經過月數ニ對スル運賃ハ左ノ各號ニ依リ計算ス

一　經過月數ガ一箇月、三箇月又ハ六箇月ナルトキハ各其ノ月數ニ相當スル定期乘車券運賃

二　經過月數ガ二箇月ナルトキハ一箇月ニ相當スル定期乘車券運賃ノ二倍

三　經過月數カ四箇月ナルトキハ三箇月ト一箇月トニ相當スル定期乘車券運賃ノ合算額
四　經過月數カ五箇月ナルトキハ六箇月ニ相當スル定期乘車券運賃
五　經過月數カ七箇月ナルトキハ六箇月ト一箇月トニ相當スル定期乘車券運賃ノ合算額
六　經過月數カ八箇月ナルトキハ六箇月ト一箇月ノ二倍トニ相當スル定期乘車券運賃ノ合算額

第百八十六條　定期乘車券又ハ回數乘車券使用ノ旅客ハ列車、汽船又ハ自動車ノ運行ヲ引續キ五日以上休止シタル場合ニ限リ該券發行驛ニ之ヲ呈示シ相當日數ノ乘車券通用期間ノ延長ヲ請求シ又ハ左ノ金額ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

一　定期乘車券ニ在リテハ不使用區間ニ對スル原券ト同一通用期間ニ對スル定期乘車券運賃ヲ日割ニ依リ計算シタル休止日數ニ相當スル金額
二　回數乘車券ニ在リテハ既ニ支拂ヒタル回數乘車券運賃ヲ總券片數ニテ除シタル額ニ殘餘ノ券片數ヲ乘ジタル金額

前項第二號ノ場合ニ於テハ回數乘車券ハ之ヲ回收ス

第三百三十八條　（第四項）

國書館ト市町村役場、學校、青年團（處女會ヲ含ム）トノ間ニ往復スル巡回書庫ニ對シテハ相當小荷物運賃ヨリ五割ヲ低減ス

●青年團團員等ノ旅客運賃割引取扱方

昭和十三年六月二十七日
鐵道省告示第百三十三號

大日本聯合青年團、大日本聯合女子青年團、大日本少年團聯盟、帝國少年團協會ノ團員、昭和七年六月鐵道省告示第百七十九號旅客及荷物運送規則（以下旅客規則ト稱ス）第二條所定ノ學校ノ學生、生徒又ハ別ニ定ムル手續ニ依リ認メラレタル團體ノ團員（二十五歳以下ノモノ）カ五人以上一團トナリ所定ノ指導者カ引率シテ別ニ定ムル區間及條件ニ依リ旅行スル場合ハ所定ノ割引證ヲ收受シ左ノ各號ニ依リ旅客運賃割引ノ取扱ヲ爲ス

一　等級　三等
二　割引率　五割
三　割引期間及發賣驛　割引區間毎ニ別ニ之ヲ定ム
四　乘車券　團遊、往復ノ團體乘車券又ハ特種乘車券トス
五　通用期間　旅客規則所定ノ通トシ特ニ必要アリト認ムル場合ハ十日以内增加ス
六　割引證　關係道、府、縣ヲ經テ所屬ノ團體又ハ學校ヨリ之ヲ交付ス其ノ樣式ハ左ノ如シ

表

第　號

青年徒歩旅行旅客運賃割引證

乘車船區間	自	驛
	至	驛
指導者氏名及徒歩旅行者人員	指導者	何某
	徒歩旅行者	何名
乘車船等級及割引率	三等	五割

昭和　年　月　日發行

何團（聯盟、協會、學校）理事長（長）　氏　名　職印

一二・八糎

九一・九糎

裏

備考　中央上部ニ鐵道省ノ印ヲ押捺ス

注意

一　本證ニ依リ運賃ノ割引ヲ受クルモノハ所定ノ資格證明書又ハ指導者證明書ヲ携帶シ鐵道係員ノ請求アルトキハ何時ニテモ之ヲ呈示スベキモノトス
二　本證ハ青年徒歩旅行資格者ニ限リ使用シ得ルモノニシテ番號、指導者ノ氏名、徒歩旅行者ノ人員及發行日附ハ發行者記入シテ之ヲ交付スルモノトス
三　本證ハ記名人以外ノ者之ヲ使用スルコトヲ得ズ
四　本證ニ依リ聯求シタル乘車券ハ他人ニ讓渡シ又ハ他人之ヲ使用スルコトヲ得ズ
五　本證ノ記載事項ヲ訂正シタル場合ハ發行者ノ職印アルモノニ限リ之ヲ有效トス
六　本證ノ有效期間ハ發行ノ日ヨリ三箇月トス
七　本證ニ依リ割引ノ取扱ヲ受ケタル場合ト雖モ青年宿泊所ニ宿泊セザルトキハ割引ヲ取消スモノトス

表

第　號

資格證明書

現住所

氏　名

生年月日

右ハ本團（聯盟、協會、校）團員（學生、生徒）タルコトヲ證明ス

昭和　年　月　日

何團（聯盟、協會、學校）理事長（長）　氏　名　職印

八・五糎

六糎

裏

注意

一　本證明書ノ番號、住所、氏名、生年月日、發行年月日ハ發行者之ヲ記入シテ交付スベキモノトス
二　本證明書ハ他人ニ貸與シ又ハ讓渡スベカラズ
三　本證明書ハ乘車船中必ズ携帶スベキモノトス
四　本證明書ハ鐵道係員ノ請求アルトキハ何時ニテモ之ヲ呈示スベキモノトス
五　本證明書ヲ紛失シタルトキハ直ニ發行者ニ届出ヅベキモノトス
六　新ニ證明書ノ交付ヲ受ケタル場合又ハ團員タル資格ヲ喪失シタルトキハ直ニ本證明書ヲ發行者ニ返付スベキモノトス
七　本證明書ノ有效期間ハ發行ノ日ヨリ一箇年トス
八　成規ニ依リ割引ノ取扱ヲ爲ケタル場合ト雖モ青年宿泊所ニ宿泊セザルトキハ割引ヲ取消スモノトス

八　指導者　指導者ハ一團ニ付一人トシ二十人ヲ超エル團體ニ對シテハ其ノ超過人員二十人ニ付一人ヲ增加シ得ルモノトス

前項ノ指導者ノ資格左ノ如シ

イ　大日本聯合青年團、大日本聯合女子青年團、大日本少年團聯盟及帝國少年團協會ノ役員又ハ團員

ロ　學生、生徒ニ在リテハ教職員（事務員ヲ除ク）又ハ學校長ニ於テ指定シタル學生、生徒

ハ　前各號以外ハ別ニ定ムル手續ニ依リ認メタルモノ

前項ノ指導者ハ左ノ樣式ノ指導者證明書ヲ携帶シ係員ノ請求アルトキハ何時ニテモ之ヲ呈示スベキモノトス

表

第　號

指導者證明書

現住所

氏　名

生年月日

右ハ本團（聯盟、協會、校）所屬ノ指導者タルコトヲ證明ス

昭和　年　月　日

何團（聯盟、協會、學校）理事長（長）　氏　名　職印

八・五糎

六糎

〔背數〕

注意

一　本證明書ノ番號、住所、氏名、生年月日、發行年月日ハ發行者之ヲ記入シテ交付スベキモノトス

二　本證明書ハ他人ニ貸與シ又ハ讓渡スベカラズ

三　本證明書ハ乘車船中必ズ携帶スベキモノトス

四　本證明書ハ鐵道係員ノ請求アリタルトキハ何時ニテモ之ヲ呈示スベキモノトス

五　本證明書ヲ紛失シタルトキハ直ニ發行者ニ届出ヅベキモノトス

六　新ニ證明書ノ交付ヲ受ケタル場合又ハ指導者タル資格ヲ喪失シタルトキハ直ニ本證明書ヲ發行者ニ返付スベキモノトス

七　本證明書ノ有效期間ハ發行ノ日ヨリ一箇年トス

八　成規ニ依リ割引ノ取扱ヲ受ケタル場合ト雖モ青年宿泊所ニ宿泊セザルトキハ割引ヲ取消スモノトス

九　上級乘換　全員カ上級乘換ヲ爲ス場合ニ限リ乘換區間ニ對スル上級ノ普通又ハ特定旅客運賃ト割引旅客運賃トノ差額ヲ收受シ之カ取扱ヲ爲ス

十　乘越、方向變更　旅客規則第百五十九條ノ二及同第百六十一條ノ二ニ依リ之カ取扱ヲ爲ス

十一　經路變更　取扱ヲ爲サズ但シ特ニ必要アリト認ムル場合ハ旅客規則第八十四條ニ依ル乘車券ト同一ノ取扱ヲ爲ス

十二　旅行見合、旅行中止　旅客規則第八十六條ニ依ル團體旅客ノ旅行見合、旅行中止ノ場合ニ準ジ之カ取扱ヲ爲ス

十三　途中下車禁止、復路乘車驛指定　必要アル場合ハ途中下車ノ禁止又ハ復路乘車驛ヲ指定スルモノトス

途中下車禁止又ハ復路乘車驛指定ノ乘車券ヲ以テ任意ニ下車又ハ乘車シ

〔背數〕

タル場合ハ旅客規則第二十九條但書ニ準ジ之カ取扱ヲ爲ス

十四　本割引乘車券ヲ購求シタルモノガ別ニ定ムル割引條件ニ背馳シタル場合ハ割引ヲ取消シ現乘車船區間ニ對スル普通又ハ特定旅客運賃ト既收旅客運賃トノ差額ヲ追徵ス

十五　其ノ他　一般ノ取扱ニ依ルモノトス

〔背數〕

縣令規之部

岡山縣青年學校法令集（縣令規之部）

第一章　青年學校

●青年學校規程實施細則……昭一〇年縣令二七號……一
●青年學校ニ關スル件……昭一〇年教五七五號……一〇
●青年學校手帳竝其ノ取扱ニ關スル件……昭一〇年教二一一九號……二四
●昭和十年陸軍省令第一號第一條第一號ノ規定ニ依ル課程ノ認定取扱方ノ件……昭一〇年教二一二〇號……二五
●在營期間短縮ノ爲必要ナル青年學校ノ課程及地方長官ニ於テ青年學校ノ課程ト同等以上ト認メタル課程ノ修得時數竝ニ其ノ取扱ニ關スル件……昭一〇年教二一一九號……二六
●岡山縣青年學校生徒服制……昭一〇年告示七六五號……二八
●青年學校生徒服制ニ關スル件……昭一〇年教一七二八號……三〇
●青年學校生徒精勤章ニ關スル件……昭一一年教八七六號……三一
●青年學校ニ關スル調査報告ノ件……昭一一年教四四二號……三三
●青年學校一覽表ニ關スル件……昭一一年教七三七號……五〇
●青年學校名簿報告ニ關スル件……昭一一年教八四四號……五三
●青年學校振興日設定ニ關スル件……昭一二年教七四八號……五四

第二章　教職員

●岡山縣立青年學校教員養成所學則……昭六年縣令一五號……五五
●岡山縣立女子青年學校教員養成所學則……大一三年縣令二三號……六一
●公立青年學校ノ職員任命ニ關スル辭令式……昭一〇年訓令五九號……六五
●公立青年學校職員任命竝ニ補職辭令式ニ關スル件……昭一〇年敎五七六號……六六
●公立學校職員及市町村立小學校敎員戰時事變ニ際シ召集セラレタル場合ノ取扱方ニ關スル件……昭一二年學二四二二號……六七
●公立學校職員俸給支給細則……明三六年縣令四三號……六九
●公立學校職員年功加俸支給細則……大一〇年縣令三〇號……六九
●公立學校職員年功加俸給與手續……大一五年訓令一〇六號……七〇
●公立學校職員年功加俸給與手續ニ關スル件……昭三年敎一五七八號……七五
●年功加俸、特別加俸ニ關スル件……昭九年學一六六四號等……七五
●年功加俸取扱ニ關スル件……昭一一年敎一二八八號……七五
●加俸金支拂調書ニ關スル件……昭一一年學三九一四號……七七
●縣費支辨俸給支給規則……明三四年訓令三九號……七八
●縣費支辨吏員職員ニ關スル職制改廢ノ場合勤續者ノ件……大九年縣令七二號……七九
●縣費支辨旅費規則……大一四年訓令九號……八〇
●國費支辨管內旅費規程……大一四年訓令八號……八五
●國費支辨ニ屬スル旅費減額支給規程……昭五年訓令五五號……八六

第三章　學校衞生

●學校清潔方法……明三〇年告示九號……八七
●學校身體檢查規程ニ關スル件……昭一二年學二七一號……八八
●學校身體檢查規程實施ニ關スル件……昭一二年學四五一號……九七
●學校傳染病豫防ニ關スル件……昭五年敎二〇四一號……九八
●學校醫ニ關スル細則……昭九年訓令六四號……九九
●學校醫ニ關スル細則施行ニ關スル件……昭九年敎一四八九號……一〇一
●學校歯科醫ニ關スル件……昭一一年學四一三號……一〇二
●學校歯科醫職務ニ關スル件……昭一一年學九五〇號……一〇二
●學校歯科診療範圍、經費竝ニ口腔診查票等ニ關スル件……昭一一年學二二五三號……一〇二

第四章 補則

●學校圖書館教育會等設置廢止規則……明二七年縣令五〇號……一〇三
●私立學校設置及其他取扱方ニ關スル規則……明三四年縣令六三號……一〇三
●學校生徒取締ニ關スル規程……明四一年訓令一一號……一〇四
●學校生徒喫煙禁止ニ關シ注意ノ件……明三三年訓令一八號……一〇四

岡山縣青年學校法令集

(縣令規之部)

第一章 青年學校

●青年學校規程實施細則

昭和十年五月一日
岡山縣令第二十七號

沿革 昭和一一年五月縣令第六七號改正

青年學校規程實施細則左ノ通定ム

青年學校規程實施細則

第一章 設置及廢止

第一條 青年學校ノ設置ニ就キ認可ヲ受ケントスルトキハ青年學校規程第一條第一項ニ規定スルモノノ外左ノ事項ヲ具シ知事ニ申請スベシ

一 職員數及俸給額ノ豫定

二 設置者ガ市町村學校組合又ハ町村學校組合ナルトキハ組合規約、商工會議所、農會其ノ他之ニ準ズベキ公共團體ナルトキハ定款又ハ會則、私人ナルトキハ履歷書、定款又ハ寄附行爲

青年學校規程第一條ノ規定ニ依リ添付スベキ圖面ハ縮尺二百分ノ一トシ左ノ事項ヲ記載スベシ但シ青年學校規程第六條ノ規定ニ依ル併設ノ場合ニ在リテハ既設ノ學校、試驗場、講習所等ノ圖面ニ青年學校トシテ使用スル部分ヲ明示スベシ

一 字
二 地種目
三 段別
四 校地ノ買收又ハ借入ノ別
五 方位
六 隣地ノ狀況

第二條 青年學校ノ設置者ヲ變更セントスルトキハ青年學校規程第三條ニ規定スルモノノ外新設置者ニ係ル前條第一項第二號ノ事項ヲ具シ當事者連署ノ上知事ニ申請スベシ

第三條 青年學校廢止ノ認可ヲ受ケントスルトキハ設置者ニ於テ其ノ事由、期日及生徒ノ處分方法ヲ詳具シ知事ニ申請スベシ

廢止校ノ學籍簿、出席簿其ノ他重要ナル表簿ハ合併ノ爲廢止シタルトキハ合併校ニ其ノ他ノ場合ニ在リテハ廢止校所在地ノ市町村長之ヲ保存スベシ

第二章 設備

第四條 御影又ハ勅語謄本ヲ拜戴スル學校ニ在リテハ最モ尊重且堅固ニ奉置スベシ

第五條 青年學校ニハ左ノ設備ヲ爲スベシ

一 普通教室
二 特別教室
三 職員室
四 銃器室
五 體操場
六 實習場
七 器具、機械、標本及圖書竝教練、體操及實習ニ必要ナル設備
八 衞生上其ノ他必要ナル設備

第六條 校舍ノ建築又ハ模樣替ニ關シテハ小學校令施行規則實施細則第十五條及第二十一條ノ規定ヲ準用ス

第七條 分教場ヲ設置セントスルトキハ設置者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ知事ニ申請スベシ

一 事由及期日
二 收容生徒數

三　教授及訓練擔任者職氏名
四　位置及通學區域
五　校地校舍ノ平面圖
六　設備ノ情況
分教場ヲ廢止セントスルトキハ設置者ニ於テ其ノ事由及期日ヲ具シ知事ニ申請スベシ

第八條　青年學校ニハ左ノ表簿ヲ設クベシ

一	學校一覽表	永年保存
二	學校沿革誌	永年保存
三	學校日誌	永年保存
四	備品原簿	永年保存
五	證書授與原簿	永年保存
六	教授及訓練細目	五年保存
七	文書受發簿	五年保存
八	學事例規綴	永年保存
九	學籍簿	永年保存
十	公文書綴	十年保存
十一	生徒出席簿	十年保存
十二	生徒身體檢査統計表	十年保存
十三	生徒成績調査簿	十年保存
十四	生徒賞罰錄	永年保存
十五	職員出勤簿	五年保存
十六	教員履歷書綴	永年保存
十七	監督指導官視察錄	永年保存
十八	其ノ他必要ナル諸表簿	

【岡山青】

第三章　課程及編制

第九條　課程竝教授及訓練期間左ノ如シ

普通科		二年
本科	男子	五年
	女子	三年
研究科		一年以上

本科男子ノ教授及訓練期間ヲ四年トスル場合、本科女子ノ教授及訓練期間ヲ二年トスル場合及研究科ヲ置カザル場合ニ在リテハ其ノ事由ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クベシ

第十條　專修科ノ教授及訓練期間ハ三月以上一年以內トス

第十一條　學級ノ編制ハ男女別トシ一學級ノ生徒數ハ五十人以下トス

第十二條　青年學校ニハ本科又ハ研究科ニ就キ教授及訓練期間ヲ異ニスル二以上ノ科ヲ併置スルコトヲ得

第十三條　青年學校ニ於ケル普通科、本科及研究科ハ教授及訓練時數竝職業科ノ種別等ヲ異ニスル二以上ノ部ニ區分スルコトヲ得

第十四條　青年學校ニハ一學級ニ付一人以上ノ專任教員ヲ置クベシ但シ特別ノ事情ニ依リ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十五條　青年學校ニ於ケル青年學校教員資格規程第四條第一項ノ教員數ハ有資格教員數ヲ超ユルコトヲ得ズ

第十六條　青年學校ニ於ケル兼任教員ノ擔任時數ハ一人一週五時間ヲ超ユルコトヲ得ズ

第十七條　青年學校規程第十五條ノ修了證及卒業證ハ第一號樣式ニ依ルベシ

研究科ヲ修了セシ者ニ對シテハ普通科ニ準ジ修了證ヲ授與スルコトヲ得

第四章　教授及訓練

【岡山青】

第十八條　普通科及本科ニ於ケル普通學科ハ國語、歷史、地理、數學、理科、普樂等ニ付職業科ハ農業、商業、工業、水產等ニ付土地ノ情況ニ應ジ適切ナル事項ヲ選ビ之ヲ授クベシ

教練科ニハ教練及體操ノ外武道及競技ヲ加フルコトヲ得

研究科ニ於ケル職業科及教練科ハ本科ニ準ジ適切ナル事項ヲ選ビ之ヲ授クベシ

第十九條　教授及訓練時數ハ左ノ時數以上ニ於テ學校長之ヲ定ム但シ特別ノ事情アルトキハ青年學校規程第八條ニ規定セラレタル時數マデ之ヲ減ズルコトヲ得

年	第一年		第二年	
教授及訓練科目	週	年	週	年
修身及公民科	一	三四	一	三四
普通學科	五	一七〇	五	一七〇
職業科	四	一三六	四	一三六
體操科	二	六八	二	六八
合計	一二	四〇八	一二	四〇八

普通科　女子

年	第一年		第二年	
教授及訓練科目	週	年	週	年
修身及公民科	二	六八	二	六八
普通學科	四	一三六	四	一三六
職業科	四	一三六	四	一三六
家事及裁縫科	五	一七〇	五	一七〇

普通科　男子

體操科	一	三四	一	三四	一	三四	一	三四
合計	一二	四〇八	一二	四〇八	一二	四〇八	一二	四〇八

本科及研究科　男子

教授及訓練科目＼年	第一年 週	第一年 年	第二年 週	第二年 年	第三年 週	第三年 年	第四年 週	第四年 年	第五年 週	第五年 年	研究科 週	研究科 年
修身及公民科	一	三四	一	三四	一	三四	一	三四	一	三四	一	三四
普通學科	三	一〇二	三	一〇二	三	一〇二	三	一〇二	三	一〇二		
職業科	四	一三六	四	一三六	三	一〇二	三	一〇二	三	一〇二	三	一〇二
教練科	三	一〇二	三	一〇二	三	一〇二	三	一〇二	三	一〇二	三	一〇二
合計	一一	三七四	一一	三七四	七	二三八	七	二三八	七	二三八	七	二三八

本科及研究科　女子

教授及訓練科目＼年	第一年 週	第一年 年	第二年 週	第二年 年	第三年 週	第三年 年	研究科 週	研究科 年
修身及公民科	二	六八	二	六八	二	六八	一	三四
普通學科	二	六八	二	六八	二	六八		
職業科	七	二三八	七	二三八	七	二三八	六	二〇四
家事及裁縫科								

體操科	一	三四	一	三四	一	三四	一	三四
合計	一二	四〇八	一二	四〇八	一二	四〇八	七	二三八

第二十條　學校長ハ各教授及訓練科目ニ付教授及訓練細目ヲ制定スベシ

第二十一條　青年學校ニ於テ教科書ヲ採定シタルトキハ編纂者、發行者、書名、使用年及定價ヲ具シ開申スベシ

第五章　就學及出席

第二十二條　青年學校令第八條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ普通科又ハ本科ノ第一年ニ入學スルコトヲ得ル者ノ年齡ハ其ノ年三月三十一日ニ於テ普通科ニ在リテハ十二年以上本科ニ在リテハ十四年以上タルベシ

第二十三條　普通科又ハ本科ノ第二年以上ノ入學ニ關シテハ年齡ヲ基準トシ其ノ素養ヲ斟酌シテ之ヲ相當科ノ相當年ニ編入スルモノトス

第二十四條　市町村長ハ本則第二十二條ニ規定スル年齡該當者ヲ調査シ第二號樣式ニ依リ毎年二月末日迄ニ關係青年學校長ニ通知スベシ

前項ノ通知ヲ受ケタル青年學校長ハ毎年三月十五日迄ニ其ノ入學期日ヲ保護者又ハ雇主ニ通知スベシ

第二十五條　市町村長ハ復籍、轉籍、寄留等ニ依リ青年學校ニ入學シ得ル者ヲ生ジタルトキハ其ノ都度之ヲ關係青年學校長ニ通知スベシ

第二十六條　居所又ハ住所ノ移轉等特別ノ事由ニ依リ他ノ青年學校ニ轉學ヲ志望スル生徒アルトキハ學校長ハ其ノ生徒ノ學籍簿ノ寫ヲ移轉先學校長ニ送付スベシ

移轉先學校長ハ特別ノ事情ナキ限リ入學ヲ許可シ之ヲ相當科ノ相當年ニ編入スベシ

第二十七條　青年學校規程第十四條ノ規定ニ依リ他ノ青年學校ニ於テ一時教授及訓練ヲ受ケントスル者アルトキハ學校長ニ於テ當該生徒ノ青年學校手帳ニ出席狀況其ノ他必要ナル事項ヲ記入證明シ當該青年學校ニ委託スベシ

前項ノ委託ヲ受ケタル學校長ハ特別ノ事情ナキ限リ之ヲ許可シ其ノ旨在籍學校長ニ通知スベシ

委託期間終了シタルトキハ當該生徒ノ青年學校手帳ニ出席時數其ノ他必要ナル事項ヲ記入證明スベシ

第二十八條　疾病其ノ他特別ノ事情ニ依リ所定ノ教授及訓練時數ヲ缺キタル者ニ對シテハ教授及訓練ノ補充ヲ爲スコトヲ得

第二十九條　青年學校ニハ第三號樣式ニ準ジ生徒出席簿ヲ作リ各科目ノ出席時數ヲ明確ニスベシ

第六章　職員

第三十條　私立青年學校ニ於テ學校長ヲ定メ又ハ有資格教員ヲ採用セントスルトキハ設置者ニ於テ本人ノ履歷書ヲ添ヘ左記事項ヲ具シ學校長ノ場合ニ在リテハ申請其ノ他ノ場合ニ在リテハ開申スベシ

一　採用年月日

二　擔任教授及訓練科目

三　俸給又ハ手當

教員ヲ解職シタルトキハ直チニ其ノ旨開申スベシ

第三十一條　兼任又ハ囑託教員ニ對スル手當ハ年額トシ學校長ニ在リテハ八十四圓其ノ他ノ教員ニシテ毎週教授及訓練時數二時間以上ヲ擔當スル者ニ在リテハ四十八圓ヲ下ルコトヲ得ズ

第三十二條　青年學校職員ノ俸給其ノ他諸給與ニ關シテハ岡山縣公立學校

職員俸給支給細則ヲ適用シ旅費ニ關シテハ岡山縣公立中學校公立實業學校及公立高等女學校職員旅費支給ニ關スル規程ヲ準用ス

第七章　職務竝服務

第三十三條　左ノ事項ハ學校長之ヲ專行ス

一　職員ノ縣内出張ニ關スル事項
二　職員ノ縣内私事旅行ニ關スル事項
三　女教員ノ産前産後ノ休養ニ關スル事項
四　職員ノ忌引及除服出仕ニ關スル事項
五　職員ノ受驗ニ關スル事項

第三十四條　學校長ハ職員中左ノ各號ノ一ニ該當スル者アリト認ムルトキハ事實ヲ詳具シ遲滯ナク知事ニ之ヲ上申スベシ

一　職務ニ關シ特殊ノ考案研究ヲ爲シタル者
二　職務ニ關シ發見發明ヲ爲シタル者
三　特ニ善行アリタル者
四　職務上ノ義務ニ違背シタル者
五　職務ヲ怠リタル者
六　職務ノ内外ヲ問ハズ職務上ノ威信ヲ失フベキ所爲アリタル者

第三十五條　學校長ハ校務ニ關シ規則ヲ設クルコトヲ得

第三十六條　學校長事故アルトキハ上席教員其ノ職務ヲ代理ス

第三十七條　學校長及職員ハ常ニ校内取締ノ責ニ任ズベシ

第三十八條　任用セラレタル者又ハ轉任ヲ命セラレタル者ハ辭令書ノ交付ヲ受ケタル者ヨリ五日以内ニ赴任スベシ

赴任シタルトキハ其ノ旨知事ニ届出ヅベシ

第三十九條　公立青年學校ノ校長其ノ他ノ職員其ノ職務ニ關シ他人ノ贈遺ヲ受ケントスルトキハ知事ノ許可ヲ受クベシ

第四十條　學校長死亡シタルトキハ上席教員ヨリ教員死亡シタルトキハ學校長ヨリ其ノ旨管理者ニ通知スベシ

第四十一條　學校長忌引シタルトキハ知事ニ之ヲ届出ヅベシ

第四十二條　學校長ハ生徒ノ褒賞ヲ行フコトヲ得

第四十三條　學校長ハ校規ニ悖リ訓誡ニ服セズ其ノ他生徒タルノ本分ヲ失スル所爲アリタル者ニ對シテハ左ノ各號ニ依リ懲戒ヲ行フコトヲ得但シ三十日以上ノ停學又ハ放校ニ處セントスルトキハ事由ヲ詳具シ知事ノ許可ヲ受クベシ

一　戒飭
二　謹愼
三　停學
四　放校

第八章　助成員

第四十四條　公立青年學校ニ助成員若干名ヲ置ク

第四十五條　助成員ハ管理者之ヲ嘱託シ其ノ氏名ヲ知事ニ報告スベシ

第四十六條　助成員ハ左ニ揭グル事項ニ付管理者又ハ學校長ヲ援助スベシ

一　就學出席ノ奬勵ニ關スル事項
二　設備ノ充實ニ關スル事項
三　其ノ他青年學校ノ振興ニ關スル事項

第九章　報告

第四十七條　管理者又ハ設立者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ郡度遲滯ナク知事ニ之ヲ報告スベシ

一　開校シタルトキ
二　校舍竣工シタルトキ
三　非常災害ノ爲校舍損壞シタルトキ

四　學校長其ノ他ノ職員死亡シタルトキ

第四十八條　學校長ハ別ニ定ムル樣式ニヨリ毎年五月二十日迄ニ青年學校一覽表ヲ知事ニ提出スベシ

第四十九條　學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ郡度遲滯ナク知事ニ之ヲ報告スベシ

一　校務ニ關スル規定ヲ設ケタルトキ
二　每學年末職員ノ勤務ヲ調査シタルトキ
（第四號樣式）
三　學校長其ノ他ノ職員氏名ヲ變更シタルトキ
四　非常災害其ノ他ノ事故アリタルトキ
五　學校長其ノ他ノ職員ニシテ陸海軍現役ニ服シ又ハ戰時事變ニ際シ召集セラレタルトキ

第十章　雜則

第五十條　青年學校ノ管理者ハ青年教育費補助ニ關シ每年十二月末日迄ニ別ニ定ムル樣式ニ依リ知事ニ之ヲ申請スベシ

第五十一條　公立青年學校ニ關シ知事ノ權限ニ屬スル左ノ事項ハ市長ヲシテ之ヲ行ハシム

一　學校長其ノ他職員ノ赴任届ニ關スル事項
二　學校長ノ忌引及除服出仕ニ關スル事項
三　學校長ノ縣内出張又ハ縣内私事旅行ニ關スル事項

第五十二條　職員ヨリ知事ニ提出スル文書ハ學校長ヲ經由スベシ

公立青年學校長ヨリ知事ニ提出シ若ハ通達スル文書ハ市ニ在リテハ市長ヲ經由スベシ

第五十三條　私立青年學校長又ハ其ノ設置者ヨリ知事ニ提出スル文書ニシテ學校ノ設置、廢止、名稱又ハ學則ノ變更及授業料ノ徵集ニ關スルモノハ學校所在地ノ市町村長ヲ經由スベシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

實業補習學校規程實施細則、明治三十五年岡山縣訓令第十一號及青年訓練所規程施行細則ハ之ヲ廢止ス

青年學校令附則第二項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ知事ニ申請スベシ

一　事由
二　各年教授及訓練科目時數
三　教授及訓練ノ季節及時刻
四　學級ノ編制及職員組織
五　其ノ他必要ナル事項

本則第十二條ノ規定ニ依リ本科男子ニ就キ教授及訓練期間ヲ異ニスル科ヲ併置シ一ノ科ヲ三年以下ニセントスル場合ニ在リテハ前項ニ準ジ知事ニ申請スベシ

本則第十四條ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケントスルトキハ設置者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ知事ニ申請スベシ

但シ設置者ガ青年學校令第三條及第四條ニ該當スル者ナルトキハ第三號及第七號乃至第九號ノ事項ヲ具シ知事ニ申請スベシ

一　學校區域内戸數
二　當該學校ニ就學シ得ル者ノ數
三　在籍生徒數
四　戸數割一戸平均額
五　當該年度市町村歲出豫算額
六　當該年度教育費豫算額

七　當該年度青年學校費豫算額
八　期限
九　其ノ他特記スベキ事由

第一號樣式

第　號
修了證
校印　氏名
年月日生
右者本校普通科ノ課程ヲ修了シタルコトヲ證ス
年月日
契印
岡山縣何郡(市)何(町村)立
何青年學校長　氏名　印

第二號樣式

通知
年月日
何々青年學校長殿
青年學校入學年齢該當者調
首標ノ件青年學校規程實施細則第二十四條ニ依リ左記及通知候
記
普通科　(本科)
〔岡山青〕

第　號
卒業證
校印　氏名
年月日生
右者本校本科ノ課程ヲ卒業シタルコトヲ證ス
年月日
契印
岡山縣何郡(市)何(町村)立
何青年學校長　氏名　印

市町村長　氏名　印

本人
氏名　生年月日　本籍　現住所　學歷　職業
保護者又ハ雇主
氏名　住所　職業

第三號樣式

科第　年生徒出席簿　學校長印　主査印

氏名	教授及訓練科目	四月	五月	六月	合計	總計
氏名	修身及公民科	1				
	普通學科	2				
	職業科	2				
	家事及裁縫科					
	體操科(教練科)	1				
	計	6				
	計	5				
	計	7				
	計	1				
	計	1				
	計	2				
	計	2				
	計	6				

備考
日欄ニハ教授及訓練日ヲ記入スベシ
教授及訓練科目各欄ニハ實際受ケタル教授及訓練時數ヲ記入スベシ

第四號樣式

報告
年月日
第一章　青年學校
何々青年學校長　氏名　印

岡山縣知事殿

昭和　年度職員勤務調ノ件

左表ノ通及報告候也

出勤日數	出勤	出張	廢休	休暇	忌引	病氣	事故	遲刻	早引	職名	氏名	備考

備考

出勤日數欄ニハ其ノ年度ニ於ケル休業日以外ノ當然出勤スベキ總日數(擧式日ヲ含ム)ヲ記入スベシ

●青年學校ニ關スル件

昭和十年五月一日
教第五七五號學務部長通牒
市町村長　青年學校長(市内ヲ除ク)
青年學校長事務取扱(同上)宛

今般制定相成タル青年學校規程實施細則ノ運用ニ就テハ左記各事項御了知ノ上御取扱相成度依命及通牒候

記

一　學校ノ名稱ニ關スル事項

(一)青年學校令ニ依ル學校ハ必ズ「青年學校」ノ文字ヲ附スルコト

(二)公立青年學校ニ在リテハ其ノ設置者名ヲ、私立青年學校ニ在リテハ「私立」ノ文字ヲ冠スルコト

(三)名稱ノ例

岡山縣何郡(市)何町村立(又ハ岡山縣何郡(市)何町村)農工、商業青年學校

岡山縣何郡(市)何町村立(何)青年學校

岡山縣何郡(市)何町村立(何)女子青年學校

〔岡山青〕

公立青年學校岡山縣何郡(市)何町村商工專修學校

公立青年學校岡山縣何郡(市)何町村實務女學校

私立何青年學校

二　專修科ニ關スル事項

(一)專修科ノ專修項目ハ珠算、簿記、速記、タイプライター、英語、製圖、家具、塗工、園藝、養蠶、手藝、洗染、割烹其ノ他主トシテ職業ニ關スル特別ノ事項トスルコト

(二)普通科、本科又ハ研究科ノ生徒ハ同時ニ專修科ノ課程ヲ兼修スルヲ得ルコト

三　入學ノ取扱ニ關スル事項

(一)男子ニ就キ中學校、尋常小學校卒業程度ヲ入學資格トスル修業年限五年ノ實業學校又ハ之ト同等以上ノ學校ノ各學校修了者又ハ卒業者ヲ青年學校ノ本科及研究科ニ入學セシムル場合ニハ學校長ニ於テ左ノ例ヲ標準トシ其ノ年齢及素養ヲ斟酌シテ適宜之ヲ相當年ニ編入スルヲ得ルコト

(イ)年齢十四年以上十五年未滿ノ者ニシテ第二學年ヲ修了シタルモノハ本科第二年

〔岡山青〕

(ロ)年齢十五年以上十六年未滿ノ者ニシテ第三學年(高等小學校卒業程度ヲ入學資格トスル學校ニ在リテハ第一學年)ヲ修了シタルモノハ本科ノ第三年又ハ第四年

(ハ)年齢十六年以上十七年未滿ノ者ニシテ第四學年(高等小學校卒業程度ヲ入學資格トスル學校ニ在リテハ第二學年)ヲ修了シタルモノハ本科ノ第四年又ハ第五年

(ニ)學校ヲ卒業シタルモノハ研究科第一年

前項以外ノ學校ノ各學年修了者又ハ卒業者ニ關シテモ其ノ課程ノ程度ニ應ジ前項ノ例ニ準ズルヲ得ルコト

(二)女子ニ就キ高等女學校、尋常小學校卒業程度ヲ入學資格トスル修業年限四年ノ實業學校又ハ之ト同等以上ノ學校ノ各學年修了者又ハ卒業者ヲ青年學校ノ本科及研究科ニ入學セシムル場合ニハ學校長ニ於テ左ノ例ヲ標準トシ其ノ年齢及素養ヲ斟酌シテ適宜之ヲ相當年ニ編入スルヲ得ルコト

(イ)年齢十四年以上十五年未滿ノ者ニシテ第二學年ヲ修了シタルモノハ本科第二年

(ロ)年齢十五年以上十六年未滿ノ者ニシテ第三學年(高等小學校卒業程度ヲ入學資格トスル學校ニ在リテハ第一學年)ヲ修了シタルモノハ本科第三年又ハ研究科第一年前項以外ノ學校ノ各學年修了者又ハ卒業者ニ關シテモ其ノ課程ノ程度ニ應ジ前項ノ例ニ準ズルヲ得ルコト

(三)實業補習學校及青年訓練所生徒ヲ青年學校ノ相當科ノ相當年ニ編入スル場合ニハ學校長ニ於テ通常左ノ標準ニ依ルコト

(イ)實業補習學校生徒ヲ青年學校ニ編入スル場合(上段ノ各課程ノ各學年修了者ヲ下段ノ科及年ニ編入スルモノトス)

實業補習學校	青年學校
前期第一學年	普通科第二年
同　第二學年	本　科第一年
後期第一學年	同　第二年
同　第二學年	同　第三年
研究科 高等科 第一學年(後期第三學年)〔後期三年ノ場合〕	同　第四年
同　第二學年(研究科 高等科 第一學年)	同　第五年(研究科第一年)〔本科四年ノ場合〕
同　第三學年(同前第二學年)	研究科第一年(同前第二年)

(ロ)青年訓練所生徒ヲ青年學校ニ編入スル場合(上段ノ各年次ヲ修メタル者ヲ下段ノ科及年ニ編入スルモノトス)

青年訓練所	青年學校
第一年次	本科第四年
第二年次	同　第五年〔本科四年ノ場合〕研究科一年
第三年次	研究科第一年(同前第二年)

實業補習學校生徒及青年訓練所生徒ガ一ノ青年學校ニ在學スルコト、ナル場合ニ於テ學力等ニ著シキ差異アルトキハ之ヲ部ニ分チテ編制スルモ差支ヘナキコト

四　轉學及委託ニ關スル事項

居所又ハ住所移轉等特別ノ事由ニ依リ他ノ青年學校ニ轉學ヲ志望スル場合及生徒ニシテ生業其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ依リ他ノ一定地方ニ概ネ一月以上三月迄ノ期間ニ亙リ滯在セントスル爲教授及訓練ノ委託ヲ志望スル場合ノ取扱ニ關シテハ青年學校規程實施細則第二十六條及第二十七條ノ規定ニ據ルトコロナルモ往々ニシテ居所移動ニ當リ何等ノ申出ヲモナサズ居所

不明ノ儘教授及訓練ヲ受クル機會ヲ失スル場合ナシトセズ學校長ハ常ニヨク之等移動生徒ノ實情ヲ調査シ萬遺憾ナキヲ期スルコト

五　課程ノ修了及卒業ノ認定等ニ關スル事項

普通科ノ修了及本科ノ卒業ノ認定ハ全課程ニ就キ出席時數其ノ他平素ノ學修情況ヲ標準トシテ之ヲ爲スコト

前項ノ出席時數ノ標準ハ其ノ校ニ於ケル各教授及訓練科目ノ教授及訓練時數ノ當該科ニ於ケル總時數（男子本科ニ在リテハ普通學科及職業科ノ時數ハ之ヲ通算ス）ノ概ネ六割以上トシ青年學校規程第八條ニ規定スル時數ノ八割ヲ下ラザルモノトス但シ中途入學者及轉學者ニ關シテハ入學シタル時期ヲ基準トシ其ノ以後ニ配當シタル時數ニ依ルコト

六　講習ニ關スル事項

(一)　青年學校ニ於ケル講習ハ青年學校ノ修了者又ハ卒業者ヲ始メ一般公衆ヲ對象トシテ之ヲ行フコト

(二)　講師ハ當該學校ノ教員ノ外學校長ニ於テ囑託シタル者トスルコト

(三)　講習ノ期間ハ三月以内トスルコト

七　專任教員ニ關スル事項

青年學校ノ專任教員ハ左ニ揭グル者ヲ謂フコト

(イ)　公立青年學校ノ專任ノ教諭又ハ助教諭タル者

(ロ)　公立青年學校ノ專任ノ學校長ニシテ當該學校ノ教諭又ハ助教諭ニ兼任セラレタル者

(ハ)　前二號以外ノ公立私立青年學校教員タルモノニシテ當該學校ノ教員タルコトヲ本務トシ且手當又ハ給料月額四十圓以上ヲ受クル者

八　公立青年學校ノ指導員等ニ關スル事項

(一)　教練科ヲ擔任セシムル爲在鄉軍人ニ指導員ヲ囑託スル場合ニハ成ルベク其ノ在營期間長ク且教育程度高キ者ヨリ之ヲ選定スルコト

(二)　指導員ノ外特別ノ必要アルトキハ知事ハ青年學校教員資格規程ニ依リ適當ト認ムルモノニ公立青年學校ノ教授及訓練ヲ囑託スルモノトス

前項ノ教員ハ之ヲ講師ト稱スルコト

九　私立青年學校教員ニ關スル事項

(一)　私立青年學校ニ於テ青年學校ノ教員タルコトヲ得ル資格ヲ有セザル者ヲ教員トシテ採用スル場合ニハ知事ノ認可ヲ受クルコト（青年學校教員資格規程第四條）

前項ノ認可ハ當該學校在職間有效ナルコト

(二)　私立青年學校ノ教員ノ名稱ハ公立青年學校ニ準ジ教諭、助教諭、指導員等ノ名稱ヲ使用スルコト

十　學籍簿青年學校手帳ニ關スル事項

學籍簿竝ニ青年學校手帳ハ文部省告示ヲ以テ定メラルベキ樣式ニ從ヒテ之ヲ調製スルコト但シ青年學校手帳ハ適宜ノ方法ニ依リ調製交付ノ便ヲ圖ルコト

十一　公立青年學校職員進退ニ關スル事項

公立青年學校職員ノ進退竝俸給ニ關シテハ爾今左ノ通取扱フコト

(一)　公立青年學校ノ教諭（助教諭書記）ヲ任用セントスルトキハ別記第一號樣式ニ依リ市ニ在リテハ市長其ノ他ニ在リテハ學校長ヨリ知事ニ内申スルコト但シ新ニ專任教員及書記ヲ任用スル場合ニ在リテハ本人ノ履歷書及身體檢査書ヲ添付シ兼任又ハ轉任ノ場合ニシテ市ニ關係スルトキハ市長其ノ他ノ學校ニ關係スルトキハ當該學校長ノ同意書ヲ添付スルコト

(二)　公立青年學校ノ指導員又ハ講師ヲ囑託セントスルトキハ別記第二號樣式ニヨリ市ニ在リテハ市長其ノ他ニ在リテハ學校長ヨリ知事ニ内

申スルコト但シ新ニ任用ノ場合ハ履歷書ヲ添付スルコト

(三)　學校長ハ兼務教員ニシテ他ノ學校ニ轉任シ其ノ學校ニ於テ兼務ヲ有セザルニ至リタルトキハ本人ヨリ兼務ノ退職願ヲ徵シ知事ニ内申スルコト

(四)　公立青年學校ノ職員ニシテ公立學校職員分限令第三條ニ依リ其ノ職ヲ免ジ又同令第八條ニ依リ休職ヲ命ズル必要アリト認メタルトキハ別記第三號樣式ニ依リ市ニ在リテハ市長其ノ他ノ學校ニ在リテハ學

〔岡山青〕

(五)　公立青年學校職員ノ增俸ニ關シテハ別記第四號樣式ニ依リ市ニ在リテハ市長其ノ他ノ學校ニ在リテハ學校長ヨリ毎年三月十五日、八月十五日、十二月十五日迄ニ知事ニ之ヲ内申スルコト

減俸ニ關シテハ前項樣式ニ準ジ其ノ事由現俸給額及減俸額ヲ具シ本人ノ承諾書ヲ添付シ之ヲ内申スルコト

第一號樣式（用紙半紙大）

内　申

年　月　日

岡山縣知事氏名殿

青年學校職員任（兼）（轉）用ノ件

……長　氏　名印

現在學校名及職名	任用學校名及職名	資格	俸給額若クハ手當額	現給額	現俸給額	擔任教授及訓練科目及一週受持時數	氏名	摘要

（兼職名ヲ併セ明記スルコト）

右御辭令相成度

關係調査事項（但シ市長内申ニハ要セズ）

一　青年學校職員給調

都町村及學校名	職員給與算額	年度	現支給額	新任スル者ニ對スル支給額	摘要
			殘額		

本欄ニハ奏任判任ノ別兼務（本務ノ場合ハ兼務）ノ有無等記入ノコト

備考　職員給ハ年額ニ付記載スルコト
二、青年學校職員調

學校名	職名	資格及階級	專任又ハ兼任ノ別	俸給年額	氏名	備考

第二號樣式（用紙半紙大）

內申

年　月　日

岡山縣知事氏名殿

青年學校指導員（講師）囑託ノ件

申請事項	現在學校名及職名	資格又ハ階級	年手當額	擔任教授及訓練科目及一週受持時數	氏名	摘要
（例） 岡山縣　郡（市） 町村立何青年學校指導員（講師）ヲ囑託シ年手當圓ヲ給ス						

右御辭令相成度

關係調査事項（但シ市長內申ニハ要セズ）
一、青年學校職員給調

郡町村及學校名	年度	職員給豫算額	現在支給年額	新任者ニ對スル支給額	殘額	摘要

備考　職員給ハ年額ニ付記載ノコト

【岡山青】

……長　氏　名印

二、青年學校職員調

學校名	職名	資格及階級	專任又ハ兼任ノ別	俸給年額	氏名	備考

第三號樣式（用紙半紙大）

內申

年　月　日

岡山縣知事氏名殿

青年學校職員休（退）職ノ件

學校名	職名	休（退）職事由	休職期間	休職給加俸	氏名	摘要

右御辭令相成度

……長　氏　名印

第四號樣式（用紙半紙大）

內申

年　月　日

岡山縣知事氏名殿

青年學校職員增（減）俸ノ件

現任學校名	職名	資格	俸給又ハ手當額	現在學校就職年月日	現俸給又ハ現俸給受給年月日	加俸	氏名	摘要

……長　氏　名印

右御辭令相成度

關係調査事項（但シ市長内申ニハ要セズ）

一、青年學校職員給調

郡市町村及學校名	職員給豫算額	年度 現在支給年額	増（減）俸額	残額	摘要

備考　職員給ハ年額ニ付記載ノコト

十二　助成員ニ關スル事項

管理者ニ於テ青年學校助成員ヲ囑託スル場合ハ當該市町村又ハ市町村學校組合内ノ社會教育委員其ノ他ヨリ之ヲ選任シ其ノ權能ヲ十分發揮セシムルコト

十三　公立青年學校各種調査報告ニ關スル事項

青年學校長ハ毎年三月十日迄ニ左ノ事項ヲ調査シ知事ニ報告スルコト但シ用紙ハ半紙大トシ各項別紙トスルコト

(一)　職員俸給及手當調

(イ)　來年度專任教員書記給豫算月額　　學校名　　圓

内譯

教員　人一人平均月額　圓

實際支出額　男　圓

女　圓

書記給料豫算月額　圓

現在支給額ニ對スル豫算過不足額過（不足）　圓

(ロ)　來年度兼任及囑託教員手當豫算額　　圓

内譯

兼任教員年手當額　圓ノモノ　人

囑託教員年手當額　圓ノモノ　人

實際支出額　校長年手當　圓

其ノ他ノ教員年手當　圓（何人分）

現在支給額ニ對スル豫算過不足額過（不足）　圓

(二)　專任教員調（各人別）

記

學校

職名（兼職名）	氏名	生年月日	當該學校勤續年月數	俸給額竝受給年月日
本籍				
現住所				

〔岡山青〕

出身學校	加俸額竝受給年月日
免許狀ノ種類竝免許狀受得年月日	擔任學科目竝毎週教授時數
在職年月數	受恩給資格發生年月
履歴大要	配偶者有無
性行思想	同配偶者勤務先
勤惰	家庭經濟狀況
健康	其ノ他ノ境遇狀況
研究狀況	
長所短所	
父兄竝生徒信賴程度	
其ノ他參考トナルベキ事項	
本人ノ希望	
學校長所見	

(三)　教員異動調

記

學校

一　退職希望者調

二　休職希望者調

第一章　青年學校

三　他府縣轉出希望者調

十四　出席時數ニ關スル事項

(一)　普通科、本科及研究科在籍生徒ノ專修科ニ於ケル兼修時數及講習ニ於ケル受講時數ハ當該科ニ於ケル出席時數ニ算入セザルコト

(二)　普通科、本科及研究科ニ於ケル生徒ノ出席時數ハ其ノ校當該科ニツキ所定ノ教授及訓練時間ニ出席シタル時數トシ家庭實習課外ノ教授及訓練（例ヘバ課外實習、宿泊訓練、講演聽講、遠足見學、運動會、競技會等）勤務當番ノ如キモノノ時數ハ出席時數ニ算入セザルコト

(三)　生徒ノ出席時數ハ毎月末ニ於テ各教授及訓練科目ニツキ小計シ明確ナラシムルコト

岡山縣青年學校學則準則

岡山縣　郡（市）　學校學則

第一章　總則

第一條　本校ハ青年學校令ノ趣旨ニ基キ男女青年ニ對シ其ノ心身ヲ鍛錬シ德性ヲ涵養スルト共ニ職業及實際生活ニ須要ナル知識技能ヲ授ケ以テ國民タルノ資質ヲ向上セシムルヲ目的トス

第二條　本校ハ岡山縣　郡（市）　小學校ニ併設ス（岡山縣何郡市町村字何番地）ニ置ク

第二章　科竝教授及訓練期間

第三條　本校ニ普通科、本科（第一本科、第二本科）及研究科ヲ置ク

第四條　各科ノ教授及訓練期間ヲ定ムルコト左ノ如シ

普通科　男子二年　女子二年

本科　男子五年（第一本科　男子三年　第二本科　男子二年）　女子四年

〔岡山青〕

研究科　男子一年
　　女子一年

第五條　本校ニ專修科ヲ置ク專修科ニ關スル規程ハ學校長之ヲ定ム

第三章　教授及訓練科目竝教授及訓練時數

第六條　各科ノ教授及訓練科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

普通科
- 男子　修身及公民科、普通學科（國語、數學、歷史、地理、理科、音樂）職業科（農業、商業）體操科
- 女子　修身及公民科、普通學科（國語、數學、歷史、地理、理科、音樂）職業科（農業、商業）家事及裁縫科、體操科

普通科

種別	科目	時數程度	第一年 週	第一年 時數	第二年 週	第二年 時數
男	修身及公民科		一	三四	一	三四
	普通學科		五	一七〇	四	一三六
	職業科		四	一三六	四	一三六
	家事及裁縫科					
女	修身及公民科		一	三四	一	三四
	普通學科		四	一三六	四	一三六
	職業科		二	六八	二	六八
	家事及裁縫科		五	一七〇	五	一七〇

種別	科目	時數程度	第一年 週	第一年 時數	第二年 週	第二年 時數
男	修身及公民科		一	三四	一	三四
	普通學科		五	一七〇	四	一三六
	職業科		四	一三六	四	一三六
	家事及裁縫科					
女	修身及公民科		一	三四	一	三四
	普通學科		四	一三六	四	一三六
	職業科		二	六八	二	六八
	家事及裁縫科		五	一七〇	五	一七〇

〔岡山青〕

種別	科目	時數程度	第一年 週	第一年 時數	第二年 週	第二年 時數
男	修身及公民科		一	三四	一	三四
	普通學科		五	一七〇	四	一三六
	職業科		四	一三六	四	一三六
	家事及裁縫科					
女	修身及公民科		一	三四	一	三四
	普通學科		四	一三六	四	一三六
	職業科		二	六八	二	六八
	家事及裁縫科		五	一七〇	五	一七〇

〔岡山青〕

本科
- 男子　修身及公民科、普通學科（國語、數學、歷史、地理、理科）職業科（農業、商業）教練科
- 女子　修身及公民科、普通學科（國語、數學、歷史、地理、理科）職業科（農業、商業）家事及裁縫科、體操科

研究科
- 男子　修身及公民科、職業科（農業、商業）教練科
- 女子　修身及公民科、職業科（農業、商業）

第七條　教授及訓練科目ノ程度及時數ヲ定ムルコト左ノ如シ

但シ必要ト認ムル場合ハ課外ニ實習ヲ課スルモノトス

本科
男子

科目	時數程度	第一年 週	第一年 時數	第二年 週	第二年 時數	第三年 週	第三年 時數	第四年 週	第四年 時數	第五年 週	第五年 時數
修身及公民科	公民心得 道德ノ要旨	一	三四	一	三四	一	三四	一	三四	一	三四
體操科	普通體操 競技 武道	二	六八	二	六八	二	六八	二	六八	二	六八
計		一二	四〇八	一二	四〇八	一二	四〇八	一二	四〇八	一二	四〇八
普通學科	普通文ノ講讀作文	三	一〇二	三	一〇二	三	一〇二	三	一〇二	三	一〇二
	實用數學珠算	三	一〇二	三	一〇二	三	一〇二	三	一〇二	三	一〇二
	歷史大要 地理大要 理科大要	三	一〇二	三	一〇二	三	一〇二	三	一〇二	三	一〇二
職業科	農業大要	四	一三六	四	一三六						
教練科	教練一般	三	一〇二	三	一〇二	三	一〇二	三	一〇二	三	一〇二
計		一一	三七四	一一	三七四	七	二三八	七	二三八	七	二三八

女子

科目＼時數及程度	第一年 時數	第一年 程度	第二年 時數	第二年 程度	第三年 時數	第三年 程度
	週	年	週	年	週	年
修身及公民科	二	六八	二	六八	二	六八
		道徳ノ要旨、公民心得		道徳ノ要旨、公民心得		道徳ノ要旨、公民心得
		作法		作法		作法
普通學科	二	六八	二	六八	二	六八
		普通文講讀作文習字實用計算國史ノ大要地理ノ大要日常生活ニ必要ナル理科		普通文ノ講讀作文習字實用計算國史ノ大要地理ノ大要日常生活ニ必要ナル理科		普通文ノ講讀作文習字實用計算國史ノ大要地理ノ大要日常生活ニ必要ナル理科
職業家事及裁縫科	七	七二三八	七	七二三八	七	七二三八
		農業ノ大要家事ノ大要實習普通衣類ノ裁方縫方繕方手藝		農業ノ大要家事ノ大要實習普通衣類ノ裁方縫方繕方手藝		農業ノ大要家事ノ大要實習普通衣類ノ裁方縫方繕方手藝
體操科	一	三四	一	三四	一	三四
		普通體操競技遊戲		普通體操競技遊戲		普通體操競技遊戲
計	一二	四〇八	一二	四〇八	一二	四〇八

研究科

科目＼時數程度	時數 週	程度 年
男子		
修身及公民科	一	三四
		道徳ノ要旨、公民心得
職業科	三	一〇二
		農業經營
教練	三	一〇二
		教練一般
計	七	二三八
女子		
修身及公民科	一	三四
		道徳ノ要旨、公民心得
家事及裁縫科	六	二〇四
		家事ノ大要及實習普通衣類ノ裁方縫方繕方ミシン使用手藝
計	七	二三八

〔岡山青〕

第四章　毎週教授及訓練日竝時刻

第八條　毎週教授及訓練曜日竝時刻ヲ定ムルコト左ノ如シ

普通科　男子　月曜日　金曜日　晝間　六時間
　　女子　火曜日　土曜日　晝間　六時間

本科　男子（一年二年）火曜日　木曜日　晝間　六時間
　　女子（三年四年五年）火曜日　木曜日　晝間　七時間
　　木曜日　晝間　六時間

研究科　男子　木曜日　晝間　七時間
　　女子　火曜日　晝間　七時間

第九條　休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ

第五章　入學及退學

第十條　入學期ハ毎年四月一日トス但シ特別ノ事情アル者ニ對シテハ中途入學ヲ許可スルモノトス

第十一條　本校ノ普通科及本科第一年ニ入學スルモノノ年齡ハ其ノ年三月三十一日ニ於テ普通科ニ在リテハ十二年以上本科ニ在リテハ十四年以上トシ研究科ニ在リテハ本科ノ課程ヲ卒ヘタルモノ又ハ之ニ準ズベキ年齡及素養アルモノトス

第十二條　他校生徒ニシテ轉學ヲ志望シ來リタルトキハ特別ノ事情ナキ限リ之ヲ許可シ相當科ノ相當年ニ編入スルモノトス

第十三條　特別ノ事情アル者ハ其ノ年齡及素養ニ應ジ之ヲ普通科第二年又ハ本科若ハ研究科ノ第二年以上ニ入學ヲ許可スルモノトス

第十四條　他ノ青年學校ヨリ特別ノ事由ニヨリ生徒ノ教授及訓練ヲ委託シ來リタルトキハ支障ナキ限リ之ヲ許可シ滯留中教授及訓練ヲナスモノトス

第十五條　本校ニ入學セントスルモノハ別表第一號樣式ニ依ル入學願書ヲ學校長ニ提出スベシ

第十六條　本校ヲ退學セントスル者ハ別表第二號樣式ニ依リ退學願書ヲ提出スベシ

第六章　課程ノ修了及卒業

第十七條　普通科ノ修了及本科ノ卒業ノ認定ハ全課程ニツキ出席時數其ノ他平素ノ學習情況ヲ標準トス

前項ノ出席時數ハ本校普通科、本科、研究科ニ規定スル各教授及訓練科

目ノ教授及訓練時數ノ當該科ニ於ケル總時數（男子本科ニ在リテハ普通學科及職業科ノ時數ハ之ヲ通算ス）ノ概ネ六割以上トス但シ中途入學者及轉學者ニ關シテハ入學シタル時期ヲ基準トシ其以後ニ配當シタル時數ニ依ルモノトス

第十八條　普通科及研究科ノ課程ヲ修了シタル者ニ對シテハ別表第三號樣式ニ依ル修了證ヲ本科ノ課程ヲ修了シタル者ニ對シテハ別表第四號樣式ニ依ル卒業證書ヲ授與ス

第七章　授業料

第十九條　授業料ハ之ヲ徵集セズ

第八章　賞罰

第二十條　生徒ニシテ成績特ニ優秀ナル者又ハ奇特ノ行爲アリタル者ハ之ヲ褒賞ス

褒賞ノ種類左ノ如シ

(一)　褒狀

(二)　賞品及賞狀

第二十一條　校規ニ悖リ訓誡ニ服セズ其ノ他生徒タル本分ヲ失スル者ニ對シテハ次ノ各項ニ依リ之ヲ懲戒ス

(一)　戒飭

(二)　謹愼

(三)　停學

(四)　放校

第九章　助成員

第二十二條　本校ニ助成員　名ヲ置ク

第十章　雜則

第二十三條　本校生徒ハ規定ノ青年學校手帳ヲ所持スベシ

第二十四條　生徒ハ規定ノ制服制帽ヲ著用スベシ

第二十五條　本校ニ於テハ隨時必要ニ應ジ講習ヲナス

第十一章　附則

第二十六條　本學則ニ關スル細則ハ學校長別ニ之ヲ定ム

第二十七條　本學則ハ昭和　年　月　日ヨリ之ヲ實施ス

〔岡山青〕

第一號樣式

入學願

本籍

現住所

氏　名

年月日生

學歷

右ノ者今般御校、、、、、ニ入學致度此段御願候也

年　月　日

現住所

右親權者、、、、、㊞

岡山縣　郡　學校長　殿

第二號樣式

退學願

、、、學年

氏　名

右ノ者今般何々ノ理由ニ依リ退學致度此段御願候也

年　月　日

現住所

右親權者、、、、、㊞

岡山縣　郡　學校長、、、殿

第三號樣式

第　號

修了證

校印

氏　名

年月日生

右者本校普通科ノ課程ヲ修了シタルコトヲ證ス

年　月　日

岡山縣　郡(市)(町村)立

、、、學校長、、、印

契印

〔岡山青〕

第四號樣式

第　號

卒業證

校印

氏　名

年月日生

右者本校本科ノ課程ヲ卒業シタルコトヲ證ス

年　月　日

岡山縣　郡(市)(町村)立

、、、學校長、、、印

契印

〔參考〕

事務期限表

根據法規	件名	進達先又ハ通知先	本廳又ハ當事者ニ到著期限	提出者又ハ差出人
公立學校職員年功加俸給與手續	公立學校職員年功加俸金請求	知事	每月十日	年功加俸受給者
青年學校規程實施細則第二十四條第一項	青年學校入學年齡該當者調	當該青年學校長	二月末日	當該市町村長
昭和十年五月敎第五七五號通牒（例規）	公立青年學校各種調査報告	知事	三月十日	青年學校長
青年學校規程實施細則第二十四條第二項	青年學校入學期日通知	保護者又ハ雇主	三月十五日	青年學校長
昭和十年五月敎第五七五號通牒（例規）	職員增俸ニ關スル件	知事	三月十五日、八月十五日、十二月十五日	青年學校長

青年學校規程實施細則第四十九條	職員勤務調	知	事
公立學校職員年功加俸給與手續第八條	公立學校勤務者調報告	知	事
青年學校規程實施細則第五十條	青年學校經費補助申請	知	事
青年學校規程實施細則第四十八條	青年學校一覽表	知	事
公立學校職員年功加俸給與手續第九條	公立學校職員年功加俸支給狀況調（二部）	知	事
公立學校職員年功加俸給與手續	年功加俸受給資格發生及異動開申	知	事
大正九年文部省令第十六號第七條	學生、生徒兒童、身體檢査統計表	知	事

四月十日　青年學校長
四月二十日　關係青年學校長
四月三十日　管理者又ハ設立者
五月二十日　青年學校長
五月三十日　關係青年學校長
遲滯ナク　青年學校長
六月三十日　青年學校長

●青年學校手帳竝其ノ取扱ニ關スル件

昭和十年十一月三十日
教第二一一九號學務部長通牒

青年學校長　青年學校ノ課程ト同等以上ト認メタル課程ノ學校長宛

在營期間短縮ノ爲必要ナル青年學校ノ課程及地方長官ニ於テ青年學校ノ課程ト同等以上ト認メタル課程ノ修得時數竝其ノ取扱ニ關シテハ昭和十年十一月十九日附教第二一一九號ヲ以テ通牒致置候處今般本省ヨリ首標ノ件ニ關シ指示有之候ニ付其ノ取扱ニ關シテハ左記事項御了知ノ上御措置相成度依命及通牒候

記

一、曩ニ文部省告示第三二五號ヲ以テ青年學校手帳ノ樣式ヲ定メラレタル處本件ハ青年學校規程第十九條ノ規定ニ基クモノニシテ其ノ趣旨ハ昭和十年文部省訓令第二號十二中ニ指示サレタルモ更ニ文部省ト陸軍省ト協議ノ上兵役法施行規則第五十二條ノ三ニ規定スル在營期間短縮ニ關スル證明書ニ充ツルコトニ決定サレタリ

二、當分ノ內從前ノ青年訓練手帳ヲ所持スル者ニ就テハ當該手帳ヲ以テ適宜青年學校手帳ニ代用スルモ差支ナシ

三、青年學校手帳記入ノ事項ハ將來本人ノ身分等ヲ證明スル資料タルベキヲ以テ卒業又ハ修了後ニ於テモ之ヲ保存セシメ現居住所及職業ノ異動ハ引續キ之ヲ記入セシムルコト

四、學校長ニ於テ記入スベキ各欄ノ文字ハ之ヲ訂正挿入又ハ削除ヲ爲シタルトキハ各其ノ總字數ヲ卷末備考欄ニ記載シ學校長ノ認印ヲナスコト

五、青年學校手帳又ハ青年學校手帳ニ代用サルベキ青年訓練手帳ノ取扱ニ關シテハ左ノ各號ニ依ルコト

1、青年學校手帳取扱方

(イ)　從前ノ實業補習學校ニ在學シ又ハ青年訓練所ノ訓練ヲ受ケタル者ニ就テハ出席時數欄ニハ其ノ者ノ青年學校ニ編入セラレタル以後（概ネ昭和十年四月一日以降）ニ於テ修メタル時數ヲ記入スルコト

（ロ）　從前ノ實業補習學校ニ在學シ又ハ青年訓練所ノ訓練ヲ受ケタル者ニシテ青年學校手帳ヲ所持セル者ニ對シテハ從前使用セシ青年訓練手帳ヲモ併セ所持セシムルコト

（ハ）　在營期間短縮ノ爲必要ナル青年學校ノ課程又ハ地方長官ニ於テ青年學校ノ課程ト同等以上ト認メタル課程ヲ修得シタル者ニ對シテハ卷末ノ證明書ニ必要ナル事項ヲ記入證明スルコト

（ニ）　昭和十年六月十日陸軍省告示第二十七號ニ依リ課程修得ノ程度ヲ輕減セラレタル者（昭和十年十一月十九日附教第二一一九號通牒第二ニヨリ課程修得ノ程度ヲ輕減セラレタル者）ニ對シテハ青年學校手帳卷末ノ證明書ノ一隅ニ左ノ記載例ニ依リ當該告示該當條項等記入ノコト

記載例

昭和十年陸軍省告示第二十七號第二號第二項ニ依リ普通學科及職業科二百時ヲ免除ス

2、青年訓練手帳ヲ以テ青年學校手帳ニ代用スルモノノ取扱方

（イ）　在營期間短縮ノ爲必要ナル青年學校ノ課程又ハ地方長官ニ於テ青年學校ノ課程ト同等以上ト認メタル課程ヲ修得シタル者ニシテ青年學校手帳ノ代用トシテ青年訓練手帳ヲ所持セル者ニ對シテハ當該手帳ニ併セテ青年學校手帳卷末ノ證明書ノ樣式ニ準ズル半紙大ノ證明書ヲ所持セシムルコト

（ロ）　昭和十年六月十日陸軍省告示第二十七號ニ依リ課程修得ノ程度ヲ輕減セラレタル者（昭和十年十一月十九日附教第二一一九號通牒第二ニヨリ課程修得程度ヲ輕減セラレタル者）ニ對シテハ前揭證明書ノ一隅ニ前號（ロ）ノ記載例ニ依リ當該告示該當條項等記入ノコト

備考

青年學校令施行以前ニ於テ從前ノ實業補習學校又ハ青年訓練所ヲ卒業又ハ修了シタル者ノ取扱ハ仍從前ノ例ニ依ル

●昭和十年陸軍省令第一號第一條第一號ノ規定ニ依ル課程ノ認定取扱方ノ件

昭和十年十一月十九日
教第二一二〇號學務部長通牒

市町村長　男子中等學校長
青年學校長（市內ヲ除ク）宛

首題ノ件ニ關シ左記ノ通取扱フコトニ定メラレ候ニツキ依命通牒候

記

一、昭和十年陸軍省令第一號第一條第一號ノ規定ニ依ル課程ノ認定ニ關シテハ公立學校ニ在リテハ管理者、私立學校ニ在リテハ設立者ヨリ左記事項ヲ具シ知事ニ申請スルコト

一、目　的
二、名　稱
三、位　置
四、認定ヲ受ケントスル課程
五、學　則
六、第四號ノ課程ノ學科目ヲ擔任スル教員ノ氏名、資格、履歷及專任兼任ノ區別
七、第四號ノ課程ヲ修ムル生徒ノ學年別及年齡別員數
八、屋外體操場ノ區域及面積

二、課程ノ認定ヲ受クベキ學校ハ概ネ左ノ標準ニ依ルモノトシ其ノ管理及

維持ノ方法確實ニシテ當該課程ヲ授クルニ足ルベキ相當ノ教員及設備ヲ具フルコト

一、尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限三年（高等小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル學校ニ在リテハ一年其ノ他之ニ準ズ）以上ノ學校ナルコト

二、認定ヲ受クベキ課程ハ各學年ニ付青年學校ニ於ケル修身及公民科ニ該當スル學科目三十時普通學科及職業科（又ハ普通學科ノミ）ニ該當スル學科目百八十時、教練科ニ該當スル學科目九十時以上ヲ課スルコト

三、課程ノ認定ヲ受ケタル學校ニ於テ目的、名稱、位置及學則ヲ變更スルトキハ豫メ之ヲ知事ニ開申スルコト

四、課程ノ認定ヲ受ケタル學校ニシテ第二項ニ該當セザルモノアリト認ムルモノ又ハ其ノ成績不良ナリト認ムルモノニ對シテハ知事ニ於テ師團長ニ協議ノ上將來ニ向テ其ノ認定ヲ取消スコト

備考

昭和十年陸軍文部省令第一號　兵役法施行令第三十一條第三項ノ規定ニ依ル認定ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　左ノ各號ニ揭グルモノハ青年學校ノ課程ト同等以上ト認ムル課程トス

一、地方長官ニ於テ青年學校ノ課程ト同等以上ノ課程ト認メタル課程

●在營期間短縮ノ爲必要ナル青年學校ノ課程及地方長官ニ於テ青年學校ノ課程ト同等以上ト認メタル課程ノ修得時數竝ニ其ノ取扱ニ關スル件

昭和十年十一月十九日
教第二一九號學務部長通牒
各私立青年學校長　青年部校ノ課程ト同等以上ト認メタル課程ノ學校長宛

首標ノ件ニ關シテハ昭和十年六月五日陸軍省令第一號及同年六月八日陸軍省令第六號竝ニ同年六月十日陸軍省告示第二七號ヲ以テ示達相成居候處之ヲ左記ノ通簡約致候ニ付御研究ノ上事務取扱上遺憾ナキヲ期セラレ度

記

第一、在營期間短縮ノ爲必要ナル青年學校ノ課程又ハ地方長官ニ於テ青年學校ノ課程ト同等以上ト認メタル課程ノ修得程度ニ關シテハ左ノ各號ニ依ルモノトス

（一）青年學校ノ本科又ハ本科及研究科ニ四年以上在學シソノ課程ニツキ

修身及公民科	一〇〇時
普通學科及職業科ヲ通ジ	二五〇時
教練科	三五〇時

以上修メタルコト

（二）地方長官ニ於テ青年學校ノ課程ト同等以上ト認メタル課程（青年學校令施行前ニ於テ青年訓練所規程第八條ノ規定ニ依リ青年訓練所ノ課程ト同等以上ト認メラレタル課程ハ昭和十年六月五日陸軍省令第一號附則第一項ニヨリ地方長官ニ於テ青年學校ノ課程ト同等以上ノ課程ト認メタル課程ト見做サル）ヲ年齢十四年（毎年三月三十一日ヲ基準トス）以上ニ於テ四學年以上修了シ

教練	三五〇時

以上修メタルコト

（三）左記各項ニ揭グル課程ニ付其ノ二以上ノ課程ヲ修メタル期間ヲ通算シ概ネ四年以上ニ達シ其ノ間ニ於テ第（一）號ノ科目ニ該當スル科目ニツキ同號ニ規定サルヽ時數以上ヲ修メタルコト

青年學校ノ本科又ハ本科及研究科

地方長官ニ於テ青年學校ノ課程ト同等以上ト認メタル課程

現役將校ヲ配屬シタル學校

現役將校ヲ配屬セザル商船學校

陸軍大臣及文部大臣ニ於テ青年學校ノ課程ト同等以上ト認定シタル學校

備考

青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ヲ修ムル以前ニ於テ青年訓練所ノ訓練又ハ之ト同等以上ト認ムル訓練ヲ受ケタル者ノ當該訓練期間及訓練時數ハ前揭第一ニ示ス期間及時間數ニ通算サル

第二、昭和十年三月三十一日ニ於テ年齢十五年以上ノ者ニシテ青年學校ノ本科又ハ研究科ノ課程ヲ修ムルモノ竝ニ昭和十年三月三十一日ニ於テ年齢十七年以上ノ者ニシテ實業補習學校後期卒業者及尋常小學校卒業程度ヲ入學資格トスル中等學校第三學年修了程度（高等小學校卒業程度ヲ入學資格トスル中等學校第三學年修了程度其ノ他之ニ準ズ）以上ノ學力アル者ノ青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ノ修得程度ニ關シテハ前揭第一ニ揭グル時數ニ拘ラズ左ノ各號ニ依ルモノトス

（一）年齢十五年（年齢ノ計算ハ昭和十年三月三十一日トス以下同ジ）以上十六年未滿ノ者ノ前揭第一第一號又ハ第三號（前揭第一第一號ニ規定スル課程ヲ修メタル期間ヲ通算スル場合ニ限ル）ニ規定サルヽ

修身及公民科	九〇時以上
普通學科及職業科ヲ通ジ	二三〇時以上
教練科	三三〇時以上

年齢十六年以上ノ者（課程ヲ修得シタル期間ハ概ネ四年トス）ノ前揭第一第一號又ハ第三號（前揭第一第一號ニ規定サルヽ課程ヲ修メタル期間ヲ通算スル場合ニ限ル）ニ規定サルヽ

修身及公民科	八〇時以上
普通學科及職業科ヲ通ジ	二〇〇時以上
教練科	三〇〇時以上

前項ニ規定サルヽ普通學科及職業科ヲ通ジ二〇〇時中實業補習學校後期卒業者及尋常小學校卒業程度ヲ入學資格トスル中等學校ノ第三學年修了程度（高等小學校卒業程度ヲ入學資格トスル學校ニ在リテハ第一學年修了程度）以上學力アル者ハ

年齢	
十七年以上ノ者ニ在リテハ	一〇〇時以內
十八年以上ノ者ニ在リテハ	一五〇時以內
十九年以上ノ者ニ在リテハ	二〇〇時以內

ヲ免除サル

取扱ニ關スル注意

一、在營期間ヲ短縮セラルベキ時數ヲ修得シタル者ニ對シテハ青年學校長又ハ之ニ準ズベキ者ハ當該課程ノ修得ニ關シ署名捺印シタル證明書ヲ授與スルコト（青年學校ニ於テハ青年學校手帳ニ依リ之ヲ證明スルコト）

二、從來青年訓練手帳ヲ使用セシモノハ之ヲ以テ青年學校手帳ニ代用スルモ差支ナシ

●岡山縣青年學校生徒服制

昭和十年九月七日
岡山縣告示第七百六十五號

岡山縣青年學校生徒服制左ノ通定ム

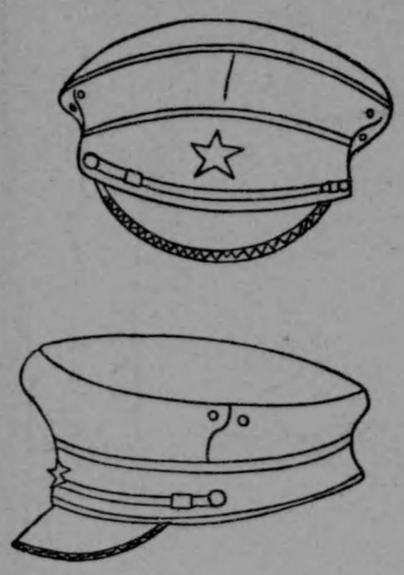
岡山縣青年學校生徒服制

名稱	仕様
帽子 地質	表ハ茶褐雲斎トシ裏及眞ヲ附ス
帽子 徽章	金屬製金色章トス（意匠任意）
帽子 眼庇	黒革エナメル塗
帽子 顎紐	黒革エナメル塗　釦金屬金色
帽子 縁革	黒革エナメル塗布
帽子 制式	一、軍帽型トシ天井喰出ノ下部ニ金色金屬製鳩目二個ヲ附ス 二、型狀圖ノ如シ
上釦 地質	茶褐雲斎
上釦 制式	一、圓型無地金色 二、釦足ハ遊動式 三、前面ニ五個左右上下物入及背面バンド通シニ各一個

〔岡山青〕

衣	制式	一、立折襟式トス 二、背面左側バンド通シハ鋼鈎革代用トス 三、物入ハ左右上下ニ縫付式ニテ襞竝蓋ヲ附シ縫著ス 四、形狀圖ノ如シ
衣	地質	上衣ニ同シ
袴	制式	一、長袴式トシ成ル可ク寛クス 二、バンド通シ及茶褐打紐ヲ附ス 三、物入ハ左右及背面右側（蓋釦付）ニ附ス 四、形狀圖ノ如シ
袴	地質	上衣ニ同シ
脚絆	地質	茶褐脚絆絨又ハ脚絆用綿織地トス
脚絆	制式	一、卷脚絆トス（甲附ニテモ可） 二、形狀圖ノ如シ
其他		一、生徒出席奬勵ノ爲メ精勤章ヲ附スルコトハ學校任意トス 二、精勤章ノ位置ハ左腕上部外側肩先ヨリ十五
バンド		衣ト同地質トス

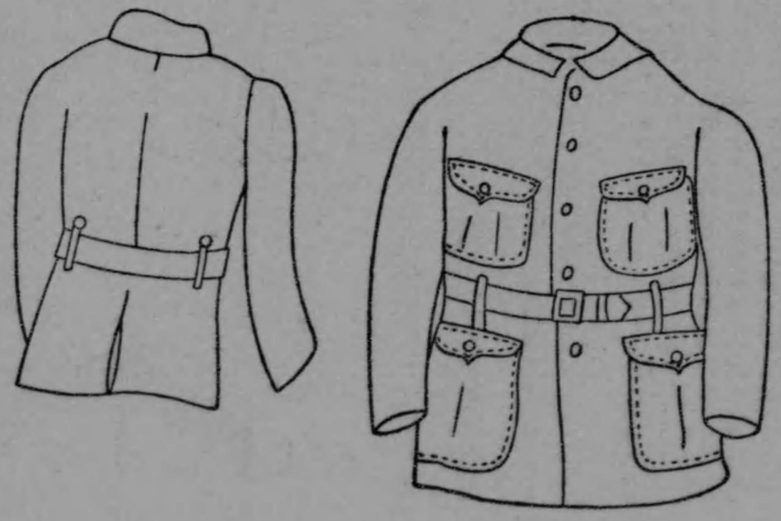
第一圖



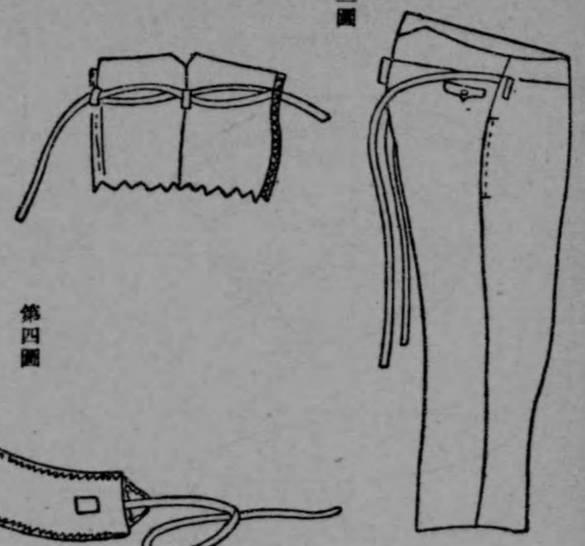
他		
精勤章	種トス	
	三、精勤章ハ一種二種ニ區別シ一種二個ヲ以テ二種一個ニ代フルモノトス 四、形狀圖ノ如シ	
科章及年章	一、科章及年章ヲ附セシムルコトハ學校ノ任意トス 二、科章及年章ヲ附スルトキハ金屬金色トシ立折襟ノ左右トシ一方ノミノ場合ハ左側トス	

〔岡山青〕

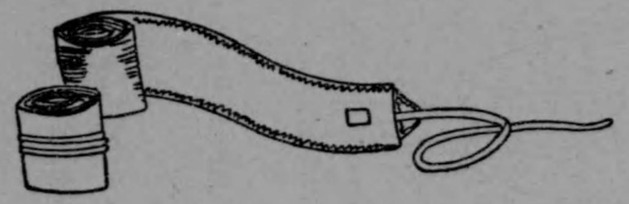
第二圖



第三圖



第四圖



【岡山青】

●青年學校生徒服制ニ關スル件

昭和十年九月七日
教第一七二八號學務部長通牒
公私立青年學校長宛

今般岡山縣青年學校生徒服制定メラレ昭和十年九月七日付告示相成候ニ付テハ左記事項御了知ノ上可然御取計相成度

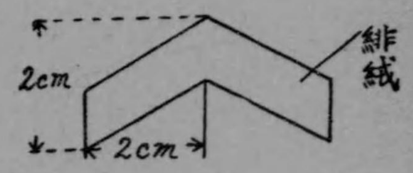
記

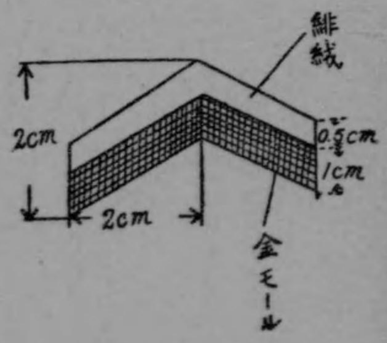
一、服制ハ直チニ新調ヲ要スルモノニハ無之入學前又ハ現ニ著用セルモノハ之レヲ用ヒ新タニ調製スル際服制ニ據ルモノトス

二、帽子衣袴ハ同色同地質トシ夏冬共通トス

三、調製ニ方リテハ地質ノ品位價額等充分研究ノ上學校ニ於テ取纏メ斡旋スルヲ適當トス之レニ關シテハ縣ニ於テモ便宜ノ方法ヲ目下講究中ナリ

第五圖





【岡山青】

●青年學校生徒精勤章ニ關スル件

昭和十一年五月三十日
教第八七六號學務部長通牒
公私立青年學校長宛

首標ノ件ニ關シテハ昭和十年九月七日附岡山縣告示第七百六十五號岡山縣青年學校生徒服制ニ依リ制定相成候處之ガ附與規程準則制定ノ希望モ有之左記ノ通相定候條御參考相成度

記

精勤章附與規程準則

第一條　青年學校本科研究科生徒中出席優良ナル者ニ精勤章ヲ附與ス

第二條　精勤章ハ第一種第二種ニ區別ス

第一種精勤章ハ一年毎ニ本校學則規程時數ノ八割以上出席シタルモノニ附與スルモノトシ第二種精勤章ハソノ一個ヲ以テ第一種精勤章二個ニ代フルモノトス

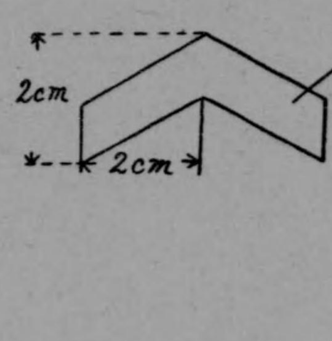
第三條　精勤章ヲ附與シタルトキハ青年學校手牒ニ記入スルモノトス

第四條　精勤章ハ第一種第二種ノ順序ニ左腕上部外側肩先ヨリ十五糎ノ所ニ附スルモノトス

第五條　精勤章ヲ有スルモノニシテ生徒タル本分ヲ紊ルガ如キ所爲アリタルト時ハ之ヲ褫奪スルコトアルベシ

第六條　精勤章ノ樣式左圖ノ如シ

第一種



第二種

●青年學校ニ關スル調査報告ノ件

昭和十一年四月三十日
教第四四二號學務部長通牒

青年學校ニ關スル調査左記樣式ニ依リ毎年五月末日限リ御報告相成度

記

市長　青年學校長宛

第一表

學校數調（昭和　年四月末日現在）

設置者別	種別	男子及女子ノ學校	男子ノミノ學校	女子ノミノ學校	計
公立	道府縣立				
	市立				
	町村立				
	計				
私立					
合計					

備考

一、市町村學校組合立ハ市立ノ欄ニ、町村學校組合立ハ町村立ノ欄ニ各之ヲ包含セシメ更ニ市町村學校組合立ニ在リテハ〇ヲ、町村學校組合立ニ在リテハ△ヲ附シテ其ノ數ヲ表示スルコト

二、私立ノ欄ニ於テ青年學校令第三條ノ學校ハ更ニ×ヲ附シテ其ノ數ヲ表示スルコト

第二表

學校長及教員數調（昭和　年四月末日現在）

設置者別 ＼ 種別 ＼ 男女別	學校長	教員 教諭	教員 助教諭	教員 指導員	教員 其ノ他	教員 計	合計

計		合		私立			公立												
							何			町村立			市立			道府縣立			
計		女	男	計	女	男	計	女	男	計	女	男	計	女	男	計	女	男	

〔岡山青〕

備考

一、市町村學校組合立ハ市立ノ欄ニ、町村學校組合立ハ町村立ノ欄ニ各之ヲ包含セシムルコト

二、學校長ノ欄ニ於テ專任ノ學校長（他ノ職ヲ兼ヌル者及其ノ學校ノ他ノ職員ヨリ兼ヌル者ヲ含ム）ハ更ニ○ヲ附シテ其ノ數ヲ表示スルコト

三、同一學校ニ於テ學校長ト教員トヲ兼ヌル者ハ各該當欄ニ其ノ數ヲ記入シ更ニ教員ノ欄ニ於テハ△ヲ附シテ其ノ數ヲ表示スルコト

四、男女ノ欄ハ職員ノ性別ニ依リ記入スルコト

第三表

專任教員數調　（昭和　年四月末日現在）

設置者別	種別	學校長	教諭	助教諭	指導員	其ノ他	計
公立 道府縣立	男						
	女						
	計						
公立 市立	男						
	女						
	計						
公立 町村立	男						
	女						
	計						

立			私立			合計		
計								
計	女	男	計	女	男	計	女	男

備考

一、專任教員ハ昭和十年五月一日敎第五七五號依命通牒「青年學校ニ關スル件」七ニ依ルコト

二、種別ノ欄ハ專任教員ノ本務ニ依リ之ヲ記入スルコト

三、市町村學校組合立ハ市立ノ欄ニ、町村學校組合立ハ町村立ノ欄ニ各之ヲ包含セシムルコト

四、男女ノ欄ハ專任教員ノ性別ニ依リ記入スルコト

第四表

專任教員設置情況調（昭和　年四月末日現在）

道府縣別	種別 / 設置者別 / 男女別	既設置專任教員數	增設置專任教員數	新設置專任教員數	計
男					

公立												私立			合計		
府縣立		市立			町村立			計									
女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計

備考

一、專任教員ハ昭和十年五月一日教第五七五號依命通牒「青年學校ニ關スル件」七ニ依ルコト
二、市町村學校組合立ハ市立ノ欄ニ、町村學校組合立ハ町村立ノ欄ニ各之ヲ包含セシムルコト
三、既置專任教員數ノ欄ハ前年度迄ニ置キタル專任教員數ヲ、增置專任教員數ノ欄ハ前年度迄ニ專任教員ヲ置キタル學校ニ於テ更ニ其ノ年度ニ增置シタル專任教員數ヲ、新置專任教員數ノ欄ハ前年度迄專任教員ヲ置カザル學校及其ノ年度新設ノ學校ニ於テ其ノ年度ニ新ニ置キタル專任教員數ヲ記入スルコト
四、新置專任教員數ノ欄ニ於テ其ノ年度新設ノ學校ニ於ケル專任教員ハ更ニ△ヲ附シテ其ノ數ヲ表示スルコト
五、男女欄ハ專任教員ノ性別ニ依リ記入スルコト

第五表

專任教員設置學校數調（昭和　年四月末日現在）

設置者別 ＼ 種別	專任教員既置學校			專任教員未置學校			計
	增置シタルモノ	增置セザルモノ	計	新置學校		計	
公立 道府縣立							
公立 市立							
公立 町村立							
公立 計							
私立							
合計							

備考

一、專任教員ハ昭和十年五月一日教第五七五號依命通牒「青年學校ニ關スル件」七ニヨルコト
二、市町村學校組合立ハ市立ノ欄ニ、町村學校組合立ハ町村立ノ欄ニ各之ヲ包含セシムルコト

〔岡山青〕

三、專任教員既置學校ノ欄ハ前年度迄ニ專任教員ヲ置キタル學校ニ於テ其ノ年度專任教員ヲ增置シタル學校數ト增置セザル學校數トヲ各該當欄ニ記入シ、專任教員新置學校ノ欄ハ前年度迄專任教員ヲ置カザル學校及其ノ年度新設ノ學校ニ於テ其ノ年度ニ新ニ專任教員ヲ置キタル學校數ヲ記入スルコト
四、專任教員新置學校ノ欄ニ於テ其ノ年度新設ノ學校ハ更ニ△ヲ附シテ其ノ數ヲ表示スルコト

第六表

生徒數調（昭和　年四月末日現在）

設置者別 ＼ 科別	普通科						研究科						專修科		合計		
男女別	第一年	第二年	第三年	第四年	第五年	計	第一年	第二年	第三年	第四年	計						
公立 道府縣立																	
公立 市立 男																	
公立 市立 女																	
公立 市立 計																	
公立 町村立 男																	
公立 町村立 女																	
公立 町村立 計																	
公立 計 男																	
公立 計 女																	
公立 計 計																	

〔岡山青〕

立	私立			合計		
計	男	女	計	男	女	計

備考

一、市町村學校組合立ハ市立ノ欄ニ、町村學校組合立ハ町村立ノ欄ニ各之ヲ包含セシムルコト

二、專修科ノ欄ニ於テ普通科、本科又ハ研究科ノ生徒ニシテ專修科ヲ兼修スル者ハ更ニ△ヲ附シテ其ノ數ヲ表示スルコト

三、男女欄ハ生徒ノ性別ニ依リ記入スルコト

第七表

前年度修了者及卒業者數調

設置者別	公立												私立			合計		
	道府縣立			市立			町村立			計								
科別 ＼ 男女別	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
普通科 修了者																		
本科 卒業者																		
研究科 修了者																		
專修科 修了者																		
計																		

〔岡山青〕

〔岡山青〕

備考

一、本表ハ其ノ年三月末日迄ニ修了又ハ卒業シタル者ヲ調査スルモノナルコト

二、市町村學校組合立ハ市立ノ欄ニ、町村學校組合立ハ町村立ノ欄ニ各之ヲ包含セシムルコト

三、專修科ノ欄ニ於テ普通科、本科又ハ研究科ノ生徒ニシテ專修科ヲ兼修シタル者ハ更ニ△ヲ附シテ其ノ數ヲ表示スルコト

四、男女欄ハ生徒ノ性別ニ依リ記入スルコト

第八表

前年度中途退學者數調

設置者別＼科別＼男女別	普通科			本科			研究科			計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
公立												
道府縣立												
市立												
町村立												
計												
私立												
合計												

	立	合計		
	計	男	女	計

備考

一、市町村學校組合立ハ市立ノ欄ニ、町村學校組合立ハ町村立ノ欄ニ各之ヲ包含セシムルコト

二、男女ノ欄ハ生徒ノ性別ニ依リ記入スルコト

第九表

經費豫算額調（昭和　年四月末日現在）

種別＼設置者別	公立				私立	合計
	道府縣立	市立	町村立	計		
經常費 手當 職員俸給及 專任教員 既置						
經常費 手當 職員俸給及 專任教員 增置						
經常費 手當 職員俸給及 專任教員 新置						
經常費 手當 職員俸給及 專任教員 計						
經常費 手當 職員俸給及 專任教員以外ノ學校長及教員 共ノ他ノ職員						
經常費 手當 職員俸給及 計						
經常費 其ノ他ノ經費						
經常費 計						
臨時費						
合計						

備考

一、市町村學校組合立ハ市立ノ欄ニ、町村學校組合立ハ町村立ノ欄ニ各之ヲ包含セシムルコト
二、專任教員ハ昭和十年五月一日敎第五七五號依命通牒「青年學校ニ關スル件」七ニ依ルコト
三、專任教員ノ欄ハ第四表ノ專任教員ノ既置、增置及新置ノ區別ニ依リ其ノ俸給及手當豫算額ヲ記入スルコト

第十表

前年度經費支出額調

設置者別＼種別	公立 道府縣立	公立 市立	公立 町村立	公立 計	私立	合計	臨時費 合計	經常費 手當 其ノ他ノ 計	經常費 手當 其ノ他ノ 職員	經常費 職員俸給及 專任敎員 既置	經常費 職員俸給及 專任敎員 增置	經常費 職員俸給及 專任敎員 新置	經常費 職員俸給及 專任敎員 計	經常費 職員俸給及 專任敎員以外ノ學校長及敎員

備考

一、市町村學校組合立ハ市立ノ欄ニ、町村學校組合立ハ町村立ノ欄ニ各之ヲ包含セシムルコト
二、專任教員ハ昭和十年五月一日敎第五七五號依命通牒「青年學校ニ關スル件」七ニ依ルコト
三、專任教員ノ欄ハ第四表ノ專任教員ノ既置、增置及新置ノ區別ニ依リ其ノ俸給及手當支出額ヲ記入スルコト

〔岡山青〕

第十一表

課程種別調　（昭和　年四月末日現在）

〔岡山青〕

設置者別＼種別 男女別	公立 道府縣立 男	公立 道府縣立 女	公立 道府縣立 計	公立 市立 男	公立 市立 女	公立 市立 計	公立 町村立 男	公立 町村立 女	公立 町村立 計	公立 計 男	公立 計 女	公立 計 計	私立 男	私立 女
普通科、本科ヲ置クモノ														
普通科、本科、研究科ヲ置クモノ														
普通科ノミヲ置クモノ														
本科ノミヲ置クモノ														
本科、研究科ヲ置クモノ														
普通科、本科、專修科ヲ置クモノ														
普通科、本科、研究科、專修科ヲ置クモノ														
普通科、專修科ヲ置クモノ														
本科、專修科ヲ置クモノ														
本科、研究科、專修科ヲ置クモノ														
計														

立	合		
計	計	女	男

備考

一、市町村學校組合立ノ課程ハ市立ノ欄ニ、町村學校組合立ノ課程ハ町村立ノ欄ニ各之ヲ包含セシムルコト

二、男ノ欄ハ男子ノミノ青年學校ノ課程竝男子及女子ノ青年學校ノ男子ノ課程ヲ、女ノ欄ハ女子ノミノ青年學校ノ課程竝男子及女子ノ青年學校ノ女子ノ課程ヲ記入スルコト

第十二表

教授及訓練期間調（昭和　年四月末日現在）

種別	設置者別	公								私立		合計	
		道府縣立		市立		町村立		計					
	男女別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
本科	二年ノモノ												
	三年ノモノ												
	四年ノモノ												
	五年ノモノ												
	計												
研究科	一年ノモノ												
	二年ノモノ												
	三年ノモノ												
	四年ノモノ												
	計												
專修科	六月未滿ノモノ												
	一年未滿ノモノ												
	一年ノモノ												
	計												

〔岡山青〕

備考

一、市町村學校組合立ハ市立ノ欄ニ、町村學校組合立ハ町村立ノ欄ニ各之ヲ包含セシムルコト

二、男ノ欄ハ男子ノミノ青年學校ノ課程竝男子及女子ノ青年學校ノ男子ノ課程ヲ、女ノ欄ハ女子ノミノ青年學校ノ課程竝男子及女子ノ青年學校ノ女子ノ課程ヲ記入スルコト

三、一ノ學校ニ於テ男子又ハ女子ニ付教授及訓練期間ヲ異ニスル二以上ノ同一科ヲ併置スル場合ハ各該當欄ニ之ヲ記入スルコト

第十三表

設備情況調（昭和　年四月末日現在）

種別	設置者別	公立				私立		合計	
		道府縣立	市立	町村立	計				
學校數	獨立設置學校數								
	併設學校數	小學校ニ併設シタルモノ							
		其ノ他ニ併設シタルモノ							
	計								
分教場	併設學校ニシテ專用教室ノ設アル學校數								
	分教場ノ設アル學校數								
	分教場數								

〔岡山青〕

私立			
合計			

備考
市町村學校組合立ハ市立ノ欄ニ、町村學校組合立ハ町村立ノ欄ニ各之ヲ包含セシムルコト

第十四表　前年度青年學校課程修得者數調

公立	道府縣立			
	市立			
	町村立			
	計			
私立				
合計				

備考
一、本表ハ青年學校ノ課程ヲ修メ前年度ニ於テ青年學校長ガ兵役法施行令第三十一條第三項ノ規定ニ依リ陸軍大臣ノ定メタル課程ヲ修得シタルコトヲ證明シタル者ノ數ヲ調査スルモノナルコト
二、市町村學校組合立ハ市立ノ欄ニ、町村學校組合立ハ町村立ノ欄ニ各之ヲ包含セシムルコト

第十五表　未設置市町村調（昭和　年四月末日現在）

未設置市町村名	未設置ノ理由

〔岡山吉〕

備考
市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ於テ青年學校ヲ設置シタル場合其ノ關係市町村ハ青年學校設置市町村トシテ取扱フコト

●青年學校一覽表ニ關スル件

昭和十一年五月四日
教第七三七號學務部長通牒

公私立青年學校長殿

青年學校規程實施細則第四十八條ニ依ル青年學校一覽表別紙ノ通相定メ候條左記記入要領參照毎年四月三十日現在ニヨリ作製ノ上五月二十日迄ニ正副貳通當廳宛御提出相成度及通牒候

記

記載要領

一、教授及訓練時數欄ニハ學則ニ規定シタル一ケ年間ノ時數ヲ記入スルコト

一、職員略歷欄ニハ岡山師範一部卒、高松農學校卒等記入シ教練指導員ニアリテハ豫後備別、兵種、階級等ヲ記入スルコト

一、就學狀況欄中

(1)、入學年齡該當者總數欄ニハ區域內年齡該當居住者ノ總數ヲ記入スルコト

(2)、中等學校及各種學校以上（認定學校ヲ除ク）ノ在學者及卒業者數欄ニハ入學年齡該當者中ノ中等學校及各種學校以上（認定學校ヲ除ク）ノ卒業者及在學者總數ヲ記入スルコト

(3)、認定學校ノ在學者及卒業者數欄ニハ昭和十年六月一日陸軍文部省令ニヨリ地方長官ニ於テ青年學校ノ課程ト同等以上ト認定サレタル學校ノ在學者及卒業者ヲ記入スルコト

(4)、就學スベキ者ノ數欄ニハ(1)ヨリ高等小學校在學者及(2)(3)等ヲ控除シタル殘數ヲ記入スルコト

(5)、不就學者數欄ニハ就學スベキ者ノ數ト在籍者數トノ差ヲ記入スルコト

(6)、就學歩合欄ニハ就學スベキ者ノ數ヲ以テ在籍者數ヲ除シタル商ニ百ヲ乘ジタル數ヲ記入スルコト

一、前年度出席狀況欄中

(1)、在籍生徒數欄ニハ各月平均數ヲ記入ノコト

(2)、出席スベキ時間數欄ニハ實施シタル教授及訓練時數ニ在籍生徒數ヲ乘ジタル時數ヲ記入スルコト

(3)、出席時間總數欄ニハ出席シタル總時間數ヲ記入スルコト

(4)、時々出席平均歩合欄ニハ出席スベキ時間數ヲ以テ出席時間總數ヲ除シタル商ニ百ヲ乘ジ小數第三位ヲ四捨五入シタル數ヲ記入スルコト

一、生徒職業別欄ニハ生徒ノ職業ヲ記入スルモノナルモソノ職業確實ナラザルモノハ家庭ノ職業ヲ記入スルコト

一、設備欄中

(1)、校地欄ニハ校舍體操場其ノ他ノ面積ヲ記入スルコト

(2)、建物欄ニハ普通教室特別教室等ノ數ヲ記入スルコト

(3)、備品欄ニハ各ソノ員數ヲ記入スルコト

一、備考欄ニハ前年度ノ教練査閱、視察等ニツキ記入スルコト

〔岡山青〕

岡山縣　學校一覽表

(昭和　年四月三十日調)

位置	區域

管理者又ハ設立者	併設學校名

沿革大要

學科ニ教授及訓練期間		
男	女	專修科
普通科　年 本科　年 研究科	普通科　年 本科　年 研究科	ヶ月

職業科目名

教授及訓練ノ晝間夜間ノ別

教授及訓練ノ時期					
要項／性	季節(月)	普通科(曜日)	本科(同)	研究科(同)	專修科(月)
男					
女					

教授及訓練時數(一ヶ年間ニツキ記入)												
性／科目／科　年		男					女					
		修身及公民科	普通學科	職業科	教練科	計	修身及公民科	普通學科	職業科	家事及裁縫科	體操科	計
普通科	一											
	二											
本科	一											
	二											
	三											
	四											
	五											
研究科	一											
	二											

經費			
經常費			臨時費
要項／年度	前年度	本年度	
市町村費			
教育費總額			
青年 專任教員給 兼任囑託			

第一章　青年學校

昭和　年　月　日進達

〔岡山青〕

區域

併設學校名

年 本科 年 研究科 年

年 本科 年 研究科 年

ヶ月

教授及訓練ノ晝間夜間ノ別

男

女

普通科		本科					研究科		専修科
一	二	一	二	三	四	五	一	二	

市町村費

教育費總額

青年教育費: 専任教員給 / 兼任囑託教員手當 / 其他諸費

一戸負擔額

青年教育費生徒一人當

學校醫

助成員

區域內狀況

戸數

人口

在郷軍人分會員數

青年團員數

女子青年團員數

土地面積: 田 / 畑 / 宅地 / 山林 / 其他 / 計

職業: 農業 / 商業 / 工業

職員

氏名 / 專兼ノ別 / 職名 / 資格 / 俸給 / 年功加俸 / 擔任教授及訓練科目 / 其ノ校就職年月 / 略歷

生徒

在籍者數

科 / 年 / 性	男	女	計
普通科 一			
普通科 二			
本科 一			
本科 二			
本科 三			
本科 四			
本科 五			
研究科 一			
研究科 二			
専修科			
計			

就學狀況

	男	女	計
入學年齡當該者總數			
高等小學在學者數			
中等學校以上(各種學校ヲ除ク)ノ在學者及卒業者數			
認定學校在學者及卒業者數			
就學スベキ者ノ數			

不就學者數	男	女	計

就學歩合	男	女	計

前年度出席狀況

要項 / 性	男	女	計
在籍生徒數			
出席スベキ時間數			
出席時間總數			
平均時々出席歩合			

主要生産價格

農産: 米 / 麥 / 其他

畜産

水産

林産

工産

其他

計

設備

校地: 校舍 / 體操場 / 其他 / 計

建物: 普通教室 / 特別教室

備品: 教練用資材 / 銃器 / 書籍 / 器具器械 / 標本 / 其他

實習地: 種類: 學校 / 委託 / 部落 / 家庭

面積: 田 / 畑 / 山林 / 其他

作物種類: 田 / 畑 / 山林 / 其他

實習設備

授業料

男

女

生徒職業別

要項 / 性	男	女	計
農業			
商業			
工業			
計			

備考

月 日通達

岡山縣 郡 學校長

様式　青年學校名簿

名稱	設置者	位階	開校年月	科並教授及訓練期間	學校長	教員數	生徒數 普通科 本科 男	生徒數 普通科 本科 女	生徒數 研究科 專修科 男	生徒數 研究科 專修科 女	備考

（昭和　年四月末日現在）

備考

一、設置者ノ欄ハ公立ニ在リテハ道府縣名、市町村名、市町村學校組合名、町村學校組合名等ヲ私立ニ在リテハ設置者名ヲ記入スルコト

【岡山青】

●青年學校名簿報告ニ關スル件

昭和十一年五月二十五日
教第八四四號學務部長通牒

（市長　青年學校長（市内ヲ除ク）宛）

青年學校名簿別紙樣式ニ依リ毎年六月末日限リ正副二通御報告相成度

尙學區ニ於テ費用ヲ負擔スル場合ハ備考ノ欄ニ之ヲ記入スルコト

二、位置ノ欄ハ其ノ學校ノ所在地ヲ記入スルコト但シ小學校等ニ併設シタルモノハ當該學校等ノ所在地及名稱ヲ記入スルコト

三、開校年月ノ欄ニ於テ青年學校令附則第四項ノ青年學校ノ開校年月ハ昭和十年四月トシ○ヲ附スルコト

四、科竝教授及訓練期間ノ欄ハ其ノ學校ニ置ク科ノ種別(普通科、本科、研究科、專修科)竝其ノ教授及訓練期間ヲ記入スルコト

五、學校長ノ欄ハ專任(他ノ職ヲ兼ヌル者及其ノ學校ノ他ノ職員ヨリ兼ヌル者ヲ含ム)兼任(其ノ學校職員以外ノ職ヨリ兼ヌル者)ノ區別ヲ記入スルコト

六、教員數ノ欄ニハ學校長ヨリ兼ヌル教員ヲ包含セシムルコト

七、教員數ノ欄ニ於テ專任教員(昭和十年四月一日發社八六號通牒「青年學校ニ關スル件」十三ニ依ル)ハ更ニ△ヲ附シテ其ノ數ヲ表示スルコト

八、前年五月一日以後ニ於テ設置シタルモノハ備考ノ欄ニ「新設」ト記シ廢止シタルモノハ從前ノ名稱、設置者、位置及開校年月ヲ朱書シ備考ノ欄ニ廢止ノ年月日ヲ記入スルコト

●青年學校振興ニ關スル件

昭和十二年五月二十七日
教第七四八號學務部長通牒

公私立青年學校長

我ガ國大衆青年教育上劃期的制度トモ言フベキ青年學校ハ時代ノ要求ト一般青年ノ動向トヲ捉ヘ得然モ貴職等ノ獻身的努力ニ依リ制度實施以來日尙淺キニモ不拘極メテ堅實ナル發展ヲ辿リツヽアルハ眞ニ慶祝ニ勝ヘザルトコロナルモ未ダ尙生徒ノ就學出席、設備竝專任教員ノ充實將又教授及訓練ノ實際ニ於テ努力改善ヲ要スルトコロ極メテ甚大ナルモノ有之樣被存候、就テハ本縣ハ昭和十年七月一日ヲ期シ一齊ニ青年學校令ニ基キ青年學校新制度ヲ實施致シ候此ノ意義アル七月一日ヲ尙後毎年青年學校振興日ト定メ新制度ヲ一層一般市町村民ニ周知徹底セシメ青年學校ノ一大振興ヲ圖リタク候條右趣旨御了知ノ上之ガ振興ニ關シ各校夫々具體的方案ヲ樹テ實施相成樣致度

追テ實施相成タル事項ニ關シテハ毎年七月二十日迄ニ其ノ梗概ヲ御報告相成度申添候

〔岡山青〕

第二章　教職員

●岡山縣立青年學校教員養成所學則

昭和六年四月九日
岡山縣令第十五號

沿革　昭和一〇年一月縣令第一五號、五月第二八號、一一年二月第五號改正

岡山縣實業補習學校教員養成所學則左ノ通改正ス

岡山縣立青年學校教員養成所學則

第一條　本所ハ青年學校教員養成所令ニ基キ青年學校教員ヲ養成スルヲ以テ目的トス

第二條　本所ハ岡山縣高松農學校ニ併置ス

第三條　本所ニ第一部及第二部ヲ置ク

第四條　生徒定員ハ五拾名トス

第五條　修業年限ハ二ケ年トス

第六條　學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

學年ヲ分チテ左ノ三學期トス

第一學期　自四月一日至八月三十一日

第二學期　自九月一日至十二月三十一日

第三學期　自一月一日至三月三十一日

第七條　休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ

一、祝　日　大祭日

二、日曜日

三、岡山縣高松農學校創立記念日(四月二十五日)

四、夏季休業　自七月二十日至八月三十一日

五、冬季休業　自十二月二十五日至翌年一月七日

學年ノ終始ニ於テ生徒募集其ノ他ノ爲前後各十日以內休業スルコトアル

〔岡山青〕

ベシ

特別ノ事情アルトキハ所長ニ於テ臨時休業スルコトヲ得

第一部

學科目	第一學年 課程 時數	第二學年 課程 時數	第三學年 課程 時數
修身及公民科	道德ノ要領竝ニ法制上、經濟上及社會上ノ事項 三	道德ノ要領竝ニ法制上、經濟上及社會上ノ事項 三	教育史、教授法、學校管理法、青年教育 四
教育	教育學、心理學、論理學 三	教育學、心理學、論理學 三	
國語	講讀、作文、文法、習字 五	講讀、作文、文法、習字 五	
國史	國史 二	國史 一	
數學	算術、代數、幾何 三	算術、代數、幾何 三	
體操	體操、教練、武道 四	體操、教練、武道 四	
作物	本縣主要食用作物、果樹園藝 四	本縣主要工藝作物、蔬菜花卉園藝 四	
林業		造林、測量、森林利用 一	
農藝化學	定性分析 二	定量分析 二	
土壤肥料	地質 一	肥料 一	
畜產		畜產 一	
養蠶	養蠶 一		
病理	植物病理 二		

〔岡山青〕

第八條　各學年ノ學科目課程及每週教授時數左ノ如シ

第二部

學科目	第一學年 課程 時數	第二學年 課程 時數
修身及公民科	道德ノ要領竝ニ法制上、經濟上及社會上ノ事項 三	道德ノ要領竝ニ法制上、經濟上及社會上ノ事項 三
教育	教育學、心理學、論理學 三	教育史、教授法、學校管理法、青年教育 四
國語	講讀 二	
國史	國史 二	
體操	體操、教練、武道 四	
作物	植物生理栽培學一般食用作物本縣主要食用作物果樹園藝 六	育種一般工藝作物本縣主要工藝作物蔬菜花卉園藝 六
昆蟲	害蟲況論、害蟲各論 一	
農業工學		農業動力 一
農業經濟	農業經濟 一	農業經營、農政、農業法規 二
合計	三二	三二
農學實習	物理、病理實驗 一回	害蟲實驗 一回
農藝化學分析實驗	定性分析實驗 一回	定量分析實驗 一回
農場實習	作物林業養蠶實習 不定時	作物畜產實習 不定時
教育實習		教育實習 不定時

〔岡山青〕

林業	造林測量、森林利用	一	一
農藝化學	定性分析	二	二
土壤肥料	地質土壤	二	二
畜産	畜産養蠶	一	一
病理	植物病理	一	一
昆蟲	害蟲況論、害蟲各論	二	二
農業工學		二	二
農業氣象學		一	一
農業經濟	農業經濟	二	二
合計		三二	三二
農學實驗	害蟲實驗	一回	一回
農藝化學分析實驗	定性分析實驗	一回	一回
農場實習	作物林業畜産養蠶實習	不定時	不定時
教育實習			不定時

第九條　本所ニ入學ヲ許スベキ者ハ身體健全思想健實品行方正ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者タルコトヲ要ス

一　尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限五年以上ノ實業學校又ハ之ト同程度ノ實業學校ヲ卒業シタル者

二　師範學校又ハ中學校ヲ卒業シタル者

前項ニ掲グル者ニ準ズベキ學力アリト認メタル者ハ特ニ銓衡ノ上入學セシムルコトアルベシ

農業學校ヲ卒業シタル者ハ第一部ニ其ノ他ノ者ハ第二部ニ入學セシム

第二項ニ依リ入學シタル者ハ入學前ノ學歷ニヨリ第一部若ハ第二部ニ入學セシム

第十條　本所ニ入學セントスル者ハ第一號書式ノ入學願ニ第二號書式ノ履歷書ヲ添ヘテ所長ニ願出ツヘシ

第十一條　入學志願者ニ對シテハ身體檢查竝ニ人物考查ヲ行フ入學志願者ノ數入學ヲ許可スヘキ人員ニ超過シタル場合ハ國語、數學、博物、物理、化學及農業ノ一科目若クハ數科目ニ付選拔試驗ヲ行フ

第十二條　入學ヲ許可セラレタル者ハ入學ノ日ヨリ十日以內ニ第三號書式ニ依リ保證人連署ノ誓約書ヲ所長ニ差出スヘシ

保證人ハ本縣內ニ居住シ獨立ノ生計ヲ營メル成年以上ノ男子タルヘシ

所長ニ於テ保證人ヲ不適當ト認メタルトキハ之ヲ變更セシムルコトアルヘシ

保證人住所氏名ヲ變更シ又ハ死亡セル等ノ場合ハ直ニ所長ニ屆出ツヘシ

第十三條　生徒ハ所定ノ制服制帽ヲ著用スヘシ

第十四條　各學年ノ課程ノ修了及全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ成績ヲ考查シ所長之ヲ定ム

所長ハ全學科ヲ卒業セリト認メタル者ニハ第四號書式ノ卒業證書ヲ授與ス

第十五條　授業費ハ年額金參拾圓トス

第十六條　（削除）

第十七條　卒業生ハ卒業ノ日ヨリ滿二ケ年間知事ノ指定スル職ニ從事スヘキ義務アルモノトス

知事ニ於テ特別ノ事情アリト認メタルトキハ前項ノ義務ヲ猶豫又ハ免除スルコトアルヘシ

第十八條　所長ハ病氣其ノ他ノ事由ニ依リ成業ノ見込ナシト認メタル者又ハ不都合ノ所爲アリタル者ニ對シテハ退學ヲ命スルコトヲ得

第十九條　生徒ハ自己ノ便宜ニ依リ退學スルコトヲ得ス但シ已ムヲ得サル事由ニ因リ所長ノ許可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニアラズ

第二十條　所長ハ前二條ニヨリ生徒ヲ處分シタルトキハ事由ヲ具シテ知事ニ報告スベシ

第二十一條　自宅ヨリ通學スルコト能ハザル者竝ニ管理上必要ト認ムル者ハ寄宿舍ニ入ラシム

第二十二條　寄宿舍ニ關スル細則ハ所長之ヲ定ム

第二十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ在學中給與シタル授業費ヲ償還セシム但シ情狀ニヨリ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ

一、自己ノ便宜ニ依リ退學シタル者又ハ不都合ノ所爲アリタルニ依リ退學ヲ命セラレタル者

二、正當ノ事由ナクシテ服務義務ヲ盡ササル者又ハ自己ノ便宜ニ依リ服務義務ヲ免除セラレタル者

三、服務期間內ニ於テ懲戒免職ニ處セラレタル者

第二十四條　本則施行上必要ナル細則ハ所長之ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第一號書式（用紙美濃紙）

入學願

私儀貴所へ入學致度候ニ付御許可相成度履歷書相添へ此段相願候也

本籍

現住所

年　月　日　　族　籍　　氏　　名印

岡山縣立青年學校教員養成所長殿

本人ハ教員免許令第五條ノ各號ニ該當セス且青年學校教員タルニ不都合ノ行爲ナキ者タルヲ證ス

年　月　日　　何市(町村)長　氏　　名印

備考　現ニ官公立學校教員在職中ノ者ハ市(町村)長ノ證明ヲ要セス

第二號書式　(用紙美濃紙)

履歷書

本　籍
現住所
族　籍　戸主又ハ何某何男弟等　　氏　　名
年月日生

學　業

一、年月日　何學校入學年月日卒業
一、年月日　何免許狀受領

業　務

一、自年月日至年月日何學校訓導(准訓導、訓導兼校長等)勤務月俸何圓乃至何圓

賞　罰

一、年月日　何々ニヨリ何賞又ハ何罰ヲ受ク
身上ニ關スル事項
一、兵役關係　何々
一、何　々

〔岡山青〕

右之通相違無之候也

年　月　日　　氏　　名印

第三號書式　(用紙美濃紙)

誓約書

㊞
參　錢
印　紙

某儀今般御校ヘ入學御許可相成候ニ就テハ在學中御規則等堅ク相守リ卒業後ハ成規ノ通服務ノ義務ヲ全ウスヘク萬一半途退學ノ場合又ハ服務ノ義務ヲ全ウスルコト能ハサル場合ニ於テ授業費ノ償還ヲ命セラレタルトキハ本人及保證人連帶ノ責ニ任シ即時辨償致スヘク且在學中本人身上ニ關スル事件ハ保證人ニ於テ一切引受申スヘク候仍テ保證人連署ヲ以テ誓約書差出シ候也

本　籍
現住所
年　月　日　　本人　氏　　名印
本　籍
現住所
保證人　氏　　名印
年月日生

岡山縣立青年學校教員養成所長殿

第四號書式

卒業證書

所印　　氏　　名

右者本所々定ノ課程(修業年限二ヶ年)ヲ卒業セシコトヲ證ス

年　月　日　　岡山縣立青年學校教員養成所長　氏　　名印

制印

第　號

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●岡山縣立女子青年學校教員養成所學則

大正十三年四月一日
岡山縣令第二十三號

沿革　大正一三年縣令第四一號、一四年第三一號、昭和六年三月第一三號、一〇年五月第二九號、一一年二月第四號改正

岡山縣立女子青年學校教員養成所學則ヲ左ノ通定ム

記

岡山縣立女子青年學校教員養成所學則

第一條　本所ハ青年學校教員養成所令ニ依リ青年學校女教員ヲ養成スルヲ以テ目的トス

第二條　本所ハ岡山縣女子師範學校ニ併設ス

第三條　生徒定員ハ五拾名トス

第四條　修業年限ハ二ヶ年トス

第五條　學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル
學年ヲ分チテ左ノ三學期トス
第一學期　自四月一日　至八月三十一日
第二學期　自九月一日　至十二月三十一日
第三學期　自一月一日　至三月三十一日

第六條　休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ
一、祝日、大祭日、皇后陛下御誕辰日
二、日曜日
三、岡山縣女子師範學校創立記念日
四、夏期休業日　自七月二十日　至八月三十一日
五、冬期休業日　自十二月二十五日　至一月七日
學年ノ終始ニ於テ生徒募集其ノ他ノ爲前後各十日以内休業スルコトアルヘシ
特別ノ事情アルトキハ所長ニ於テ臨時休業スルコトヲ得

第七條　各學年ノ學科目課程及毎週教授時數左ノ如シ

學科目	第一學年 課程	第一學年 時數	第二學年 課程	第二學年 時數
修身及公民科	道德ノ要領竝ニ法制上、經濟上及社會上ノ事項	二	道德ノ要領竝ニ法制上、經濟上及社會上ノ事項	二
教育	教育學	二	學校管理法、教育實習	二
國語	講讀、作文、習字	二	講讀、作文	二

國史	建國ノ體制文化史一般	一	文化史一般、明治史	一
地理	我國ノ位置産業	一	産業鄉土誌	一
家事	家事全般ニ關スル理論實習	七	家事全般ニ關スル理論實習、鄉土家事家事教授法	七
裁縫	通常衣服裁縫ノ理論實習	一一	通常衣服裁縫ノ理論實習、裁縫教授法	一一
職業科	蔬菜栽培、園藝	二	蔬菜栽培、園藝	二
體操	體操、遊戲	二	體操、遊戲	二
手藝	編物	一	刺繍、袋物	一
作法	一般作法、茶技、生花	二	一般作法、茶技、生花	二
音樂	唱歌	一	唱歌	一
合計		三四		三四

第八條　本所ニ入學ヲ許可スベキ者ハ身體健全品行方正ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者タルベシ

一　尋常小學校ノ卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限四年以上ノ實業學校又ハ之ト同程度ノ實業學校ヲ卒業シタル者

二　女子師範學校又ハ高等女學校ヲ卒業シタル者

前項各號ニ揭グル者ニ準ズベキ學力アリト認メタル者

第九條　本所ニ入學セントスル者ハ第一號書式ノ入學願ニ第二號書式ノ履歷書ヲ添ヘテ所長ニ届出ツヘシ

第十條　入學志願者ニ就テハ入學試驗ヲ行ヒ入學ノ許否ヲ決ス試驗ノ學科目ハ國語、數學、家事及裁縫トシ高等女學校卒業程度ニ於テ之ヲ行フ

第十一條　入學ヲ許可セラレタル者ハ入學ノ日ヨリ十日以内ニ第三號書式ニ依リ保證人連署ノ誓約書ヲ所長ニ差出スヘシ

保證人ハ本縣内ニ居住スル成年以上ノ男子ニシテ一戸ヲ構ヘ身元確實ニシテ相當ノ資産ヲ有シ保證ノ責ニ任シ得ヘキ者タルヘシ

保證人ノ住所變成所ヲ距ルコト一里以外ニアルトキハ別ニ一里以内ニ居住スル者ヲ以テ代理保證人ニ定メ所長ニ届出ツヘシ

代理保證人ハ前項保證人ト同資格ヲ具フル者タルヘシ

第十二條　所長ニ於テ前條ノ保證人又ハ代理保證人ヲ不適當ト認メタルトキハ之カ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第十三條　保證人住所氏名ヲ變更シ又ハ死亡等ノ場合ハ直ニ所長ニ届出ツヘシ

第十四條　所長ハ生徒ノ成績ヲ考査シ本所ノ課程ヲ卒業セリト認メタル者ニハ第四號書式ノ卒業證書ヲ授與ス

第十五條　授業費ハ年額金參拾圓トス但シ特別ノ事情アル場合ヲ除ク外コレヲ徵集セス

第十六條　生徒ハ公費及私費トス

公費生徒ニハ學資トシテ毎月所定ノ金額ヲ支給ス

但シ一ケ月中ニ於テ引續キ十五日以上缺席シタル者ニハ其ノ月ニ限リ所定金額ノ二分ノ一ヲ支給ス缺席日數全月ニ亙リタル者ニハ其ノ月ニ限リ之ヲ支給セス

第十七條　卒業者ハ卒業證書受得ノ日ヨリ左ノ期間本縣管内ニ於テ教育ニ從事スベキ義務ヲ有ス

一　私費卒業者ニアリテハ一年

二　公費卒業者ニアリテハ二年但シ一年間ハ知事ノ指定スル學校ニ就職スルヲ要ス

知事ニ於テ特別ノ事情アリト認メタルトキハ前項ノ義務ヲ猶豫又ハ免除スルコトアルベシ

第十八條　所長ハ病氣其ノ他ノ事由ニ依リ成業ノ見込ナシト認メタル者又ハ不都合ノ所爲アリタル者ニ對シテハ退學ヲ命スルコトヲ得

第十九條　生徒ハ自己ノ便宜ニ依リ退學スルコトヲ得但シ已ムヲ得サル事由ニ因リ所長ノ許可ヲ受ケタル者ハ此ノ限リニアラス

第二十條　所長ハ前二條ニヨリ生徒ヲ處分シタルトキハ事由ヲ具シテ知事ニ報告スベシ

第二十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ在學中給與シタル學資竝授業費ヲ償還セシムル但シ情狀ニヨリ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ

一、自己ノ便宜ニ依リ退學シタル者又ハ不都合ノ所爲アルニ依リ退學ヲ命セラレタル者

二、正當ノ事由ナクシテ服務義務ヲ盡サヽル者又ハ自己ノ便宜ニ依リ服務ヲ免除セラレタル者

三、服務期間内ニ於テ懲戒免職ニ處セラレタル者

第二十二條　自宅ヨリ通學スルコト能ハサル者竝管理上必要ト認ムル者ハ寄宿舍ニ入ラシム

第二十三條　寄宿舍ニ關スル細則ハ所長之ヲ定ム

第二十四條　本則施行上必要ナル細則ハ所長之ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第二十五條　本學則ハ大正十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式　（用紙美濃紙）

入學願

私儀貴所ヘ公（私）費生トシテ入學致度候ニ付御許可相成度履歷書相添此段相願候也

本籍
現住所
族籍

年　月　日　　氏　　名印

岡山縣立女子青年學校教員養成所長殿

本人ハ教員免許令第五條ノ各號ニ該當セス且青年學校教員タルニ不都合ノ行爲ナキ者タルコトヲ證ス

年　月　日　　何市（町村）長　氏　　名印

備考　現ニ官公立學校教員在職中ノ者ハ市（町村）長ノ證明ヲ要セス

第二號書式（用紙美濃紙）

履歷書

本籍
現住所
族籍　戶主又ハ何某何女姝等
氏名　生年月日

學業
一、年月日何學校入學　年月日卒業
一、年月日　何免許狀受領

業務
一、自年月日至年月日　何學校訓導（准訓導、訓導兼校長等）勤務月俸何圓乃至何圓
賞罰
一、年月日何々ニヨリ何賞又ハ何罰ヲ受ク

身上ニ關スル事項
一、何々
右ノ通相違無之候也
年　月　日　氏名㊞

第三號書式（用紙美濃紙）

誓約書

本人消印

參錢收入印紙 ㊞

氏名

〔岡山青〕

右ノ者今般入學御許可相成候ニ就テハ御規則竝ニ相守リ可申本人在學中竝義務年限中ノ事件ハ本人及保證人ニ於テ連帶ノ責ニ任シ一切引受可申竝ニ保證人連署ヲ以テ誓約候也

本籍
現住所　本人　氏名印
本籍
現住所　右保證人　氏名印

年　月　日

岡山縣立女子青年學校教員養成所長殿

第四號書式

卒業證書

所印　氏名

右者本所々定ノ課程（修業年限一ケ年）ヲ卒業セシコトヲ證ス

年　月　日

割印　岡山縣立女子青年學校教員養成所長　氏名印

第　號

●公立青年學校ノ職員任命ニ關スル辭令式

昭和十年五月一日
岡山縣訓令第五十九號

公立青年學校ノ職員任命ニ關スル辭令式左ノ通定メ昭和十年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

市役所　公立青年學校

一、新任又ハ轉任ノ職記式竝ニ補職辭令式

官職位勳功爵　何　某

岡山縣公立青年學校長（教諭、助教諭、書記等）ニ任ス

何級俸給與

岡山縣公立青年學校長

（教諭、助教諭、書記等）　何　某

何青年學校（各當該學校名ヲ記スルコト）長（教諭、助教諭、書記等）ニ補ス

一、兼任職記式竝ニ補職辭令式

岡山縣公立小學校訓導

〔兼岡山縣公立小學校長〕

位勳功爵　何　某

岡山縣公立青年學校長（教諭、助教諭、書記等）ニ兼任ス

岡山縣公立青年學校長

（教諭、助教諭、書記等）　何　某

何青年學校（各當該學校名ヲ記スルコト）長（教諭、助教諭、書記等）ニ補ス

年手當何圓ヲ給ス

一、轉補辭令式

(一)　專任者ノ場合

岡山縣公立青年學校長

（教諭、助教諭、書記等）　何　某

何青年學校（各當該學校名ヲ記スルコト）長（教諭、助教諭、書記等）ニ補ス

〔岡山青〕

(二)　兼任者ノ場合

岡山縣公立小學校訓導
〔兼岡山縣公立小學校長〕
(兼)岡山縣公立青年學校長
(教諭、助教諭、書記等)　何　某

(一)　專任者ノ場合

岡山縣公立青年學校長
(教諭、助教諭、書記等)　何　某

願ニ依リ本職ヲ免ス

(二)　兼任者ノ場合

岡山縣公立小學校訓導
〔兼岡山縣公立小學校長〕
(兼)岡山縣公立青年學校長
(教諭、助教諭、書記等)　何　某

(願ニ依リ)兼岡山縣公立青年學校長(教諭、助教諭、書記等)ヲ免ス
〔(願ニ依リ)兼職ヲ免ス〕

一、休職ノ辭令式

岡山縣公立青年學校長
(教諭、助教諭、書記等)　何　某

公立學校職員分限令第八條第一項第何號ニ依リ休職ヲ命ス

〔岡山青〕

●公立青年學校職員任命竝ニ補職辭令式ニ關スル件

昭和十年五月一日
教第五七六號學務部長通牒

市長　公立青年學校長(同上)宛
公立小學校長(市部ヲ除ク)

本日岡山縣訓令第五九號ヲ以テ公立青年學校長(教諭、助教諭、書記等)任命竝ニ補職ニ關スル辭令式相定メラレ候處右訓令施行ノ際現ニ公立實業補習學校ノ職ニ在ル者ニ對シテハ別ニ辭令ヲ用ヒズ本縣公立青年學校長(教諭、助教諭)ニ任セラレ現在勤公立青年學校長(教諭、助教諭)ニ補セラレタルモノトシテ取扱ハルヽコト、相成候ニ就テハ右御了知相成度依命及通牒候

追テ右該當者及昭和十年四月一日現ニ公立青年訓練所ノ主事又ハ指導員ノ職ニアルモノニシテ別ニ辭令ヲ發セザルモノニ付テハ左記ノ例ニヨリ各履歷書ニ朱書整理相成度

記

一、公立青年學校長(教諭、助教諭)ノ職ニ在ル者

昭和十年四月一日勅令第四十六號ニ依リ岡山縣公立青年學校長(教諭、助教諭)ニ任セラレ現在勤學校長(教諭、助教諭)ニ補セラル(休職如故)

一、公立小學校訓導(兼校長)ニシテ公立青年學校長(教諭、助教諭)ヲ兼ヌル者

昭和十年四月一日勅令第四十六號ニ依リ岡山縣公立青年學校長(教諭、助教諭)ニ兼任セラレ現在勤學校長(教諭、助教諭)ニ補セラル

一、昭和十年四月一日現ニ公立青年訓練所ノ主事又ハ指導員ノ職ニ在ルモノ

〔岡山青〕

昭和十年四月一日文部省令第七號ニ依リ公立青年學校長事務取扱(指導員)ヲ囑託セラル

●公立學校職員及市町村立小學校教員戰時事變ニ際シ召集セラレタル場合ノ取扱方ニ關スル件

昭和十二年八月三十日
學第二四二二號學務部長通牒

市町村長　公私立中等學校長
公私立青年學校長(市内ヲ除ク)
小學校長(同上)宛

公立學校職員及市町村立小學校正教員ガ戰時事變ニ際シ召集セラレタル時ハ法令上當然休職ト爲ルノ定メナリシモ今般一層之カ優遇ヲ圖ル爲昭和十二年八月二十三日勅令第四百四十八號及文部省令第二十九號ヲ以テ公立學校職員分限令及小學校令施行規則中ニ改正ヲ加ヘラレタル次第ニ付自今戰時事變ニ際シ軍隊ニ召集セラレタル者ニ對シテハ右改正ノ趣旨ヲ體シ現職ノ儘應召セシムル樣致スベク尙左記事項ニ關シ御留意相成度文部省ヨリ通牒ノ次第モ有之依命此段通牒ス

記

第二章　教職員

一、教職員戰時事變ニ依リ召集セラレタル場合ハ現職ノ儘應召スルモノトス

二、教職員戰時事變ニ際シ召集セラレタル場合ハ學校長ハ速カニ其職氏名、資格、役種、兵種、官等級、位勳功僻(奏待ハ特記)竝ニ召集令狀受領日、應召年月日、應召ノ場所等ヲ記載シ召集中戰死病死ノ場合ハ其ノ年月日及軍籍身分ヲ記載シ召集解除トナリタル場合ハ身體異常ノ有無又ハ其ノ程度召集解除ノ年月日ヲ記載シ縣ニ報告スルコト

三、召集令狀受領ノ日ヨリ應召日迄及召集解除ノ日ヨリ歸校ノ日迄ノ缺勤ハ公事缺勤トス

四、教員ニシテ陸軍給與令又ハ海軍給與令ニ依リ俸給ヲ受クル者ニハ其ノ間俸給ヲ給セズ但シ其ノ額本職ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ヲ給ス

五、學校長ハ應召者ニ對シ左ノ事項ニツキ俸給支給部隊ノ證明ヲ受ケ其ノ都度報告セシメ更ニ之ヲ管理者竝ニ縣ニ移報スルコト

イ、部隊變更年月日竝ニ部隊名

ロ、部隊ヨリ受クベキ俸給額(戰時增給ハ加算セズ)

ハ、召集中俸給額ニ變更ヲ生ジタル時ハ其ノ變更額及年月日

(右ハ明治三十七年四月三十日陸達第九十三號豫後備補充歸休兵ニシテ文官タル者召集ニ應ジ奉職官廳ヨリ俸給ノ補給ヲ受クル者ニ係ル取扱方竝ニ明治三十七年四月二十五日海軍省達第八十四號文官及文官待遇者タル海軍豫備役軍人及歸休兵ニシテ召集中奉職官衙ヨリ俸給ノ補給ヲ受クベキ者證明速報方ニ準據セルモノ)

六、前各號ノ取扱上部隊ヨリ俸給々料支給ノ證明ヲ得難キ場合ハ陸軍給與令竝ニ海軍給與令ニ依ル各官等相當俸給額ノ最下位ノ俸給々料ヲ受クルモノト看做シ不取敢計算支給シ確定ノ都度精算スルコト俸給支拂調

書ニハ本項事項ヲ詳記スルコト

七、俸給々料ハ本人宛送金方困難ニ付受任者受領ノ上家族等ニ便宜交付スルコト

此ノ場合ノ受授ハ明確ニ記錄シ置クコト

八、准教員、代用教員、青年學校囑託、中等學校教諭心得、囑託等ノ身分進退俸給支給ニ關シテハ資格任用教員ニ準ジテ取扱フコト但シ臨時代用臨時囑託其他特別ナル事情アル者ハコノ限リニ在ラズ

九、私立學校ニ於テモ其ノ職員ニシテ召集セラレタル者ニ對シテハ公立學校職員ノ例ニ準ジ取扱ハレ度キコト

附記

◎今回ノ事變ニ際シ召集セラレタル者ノ昭和十二年八月二十三日以前ノ取扱方ニ關スル注意

一、昭和十二年八月二十三日公布ノ勅令第四百四十八號公立學校職員分限令改正及文部省令第二十九號小學校令施行規則改正竝ニ昭和十二年八月二十三日公布ノ小學校令施行規則實施細則改正以前ノ休職給ニ關シテハ左ノ通支給ス

(イ) 召集ノタメ當然休職トナリタル者ニハ休職給ヲ支給スルコト但シ小學校教員ニアリテハ小學校令施行規則第百五十三條但書ノ規定ニ拘ラズ休職給ヲ支給スルコト

(ロ) 小學校教員ニアリテハ小學校令施行規則第百五十五條青年學校職員竝ニ中等學校職員ニアリテハ公立學校職員俸給令第十條ニ規定セル陸軍給與令海軍給與令ニ依リ支給サルヽ俸給カ休職給ヨリ多キ場合ハ休職給ヲ支給セズ寡少ナル場合ハ其ノ不足額ヲ補給スルコト

※ 陸軍給與令ニ依リ支給サルヽ俸給トハ俸給、給料手當ヲ總稱ス

海軍ニ於テハ軍人俸給表ノ規程ニ依ル

〔岡山青〕

(ハ) 休職中ノ年功加俸ハ其ノ三分ノ一ヲ給ス

(ニ) 小學校准教員ニシテ實施細則第三十一條ニ依リ休職ヲ命セラレメル者ノ休職給ハ本科正教員ニ準ジ支給スルコト

二、代用教員、青年學校囑託、中等學校教諭心得、助教諭心得、囑託等ノ俸給支給方ニ關シテハ當初ヨリ現職ノ儘トシ本文四、ニ準ジ取扱フコト

三、本務休職トナリタル爲兼務退(解)職トナリタル者ハ規定改正ト同時ニ任用辭令ヲ出ス可キニ付至急內申スルコト

四、履歷書記入ハ左ノ例ニヨルコト

年　月　日　充員召集ノタメ休職(准教員ノ場合ハ「小學校令施行規則實施細則第三十一條第一項第二號ニヨリ休職ヲ命ス」ト記入スルコト)

年　月　日　昭和十二年八月二十三日勅令第四百四十八號公立學校職員分限令改正又ハ文部省令第二十九號小學校令施行規則改正又ハ昭和十二年八月二十三日岡山縣令第四十一號小學校令施行細則改正ニヨリ復職

(朱書ノコト)

五、昭和十二年八月三日付教第九六四號青年學校指導員等應召者取扱ニ關スル件ノ通牒ハ之ヲ廢棄ス

〔岡山青〕

●公立學校職員俸給支給細則

明治三十六年五月八日
岡山縣令第四十三號

沿革　大正五年縣令第三八號改正

明治三十六年(三月)勅令第六十六號公立學校職員俸給令第十八條ニ依リ俸給支給細則左ノ通定ム

但明治三十二年(四月)縣令第三十二號ヲ廢止ス

公立學校職員俸給支給細則

第一條　年俸月俸ハ毎月二十一日支給ス但休日ニ當ルトキハ順延トス

第二條　退職及死亡ノ時又ハ俸給ヲ給セサル休職者ニアリテハ當月分ノ俸給全額ヲ其ノ際支給ス

但シ減給ニ係ルモノハ其ノ現ニ受クル當月分ノ全額ヲ支給スルモノトス

休職、退職ノモノニシテ殘務調理ヲ命セラレタル者其ノ調理翌月以降ニ渉ルトキハ調理結了ノ日迄日割ヲ以テ從前ノ俸給ヲ其ノ際支給ス

第三條　轉任者ノ俸給ハ第一條ノ支給日ニ拘ラス日割計算ヲ以テ發令ノ當日迄ニ係ル俸給ヲ其ノ際支給ス

俸給支給定日後新任增俸又ハ他ヨリ轉任シ來リタルモノハ俸給ハ日割計算ヲ以テ其ノ際支給ス

第四條　病氣ノ爲メ執務セサルモノ判任官待遇以上ノ者ニシテ九十日ヲ踰ユルトキハ俸給ノ半額ヲ減ス但公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルモノハ此限リニアラス

第五條　前條ノ外私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト三十日ヲ踰ユルトキハ俸給ノ半額ヲ減ス但服忌ヲ受クルモノハ此限ニアラス

第六條　忌引ノ場合ト第四條若ハ第五條ノ場合ト連續スルトキハ其ノ忌引ノ日數ヲ控除ス又病氣ト私事ノ故障ト連續スル場合ニ於テモ之ヲ通算セス

第七條　轉任減俸其ノ他ノ事故ニ依リ俸給過渡アルトキハ其際追徵ス

第八條　日割計算ノ法ハ其ノ月ノ現日數ニ依ル

第九條　俸給ヲ支給スルニ當リ計算上厘位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ切捨トス

●公立學校職員年功加俸支給細則

大正十年三月二十九日
岡山縣令第三十號

沿革　大正一〇年縣令第七一號、昭和六年六月第二八號改正

公立學校職員年功加俸支給細則左ノ通リ定ム

公立學校職員年功加俸支給細則

第一條　公立學校職員ニシテ公立學校職員年功加俸令第一條ニ該當スル者ニハ左表ニ依リ年功加俸ヲ給ス

	學校長教諭助教諭舍監加俸年額	調導保姆加俸年額
勤續五年以上十年未滿	俸給月額八拾圓以上　圓　九六	俸給月額八拾圓以上　圓　六〇
勤續十年以上十五年未滿	一四四	八四
勤續十五年以上	一九二	一二〇
	俸給月額八拾圓未滿　圓　七二	俸給月額八拾圓未滿　圓　三六
	一二〇	七二
	一六八	九六

第二條　公立學校職員年功加俸ノ支給ニ關シテハ公立學校職員俸給支給細則ヲ準用ス

附　則

本令中第一條ハ大正九年十月分ヨリ之ヲ適用ス

公立學校職員年功加俸給與手續

大正十五年十一月二十二日
岡山縣訓令第百六號

沿革　昭和六年六月訓令第五號改正

公立學校職員年功加俸給與手續左ノ通定ム

公立學校長　公立學校職員

公立學校職員年功加俸給與手續

第一條　公立學校職員中年功加俸受給者ハ各學校ヨリ一人ノ總代理人ヲ指定シ其ノ氏名ヲ學校長ニ届出ツヘシ　【岡山青】

第二條　年功加俸受給者ハ毎月十日迄ニ別記樣式第一號ニ依ル通知書ヲ總代理人ニ提出スヘシ

第三條　總代理人ハ別記樣式第二號ニ依ル請求書ヲ學校長ニ提出スヘシ

第四條　學校長前條ノ請求書ヲ受理シタルトキハ之ヲ加俸臺帳及總代理人指定届書ト對照シ相違ナシト認メタルトキハ其ノ旨證明ノ上遲滯ナク知事ニ之ヲ進達スヘシ

第五條　前條ノ規定ニ依リ請求書ヲ進達シタル後ニ於テ加俸支給ノ事由發生シ又ハ加俸金額ニ異動ヲ生シタルトキハ遲滯ナク前三條ノ規定ニ準シ追加請求又ハ返納ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條　學校長ハ別記樣式第三號ニ依ル加俸臺帳ヲ備付クヘシ

第七條　學校長ハ其ノ校職員左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ別記樣式第四號ニ依リ遲滯ナク知事ニ之ヲ開申スヘシ

一　年功加俸ヲ受ノヘキ事由發生シ又ハ消滅シタルトキ

二　加俸年額ニ異動ノ事由ヲ生シタルトキ

第八條　學校長ハ左ノ各號ニ依リ毎年三月末日現在ニ於テ其ノ校職員中四年以上五年未滿、九年以上十年未滿、十四年以上十五年未滿勤續ノモノヲ調査シ四月二十日迄ニ別記樣式第五號ニ依リ知事ニ之ヲ報告スヘシ　【岡山青】

一　職員ノ範圍及勤續年數ノ計算ニ關シテハ公立學校職員年功加俸令第一條及第七條ノ規定ニ依ル

二　公立學校職員俸給令第九條ニ依リ俸給ノ分割支給ヲ受クル者ハ支給額多キ方ノ職員ノ欄ニ掲ケ俸給額ハ其ノ合計ニ依ル

第九條　學校長ハ毎年五月末日迄ニ前年度ニ於ケル其ノ校職員ノ年功加俸支給ノ情況ヲ調査シ別記樣式第六號ニ依リ知事ニ之ヲ報告スヘシ

樣式第一號

大正　年　月分公立學校職員年功加俸通知書

年額金何圓

一金何程

是ハ何月何日ヨリ何月何日迄何日(月)分

内譯　一金何程　國庫納金額
　　一金何程　現金受領額

右　通知候也

何郡(市)何町(村)大字何
校名　職氏名印

樣式第二號

昭和　年　月分公立學校職員年功加俸金請求書

一金何圓

是ハ何校職員年功加俸金何某外何名分

内譯

俸給額	加俸年額	加俸月額	加俸減額支給額	國庫納金額	現金支給額	摘要	奏任判任ノ別	職氏名
計								

右請求候也

年　月　日

總代理人何某殿

仕拂命令官
岡山縣知事　何　　某殿
前書相違ナキコトヲ證明ス
年　月　日
何郡(市)何町(村)大字何
何校何某外何名總代理人(兼)　　氏　　名印
何校長　氏　　名印

備考
一、俸給額欄ニハ奏任待遇者ニ在リテハ現在支給ノ俸給年額ヲ判任官待遇者ニ在リテハ現在支給ノ俸給月額ヲ記載スルコト
二、加俸年額及加俸月額欄ニハ舊公立學校職員年功加俸支給細則ニ依リ支給ヲ受ケ居ル者ニ在リテハ其ノ加俸額ヲ、新公立學校職員年功加俸支給細則ニ依リ新ニ加俸ヲ受クル者ニ在リテハ其ノ加俸額ヲ記載スルコト
三、新公立學校職員年功加俸支給細則ニ依リ新ニ加俸ヲ受クル者ニ在リテハ其ノ支給額又ハ異動ヲ生シタル者ニ在リテハ其ノ加俸額ニ異動ヲ生シタル年月日ヲ摘要欄ニ記載シ加俸減額支給額欄ニハ記載ヲ要セス

様式第三號

氏名	年功加俸 職務		俸給 勤續年數			
	年額 發令年月日	職名	發令年月日	金額 發令年月日	五年以上十年未滿	十年以上十五年未滿	十五年以上

様式第四號

開申
年　月　日
岡山縣知事何某殿
公立學校職員年功加俸ニ關スル件
（校名　　）
何學校長　氏　　名印

〔岡山青〕

左表ノ通及開申候也

加俸受給資格發生又ハ消滅、受給年額異動年月日	事由	加俸年額	俸給月額	職氏名	備考

様式第五號

報告
年　月　日
岡山縣知事何某殿
公立學校職員勤務者調ニ關スル件
左表ノ通及報告候也

滿五年、滿十年、滿十五年、相當月日	同上年數別	摘要	俸給 職氏名
月　日	（五年相當）（十年相當）（十五年相當）	（何年何月何日何校初任何校ニ轉任現今ニ至ル）	
月　日			
月　日			

何學校長　氏　　名印

備考
其ノ年度中ニ於ケル勤續五年、十年、十五年ニ達スヘキモノヲ月日順ニ記載スルコト

様式第六號

報告
年　月　日
岡山縣知事何某殿
何學校長　氏　　名印

公立學校職員年功加俸支給情況調ノ件

左表ノ通及報告候也

職員種別	年功加俸年額	五年以上十年未滿		十年以上十五年未滿		十五年以上		計	
		人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額
（學校長）何	圓								
（教諭）何	圓								
（助教諭）何	圓								
（舍監）何	圓								
小計									
加俸一人當支給年額									
（訓導）何	圓								
（保姆）何	圓								
小計									
加俸一人當支給年額									

〔岡山青〕

總計									
加俸一人當支給年額									

〔岡山青〕

●公立學校職員年功加俸給與手續ニ關スル件

昭和三年五月七日
教第一五七八號學務部長通牒

實業補習學校長宛（阿哲支廳及岡山、倉敷市管內ヲ除ク）

大正十五年十一月訓令第百六號ヲ以テ標記ノ手續相定メラレ候處往々ニシテ其ノ請求ニ遲滯スル者及同手續第七條乃至第九條ノ開申若クハ報告ヲ怠ル向モ不尠爲ニ事務ノ處理上支障ヲ來シ甚遺憾トスル處ニ有之候條爾後訓令ノ期日ヲ嚴守シ請求上遺憾ナキヲ期セラレ度爲念及通牒候也

追テ自今受給資格發生及加俸年額異動ニ關スル開申ノ際ハ參考ノ爲履歷書添付相成度

●年功加俸、特別加俸ニ關スル件

昭和九年五月十一日
學第一六六四號學務部長通牒

市長　小學校長（市內ヲ除ク）宛

昭和九年四月一日以後ニ於テ公立ノ小學校ノ教育職員ヲ恩給法施行令附則第四條ニ該當スルニ至リタルトキハ同法第五十九條ノ規定ニ據リ新ニ俸給ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ縣經濟ニ納付ヲ要スルコトヽナレルヲ以テ左ノ各號ノ一ニ該當スル者アリタルトキハ當分ノ內貴職ヨリ其ノ旨管理者ヘ通知相成樣致度此段及通牒候

記

一、新ニ年功加俸ヲ支給セラレタルトキ
一、年功加俸ノ增額アリタルトキ
一、辭令ヲ用キズシテ特別加俸ヲ給セラルヽニ至リタルトキ
一、特別加俸ヲ支給セラレタルトキ
一、辭令ヲ用キズシテ特別加俸ヲ給セラレザルニ至リタルトキ

●年功加俸取扱ニ關スル件

昭和十一年九月十八日
教第一二八八號學務部長通牒

公立青年學校長宛

年功加俸ニ關スル件

昭和九年四月一日以後ニ於テ公立實業補習學校教員ガ恩給法施行令附則第四條ニ該當スルニ至リタルトキハ同法第五十九條ノ規定ニ據リ新ニ俸給ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ縣經濟ニ納付ヲ要スルコトヽナレルヲ以テ左ノ各號ノ一ニ該當スル者アリタルトキハ當分ノ內貴職ヨリ其ノ旨管理者ヘ通知相成樣致度此段及通牒候

記

一、新ニ年功加俸ヲ支給セラレタルトキ
一、年功加俸ノ增額アリタルトキ

首標ノ件ニ關シテハ校長會其ノ他ノ機會ニ於テ屢々注意致セシトコロナルモ未ダ其ノ取扱ニ關シ遺憾ノ向不尠ニ就テハ爾今左記取扱方將讀ノ上萬遺憾無之樣御取扱相成度

追而本例規ニ依リ貴校職員年功加俸金請求書再檢相成度

記

一、年功加俸開申ニ關スル事項

(一)　事由(加俸發生又ハ增額)發生シタルトキハ遲滯ナク開申スルコト

(公立學校職員年功加俸給與手續第七條)

(二)　開申ニ當リテハ第四號樣式ニ本人履歷書ヲ添付スルコト

(昭和三年五月七日敎第一五七八號學務部長通牒)

二、年功加俸請求ニ關スル事項

(一)　請求書ノ字體ハ正確且鮮明ナルコト

若シ訂正シタル場合ハ必ズ訂正印ヲ要ス

但シ請求金額ハ如何ナル場合ト雖モ訂正スルヲ許サズ

(二)　請求書ハ左記樣式ニ依ルコト

昭和　年　月分公立學校職員年功加俸金請求書

一金　圓也

是ハ何々青年學校職員年功加俸金何某外何名分

內譯

俸給額	加俸年額	加俸月額	加俸減額支給額	縣納金額	現金支給額	摘要	奏任判任ノ別	職氏名
圓	圓	圓	圓	圓	圓	昭和增額月分		
						昭和增俸月分		
計								

右請求候也

昭和　年　月　日

何々郡何々村大字何々番地

何々郡何々青年學校何某外何名

總代理人　何　某　認印

支拂命令官

岡山縣知事何　某殿

前書相違ナキコトヲ證明ス

昭和　年　月　日

何々郡何々青年學校長　何　某　職印

(三)　請求書記入上ノ注意

1　用紙ハ半紙型ヲ使用シ半面ニ認ムルコト

2　請求年月分ノ〇年〇月ノ記入ヲ忘レザルコト

3　樣式第二行請求金額ハ加俸月額ノ合計ヲ記入スルモノニシテ現金支給額ヲ記入スルモノニアラズ

4　「加俸減額支給額」欄ノ記入ヲ要スル者ハ昭和六年五月三十日勅令第一二一號改正ニ依ル者ニ限ル

5　「縣納金額」欄ニ記入スベキ者ハ昭和九年四月一日以後ニ於テ本俸ノ增(減)俸又ハ年功加俸ノ發生、增額アリタル者ナリ

(昭和九年三月三十日會第一八〇號通牒)

6　「現金支給額」欄ノ記入ハ左ニ依ルコト

イ　加俸減額支給ヲ受クル者ニシテ縣納金ヲ要スル者ハ加俸減額支給額ヨリ縣納金額ヲ控除シタル額ヲ、シカラザル者ハ加俸減額支給額ヲ記入スルコト

ロ　加俸月額支給ヲ受クル者ニシテ縣納金ヲ要スル者ハ加俸月額ヨリ縣納金額ヲ控除シタル額ヲ、シカラザル者ハ加俸月額ヲ記入スルコト

7　摘要欄ノ記入ハ左ニ依ルコト

イ　何月分ト記スコト

ロ　納金ヲ要スル者ハ其ノ理由ヲ左記ニヨリ併記スルコト

本俸異動ノ場合「昭和　年　月　日增(減)俸」

加俸增額又ハ發生ノ場合「昭和　年　月　日發生(增額)」

尙日割計算ヲ要スル場合ハ

「昭和　年　月　日ヨリ昭和　年　月　日迄何日分月額何圓ノ日割計算此ノ金何圓何錢

昭和　年　月　日ヨリ昭和　年　月　日迄何日分月額何圓ノ日割計算此ノ金何圓何錢

此ノ計何圓何錢」

8　「合計」欄ノ記入ハ受給者二名以上ノ場合ニ限ル

9　總代理人ノ肩書トナルベキ學校名ノ右行ノ郡村字番地學校所在地ヲ表スモノニシテ總代理人ノ本籍又ハ現住所等ヲ表スモノニアラズ

10　請求印及校長職印ハ鮮明ナルコト

11　日割計算ノ算法ハ左ニ依ルコト

イ　前乘後除

ロ　錢位未滿ハ切捨

●加俸金支拂調書ニ關スル件

昭和十一年十二月二十八日
學第三九一四號學務部長通牒

市長　岡山縣師範學校長　岡山縣女子師範學校長
岡山縣立青年學校教員養成所長
岡山縣立女子青年學校教員養成所長
公立中等學校長　公立青年學校長（市內ヲ除ク）
小學校長（同上）宛

必要有之候條一月一日現在ニ依リ左記事項調査ノ上每年一月二十日迄ニ遲滯ナク正副二通御提出相成度

記

年功加俸及加給支給額	特別加俸支給額	合計	受給者ノ住所又ハ居所	氏名
年功加俸	年功加俸加給			
圓	圓	圓		

備考

一、加俸受給者ニシテ前年一月一日ヨリ引續キ支給ヲ受クル者ノ分ニ付テハ前年中ノ受給金額(國庫納金又ハ縣納金ヲ控除セザルモノ)其ノ他ノ分ニ付テハ其ノ年分ノ支拂豫算年額記入ノコト

一、特別加俸支給額欄ニハ市町村立小學校敎員加俸令第七條第一項乃至第四項ノ加俸額ノ計ヲ記入スルコト

●縣費支辨俸給支給規則

明治三十四年五月八日
岡山縣訓令第三十九號

〔岡山青〕

沿革　明治三六年訓令第二六號、第二七號、大正一五年第一二號改正

縣費ヨリ支給スル俸給支給規則（郡書記、郡視學、巡査ヲ除ク）左ノ通相定メ明治三十四年六月一日ヨリ施行ス但本規則ニ關スル從前ノ達ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

知事官房主事　內務部長　警察部長〔郡長〕
警察署長　「警察分署長」　縣立學校長
實業補習學校教員養成所長　縣立圖書館長
縣立試驗場長　縣立訓儀所長　縣立種畜場長
縣立種畜場千屋分場長　縣立商品陳列所長
宇野港事務所長　羅業取締所長
穀物檢查所長

縣費支辨俸給支給規則

第一條　年俸ハ十二分シ每月之ヲ支給ス

第二條　年俸月俸ハ每月二十一日支給ス但休日ニ當ルトキハ順延トス

第三條　休職、廢官、退官、退職、解雇及死亡ノ時ハ當月分ノ俸給金額ヲ其際支給ス

休職、廢官、退官、退職、解雇ノモノニシテ殘務調理ヲ命セラレタルモノ其ノ調理翌月以降ニ渉ルトキハ調理結了ノ日迄日割ヲ以テ從前ノ俸給ヲ給ス

第四條　俸給ハ新任增俸減俸トモ總テ發令ノ翌日ヨリ計算ス

第五條　他ヘ轉任ノ時ハ第二條ノ支給日ニ拘ラス日割計算ヲ以テ發布ノ當日迄ニ係ル俸給ヲ其際支給ス

第六條　病氣ノ爲メ執務セサルモノ判任官ノ待遇以上若ハ此等ノ身分ヲ併有スル者ハ九十日其ノ他ノ職員吏員雇員等六十日ヲ踰ユルトキハ俸給ノ半額ヲ減ス但公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルモノハ此限リニアラス

第七條　前條ノ外私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト三十日ヲ踰ユルトキハ俸給ノ半額ヲ減ス但服忌ヲ受クルモノハ此限リニアラス

第八條　忌引ノ場合ト第六條若ハ第七條ノ場合ト連續スルトキハ其ノ忌引ノ日數ヲ控除ス

第九條　減俸其ノ他ノ事故ニ依リ俸給過渡アルトキハ其ノ際追徵ス

第十條　雇員、給仕及小使等ニシテ日給ノ支給ヲ受クヘキ者ノ給料支給ノ方法ハ左ノ各號ニ依ル

一　日給ハ前月十六日ヨリ當月十五日迄ノ勤務日數ニ應シ其ノ月二十一日（休日ニ當ルトキハ繰下トス）ニ之ヲ支給ス但シ解職セラレ又ハ死亡シタルトキハ其ノ際之ヲ支給ス

二　病氣又ハ私事ノ故障ニ依リ執務セサル者ニハ其ノ日（休日前後缺勤ノ者ハ休日トモ）ノ日給ハ之ヲ支給セス但シ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者、服忌ヲ受ケタル者又ハ公暇ヲ得タル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

三　新ニ採用セラレタルトキハ就職ノ日ヨリ增給又ハ減給セラレタルトキハ發令ノ當日ヨリ之ヲ計算ス

四　一月未滿一定ノ期間ヲ限リ傭入ノ者ノ日給ハ其ノ事務終了後之ヲ支給ス

第十一條　（削除）

第十二條　日割計算ノ法ハ其ノ月ノ現日數ニ依ル

第十三條　俸給ヲ支給スルニ當リ計算上厘位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ切捨トス

附　則

第二章　教職員

〔岡山青〕

宇額ヲ減ス但公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルモノハ此限リニアラス

第七條　前條ノ外私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト三十日ヲ踰ユルトキハ俸給ノ宇額ヲ減ス但服忌ヲ受クルモノハ此限リニアラス

第八條　忌引ノ場合ト第六條若ハ第七條ノ場合ト連續スルトキハ其ノ忌引ノ日數ヲ控除ス

第九條　減俸其ノ他ノ事故ニ依リ俸給過渡アルトキハ其ノ際追徵ス

第十條　雇員、給仕及小使等ニシテ日給ノ支給ヲ受クヘキ者ノ給料支給ノ方法ハ左ノ各號ニ依ル

一　日給ハ前月十六日ヨリ當月十五日迄ノ勤務日數ニ應シ其ノ月二十一日（休日ニ當ルトキハ繰下トス）ニ之ヲ支給ス但シ解職セラレ又ハ死亡シタルトキハ其ノ際之ヲ支給ス

二　病氣又ハ私事ノ故障ニ依リ執務セサル者ニハ其ノ日（休日前後缺勤ノ者ハ休日トモ）ノ日給ハ之ヲ支給セス但シ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者、服忌ヲ受ケタル者又ハ公暇ヲ得タル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

三　新ニ採用セラレタルトキハ就職ノ日ヨリ增給又ハ減給セラレタルトキハ發令ノ當日ヨリ之ヲ計算ス

四　一月未滿一定ノ期間ヲ限リ傭入ノ者ノ日給ハ其ノ事務終了後之ヲ支給ス

第十一條　（削除）

第十二條　日割計算ノ法ハ其ノ月ノ現日數ニ依ル

第十三條　俸給ヲ支給スルニ當リ計算上厘位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ切捨トス

附　則

第二章　教職員

第十四條　月額又ハ年額ヲ以テ支給スル諸手當ノ類ハ別ニ規定アルモノノ外本則ノ各條ヲ準用ス

●縣費支辨吏員職員ニ關スル職制改廢ノ場合勤續者ノ件

大正九年九月三十日
岡山縣令第七十二號

縣費ヨリ俸給ヲ受クル吏員、職員ニ關スル職制ノ改廢アリタル場合ニ於テ其ノ改廢ニ係ル職ニ在ル者即日縣費ヨリ俸給ヲ受クル他ノ吏員、職員ニ任用セラレタルトキハ之ヲ勤續者トス

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●縣費支辨旅費規則

大正十四年三月三十一日
岡山縣訓令第九號

沿革　大正一五年訓令第一一六號、昭和三年三月第五號、五月第二九號、五年四月條例第七號、六年九月第一五號、七年八月第九號、一一年九月第八八號、一二年四月訓令第六七號、一二月第一〇一號改正

知事官房〔內務部〕　學務部　警察部〔支廳〕
警察署　縣立學校　縣立農事試驗場
縣立〔實業補習〕學校教員養成所　縣立圖書館
縣立測候所　岡山縣岡山種畜場　岡山縣千屋種畜場
縣立蠶業試驗場　〔縣立商品陳列場〕
縣立工業試驗場　縣立宇野港事務所
蠶業取締所　岡山縣〔穀物檢査所〕
岡山縣後樂園事務所　縣立三門學園
岡山縣水產試驗場長

縣費支辨旅費規則左ノ通定ム

縣費支辨旅費規則

第一條　縣費支辨ニ屬スル旅費ハ別ニ定ムルモノノ外本則ニ依リ之ヲ支給ス

第二條　旅費ハ普通旅費、日額旅費、月額旅費ノ三種トシ別表ニ依リ之ヲ支給ス

第三條　赴任ノ場合ニ於テハ別ニ赴任手當、移轉料及家族移轉料ヲ支給ス

赴任手當、移轉料ハ第四號表ノ額ニ依ル

家族移轉料ハ家族一人毎ニ舊任地又ハ本人ノ居住地ヨリ新任地ニ至ル本人相當ノ鐵道賃、船賃、車馬賃、日當、宿泊料、食卓料ノ金額ノ外ニ縣外ヨリ赴任ノ場合ハ赴任手當ノ三分ノ二、縣內赴任ノ場合ハ赴任手當ノ三分ノ一ニ該當スル金額トス但シ十二歲未滿ノ家族ニ付テハ其ノ半額トス

家族ノ數三人ヲ超過スルトキハ其ノ超過スル者ニ付支給スル家族移轉料ハ前項ニ揭クル給額ノ半額トス蠶種檢査吏員ニハ移轉料、家族移轉料ヲ支給セス其ノ路程三里未滿ナルトキハ赴任手當ヲモ支給セス

第四條　在勤廳所在地ノ市町村內ノ出張ニシテ往復路程一里以上ニ渉ルトキハ日當ノ半額ヲ支給ス宿泊ヲ要シタルトキハ宿泊料ヲ支給ス

檢稅檢査及滯納處分ノ爲メ出張シタルトキハ前項一里ニ達セサルモ日當ノ三分ノ一ヲ支給ス

木炭檢査員所轄內出張ノ場合ニ於テハ旅費ヲ支給セス

第五條　縣吏員職員ニシテ他ニ官職アル場合ニ於テハ其ノ官職相當ノ旅費額ヲ支給ス

第六條　囑託員及委員ノ旅費ハ左ノ區別ニヨリ支給ス

一、在官在職者ニアリテハ其ノ官職相當ノ額

二、前項以外ノ者ニアリテハ手當額（年額ハ十二分ノ一ヲ以テ月額ト做ス）ニ依リ左ノ區別ニ從ヒテ支給ス

月手當百六十圓以上ヲ受クル者ハ別表一號表甲額

月手當百六十圓未滿ノ者ハ別表一號表乙額

第七條　同一地ニ滯在ノ場合ニ於ケル日當及宿泊料ハ縣外ニアリテハ內國旅費規則ノ區分ニヨリ縣內ニアリテハ左ノ區分ニヨル

滯在十日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ二割二十日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ三割三十日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ四割六十日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ五割百日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ六割ヲ減ス

同一地ニ滯在中一時他ノ地ニ旅行シタルトキハ其ノ間普通旅費ヲ支給シ歸著ノ日ハ滯在日當ヲ支給ス

第一項ノ期間ハ旅行前後ノ日數ヲ通算シテ之ヲ定ム

第八條　講習ノ爲メ同一地ニ滯在ノ日當宿泊料ハ第七條縣內支給ノ場合ニ於ケル例ニ依ル

第九條　縣有又ハ借上ノ船車（自轉車ヲ除ク）ニ依リテ旅行スルトキ又ハ警察技手、自動車車體檢査、運轉手試驗、路線調査ノ爲メ出願者又ハ營業者ヨリ提供シタル自動車ニ乘用シタルトキハ船賃、車馬賃ヲ支給セス

第十條　警察技手、電話工夫ニシテ電話工事ノ爲メ出張シタルトキハ工事施行區域內ノ旅行ニ限リ鐵道賃、船賃、車馬賃ヲ支給セス

第十一條　左記ノ旅行ニハ別表第二號表ノ日額旅費ヲ支給ス

一　町村定期監督、縣稅檢査、滯納處分、教育定期巡視、產業上ノ定期指導監督、統計事務ノ定期指導監督、砂防工事ノ測量設計及檢査、製炭講習、耕地整理ノ測量設計、殘務整理及耕地整理組合ノ定期會計檢査、用排水改良事業監督ニ關スル用務ノ爲ノ出張

二　土木、建築、用排水改良工事、林業共同施設工事ノ現場監督ニ從事スル者及道路河川港灣調査、用排水改良事業ニ從事スル者ニ駐在出張

三　支廳勤務ノ者ノ所轄內出張

四　蠶業取締所支所員、蠶業取締所出張所員及農產物檢査所支所員ノ所轄內出張

五　事務ニ從事スル土木出張所員及小田川改修事務所員ノ所轄內出張

六　修學旅行其ノ他生徒附添監督ノ爲ノ出張

七　結核豫防法及トラホーム豫防法ニ依ル檢診用務ノ爲ノ出張

八　木炭檢査員駐在所所轄區域外出張

第十二條　左記ノ旅行ニハ第三號表ノ月額旅費ヲ支給ス

一　土木出張所員、小田川改修事務所員、森林監吏駐在所員、砂防監吏駐在所員、出張所詰財務員、木炭檢査出張所長所轄內出張

一　勸業技手、助手、工手、砂防工事現場監督出張

一　衞生技師、衞生技手受持區域內出張

一　電話工夫受持區域內巡回

第十二條ノ二　日額旅費ノ支給ヲ受クルモノ其ノ旅費額普通旅費ヨリ多キトキハ普通旅費ヲ支給ス

第十三條　月額旅費ノ支給ヲ受クルモノ左記ノ場合ハ日割ヲ以テ支給ス

一　新任、轉任又ハ轉勤シタルトキハ著任ノ翌日ヨリ

二　轉任、轉勤及休職ノトキハ辭令接受ノ日迄

三　月額ノ增減アリタルトキハ發令ノ日ヨリ

四　死亡ノトキハ其ノ日迄

五　缺勤、休暇、忌引及普通旅費若ハ他ヨリ旅費ノ支給ヲ受ケタルトキハ其ノ日數ヲ控除ス

日割計算ハ其ノ月ノ現日數ニ依ル

第十四條　本廳及產業ニ關スル各廨勤務ノ者ニシテ日額旅費若クハ月額旅費ノ支給ヲ受クル者ハ用務地ニ到著スル迄及最終用務地ニ出發シ歸廳スル迄ノ鐵道賃、船賃、車馬賃ヲ支給ス

修學旅行其ノ他生徒附添監督ノ爲メ旅行シタルトキハ日額ノ外鐵道賃、船賃ノミヲ支給ス但シ急行料ハ支給セス

第十五條　同日內ニ於テ月額旅費又ハ日額旅費ヲ受クル旅行ト普通旅費ヲ受クル旅行ト跨リタルトキハ普通旅費ヲ支給ス

第十六條　朝鮮、臺灣、樺太、滿洲等ヲ旅行スル場合ノ旅費額ハ其ノ都度之ヲ定ム

第十七條　本則ニ定ムルモノ以外ノ支給方法ハ內國旅費規則、內務省所管旅費規則ニ依ル

第十八條　本則所定ノ旅費額ハ知事ノ認可ヲ經定額ヲ減少シ若クハ其ノ全部又ハ一部ヲ支給セサルコトヲ得

附則

本則ハ大正十四年四月一日以降ノ旅行ヨリ之ヲ適用ス
本則施行前ヨリ引續キ同一地ニ滯在スル者ニ對スル第七條規程ノ適用ニ關シテハ本令施行前ノ日數ハ之ヲ通算セス
大正九年五月岡山縣訓令第二十三號縣費支辨旅費支給規程ハ之ヲ廢止ス

別表
第一號表

普通旅費

區分 / 官職別		車馬賃 日當一日ニ付 甲地方一里ニ付	車馬賃 日當一日ニ付 乙地方一里ニ付	宿泊料一夜ニ付 甲地方	宿泊料一夜ニ付 乙地方	食卓料 一夜ニ付
甲	奏任官、同待遇者、年俸ヲ受クル縣吏員	縣外 八拾錢	四圓五拾錢	六圓五拾錢	六圓	貳圓拾錢
		縣內 五拾錢	參錢	四圓	四圓	壹圓九拾錢
乙	判任官、同待遇者、縣吏員	縣外 七拾錢	貳圓五拾錢	五圓五拾錢	四圓	壹圓九拾錢
		縣內 四拾錢	壹圓五拾錢	四圓五拾錢	參圓	壹圓四拾錢
丙	雇員	縣外 五拾錢	壹圓七拾錢	參圓貳拾錢	參圓	壹圓拾錢
		縣內 參拾五錢	壹錢	貳圓	貳圓	九拾錢
丁	傭人	縣外 四拾錢	壹圓參拾錢	貳圓五拾錢	貳圓參拾錢	七拾錢
		縣內 貳拾五錢	八拾錢	壹圓五拾錢	壹圓貳拾錢	五拾錢

備考　一　鐵道賃及船賃ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ支給ス
甲額支給ノ者ニハ大正九年大藏省令第十六號ニ規定スル高等官ノ額、乙額支給ノ者ニハ大正九年內務省訓令第十二號內務省所管旅費規則ノ別表ニ規定スル額
二　本表中縣外ニ於ケル甲地方トハ大藏省令第二十八號ニ指定セル地域ヲ謂ヒ乙地方トハ其ノ他ノ地域ヲ謂フ
三　一日中甲地方及乙地方ニ亙ル旅行ニ付テハ出發地、用務地又ハ到著地方カ甲地方ノ場合ニ於テハ其ノ日ノ日當ハ甲地方ノ定額ニ依リ其ノ他ノ場合ニ於テハ乙地方ノ定額ニ依ル

〔岡山青〕

四　鐵道旅行中宿泊スル場合ニ於テハ其ノ日ノ日當ハ甲地方ノ定額、宿泊料ハ乙地方ノ定額ニ依リ水路旅行中宿泊スル場合ニ於テハ其ノ日ノ日當ハ甲地方ノ定額ニ依ル
五　縣外ヨリ赴任ノ場合ニ於ケル赴任手當ハ甲地方ノ日當及宿泊料ノ定額ニ依リ之ヲ計算ス

〔岡山青〕

第二號表

日額旅費

官職	名	日額 甲	日額 乙
土木技師、地方農林主事、地方農林技師、地方商工主事、地方商工技師	地方統計主事、社會敎育主事、衞生技師	六圓五拾錢	四圓
屬、視學、縣技手、農林主事補、農林技手、商工主事補、商工技手、縣書記、勸業技手（製炭敎師ヲ除ク）、工手、〔支廳勸務ノ地方農林技師〕	統計主事補、社會敎育主事補、衞生技手、〔支廳勸務ノ屬、視學、縣技手、農林主事補〕	四圓貳拾錢	貳圓五拾錢
置業取締所支所長、農產物檢查所支所長、		參圓五拾錢	貳圓貳拾錢
置業取締所吏員職員、學校職員		參圓	壹圓九拾錢
產業技手（タル）移出檢查員、道路河川港灣ノ調查ニ從事スル道路技手、土木出張所、小田川改修事務所勸務ノ道路書記、土木書記、用排水改良事業ニ從事スル農林主事補、農林技手、勸業技手		貳圓五拾錢	壹圓八拾錢
移出檢查員、生產檢查員、鷄卵檢查員、木炭檢查員		貳圓	壹圓五拾錢
土木、建築、用排水改良工事、林業共同施設工事ノ現場監督ニ從事スル道路書記、土木書記、道路技手、土木技手、建築技手、農林主事補、農林技手、勸業技手		壹圓五拾錢	壹圓貳拾錢
測量工夫		壹圓參拾錢	九拾錢
土木、建築工事、林業共同施設工事ノ現場監督ニ從事スル工手		壹圓	七拾錢

備考　一　歸廳ノ日ハ日額ノ半額ヲ支給ス
二　左勤地ヲ距ル陸路四里鐵道三十二粁水路二十海里未滿ノ地ニ旅行シタルトキハ其ノ支給スヘキ日額ハ乙額ヲ其ノ他ハ甲額ヲ支給ス
一旅行ニシテ陸路、鐵道又ハ水路ニ亙ルトキハ鐵道ハ八粁水路五海里ヲ以テ陸路一里ト看做ス